埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第319集

熊谷市

下田町遺跡III

大里地区高規格堤防整備事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告
—III—
（第2分冊）

2006

国土交通省　関東地方整備局
財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

（第1分冊）
口絵
序
例言
凡例
目次
I　発掘調査の概要 …… 1
1．発掘調査に至る経過 …… 1
2．発掘調査と報告書作成の経過 …… 2
3．発掘調査・整理・報告書刊行の組織 …… 4
II　遺跡の立地と環境 …… 5
III　第4次調査西区の概要 …… 11
IV　第4次調査西区の遺構と遺物 …… 17
1．方形周溝墓 …… 17
2．竪穴住居跡 …… 21
（第2分冊）
3．掘立柱建物跡 …… 335
4．井戸跡 …… 340
5．土坑 …… 388
6．ピット …… 415
7．火葬土坑 …… 437
8．溝跡 …… 443
9．谷部 …… 475
10．グリッド・表採 …… 479
11．腕輪形石製品 …… 489
V　調査のまとめ …… 492
1．第4次調査西区の遺構変遷 …… 492
2．第157号住居跡出土の骨角器について …… 500
3．腕輪形石製品について …… 502
4．第319号井戸跡出土の黒漆塗壺鐙について …… 507
VI　自然科学分析 …… 515
1．下田町遺跡における自然科学分析 …… 517
2．下田町遺跡から出土した壺鐙の分析 …… 531
（写真図版）
写真図版
付図

挿図目次

（第２分冊）

第397図　第50号掘立柱建物跡 ……336
第398図　第51号掘立柱建物跡 ……337
第399図　掘立柱建物跡出土遺物 ……337
第400図　井戸跡全体図（1）……338
第401図　井戸跡全体図（2）……339
第402図　井戸跡（1）……341
第403図　井戸跡出土遺物（1）……342
第404図　井戸跡出土遺物（2）……343
第405図　井戸跡（2）……345
第406図　井戸跡（3）……346
第407図　井戸跡出土遺物（3）……347
第408図　井戸跡出土遺物（4）……348
第409図　井戸跡出土遺物（5）……349
第410図　井戸跡（4）……352
第411図　井戸跡（5）……353
第412図　井戸跡（6）……354
第413図　井戸跡出土遺物（6）……355
第414図　井戸跡出土遺物（7）……356
第415図　井戸跡出土遺物（8）……357
第416図　井戸跡（7）……359
第417図　井戸跡（8）……360
第418図　井戸跡出土遺物（9）……361
第419図　井戸跡出土遺物（10）……362
第420図　井戸跡（9）……364
第421図　井戸跡（10）……365
第422図　井戸跡（11）……367
第423図　井戸跡（12）……368
第424図　井戸跡（13）……369
第425図　井戸跡（14）……370
第426図　井戸跡出土遺物（11）……371
第427図　井戸跡（15）……373
第428図　井戸跡（16）……374
第429図　井戸跡（17）……376
第430図　井戸跡（18）……377
第431図　井戸跡（19）……379
第432図　井戸跡出土遺物（12）……380
第433図　井戸跡出土遺物（13）……381
第434図　土坑全体図（1）……386
第435図　土坑全体図（2）……387
第436図　土坑（1）……390
第437図　土坑（2）……391
第438図　土坑（3）……393
第439図　土坑（4）……395
第440図　土坑出土遺物（1）……396
第441図　土坑（5）……398
第442図　土坑（6）……399
第443図　土坑（7）……402
第444図　土坑（8）……403
第445図　土坑（9）……404
第446図　土坑出土遺物（2）……405
第447図　土坑（10）……408
第448図　土坑（11）……409
第449図　土坑（12）……411
第450図　土坑（13）……412
第451図　土坑出土遺物（3）……413
第452図　ピット全体図（1）……421
第453図　ピット全体図（2）……422
第454図　ピット全体図（3）……423
第455図　ピット全体図（4）……424
第456図　ピット全体図（5）……425
第457図　ピット全体図（6）……426
第458図　ピット全体図（7）……427
第459図　ピット全体図（8）……428
第460図　ピット（1）……429
第461図　ピット（2）……430
第462図　ピット（3）……431
第463図　ピット（4）……432
第464図　ピット（5）……433
第465図　ピット出土遺物（1）……435

第466図　ピット出土遺物（2）……436
第467図　火葬土坑全体図（1）……438
第468図　火葬土坑全体図（2）……439
第469図　第31・32号火葬土坑……440
第470図　第33・34号火葬土坑……441
第471図　第35号火葬土坑……442
第472図　溝跡全体図（1）……444
第473図　溝跡全体図（2）……445
第474図　溝跡（1）……446
第475図　溝跡土層断面図（1）……447
第476図　溝跡土層断面図（2）……448
第477図　第585号溝跡遺物出土状況……449
第478図　溝跡出土遺物（1）……451
第479図　溝跡出土遺物（2）……452
第480図　溝跡出土遺物（3）……453
第481図　溝跡出土遺物（4）……454
第482図　溝跡（2）……455
第483図　溝跡土層断面図（3）……456
第484図　第591号溝跡遺物出土状況……457
第485図　溝跡出土遺物（5）……461
第486図　溝跡（3）……462
第487図　溝跡土層断面図（4）……463
第488図　溝跡出土遺物（6）……464
第489図　溝跡出土遺物（7）……466
第490図　溝跡（4）……470
第491図　溝跡土層断面図（5）……471
第492図　谷部全体図……475
第493図　谷部土層断面図（1）……476
第494図　谷部土層断面図（2）……477
第495図　谷部出土遺物……478
第496図　グリッド・表採出土遺物（1）……480
第497図　グリッド・表採出土遺物（2）……481
第498図　グリッド・表採出土遺物（3）……482
第499図　グリッド・表採出土遺物（4）……483
第500図　グリッド・表採出土遺物（5）……484
第501図　グリッド・表採出土遺物（6）……485
第502図　グリッド・表採出土遺物（7）……486
第503図　腕輪形石製品出土地点……489
第504図　腕輪形石製品A……490
第505図　腕輪形石製品B……491
第506図　遺構変遷図（1）……493
第507図　遺構変遷図（2）……493
第508図　遺構変遷図（3）……495
第509図　遺構変遷図（4）……495
第510図　遺構変遷図（5）……496
第511図　遺構変遷図（6）……496
第512図　遺構変遷図（7）……497
第513図　出土遺物編年図（1）……498
第514図　出土遺物編年図（2）……499
第515図　刻骨の出土事例……500
第516図　腕輪形石製品の類例……502
第517図　埼玉県の腕輪形石製品及び未製品…503
第518図　古墳時代前期の遺構と腕輪形石製品の出土地点…505
第519図　壺鐙の各部名称……507
第520図　壺鐙の類例……509
第521図　馬具を出土した井戸跡例……510

表目次

（第2分冊）

第30表　掘立柱建物跡出土遺物観察表 ……337
第31表　井戸跡出土遺物観察表（1）……383
第32表　井戸跡出土遺物観察表（2）……384
第33表　井戸跡出土遺物観察表（3）……385
第34表　土坑出土遺物観察表……414
第35表　ピット一覧表（1）……415
第36表　ピット一覧表（2）……416
第37表　ピット一覧表（3）……417
第38表　ピット一覧表（4）……418
第39表　ピット一覧表（5）……419
第40表　ピット一覧表（6）……420
第41表　ピット出土遺物観察表……436
第42表　溝跡出土遺物観察表（1）……473
第43表　溝跡出土遺物観察表（2）……474
第44表　谷部出土遺物観察表……478
第45表　グリッド・表採出土遺物観察表（1）…479
第46表　グリッド・表採出土遺物観察表（2）…487
第47表　グリッド・表採出土遺物観察表（3）…488
第48表　下田町遺跡時期別住居軒数……497

3．掘立柱建物跡

下出町遺跡第４次調査西区において、２棟の掘立柱建物跡を検出した。遺構番号は平成13年度の第１次調査及び平成14年度の第３次調査の続き番号を使用している。

今回検出した建物跡は、調査区中央のⅠ－37グリッドに位置する第50号掘立柱建物跡と、調査区北東端のⅠ－28・29グリッドに位置する第51号掘立柱建物跡である。

調査区域内にはこのほかにも数多くの小穴を検出したが、建物跡と判断できる柱穴の並びを確認することができなかった。

第50号掘立柱建物跡（第397図）

調査区中央にあたるⅠ－37グリッドに位置する。

重複する遺構には、古墳時代後期の第110・111・132・134・138号住居跡が密集し、重複が激しい。また、第594号溝跡が位置している。

建物構造は、桁行３間×梁行２間の総柱建物跡で、南東コーナーの柱穴は、第111号住居跡と重複するため検出できなかった。建物規模は桁行3.7m、梁行2.8mである。南側のP10・12の柱穴列は柱穴規模がやや小さく、掘り込みも浅いことから母屋部分は２間×２間の倉庫と考えられ、古墳時代後期に下田町遺跡で確認される建物跡と捉えられえる。

ピットはほぼ円形をしている。各ピットの規模は、P1が長径62cm、短径60cm、深さ20cmである。P2は長軸52cm、短軸46cm、深さは22cmである。P3は長軸66cm、短軸46cm、深さは42cmである。P4は長軸64cm、短軸47cm、深さは34cmである。P5は長軸56cm、短軸49cm、深さは50cmである。P6は長軸66cm、短軸58cm、深さは20cmである。P7は長軸58cm、短軸56cm、深さは24cmである。P8は長軸49cm、短軸46cm、深さは26cmである。P9は長軸68cm、短軸56cm、深さは22cmである。P10は長軸40cm、短軸40cm、深さは11cmである。P11は長軸29cm、短軸19cm、深さは８cmである。桁方向はN－56°－Wである。

本建物跡の東側には、第591・599号溝跡が巡る。この溝跡は、平安時代の集落域を区画する溝跡である。区画溝の内外にはピットを多数確認したが、本遺構以外の掘立柱建物跡と判断できる遺構は検出できなかった。

出土遺物は、土師器甕、坏の破片少量を検出した。

第51号掘立柱建物跡（第398図）

Ⅰ－28・29グリッドに位置する。

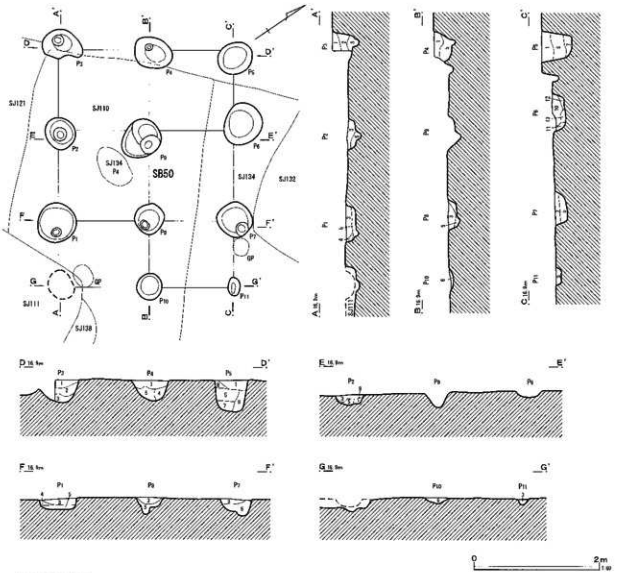
重複する遺構は、第635号溝跡である。

建物構造は、桁行２間×梁行２間の総柱建物で、南北方向に長い。

規模は桁行が4.2m、梁行が2.9mである。ピットはほぼ円形で規模も類似している。各ピットの規模は、P1が長軸58cm、短軸48cm、深さは34cmである。P2が長軸62cm、短軸48cm、深さは44cmである。P3が長軸43cm、短軸40cm、深さは44cmである。P4が長軸52cm、短軸47cm、深さは42cmである。P5が長軸53cm、短軸44cm、深さは42cmである。P6が長軸42cm、短軸40cm、深さは28cmである。P7が長軸54cm、短軸42cm、深さは32cmである。P8が長軸55cm、短軸50cm、深さは40cmである。桁方向はN－11°－Wである。

本建物の東側には、平安時代の第635号溝跡が位置する。南側には、中世の区画溝である第630号溝跡が位置する。

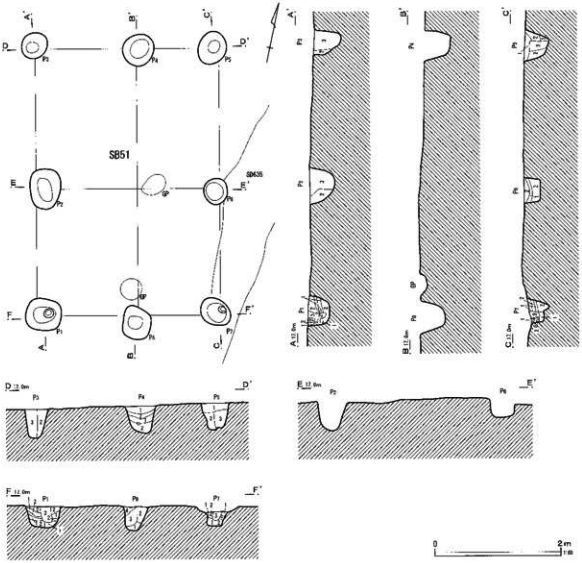
出土遺物は、第399図１～３に図示した。１・２は土師器甕である。１は口縁部ヨコナデを施し、体部外面は縦方向のヘラケズリ、内面ヨコ方向のヘラナデを施す。２は口縁部ヨコナデ、胴部外面は縦方向のヘラケズリ、３は須恵器長頸壺の頸部破片である。他に土師器坏を少量検出した。１はP5から、２はP2から、３はP1から出土した。



第50号掘立柱建物跡

1	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粒土ブロック（φ5～10mm）極多量（壁崩し）	7	黄褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）多量
2	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ5～10mm）多量（壁崩し）	8	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色粘土ブロック（φ5～10mm）まばら
3	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粒土ブロック（φ5～10mm）まばら（壁崩し）	9	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）まばら　4に近似
4	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）まばら	10	黒褐色土	10YR3/2	黄灰色粘土ブロック（φ1～2mm）少量
5	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色粒土ブロック（φ3～5mm）まばら（粒径取微）	11	明黄褐色土	10YR6/6	暗褐色土ブロック（φ3～5mm）少量
6	褐灰色土	10YR5/1	黄褐色粘土ブロック（φ10mm）多量	12	黒褐色土	10YR3/2	黄灰色粘土ブロック（φ3～5mm）多量

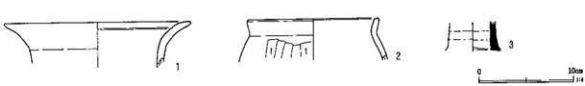
第397図　第50号掘立柱建物跡



第51号掘立柱建物跡ピット1～9

1	暗灰色土	10YR3/1	黄橙色粘土ブロック（φ5～8mm）多量　デコラ状の粒子散乱　（掘り方）
2	黒褐色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）少量　（掘り方）
3	黒褐色土	10YR2/1	黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）少量　（柱痕）
4	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ20～30mm）多量　（柱抜取痕）

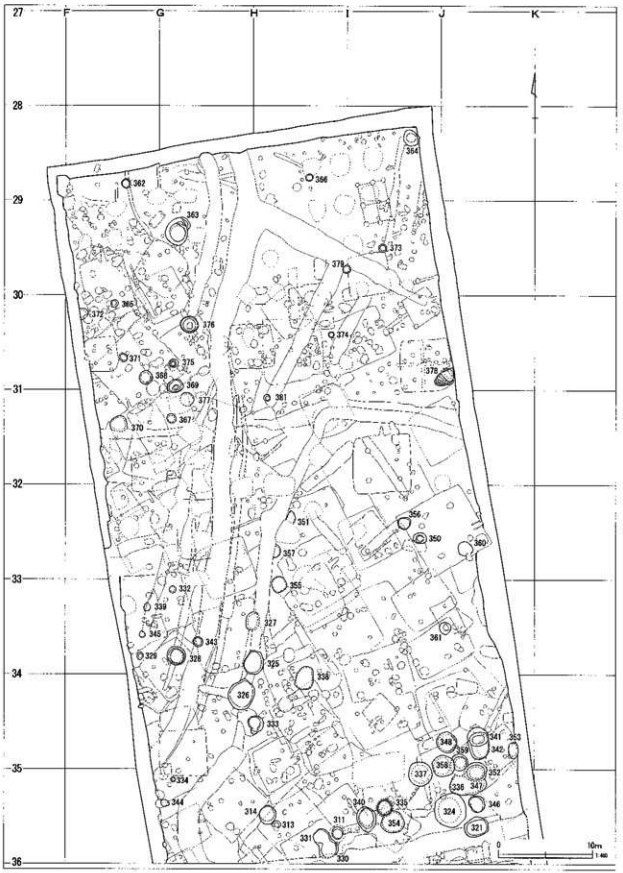
第398図　第51号掘立柱建物跡



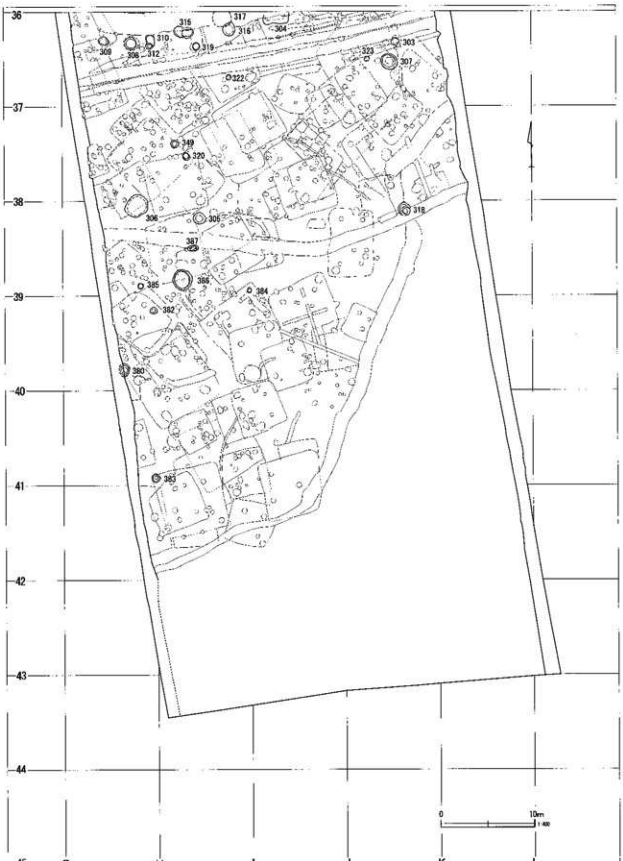
第399図　掘立柱建物跡出土遺物

第30表　掘立柱建物跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構番号		種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
399	1	SB	51	土師器	甕	(19.8)	[4.8]	—	破片	雲母 赤粒 白粒 礫	普通	橙	P5	
399	2	SB	51	土師器	甕	(14.0)	[4.4]	—	破片	角石英 赤粒 白粒	普通	鈍い黄橙	P2	
399	3	SB	51	須恵器	長頸壺	—	[3.1]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰	P1	



第400図　井戸跡全体図（1）



第401図　井戸跡全体図（2）

4．井戸跡

下田町遺跡第４次調査の井戸跡（略号 SE）番号は、平成13年度の第２次調査及び平成14年度の第３次調査の続き番号を使用している。今回の報告は、平成15年度に発掘調査を実施した西区にあたる範囲である。

発掘調査の結果、井戸跡は85基を検出し、第303号から第387号の番号を付した。

遺構の集中する調査区中央から南西側に多く分布する。出土した遺物からみて、井戸跡はいずれも古墳時代後期から平安時代、中世にかけてつくられたもので、様々な時期の井戸跡を検出した。調査時においては、湧水などのため崩落したり、調査継続が不可能な場合は途中で調査を断念した遺構もある。

井戸跡の傾向としては、古墳時代後期から８世紀初頭の井戸跡は、第320・349号井戸跡に見られるように、径が小さく、筒状に細長く掘鑿される。奈良時代の井戸跡は、木製黒漆塗壺鐙を検出した第319号井戸跡に見られるように、径がやや大きく、掘り込みも筒状で幅を持つ。平安時代になると、井戸跡は大きく掘り込まれ、井戸の中央には、第306・317・347号井戸跡に見られるように、木枠が組まれた状態で検出され、井戸枠が組み込まれる。中世の井戸跡は、第307・308号井戸跡や第324・354号井戸跡のように素掘りで円筒状に掘り込み、径が大きい形態である。

井戸跡の形態は、平面形を円形、隅丸方形、楕円形、方形、長方形に分類した。また、断面形は、筒型、漏斗形、フラスコ形、箱形に分類した。

出土遺物は、第315号井戸跡からは子持勾玉を検出した。第319号井戸跡からは、木製黒漆塗壺鐙が出土し、共伴して南比企産の須恵器坏、在地産の土師器甕、丸甕、末野産の須恵器甕を検出した。この他、第306号井戸跡からは「万」、第344号井戸跡から「前麻呂」の墨書土器を検出した。木製品は、第314号井戸跡から下駄、第324・327・357号井戸跡から漆椀が出土している。また、第308号井戸跡からは古銭が８枚まとまって検出された。

第303号井戸跡（第402図）

Ｊ－36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第584・587・598号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸92cm、短軸80cmである。深さは推定で82cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、第403図１に図示した緑釉陶器埦である。

第304号井戸跡（第402図）

Ｉ－36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第148号住居跡、第585号溝跡である。

平面形は方形で、規模は長軸270cm、短軸は63cmである。深さは推定で89cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、第403図２に図示した板材である。

第305号井戸跡（第402図）

Ｈ－38グリッドに位置する。

重複する遺構は、第124号住居跡、第592号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸130cm、短軸118cmである。深さは103cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、土師器甕を少量検出した。

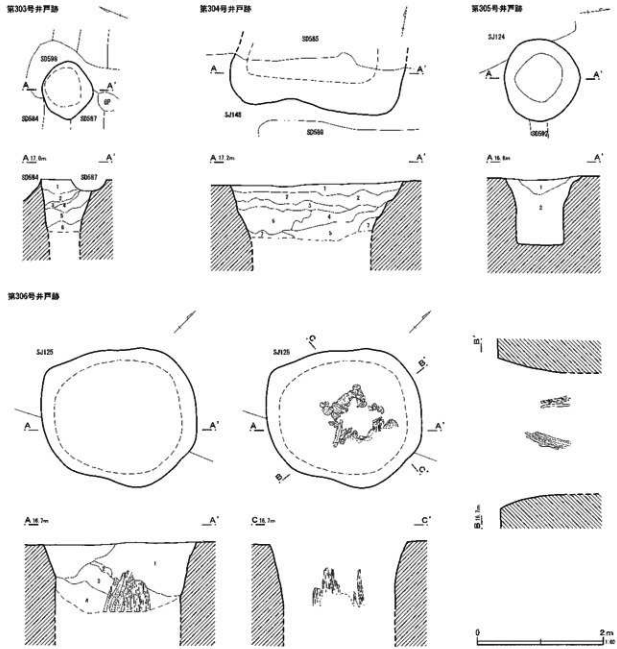
第306号井戸跡（第402図）

Ｇ－37・38グリッドに位置する。

重複する遺構は、第125号住居跡である。

平面形は隅丸方形で、規模は長軸260cm、短軸230cmである。深さは推定で108cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第403図３～13・第404図14～18に図示した。３～５は須恵器坏で、３は内面に墨書が見



第303号井戸跡

1	黒褐色土	10YR2/2	地山ブロック(φ1～1.0cm)少量　焼土粒子微量
2	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック(φ0.5～5cm)少量　焼土粒子微量
3	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック多量　鉄分含む
4	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック(φ1～5cm)・焼土粒子・鉄分含む
5	オリーブ黒色土	7.5Y3/2	地山ブロック(φ1～20cm)含む　鉄分少量
6	黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック(φ1～30cm)含む

第304号井戸跡

1	黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック(φ1～40cm)多量　焼土ブロック
2	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック多量　焼土粒子・炭化物含む　鉄分 多量
3	オリーブ黒色土	5Y2/2	地山ブロック多量　炭化物含む　鉄分多量
4	オリーブ黒色土	5Y3/1	地山ブロック多量　炭化物含む
5	黒色土	5Y2/1	地山ブロック(φ1～30cm)含む
6	黒色土	5Y2/1	地山ブロック(φ1～20cm)多量　炭化物少量
7	黒色土	5Y2/1	地山ブロック(φ10～20cm)多量

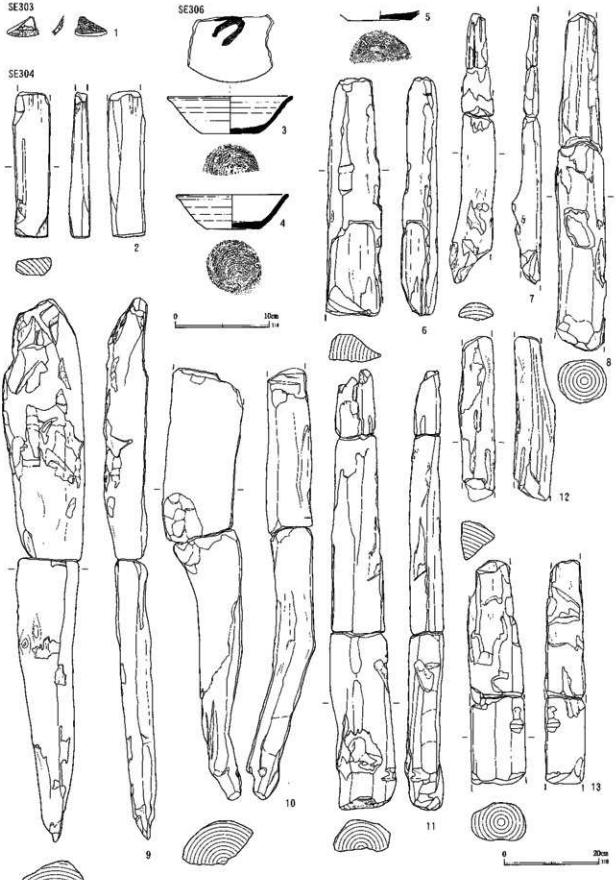
第305号井戸跡

1	灰色土	5Y5/1	しまりややあり　粘性強　旧堆土層
2	黒褐色土	2.5Y3/1	しまり弱　粘性ややあり　有機物多所々層状に含む

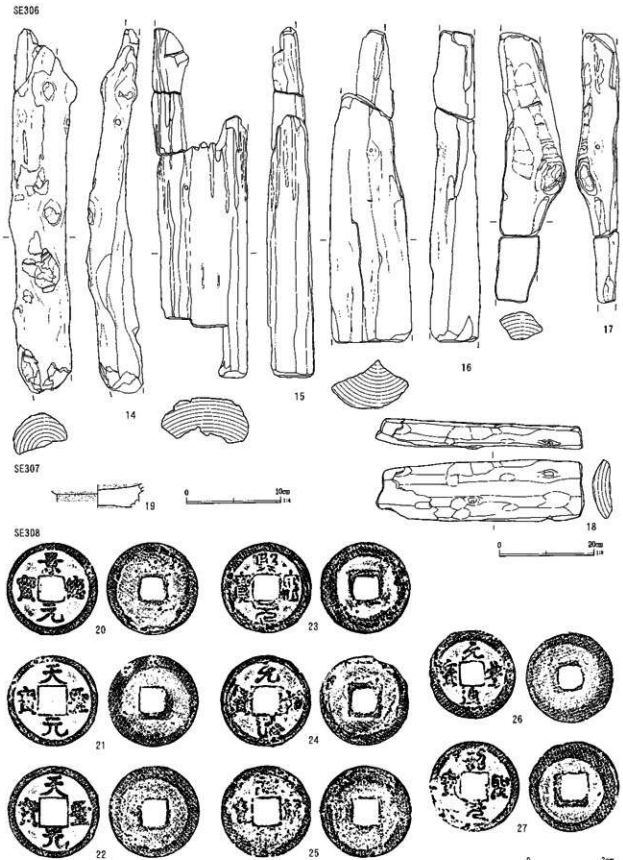
第306号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/1	緑灰色粘土ブロック(φ3～5cm)・炭化物(φ3～5cm)まばら
2	灰色土	10Y6/1	緑灰色シルト中に黒灰色粘土ブロック(3層)(φ2～3cm)少量
3	緑灰色土	10GY4/1	緑灰色粘土ブロック(φ3～5cm)多量　炭化物(φ5～9cm)少量
4	緑灰色土	10GY6/1	炭化物(φ10cm)まばら

第402図　井戸跡（1）



第403図　井戸跡出土遺物（1）



第404図　井戸跡出土遺物（2）

られる。6～18は木製品で、井戸枠に使用された部材であると考えられる。この他、覆土中からは須恵器蓋、緑釉陶器破片を検出した。井戸枠は、丸木を二分割ないし四分割した材、丸木を用いている。表面の枝部を削る以外には、加工を施さず簡素なつくりである。また、10は分析の結果、樹種はコナラ属コナラ亜属クヌギ節であった。

第307号井戸跡（第405図）

J－36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第135・145号住居跡ある。

平面形は円形で、規模は長軸175cm、短軸160cmである。深さは推定で150cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、第404図19に図示した木製黒漆塗椀である。分析の結果、樹種はケヤキであった。

第308号井戸跡（第405図）

G－36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第151号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸132cm、短軸125cmである。深さは推定で122cmである。断面形は筒形である。下半は、崩落によりオーバーハングしている。

出土遺物は、第404図20～27に図示した銭貨である。いずれも北宋銭で、「景徳元寶」「天聖元寶」「熙寧元寶」「元豊通寶」「元祐通寶」「紹聖元寶」である。

第309号井戸跡（第405図）

G－36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第127・130号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸113cm、短軸82cmである。深さは推定で129cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第407図1に図示した鉄製短刀である。

第310号井戸跡（第405図）

G－36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第109・151号住居跡である。

平面形は方形で、規模は長軸133cmを検出し、短軸85cmである。深さは126cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、第407図2に図示した木製の曲物底板である。周縁に溝はなく、木釘のみで固定する。底板と側板の結合形態分類はF類である。この他覆土中からは在地産甕を少量検出した。

第311号井戸跡（第405図）

H－35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第174・200号住居跡、第605号溝跡、第330・331号井戸跡である。

平面形は円形で、規模は長軸130cm、短軸116cmである。深さは推定で88cmである。断面形は筒形である。下半は、崩落によりオーバーハングしている。

出土遺物は、須恵器坏を少量検出した。

第312号井戸跡（第405図）

G－36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第109・151号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸68cm、短軸61cmである。深さは161cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第407図3に図示した砥石を検出した。その他、かわらけ皿を検出した。

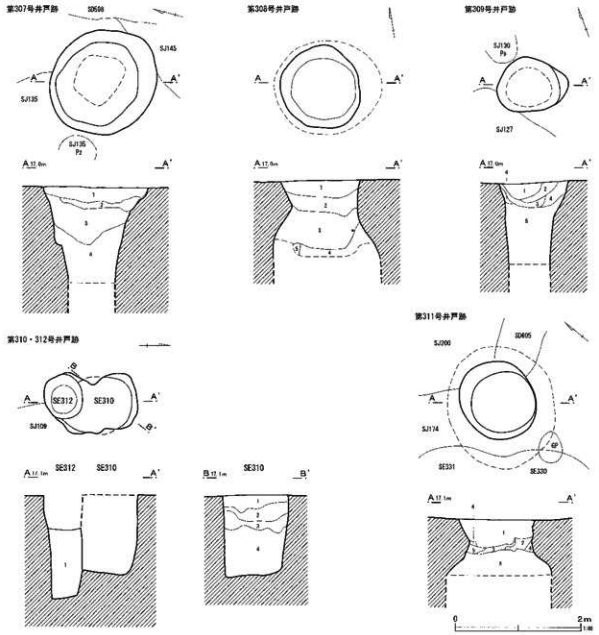
第313号井戸跡（第406図）

H－35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第174号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸95cm、短軸89cmである。深さは108cmである。径も小さく、細長い掘り込みのタイプである。断面形は筒形である。

出土遺物は、土師器甕を少量検出した。



第307号井戸跡

1	褐灰色土	10YR4/1 黄灰色粘土ブロック(φ3～5mm)まばら
2	暗灰色土	10YR3/1 黄灰色粘土ブロック(φ1～2mm)を鹿降状に含む
3	黒褐色土	10YR3/1 緑灰色シルトブロック(φ3～5mm)・有機質多量 (埋戻し)
4	黒色土	10YR2/1 緑灰色シルトブロック(φ3～5mm)・有機質多量 (埋戻し)

第308号井戸跡

1	褐灰色土	10YR4/1 黄褐色粘土ブロック(φ2～3mm)微量 焼土粒子・炭化物(φ5mm)まばら
2	灰色土	5Y4/1 緑灰色粘土ブロック(φ5～8mm)まばら
3	オリーブ灰色土	5Y3/1 緑灰色粘土ブロック(φ3～5mm) 多量 (埋戻し)
4	黒色土	7.5Y2/1 緑灰色シルトブロック(φ5～8mm)少量 (埋戻し)
5	明黒灰色土	10GY7/1 (硬層落上)

第309号井戸跡

1	黒褐色土	7.5YR3/1 しまりあり 粘性ややあり
2	黒褐色土	10YR3/1 しまりあり 粘性ややあり ローム土主体 (埋没土)
3	崩れたため不明	
4	黒色土	10YR2/1 しまりややあり 粘性あり 粘質土
5	崩れたため不明	

第310号井戸跡

1	黒褐色土	2.5Y3/2 しまり強い 地山ブロック(φ1～10mm)・焼土ブロック・炭化物含む
2	黒褐色土	10YR2/2 地山ブロック(φ5～40mm)多量 粒子・炭化物含む
3	黒色土	2.5Y2/1 青灰色地山ブロック(φ5～50mm)多量 鉄分含む
4	黒色土	10YR1.7/1 青灰色地山ブロック(φ5～50mm)含む 粘質

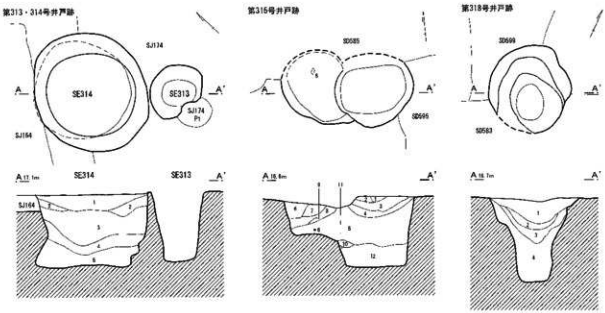
第311号井戸跡

1	灰黄褐色土	10YR5/2 地山ブロック多量 鉄分含む
2	黒褐色土	10YR2/2 地山ブロック(φ1～20mm)多量 鉄分含む
3	オリーブ黒色土	5Y2/2 地山ブロック(φ1～20mm)多量
4	オリーブ黒色土	5Y2/2 地山ブロック(φ1～10mm)少量
5	オリーブ黒色土	5Y3/1 地山ブロック多量 (崩落土)
6	黒色土	10YR2/1 地山ブロック(φ1～10mm)少量

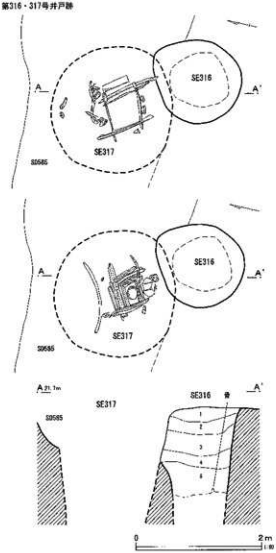
第312号井戸跡

1	暗灰色土	N3/0 しまりややあり 粘性強い ほぼ粘質の粘土質で灰じりけは少ない 有機物片を少量含む

第405図 井戸跡 (2)



第316・317号井戸跡



第314号井戸跡

1	灰褐色土	7.5YR4/2	黄褐色土ブロック（φ3～10mm）含む　焼土粒子（φ3～5mm）多量
2	黒褐色土	7.5YR3/1	砂粒子多量　炭土粒子（φ3～5mm）含む　炭化物粒子（φ1～3mm）少量
3	黒色土	10YR2/1	粘土　焼土粒子（φ3～5mm）含む　炭化物粒子（φ1～3mm）微量
4	灰色土	10Y4/1	シルト　有機物（木片）を下落に少量
5	緑灰色土	7.5GY6/1	シルト　炭化物粒子（φ1～3mm）少量

第315号井戸跡

1	黒褐色土	7.5YR3/1	しまりあり　粘性弱い
2	灰黄色土	2.5Y7/2	しまりあり　粘性弱い　砂質土層
3	黒褐色土	10YR3/1	しまりあり　粘性ややあり　ローム ブロック（φ10～30mm）含む
4	暗灰色土	N3/0	しまり・粘性ややあり
5	暗灰色土	N3/0	しまり弱い　粘性強い
6	黒褐色土	7.5YR3/2	しまりあり　粘性ややあり　ローム ブロック（φ10～50mm）少量
7	黒褐色土	7.5YR3/2	しまりあり　粘性ややあり
8	灰黄色土	2.5Y7/3	しまりあり　粘性ややあり　ローム ブロック（φ10～100mm）多量
9	灰色土	N4/0	しまり弱い　粘性あり　砂質土層
10	暗灰色土	N3/0	しまり・粘性強い
11	緑灰色土	7.5GY6/1	しまり・粘性弱い　砂質土層
12	暗灰色土	N3/0	しまり弱い　粘性強い

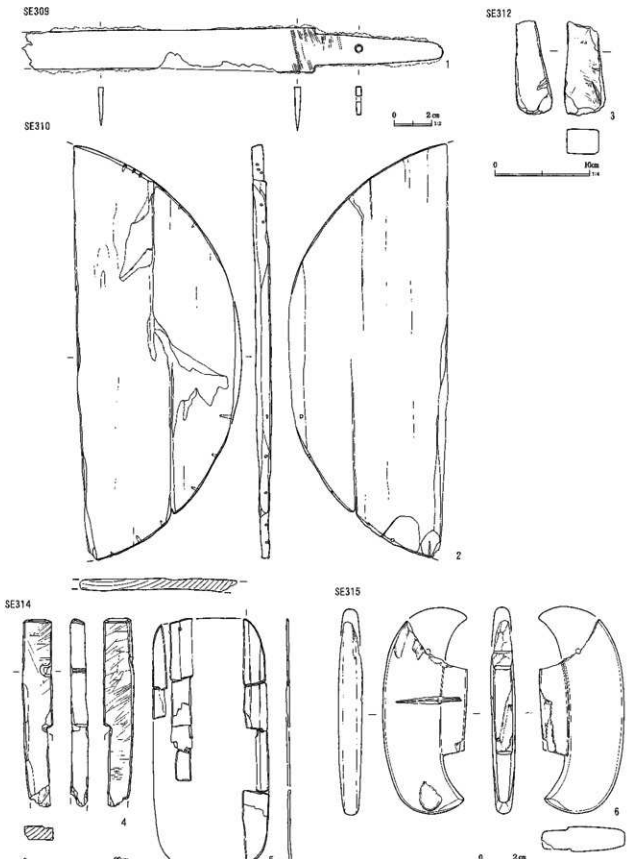
第316号井戸跡

1	褐灰色土	10YR4/1	黄灰色粘土粒子（φ0.5～2mm）まばら
2	黒褐色土	10YR3/2	緑灰色粘土粒子（φ0.5～2mm）少量　炭化物微量
3	オリーブ黒色土	5Y3/2	緑灰色シルトブロック（φ2～3mm）少量　炭化物微量
4	灰色土	5Y4/1	緑灰色シルトブロック（φ3～5mm）少量
5	灰色土	5Y4/1	緑灰色シルトブロック（φ3～5mm）少量　4より明るい

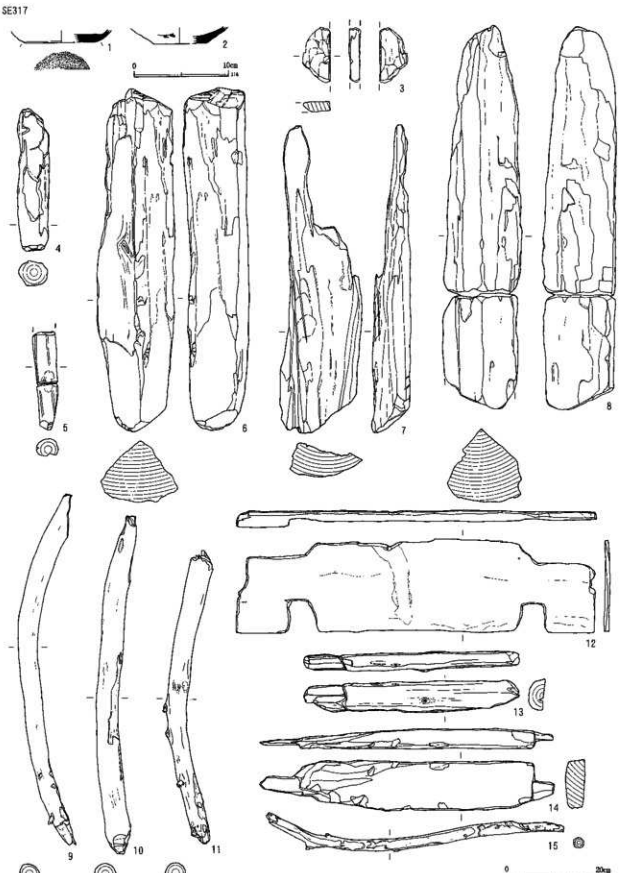
第318号井戸跡

1	黒色土	N2/	地山ブロック（φ1～5mm）含む　焼土ブロック少量
2	灰色土	7.5Y5/1	焼土ブロック微量　鉄分含む
3	オリーブ灰色土	5GY5/1	地山ブロック（φ1～5mm）少量　炭化物含む
4	暗オリーブ灰色土	2.5GY4/1	地山ブロック（φ1～5mm）・焼土ブロック少量

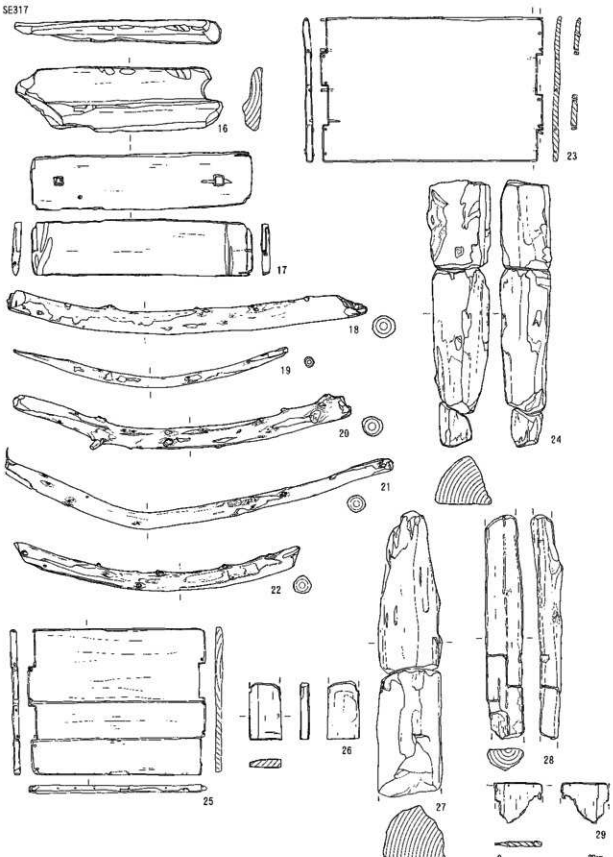
第406図　井戸跡（3）



第407図　井戸跡出土遺物（3）



第408図　井戸跡出土遺物（4）



第409図　井戸跡出土遺物（5）

第314号井戸跡（第406図）

H—35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第164・174号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸198cm、短軸176cmである。深さは117cmである。断面形は径の大きい筒形である。

出土遺物は、第407図4・5に図示した木製の曲物板底と板材の破片を検出した。この他かわらけ皿を検出した。

第315号井戸跡（第406図）

H—36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第109号住居跡、第585・595号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸208cm、短軸推定で116cmである。深さは110cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、第407図6に図示した大型の石製子持勾玉である。材質は滑石で、長さ10.2cm、幅4.5cmである。この他覆土中から、かわらけ皿を少量検出した。

第316号井戸跡（第406図）

H—36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第585号溝跡、第317号井戸跡である。

平面形は円形で、規模は長軸147cm、短軸130cmである。深さは推定で138cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第317号井戸跡（第406図）

H—36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第585号溝跡、第316号井戸跡である。

平面形は円形で、規模は長軸推定で208cm、短軸推定で195cmである。調査できた深さは180cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、第408図1～15・第409図16～29に図示した。1・2は須恵器の坏である。2の体部外面には墨書がみられる。3～29は木製品である。いずれも井戸枠の部材と考えられる。3～16・23は北側から検出されている。17～19は東側から検出されている。20・21・24は南側から検出され、22・25～29は西側から検出されている。これらの部材は井桁状に組まれていたと思われる。このうち6～8は径の太い丸太材で、井戸枠の芯に使用されていたと考えられる。12は板材で、左右に切り込みをもつ。また、17は板材で左右に方形の穴があいている。23・25は幅のある板材で、左右の側面には突起がある。これらの板材は、いずれも箱状に組み合わさって、井戸枠を形成している。

第317号井戸跡は、上部が内法約45cmの井籠組で、周囲に縦方向の材を差し込んでいる。最下部の水溜めは曲物周辺を板で囲ったものである。井戸枠材は三種類に分けられる。径3～4cmの丸木、径約30cmの木を2分割・4分割した材、板状に作った材の三種類である。板状の井戸枠材は井戸枠上部・最下部にのみ用いられた。穴・木釘穴・仕口・表面の圧痕から、製品を井戸枠材に転用したと考えられる。23・25は第317号井戸跡の最下部に、長方形の箱状に組んで設置されていた。23は北面、25は西面に配される。木釘で固定した痕跡が見られる。なお分析の結果、12・23の樹種はスギ、17はアスナロであった。

第318号井戸跡（第406図）

J—38グリッドに位置する。

重複する遺構は、第583・599号溝跡である。溝跡を掘り込んで造られている。

平面形は円形で、規模は長軸136cm、短軸132cmである。深さは128cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第319号井戸跡（第410図）

H—36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第595号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸81cm、短軸72cmである。深さは107cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第413図1～12・第414図13・14に図示した。1は土師器坏で、口縁部横ナデ、体部外面ヘラケズリの北武蔵型坏である。2は土師器皿である。3は須恵器坏で底部外面回転ヘラケズリが施されている。南比企産である。4は須恵器甕で、外面に平行叩き、内面は無文当て具痕がみられる。5～11は土師器甕である。12は土師器壺の底部破片である。13は木製の黒漆塗り壺鐙である。14は木製品の丸材である。

第320号井戸跡（第411図）

H—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第106・122・158号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸87cm、短軸69cmである。深さは126cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、第415図1・2に図示した。1は口縁部横ナデ、体部ヘラケズリを施す土師器の北武蔵型坏である。2は返りをもつ須恵器蓋である。

第321号井戸跡（第411図）

J—35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第149号住居跡、第585号溝跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸260cm、短軸203cmである。深さは140cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、第415図3に図示した木製の曲物柄杓である。側板を三重に巻き、樹皮紐2列で固定している。この他瀬戸産の壺破片を検出した。

第322号井戸跡（第411図）

H—36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第143号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸57cm、短軸54cmである。深さは105cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第415図4～6に図示した。須恵器の高台付埦である。

第323号井戸跡（第411図）

J—36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第135号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸53cm、短軸50cmである。深さは推定で145cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、底部に回転ヘラケズリを施した須恵器坏を検出した。

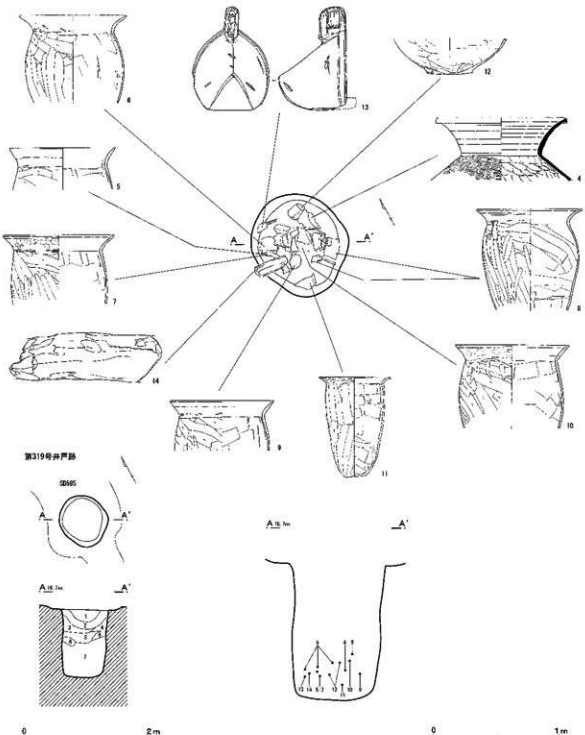
第324号井戸跡（第412図）

I・J—35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第246号住居跡、第605号溝跡、第607号土坑、第336号井戸跡である。本遺跡の中でも比較的規模の大きな井戸跡である。周囲にも同時期の井戸跡が多数検出されている。

平面形は円形で、規模は長軸360cm、短軸333cmである。深さは推定で125cmである。断面形は径の大きい筒形である。

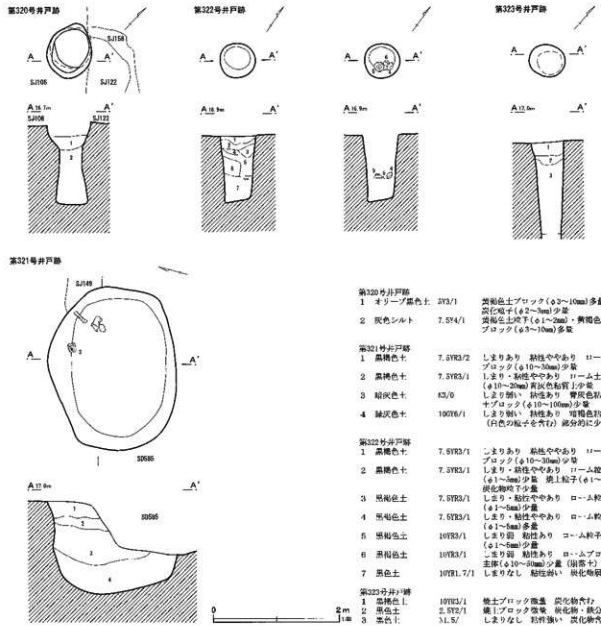
出土遺物は、第415図7～21に図示した。7は青磁碗で、8は白磁の蓋である。9～14はかわらけ皿である。15は渥美の甕である。16・17は木製の黒漆塗椀である。17は分析の結果、樹種はトネリコ属であった。18・19・21は木製品で、18は指物容器の側板である。側板同士、側板と底板とは木釘で固定する。内面の左右両端と中央に圧痕が見られ、中央にしきり板があったと考えられる。19は柄杓底板、21は丸材である。20は軽石である。



第319号井戸跡

1	黄褐色土	2.5Y5/3	しまりあり	粘性ややあり
2	黒褐色土	10YR3/1	しまりあり	粘性ややあり　炭上粒子少量　炭化物粒子含む
3	灰黄褐色土	10YR4/2	しまりややあり	粘性あり　炭化物粒子微量
4	黒褐色土	10YR3/1	しまりややあり	粘性あり　炭上粒子微量
5	黒色土	10YR2/1	しまり弱い	粘性強い
6	黒褐色土	10YR3/3	しまりあり	粘性弱い　ローム・ブロック主体（崩落土）
7	黒色土	10YR1.7/1	しまりややあり	粘性強い　粘質土層（均質）

第410図　井戸跡（4）



第411図　井戸跡（5）

第325号井戸跡（第412図）

G・H—33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第186・208号住居跡、第585号溝跡である。比較的規模の大きな井戸跡である。中世の溝跡を切り込んで造られている。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸246cm、短軸203cmである。深さは120cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、検出されなかった。

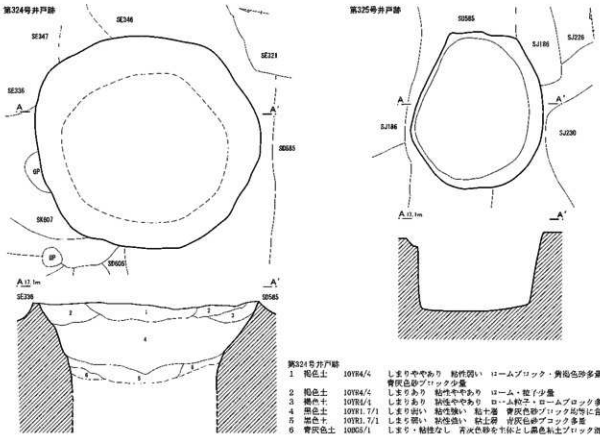
第326号井戸跡（第412図）

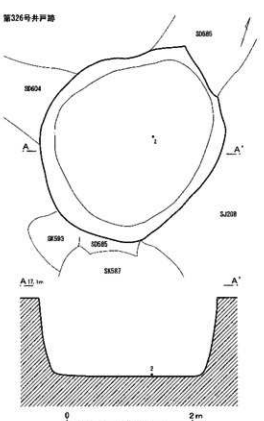
G・H—34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第208号住居跡、第585・604号溝跡、第587・593号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸326cm、短軸266cmである。深さは123cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、第418図1・2に図示した。1は木製品で枘杓底板である。2は鉄製品で環金具である。他に片岩、瀬戸壺破片を検出した。





第327号井戸跡（第416図）

G・H—33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第186号住居跡、第585号溝跡である。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸194cm、短軸推定で138cmである。深さは推定で138cmである。断面形は筒形である。

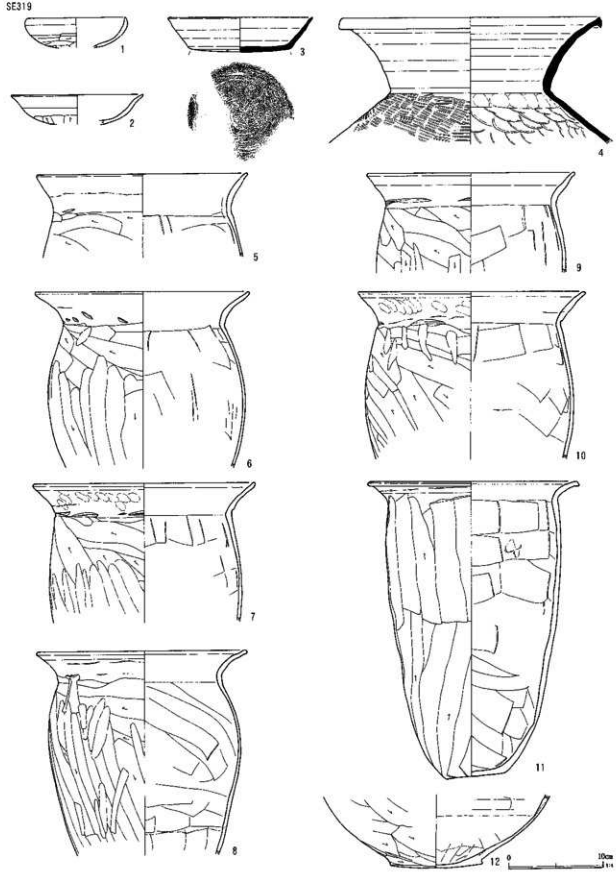
出土遺物は、第418図3・4に図示した。3は木製黒漆塗椀で、内外面に赤漆による文様が施される。分析の結果、樹種はトネリコ属であった。4は在地産片口鉢である。この他刺又状の木器片を出土した。

第328号井戸跡（第416図）

G—33グリッドに位置する。

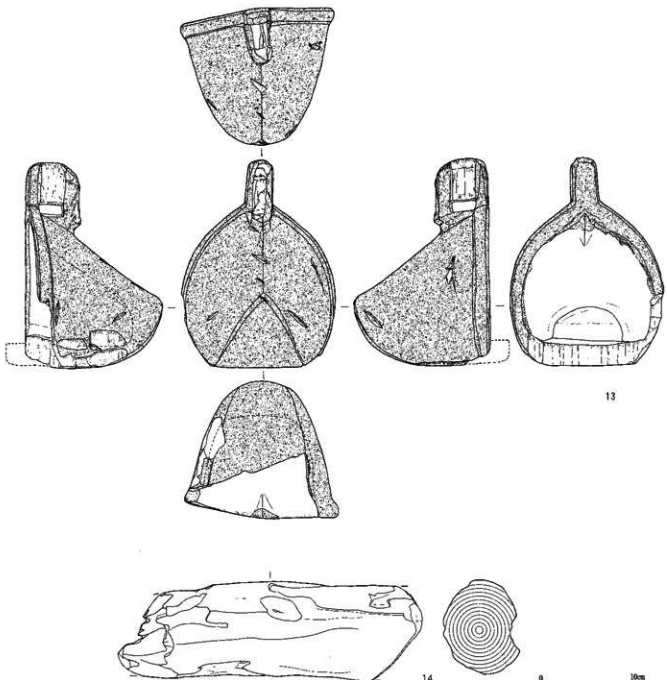
重複する遺構は、第180・184号住居跡、第601号溝跡である。

第412図　井戸跡（6）

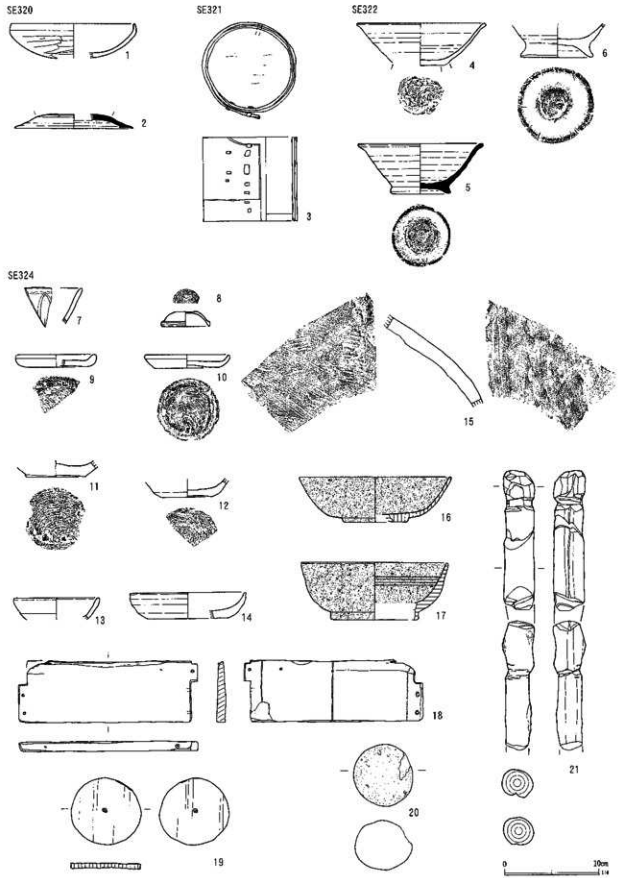


第413図　井戸跡出土遺物（6）

SE319



第414図　井戸跡出土遺物（7）



第415図　井戸跡出土遺物（8）

平面形は円形で、規模は長軸205cm、短軸196cmである。深さは推定で133cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第329号井戸跡（第416図）

F—33グリッドに位置する。

平面形は円形で、規模は長軸80cm、短軸63cmである。深さは80cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、かわらけ皿を検出した。

第330号井戸跡（第416図）

H—35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第171号住居跡、第585号溝跡、第311・331号井戸跡である。

平面形は円形で、規模は長軸220cm、短軸推定で167cmである。深さは130cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、土師器甕・坏、須恵器坏を少量検出した。

第331号井戸跡（第416図）

H—35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第171・174号住居跡、第311・330号井戸跡である。

平面形は円形で、規模は長軸170cm、短軸は153cmを検出した。深さは106cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、第418図4に図示したかわらけ皿である。

第332号井戸跡（第417図）

G—33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第187号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸74cm、短軸68cmである。深さは推定で96cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、土師器甕・坏を少量検出した。

第333号井戸跡（第417図）

G・H—34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第208号住居跡、第587号土坑である。本井戸跡は、第587号土坑より古い。

平面形は円形で、規模は長軸189cm、短軸167cmである。深さは推定で95cmである。断面形はフラスコ形である。

出土遺物は、第418図6～10に図示した。6は須恵器坏の底部破片で、糸切離し後回転ヘラケズリを施す。7は土師器甕である。8～10は木製品で、8・10は曲物底板、9は曲物側板である。綴じ部は樹皮紐ではなく、円孔に木栓を入れて固定する。底板との結合形態はC類。また分析の結果、樹種は、9はヒノキ、10はスギであった。

第334号井戸跡（第417図）

G—35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第177号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸50cm、短軸47cmである。深さは73cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、底部に回転ヘラケズリを施した須恵器坏、土師器甕・坏を少量検出した。

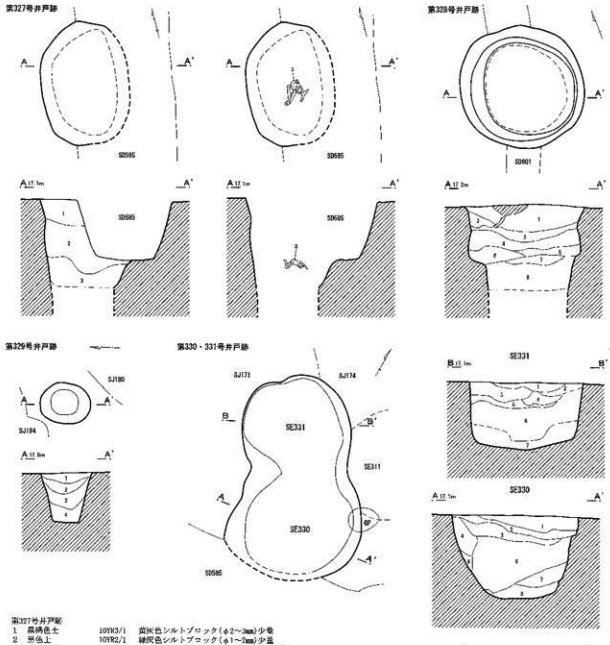
第335号井戸跡（第417図）

I—35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第126・197・240号住居跡、第354号井戸跡である。中世井戸跡が数多く掘削されている地区である。第585・586号溝跡の北側に集中し、溝跡に並行して掘り込まれている。居住空間域の一部であり、地下の水脈があたる場所と考えられる。

平面形は円形で、規模は長軸163cm、短軸163cmである。深さは推定で107cmである。断面形は筒形状で、中段が崩れてオーバーハングしている。

出土遺物は、第419図1に図示した常滑甕である。



第327号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/1	炭灰色シルトブロック(φ2～3mm)少量
2	黒色土	10YR2/1	緑灰色シルトブロック(φ1～2mm)少量
3	緑灰色土	7.5GY5/1	炭灰色土と緑灰色砂(φ30～60mm)の混土層(堅厚し)

第328号井戸跡

1	暗灰色土	10YR4/1	炭褐色粘土ブロック(φ2～3mm)炭 焼土粒子(φ5mm)少量 土器片多量
2	にぶい黄褐色土	10YR5/4	炭褐色粘土ブロック と1の混土層 焼土粒子(φ2～3mm)少量 (堅精薄土)
3	暗灰色土	10YR4/1	炭緑灰色粘土ブロック(φ2～3mm)薄
4	黒褐色土	10YR3/1	黄灰色シルト質ブロック(φ10～20mm)多量 (堅精薄土)
5	黒褐色土	10YR3/1	緑灰色シルトブロック(φ2～3mm)少量
6	にぶい黄褐色土	2.5Y5/3	炭褐色粘土ブロック(φ20～30mm)との混土層 (堅固薄土)
7	オリーブ黒色土	10Y3/1	緑灰色シルトブロック(φ20～30mm)若干 炭化物粒子少量
8	灰色土	5G	7と緑灰色シルトブロック(φ30mm)の混土層 (堅灰し)

第329号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子(φ2mm)・炭化物粒子(φ2～5mm)少量
2	黒色粘質土	10YR2/1	焼土粒子(φ1～2mm)微量
3	暗灰色粘土	10YR4/1	緑灰色粘土ブロック(φ3～5mm)少量
4	オリーブ黒色粘土	5Y3/2	緑灰色粘土ブロック(φ3～10mm)多量

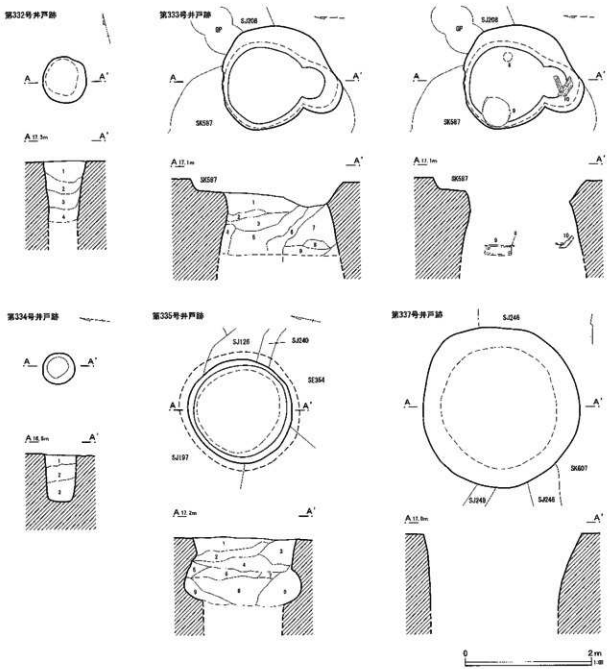
第330号井戸跡

1	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック(φ1～30mm)多量 焼土ブロック(φ1～5mm)数分
2	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック多量 砂粒子多量 数分
3	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック(φ1～5mm)・焼土ブロック少量 炭化物粒子 数分
4	黒色土	5Y2/1	地山ブロック少量 炭化物粒子
5	黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック多量 数分 焼土粒子少量
6	黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック
7	青灰色土	5BG5/1	砂層 数分 炭化物粒子
8	緑黒色土	5G2/1	地山ブロック少量

第331号井戸跡

1	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック多量 焼土ブロック少量 炭化物粒子
2	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック多量 炭化物粒子
3	黒色土	5Z/1	地山ブロック多量 数分
4	黒色土	5Y.5/1	地山ブロック多量 数分 砂粒子
5	緑灰色土	10GY6/1	数分多量
6	緑黒色土	5GY.7/1	炭化物粒子多量
7	緑灰色土	5G5/1	砂層

第416図 井戸跡 (7)



第332号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック（φ3～20mm）多量　焼土粒子・炭化物粒子（φ1～2mm）少量
2	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック（φ3～10mm）焼土粒子・炭化物粒子（φ1～3mm）少量
3	黒褐色土	2.5Y3/1	緑灰色粘土ブロック（φ3～10mm）少量
4	オリーブ黒色粘土	5Y3/1	緑灰色粘土ブロック（φ3～10mm）多量

第333号井戸跡

1	明黄褐色土	10YR6/6	暗褐色土との混土層（埋め戻し）
2	灰色土	10Y6/1	暗褐色土との混土層（埋め戻し）1のグライ化したもの
3	灰色土	10Y6/1	暗褐色土ブロック（φ20～30mm）含む　炭化物粒子少量（埋め戻し）
4	オリーブ黒色土	5Y3/1	緑灰色粘土ブロック（φ50～80mm）多量
5	オリーブ黒色土	5Y3/1	緑灰色粘土ブロック（φ10～20mm）少量
6	オリーブ黒色土	5Y3/1	緑灰色粘土ブロック（φ20～30mm）多量（壁崩落土）
7	オリーブ黒色土	5Y3/1	緑灰色粘土ブロック（φ10～20mm）少量
8	オリーブ黒色土	5Y3/1	緑灰色粘土ブロック（φ20～30mm）多量　有機物多量
9	オリーブ黒色土	5Y3/1	緑灰色シルトブロック（φ10～20mm）少量

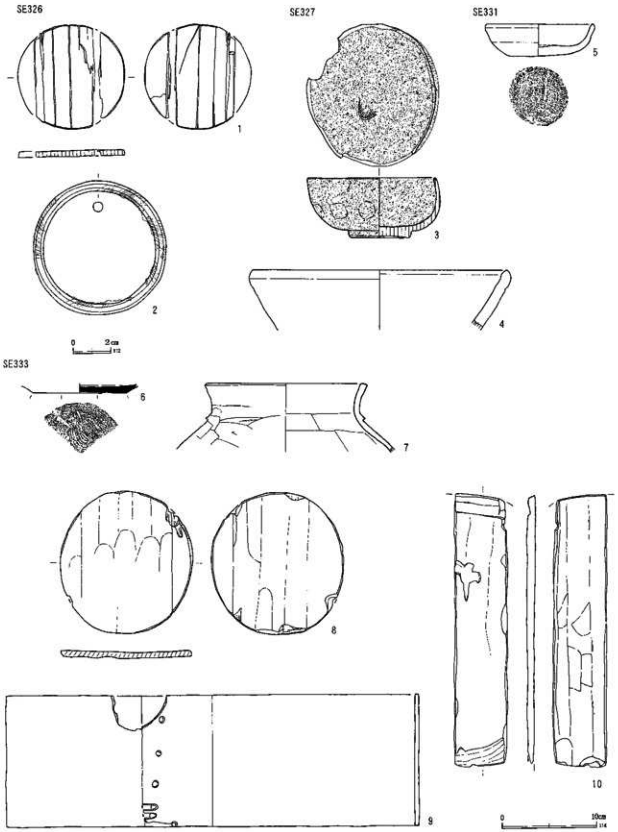
第334号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・ブロック（φ3～20mm）少量
2	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土ブロック（φ3～20mm）多量
3	黒色粘質土	10YR2/1	焼土粒子・炭化物粒子（φ1～2mm）少量

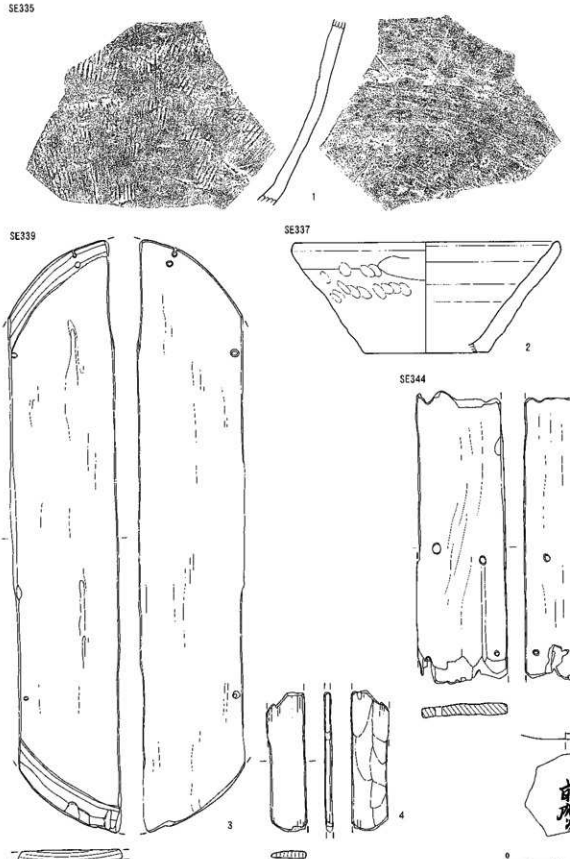
第335号井戸跡

1	黒灰色土	10YR4/1	しまりあり　粘性あり　ロームブロック（φ10～50mm）少量
2	暗灰色土	N3/0	しまりややあり　粘性ややあり　ロームブロック（φ1～10mm）少量　ロームブロック主体
3	黒褐色土	10YR3/1	しまりあり　粘性あり　ロームブロック（φ10～50mm）少量
4	暗灰色土	N3/0	しまりややあり　粘性強い　青灰色地山土がブロック状に少量
5	灰色土	N4/0	しまり弱い　粘性ややあり　青灰色地山土が粒子状に混入少量
6	暗灰色土	N3/0	しまり弱い　粘性強い
7	暗灰色土	N3/0	しまりあり　粘性ややあり　褐色の焼い砂粒少量
8	暗灰色土	N3/0	しまり弱い　粘性強い
9	灰色土	N4/0	しまり弱い　粘性あり　青灰色地山土粒子少量

第417図　井戸跡（8）



第418図　井戸跡出土遺物（9）



第419図　井戸跡出土遺物（10）

第336号井戸跡（第422図）

J－35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第607号土坑、第324・347・352・359号井戸跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸推定で238cm、短軸は205cmを検出した。深さは推定で115cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第337号井戸跡（第417図）

I－34・35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第246・248号住居跡、第607号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸252cm、短軸249cmである。深さは推定で116cmである。断面形は径の大きい筒形である。

出土遺物は、第419図２に図示した在地産の片口鉢である。この他常滑甕の破片を検出した。

第338号井戸跡（第420図）

H－33・34グリッドに位置する。

重複する遺構は、214・230・242号住居跡である。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸252cm、短軸183cmである。深さは推定で122cmである。断面形は径の大きい筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第339号井戸跡（第420図）

F－33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第600号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸85cm、短軸72cmである。深さは推定で73cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第419図３・４に図示した木製品である。３は大型の曲物底板である。周縁の溝と円孔で側板を固定する。結合形態はC類。４は板材の破片である。

第340号井戸跡（第420図）

I－35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第126・197・200・240号住居跡、第605号溝跡である。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸272cm、短軸202cmである。深さは推定で130cmである。断面形は径の大きい筒形である。

出土遺物は、片岩、在地産鉢、かわらけ皿を検出した。

第341号井戸跡（第421図）

J－34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第201・209・215号住居跡、第607号溝跡、第342号井戸跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸224cm、短軸201cmである。深さは154cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第342号井戸跡（第421図）

J－34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第201・209号住居跡、第607号溝跡、第341号井戸跡である。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸205cm、短軸は141cmである。深さは109cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第343号井戸跡（第421図）

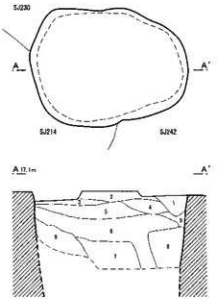
G－33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第186号住居跡、第２号溝跡である。

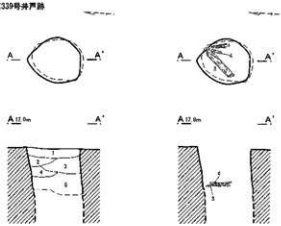
平面形は円形で、規模は長軸107cm、短軸103cmである。深さは73cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、石、土師器甕、須恵器甕を少量検出した。

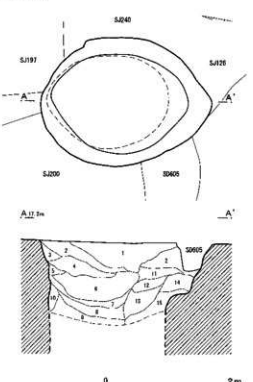
第338号井戸跡



第339号井戸跡



第340号井戸跡



第338井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/1	しまりあり　粘性ややあり　焼土粒子(φ1～5mm)少量
2	にぶい黄褐色土	10YR4/3	しまりあり　粘性ややあり　ロームブロック(φ10～30mm)少量
3	黒褐色土	10YR3/1	しまりあり　粘性ややあり　ロームブロック(φ10～30mm)少量
4	灰色土	N4/0	しまりややあり　粘性強い　粘質土層均質
5	暗灰色土	N3/0	しまりややあり　粘性あり　青灰色地山土ブロック(φ10～30mm)少量
6	黒色土	N2/0	しまり弱い　粘性あり　青灰色地山土ブロック(φ10～20mm)少量
7	黒色土	N2/0	しまり弱い　粘性あり　青灰色地山土少量斑に混入
8	黒色土	N2/0	しまり弱い　粘性あり　青灰色地山土ブロック状に少量　やや下方に偏る
9	緑灰色土	10GY6/1	しまり弱い　粘性ややあり　青灰色地山土主体　やや暗色の粘質土

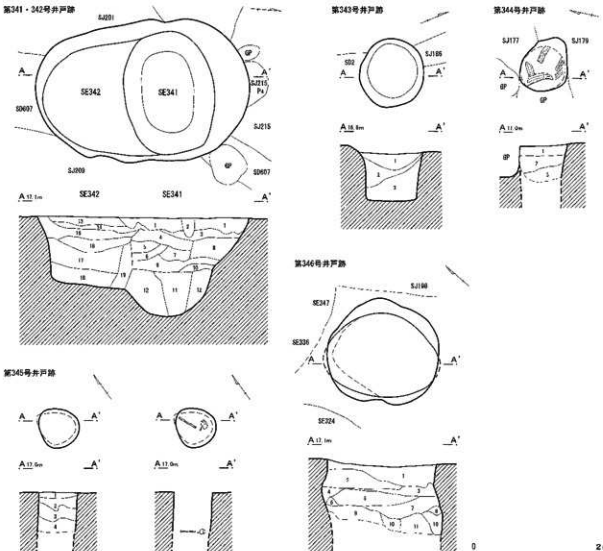
第339井戸跡

1	黒褐色土	7.5YR3/2	地山ブロック(φ1～10mm)少量　焼土ブロック　炭化物粒子
2	黒褐色土	2.5YR3/1	地山ブロック多量（北側壁の崩落土）
3	黒褐色土	10YR2/2	地山ブロック少量　焼土ブロック・炭化物粒子少量
4	灰オリーブ	7.5Y6/2	（北側壁の崩落土）
5	黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック(φ1～20mm)少量

第340号井戸跡

1	暗灰色土	7.5YR4/1	しまりあり　粘性ややあり　炭分の固まり少量斑に混入
2	黒褐色土	7.5YR3/1	しまりあり　粘性ややあり　炭分の固まり少量斑に混入
3	黒褐色土	7.5YR3/1	しまりあり　粘性ややあり　粘質土層
4	褐色土	7.5YR4/3	しまりややあり　粘性ややあり　炭分の固まり少量
5	オリーブ灰色粘土	5GY6/1	しまりややあり　粘性あり　3層に同じ
6	黒色土	2.5GY2/1	しまり弱い　粘性強い
7	緑灰色土	7.5GY5/1	しまり弱い　粘性ややあり　青灰色地山土主体
8	暗緑灰色土	7.5GY3/1	しまり弱い　粘性強い
9	緑灰色土	7.5GY5/1	しまり弱い　粘性強い
10	オリーブ黒色土	5GY2/1	しまり弱い　粘性強い　均質
11	黒褐色土	10YR3/1	しまりややあり　粘性強い
12	緑灰色土	10GY5/1	しまり弱い　粘性強い　3枚ほどの炭化物層が下半分にある　各、厚さ10～20mm
13	黒色土	2.5GY2/1	しまり弱い　粘性強い　均質
14	暗緑灰色土	7.5GY3/1	しまり弱い　粘性強い　青灰色地山土(φ1～3mm)少量
15	黒色土	2.5GY2/1	しまり弱い　粘性強い　均質

第420図　井戸跡（9）



第341号井戸跡

1	黒色土	10YR2/1	黄灰色砂ブロック(φ5～8mm)多量（埋戻し）
2	黒色土	10YR2/1	暗褐色粘土粒少量
3	にぶい黄色土	2.5Y6/4	1と黄灰色砂の混土層（埋戻し）
4	黒褐色土	10YR3/1	緑灰色シルトブロック(φ3～5mm)少量
5	黒褐色土	10YR3/1	緑灰色シルトブロック(φ5～8mm)多量
6	黒褐色土	10YR3/1	暗灰色シルトブロック(φ10mm)多量
7	黒色土	7.5Y2/1	緑灰色シルトブロック(φ20～30mm)多量
8	灰色土	N6	黒灰色土ブロック(φ10mm)少量
9	黒色土	7.5Y2/1	緑灰色シルトブロック(φ10mm)少量
10	黒色土	7.5Y2/1	緑灰色シルトブロック(φ50mm)多量
11	黒色土	7.5Y2/1	緑灰色シルトブロック(φ50mm)少量
12	オリーブ灰色土	5GY5/1	黒灰色土ブロック(φ10mm)少量

第342号井戸跡

13	褐灰色土	10YR4/1	黄灰色ブロック(φ30～50mm)多量（埋戻し）
14	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色粘土ブロック(φ10mm)ランダムに多量（埋戻し）
15	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色粘土ブロック(φ30～50mm)多量
16	暗灰色土	N3	緑灰色シルトブロック(φ10mm)少量
17	黒色土	2.5GY2/1	緑灰色シルトブロック(φ10mm)少量
18	灰色土	N4	黒灰色土と暗灰色シルトの混土層
19	暗灰色土	N3	暗灰色シルトブロック(φ10mm)多量（破壊層上）

第343号井戸跡

1	黒色粘質土	5Y3/1	緑灰色砂土ブロック(φ3～10mm)多量 炭化物粒子(φ1～2mm)少量
2	オリーブ黒色粘土	7.5Y3/1	緑灰色砂土ブロック(φ3～5mm)炭化物粒子(φ1～3mm)少量
3	黒色土	7.5Y2/1	炭化物粒子(φ1～2mm)少量

第344号井戸跡

1	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子(φ1～2mm)・ブロック(φ3～5mm)少量
2	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック(φ3～10mm)多量
3	黄灰色粒土	2.5Y4/1	黄褐色土ブロック(φ3～10mm)多量

第345号井戸跡

1	黒褐色土	10YR2/2	焼成の被土ブロック 焼土ブロック(φ1～10mm) 炭化物粒子
2	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック 焼土ブロック少量 炭化物粒子
3	黒褐色土	2.5Y3/1	焼土ブロック(φ1～20mm)多量 焼土ブロック少量 炭化物粒子
4	黒褐色土	2.5Y3/2	焼土ブロック少量

第346号井戸跡

1	にぶい黄橙色土	10YR6/4	しまりややあり 粘性なし シャリシャリした粉層
2	にぶい黄褐色土	10YR5/3	しまりややあり 粘性弱い ロームブロック(φ50～200mm)が層の下方に集中する
3	青灰色土	10BG6/1	しまりややあり 粘性あり 青灰色粘土土主体
4	灰色土	N4/0	しまりややあり 粘性あり 青灰色地山土ブロック(φ10～30mm)極小少量
5	暗灰色土	N3/0	しまり弱い 粘性あり 炭化物粒子を一部にふたまって含む部分あり
6	灰色土	10Y4/1	しまりややあり 粘性強い 均質な粘質土層
7	暗灰色土	N3/0	しまり弱い 粘性あり 青灰色砂質土ブロック微量
8	灰色土	10Y4/1	しまり弱い 粘性あり 6層と同様均質な粘質土層
9	暗灰色土	7.5GY6/1	しまり弱い 粘性強い 青灰色地山土主体
10	灰色土	10Y4/0	しまり弱い 粘性あり 青灰色地山土少量極
11	暗灰色土	N3/0	しまり弱い 粘性強い 混じりけなし

第421図　井戸跡（10）

第344号井戸跡（第421図）

G—35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第177・179号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸90cm、短軸73cmである。深さは推定で55cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第419図5・6に図示した。5は木製の板材である。6は土師器坏で、底部外面に「前麻呂」の墨書が見られる。この他、須恵器甕・外周回転ヘラケズリの坏を検出した。

第345号井戸跡（第421図）

F—33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第600号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸66cm、短軸62cmである。深さは推定で64cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、石、土師器甕・坏を少量検出した。

第346号井戸跡（第421図）

J—35グリッドに位置する。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸174cm、短軸160cmである。深さは推定で108cmである。断面形は径の大きい筒形である。

出土遺物は、片岩、在地産甕を少量検出した。

第347号井戸跡（第422図）

J—35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第201号住居跡、第336・352・359号井戸跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸推定で253cm、短軸は137cmを検出した。深さは推定で92cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。本井戸跡からは、井桁に組まれた木製の井戸枠が検出された。

出土遺物は、第426図1～5に図示した。1は土師器坏である。口縁部横ナデを施し、底部外面はヘラケズリを施す。内面には油煙が付着している。2・3は須恵器坏である。4は須恵器高台付埦である。5は須恵器甕の口縁部破片である。

第348号井戸跡（第423図）

I・J—34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第238・245・246号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸220cm、短軸212cmである。深さは推定で129cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、第426図6・7に図示した。6は木製の黒漆塗椀である。分析の結果、樹種はケヤキであった。7は砥石である。この他、覆土中からは片岩、かわらけ皿、在地産甕を検出した。

第349号井戸跡（第423図）

H—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第106・115号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸85cm、短軸75cmである。深さは128cmである。断面形はフラスコ形である。

出土遺物は、第426図8に図示した土師器皿である。

第350号井戸跡（第423図）

I—32グリッドに位置する。

重複する遺構は、第217号住居跡、第602号土坑である。

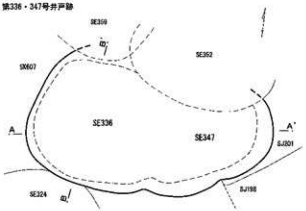
平面形は円形で、規模は長軸143cm、短軸112cmである。深さは144cmである。断面形は漏斗形である。

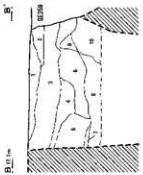
出土遺物は、第426図9に図示したかわらけ皿を検出した。

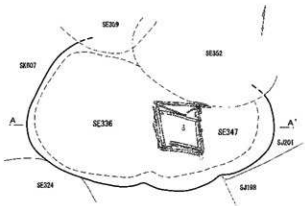
第351号井戸跡（第423図）

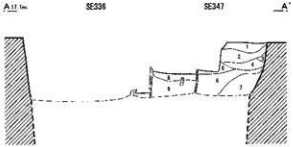
H—32グリッドに位置する。

第336・347号井戸跡









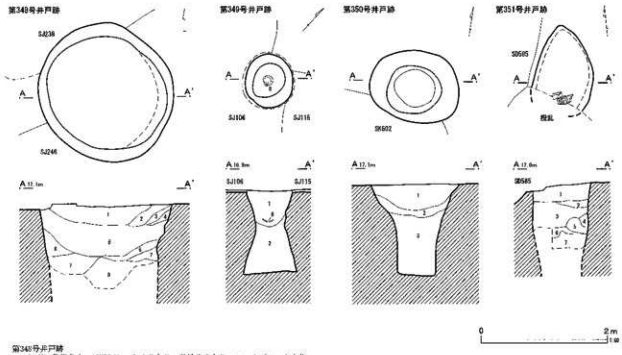
第336井戸跡

1	にぶい黄褐色土	10YR5/3	しまりあり　粘性弱い
2	黒色土	10YR1.7/1	しまり・粘性ややあり　ローム粒子(φ1～3mm)少量
3	にぶい黄橙色土	10YR7/3	しまりあり　粘性強い
4	黒色土	10YR1.7/1	しまり弱い　粘性強い　青灰色地山土ブロック(φ10～15mm)少量
5	黒色土	10YR1.7/1	しまり弱い　粘性強い　青灰色地山土粒子(φ1～2mm)少量
6	黒色土	10YR1.7/1	しまり弱い　粘性強い　風じりけなし
7	青灰色土	5BG6/1	しまり弱い　粘性強い　青灰色地山土主体
8	黒色土	10YR1.7/1	しまり弱い　粘性強い　青灰色地山土粒子(φ1～3mm)少量
9	黒褐色土	10YR3/1	しまり弱い　粘性強い
10	黒色土	10YR2/1	しまり弱い　粘性強い

第347号井戸跡

1	黒褐色土	7.5YR3/2	しまりあり　粘性ややあり　地土粒子(φ10～20mm)および炭化物粒子少量
2	灰黄褐色土	10YR4/2	しまりあり　粘性ややあり　ローム粒子(φ1～3mm)少量
3	にぶい黄橙色土	10YR6/4	しまりややあり　粘性弱い　ロームブロック主体
4	黒褐色土	2.5YR3/2	しまりややあり　粘性ややあり　鉄分少量
5	オリーブ黒色土	5Y3/2	しまりややあり　粘性強い　ローム粒子少量　粘質土層
6	黒褐色土	2.5YR3/1	しまりややあり　粘性強い　青灰色地山土ブロック(φ10～30mm)少量
7	灰色土	10YR5/1	しまり弱い　粘性ややあり　青灰色地山土主体(砂質土)　暗色粘質土が層状にやや流こる
8	暗灰色土	N3/0	しまり弱い　粘性強い　粘質土層　ほぼ均質　青灰色地山土粒子少量
9	暗灰色土	N3/0	しまり弱い　粘性強い　砂質土少量

第422図　井戸跡（11）



第348号井戸跡

1	にぶい黄褐色土	10YR6/4	しまりあり	粘性ややあり ローム・ブロック主体
2	灰褐色土	10YR4/2	しまりあり	粘性ややあり ローム・ブロック(φ10～30mm)少量
3	褐灰色土	10YR4/1	しまりあり	粘性ややあり ローム・ブロック(φ10～30mm)少量
4	褐灰色土	10YR4/1	しまりややあり	粘性ややあり ローム・ブロック(φ10～30mm)少量
5	黒色土	5Y2/1	しまりややあり	粘性強い 有機質土ブロック(φ10～30mm)少量
6	オリーブ灰色土	5GY5/1	しまり弱い	粘性あり 青灰色粘土主体
7	黒色土	7.5Y2/1	しまり弱い	粘性あり 青灰色粘土少量
8	オリーブ灰色土	5GY5/1	しまり弱い	粘性あり

第349号井戸跡

1	黄褐色土	7.5YR5/1	しまりあり	粘性ややあり 炭化物少量
2	黒色土	7.5YR2/1	しまり弱	粘性あり

第350号井戸跡

1	黒色土	7.5YR2/1	微量の地土ブロック 炭化物粒子
2	黒褐色土	7.5YR3/1	少量の地土ブロック 炭化物粒子
3	黒色土	N1.7	炭化物粒子

第351号井戸跡

1	黒色土	7.5YR2/1	微量の地土ブロック 炭化物粒子
2	黒色土	7.5YR2/1	少量の地山ブロック 炭化物粒子
3	黒褐色土	7.5YR3/1	少量の地土ブロック 炭化物粒子
4	黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック 鉄ミブロック 炭化物粒子
5	黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック 鉄ミブロック 炭化物粒子 鉄分
6	黒色土	N1.7	地山ブロック 鉄分
7	黒色土	N1.7	地土ブロック 鉄分 炭化物粒子

第423図　井戸跡（12）

重複する遺構は、第224号住居跡である。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸111cmを検出し、短軸93cmである。深さは推定で102cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、常滑甕の破片１点を検出した。

第352号井戸跡（第424図）

Ｊ－34・35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第201号住居跡、第607号溝跡、第336・347・359号井戸跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸推定で245cm、短軸推定で200cmである。深さは推定で127cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、第426図10に図示した山茶碗系片口鉢を検出した。

第353号井戸跡（第424図）

Ｊ－34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第209号住居跡である。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸165cm、短軸106cmである。深さは推定で107cmである。断面形は筒形である。

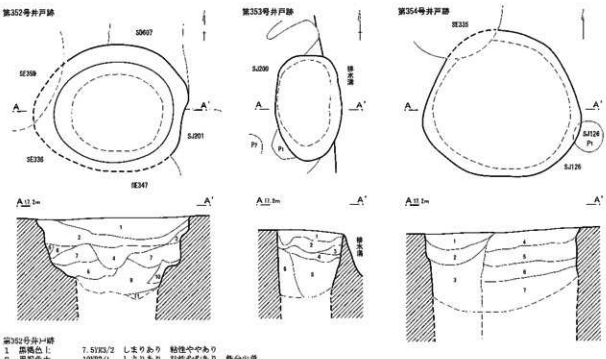
出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第354号井戸跡（第424図）

Ｉ－35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第126・240号住居跡、第335号井戸跡である。

本井戸跡は、筒状に掘り込まれた大型の井戸であったが、埋没後再び西側部分を筒状に掘削し、井戸として使用したと考えられる。断面観察による第



第352号井戸跡

1	黒褐色土	7.5YR3/2	しまりあり　粘性ややあり
2	黒褐色土	10YR3/1	しまりあり　粘性ややあり　微分少量
3	黒褐色土	10YR3/1	しまりあり　粘性ややあり
4	黒褐色土	2.5YR3/1	しまりややあり　粘性強い　粘質土層　砂利少量　土器小片含む
5	明黄褐色土	10YR7/6	しまり・粘性あり　ロームブロック塊落上
6	黒褐色土	10YR3/1	しまりややあり　粘性あり　ロームブロック（φ10～50mm）少量
7	にぶい黄褐色土	10YR4/3	しまりあり　粘性ややあり
8	黒褐色土	10YR3/1	しまりややあり　粘性強い　粘質土層　混じりけなし
9	黄灰色土	2.5Y4/1	しまり弱い　粘性強い　青灰色地山土少量
10	灰色土	10Y5/1	しまり・粘性弱い　青灰色地山土（塊落上）
11	黄灰色土	2.5Y4/1	しまり弱い　粘性あり　青灰色地山土主体

第353号井戸跡

1	黒色土	7.5YR2/1	しまりあり　粘性ややあり
2	黒褐色土	7.5YR3/1	しまりあり　粘性ややあり　焼土粒子微量
3	黒褐色土	7.5YR3/1	しまりややあり　粘性あり　ロームブロック（φ10～20mm）少量
4	黒褐色土	10YR3/1	しまりややあり　粘性あり　炭化物粒子（φ10～20mm）少量
5	黒褐色土	10YR3/1	しまり弱い　粘性ややあり　コーム上を砂に少量　しまりが弱く焼れやすい
6	黒褐色土	10YR3/1	しまり弱い　粘性ややあり　ロームブロック（φ10～20mm）少量

第354号井戸跡

1	にぶい黄褐色土	10YR5/4	灰色粘土主体　黄褐色砂ブロック（地山土）多量　しまりあり　粘性あり
2	灰色土	N4/0	暗灰色粘土主体　黄褐色砂ブロック（1層と灰じ）少量　しまりあり　粘性あり
3	青灰色土	5B5/1	暗灰色粘土主体　青灰色の砂多量
4	明黄褐色土	10YR6/6	緑茶褐色のしまりのある土を主体　明黄褐色砂ブロック（地山土）多量　しまりあり　粘性なし
5	青灰色土	5B6/1	緑茶褐色土主体　明黄褐色と青灰色砂ブロック多量　しまりあり　粘性なし
6	青灰色土	5B6/1	暗灰色の粘土を全体として、青灰色の砂がブロック状に混入する　しまりあり　粘性あり
7	灰色土	N4/0	暗灰色粘土　しまりあり　粘性あり

第424図　井戸跡（13）

1～3層は、新たに掘削された井戸跡の覆土である。第4～7層は、最初に掘削された井戸跡の堆積土である。

平面形は円形で、規模は長軸251cm、短軸230cmである。深さは推定で128cmである。断面形は径の大きい筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第355号井戸跡（第425図）

H－32・33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第235号住居跡である。

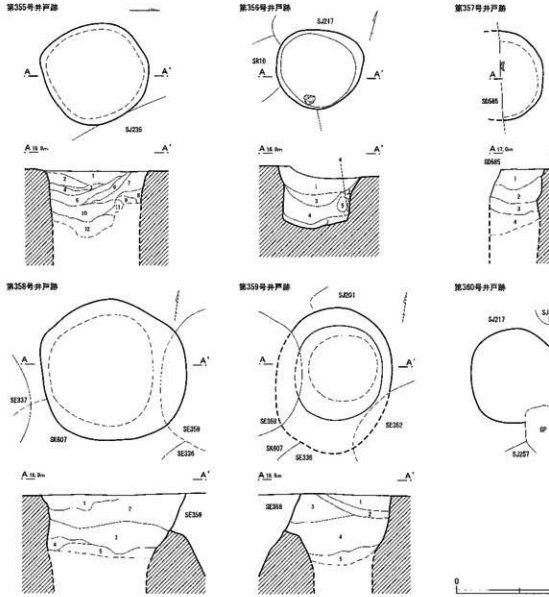
平面形は円形で、規模は長軸173cm、短軸166cmである。深さは推定で103cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第426図11・12に図示した。11はかわらけ皿である。12は混入品と考えられる土師器坏である。

第356号井戸跡（第425図）

I－32グリッドに位置する。

重複する遺構は、第217号住居跡、第10号方形周溝墓である。



第355号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・ブロック（φ3～5mm）少量
2	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・焼土粒子（φ1～2mm）微量
3	オリーブ黒色土	5Y3/1	炭化物粒子（φ2～3mm）微量
4	褐色土	10YR4/4	黄褐色土粒子（φ1～2mm）焼土粒子・炭化物粒子（φ1～2mm）少量
5	黒色土	10Y2/1	炭化物粒子（φ2～3mm）少量
6	灰色土	N4	黄褐色土ブロック（φ3～5mm）多量
7	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土ブロック（φ2～5mm）・焼土粒子（φ2～3mm）多量
8	黒色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック（φ3～15mm多量）
9	明黄褐色土	2.5Y7/6	黄褐色土を主体（地山崩落土）
10	黒色土	7.5Y2/1	炭化物粒子（φ2～3mm）微量
11	黒色土	7.5Y2/1	焼土ブロック（φ3～5mm）多量
12	黒色土	10Y2/1	緑灰色粘土ブロック（φ3～20mm）多量

第356号井戸跡

1	断面崩落のため記載できず		
2	断面崩落のため記載できず		
3	断面崩落のため記載できず		
4	緑灰色土	N3/1	
5	青灰色粘土ブロック		
6	暗灰色土	N3/1	
7	青灰色土	SR06/1	大部分が砂層

第357号井戸跡

1	褐灰色土	10YR4/1	黄灰色シルトブロック（φ2～3mm）全体に極
2	黒褐色土	10YR3/1	黄灰色シルトブロック（φ10mm）灰
3	暗灰色土	N3	緑灰色シルトブロック（φ10mm）少量
4	暗灰色土	N3	緑灰色シルトブロック（φ10mm）多量

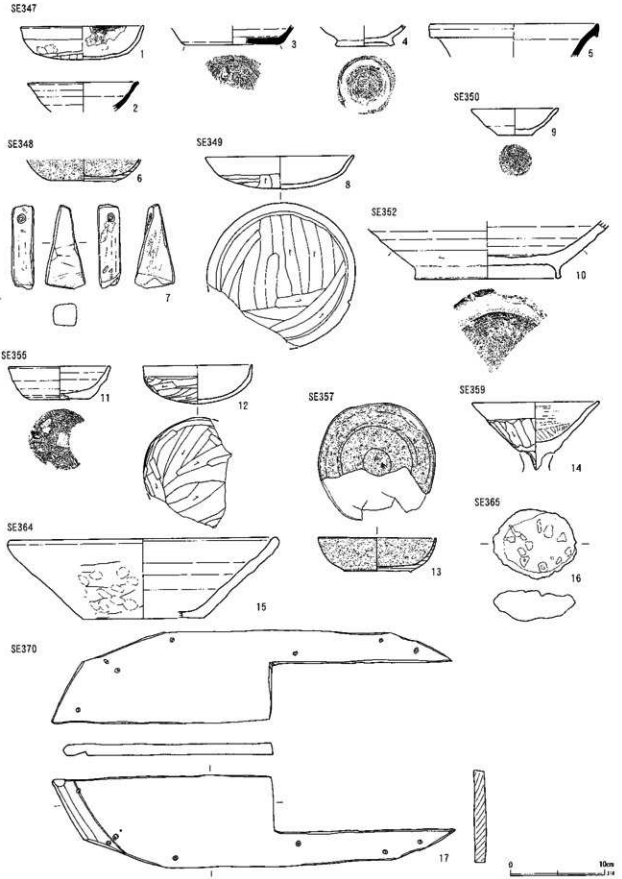
第358号井戸跡

1	黒灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土粒子（φ1～2mm）少量 焼間は火山灰？を含む
2	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量 層底面に炭化物（極深し）
3	黒褐色土	10YR3/1	緑灰色シルトブロック（φ5～8mm）全体に極 層底面に炭化物
4	黒色土	10YR2/1	緑灰色シルトブロック（φ5～8mm）少量
5	褐灰色土	10YR4/1	緑灰色シルトブロック（φ5～8mm）多量

第359号井戸跡

1	黄褐色土	10YR7/6	黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）上層褐色土の混土層（極深し）
2	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量
3	褐灰色土	10YR4/1	黄灰色シルトブロック若干
4	黒褐色土	10YR3/1	緑灰色シルトブロック 少量
5	黒褐色土	10YR3/1	緑灰色粉ブロック（φ1mm）少量

第425図　井戸跡（14）



第426図　井戸跡出土遺物（11）

平面形は円形で、規模は長軸140cm、短軸123cmである。深さは88cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、土師器甕破片を少量検出した。

第357号井戸跡（第425図）

H－32グリッドに位置する。

重複する遺構は、第585号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸141cm、短軸は65cmを検出した。深さは推定で102cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第426図13に図示した木製の黒漆塗椀を検出した。分析の結果、樹種はケヤキであった。

第358号井戸跡（第425図）

I・J－34・35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第246号住居跡、第607号土坑、第359号井戸跡である。

平面形は円形で、規模は長軸230cm、短軸220cmである。深さは推定で102cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第359号井戸跡（第425図）

J－34・35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第201号住居跡、第607号土坑、第336・352・358号井戸跡である。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸推定で230cm、短軸推定で185cmである。深さは推定で112cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、覆土中から板碑の破片を検出した。第426図14に図示した土師器高坏は混入品と考えられる。

第360号井戸跡（第425図）

J－32グリッドに位置する。

重複する遺構は、第217号住居跡である。

調査区域の境で確認したため掘削による崩落などの危険があるため調査を断念した。

平面形は円形で、確認時の平面規模は長軸160cm、短軸148cmである。

出土遺物は、検出されなかった。

第361号井戸跡（第427図）

I・J－33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第250号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸126cm、短軸120cmである。深さは120cmである。断面形は漏斗形である。

出土遺物は、土師器甕を少量検出した。

第362号井戸跡（第427図）

F－28グリッドに位置する。

重複する遺構は、第623号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸101cm、短軸91cmである。深さは97cmである。断面形は筒形である。下半の一部は崩落によってオーバーハングしている。

出土遺物は、検出されなかった。

第363号井戸跡（第427図）

G－29グリッドに位置する。

平面形は円形で、規模は長軸290cm、短軸242cmである。深さは推定で130cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、須恵器坏・高台付埦・壺を検出した。この他、覆土中から石を多量に検出した。

第364号井戸跡（第427図）

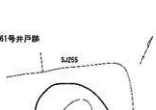
I－28グリッドに位置する。調査区の北東コーナー部で検出した。周囲には、同時期の井戸跡は見られない。

重複する遺構は、第635号溝跡である。

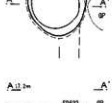
平面形は円形で、規模は長軸174cm、短軸149cmである。深さは124cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第426図15に図示した在地産の片口鉢を検出した。

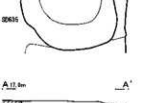
第361号井戸跡



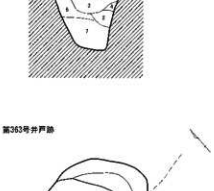
第362号井戸跡



第364号井戸跡



第363号井戸跡



第361号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/1	黄灰色シルトブロック（φ2～3mm）・焼土粒子・炭化物微量
2	黒褐色土	10YR2/1	黄灰色シルトブロック（φ2～3mm）多量
3	黒色土	10YR2/1	黄灰色シルトブロック（φ10mm）疎
4	灰黄色土	5Y7/4	黄灰色シルトブロックの層（硬質粘土）
5	黒色土	10YR2/1	灰黄色シルトブロック（φ20～30mm）疎
6	灰白色土	5Y7/2	黄灰色シルトブロック（φ80～100mm）多量（埋戻し）
7	黒褐色土	2.5Y3/1	黄灰色シルトブロック（φ30～40mm）全体に含む（埋戻し）

第362号井戸跡

1	にぶい黄褐色土	10YR4/3	しまりあり　粘性ややあり　ローム粒子（φ1～2mm）上方に少量
2	黒褐色土	2.5Y3/1	しまりややあり　粘性強い　1層の土がブロック状に混じる
3	暗灰色土	N3/0	しまりやや弱い　粘性強い　均質の粘性土層
4	暗灰色土	N3/0	しまり弱い　粘性強い　青灰色粘土小ブロック

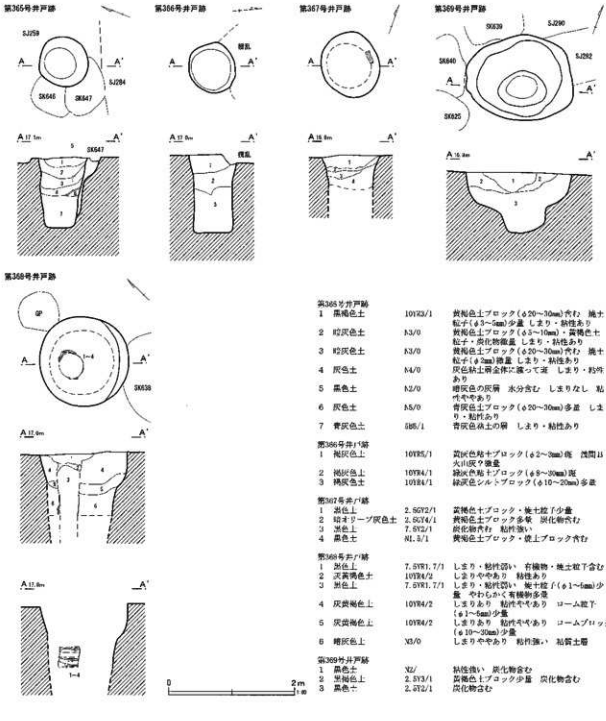
第363号井戸跡

1	灰褐色土	7.5YR5/2	しまりあり　粘性ややあり
2	黒褐色土	7.5YR2/2	しまりあり　粘性ややあり　土器片をやや含む　白色微粒子（φ1mm）少量
3	黒色土	7.5YR1.7/1	しまり・粘性なし　灰主体　ボソボソしている
4	黒色土	7.5YR2/1	しまり・粘性あり　白色粘子（φ1mm）少量
5	黒褐色土	10YR3/1	しまり・粘性なし　砂・灰主体　砂は下方に縞状に堆積
6	黒色土	7.5YR2/1	しまりややあり　粘性あり　4層と灰層の白色粒子少量
7	褐灰色土	7.5YR4/1	しまりややあり　粘性あり　中間に薄状の黒色層（厚さ1～2mm）がある
8	黒色土	5YR1.7/1	しまりやや弱い　粘性なし　炭化物主体　粘土ブロック微量
9	暗灰色土	5YR4/1	しまりややあり　粘性あり　下層と同様
10	褐灰色土	5YR4/1	しまりややあり　粘性あり　炭化物縞状
11	灰黄褐色土	10YR5/2	しまり・粘性あり　鉄分下方に少量
12	灰色土	N4/0	しまり・粘性あり　鉄分少量
13	灰色土	N4/0	しまり弱い　粘性強い　古灰白地山土粒子（φ1～3mm）少量
14	灰色十	N4/0	しまり弱い　粘性強い　青灰色地山ブロック（φ10～30mm）少量
15	暗青灰色十	5BG4/1	しまり弱い　粘性弱い　均質の粘質土
16	暗青灰色土	5BG4/1	しまり弱い　粘性強い　青灰色砂質土ブロック（φ10～50mm）少量
17	青灰色土	5BG5/1	しまり弱い　粘性ややあり　青灰色砂質土主体

第364号井戸跡

1	黒褐色十	10YR3/1	黄褐色土ブロック（φ1～20mm）・焼土ブロック・鉄分含む
2	暗灰色土	7.5GY6/1	鉄分多量　砂粒子含む
3	暗緑灰色十	7.5GY4/1	古灰色ブロック多量　鉄分含む
4	暗緑灰色土	10GY3/1	青灰色ブロック・炭化物含む
3	黒褐色十ブロック		
6	暗灰色土	5G5/1	砂粒子多量

第427図　井戸跡（15）



第428図　井戸跡（16）

第365号井戸跡（第428図）

F—30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259号住居跡、第646・647号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸82cm、短軸75cmである。深さは110cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第426図16に図示した鉄滓の椀形滓である。この他、片岩、かわらけ皿を検出した。

366号井戸跡（第428図）

H—28グリッドに位置する。

平面形は円形で、規模は長軸80cm、短軸75cmである。深さは123cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、土師器甕・須恵器甕を少量検出した。

第367号井戸跡（第428図）

G—31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第271号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸102cm、短軸92cmである。深さは推定で55cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第368号井戸跡（第428図）

F—30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第290号住居跡、第638号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸141cm、短軸140cmである。深さは推定で95cmである。断面形は筒形である。

本井戸跡の井戸枠には、曲物を転用して埋設されていた。曲物は、井戸掘り方の中央からやや北西寄りで三段に組まれた状態で検出された。最下段の三段目外側には曲物底板が縦に張り付いて出土した。これらの事から、本井戸跡は水脈までの1.5mを掘り下げ、砂で埋まらないように曲物を埋設したと考えられる。

覆土は有機物の多い土が円筒状に堆積していた。特に曲物内の覆土は植物質のやわらかい軽い層で、厚く堆積していた。

調査時において水が激しく湧き出したため、井戸底までの調査は断念した。周囲は同時期の井戸跡が多く検出されている。

出土遺物は、第432図1～4に図示した木製の曲物側板である。綴じ部は樹皮紐で2列に綴じる。

第369号井戸跡（第428図）

G—30・31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第282・290号住居跡、第639・640号土坑である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸169cm、短軸133cmである。深さは96cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、須恵器坏・甕を検出した。

第370号井戸跡（第429図）

F—31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第258号住居跡、第621号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸180cm、短軸は推定で163cmである。深さは推定で102cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第426図17に図示した木製の曲物底板である。周縁の溝と円孔で側板を固定する。結合形態はC類。側板固定以外の円孔が多数あることから、曲物底板を他の製品に転用したと考えられる。

第371号井戸跡（第429図）

F—30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第290号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸93cm、短軸81cmである。深さは推定で85cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、土師器甕破片少量検出した。

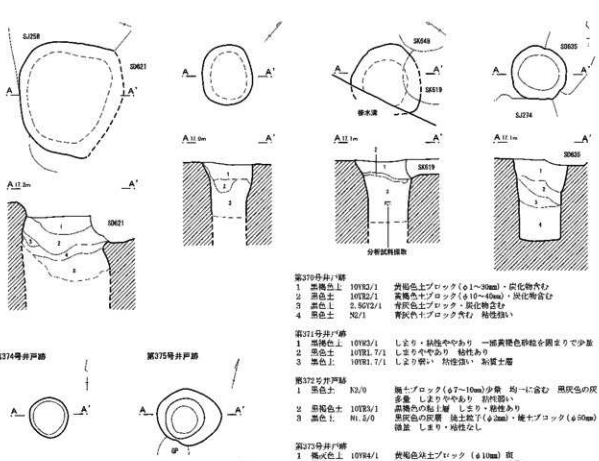
第372号井戸跡（第429図）

F—30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第619号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸115cm、短軸は91cmを検出した。深さは推定で93cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。



第429図　井戸跡（17）

第373号井戸跡（第429図）

I－29グリッドに位置する。

重複する遺構は、第274号住居跡、第635号溝跡である。第371・372・374号井戸跡と同様の規模で古墳時代後期の可能性がある。

平面形は円形で、規模は長軸90cm、短軸87cmである。深さは129cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第374号井戸跡（第429図）

H－30グリッドに位置する。

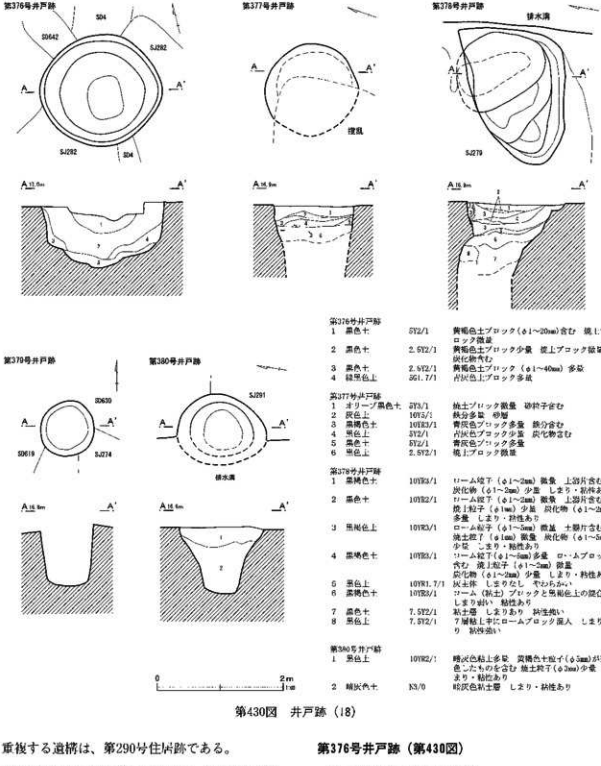
重複する遺構は、第278号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸62cm、短軸60cmである。深さは104cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第375号井戸跡（第429図）

G－30グリッドに位置する。



第430図　井戸跡（18）

重複する遺構は、第290号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸102cm、短軸89cmである。深さは67cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。井戸跡としたが、掘り込みがやや浅く、覆土の様相からみて、柱穴の抜き取り穴の可能性もある。

出土遺物は、検出されなかった。

第376号井戸跡（第430図）

G—30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第282号住居跡、第4・642号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸191cm、短軸176cmである。深さは98cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、第432図5に図示した土師器鉢底坏

である。

第377号井戸跡（第430図）

G－31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第271号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸147cm、短軸推定で145cmである。深さは推定で58cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第432図6に図示した土師器甕を検出した。

第378号井戸跡（第430図）

I・J－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第279号住居跡である。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸225cm、短軸150cmである。深さは推定で111cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、第432図7～10に図示した。7～9は土師器模倣坏で、重複する第279号住居跡の混入品と考えられる。10は須恵器坏で、底部糸切り後、外周回転ヘラケズリを施している。底部外面には「×」のヘラ記号が施され、南比企産である。

第379号井戸跡（第430図）

H・I－29グリッドに位置する。

重複する遺構は、第274号住居跡、第619・630号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸86cm、短軸83cmである。深さは92cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、土師器甕の破片と扁平な石4点を検出した。

第380号井戸跡（第430図）

G－39グリッドに位置する。

重複する遺構は、第291号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸142cm、短軸推定で110cmである。深さは104cmである。断面形は漏斗形である。

出土遺物は、板碑破片を検出した。

第381号井戸跡（第431図）

H－31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第619号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸69cm、短軸68cmである。深さは78cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、土師器甕破片を少量検出した。

第382号井戸跡（第431図）

G・H－39グリッドに位置する。

重複する遺構は、第292号住居跡に切られている。

平面形は円形で、規模は長軸78cm、短軸72cmである。深さは126cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、第432図11・12に図示した。11は底部外面に全面回転ヘラケズリを施した須恵器坏である。12はやや厚手の板材の断片である。この他、土師器甕、須恵器甕底部を検出した。

第383号井戸跡（第431図）

G・H－40グリッドに位置する。

重複する遺構は、第294号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸93cm、短軸90cmである。深さは83cmである。断面形は漏斗形である。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

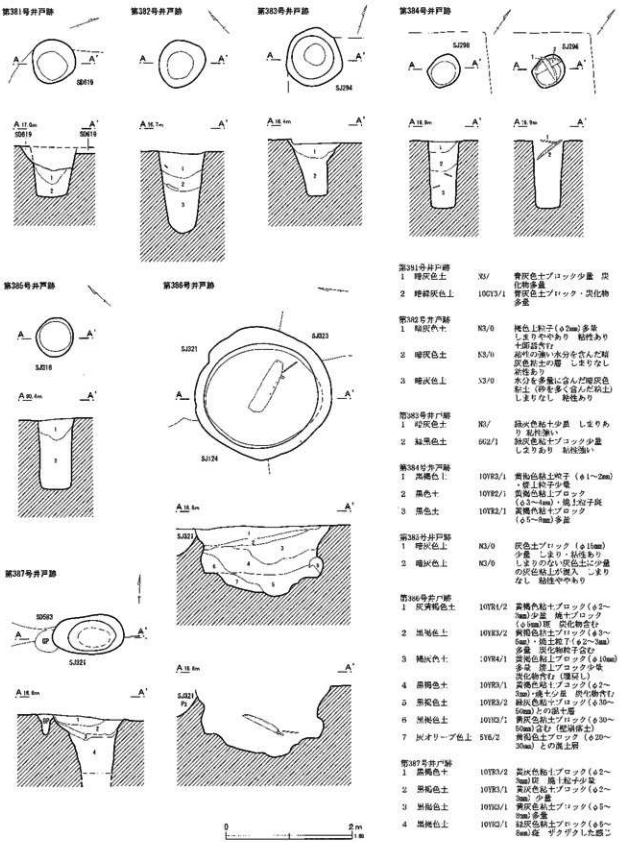
第384号井戸跡（第431図）

H・I－38グリッドに位置する。

重複する遺構は、第296号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸55cm、短軸45cmである。深さは105cmである。断面形は筒形である。覆土は、断面観察の結果第1～3層に分層したが、短期間のうちに埋まったものと考えられる。

出土遺物は、第433図1・2に図示した木製の曲物底板である。周縁の溝と円孔で側板を固定する。結合形態はC類。この他覆土中からは、土師器甕、外



第381号井戸跡

1	暗灰色土	N3/	青灰色土ブロック少量　炭化物多量
2	暗緑灰色土	10GY3/1	青灰色土ブロック・炭化物多量

第382号井戸跡

1	暗灰色土	N3/0	褐色土粒子(φ2mm)多量　しまりややあり　粘性あり　土師器含む
2	暗灰色土	N3/0	粘性の強い水分を含んだ暗灰色粘土の層　しまりなし　粘性あり
3	暗灰色土	N3/0	水分を多量に含んだ暗灰色粘土（砂を多く含んだ粘土）　しまりなし　粘性あり

第383号井戸跡

1	暗灰色土	N3/	緑灰色粘土少量　しまりあり　粘性強い
2	緑黒色土	6G2/1	緑灰色粘土ブロック少量　しまりあり　粘性強い

第384号井戸跡

1	黒褐色土	10YR2/1	黄褐色粘土粒子（φ1～2mm）・焼土粒子少量
2	黒色土	10YR2/1	黄褐色粘土ブロック（φ3～4mm）・焼土粒子炭
3	黒色土	10YR2/1	黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）多量

第385号井戸跡

1	暗灰色土	N3/0	灰色土ブロック（φ15mm）少量　しまり・粘性あり
2	暗灰色土	N3/0	しまりのない灰色土に少量の灰色粘土が混入　しまりなし　粘性ややあり

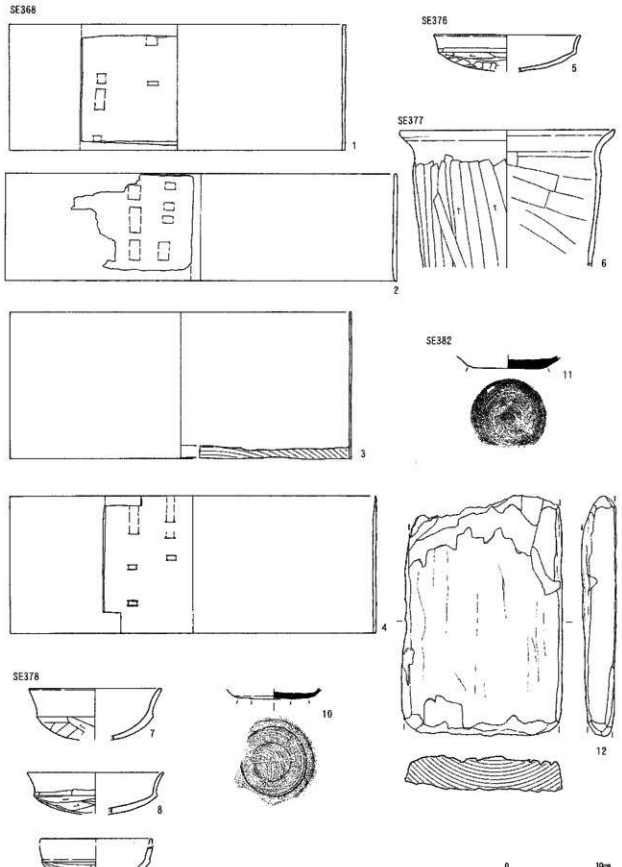
第386号井戸跡

1	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）少量　焼土ブロック（φ5mm）炭　炭化物含む
2	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）・焼土粒子（φ2～3mm）多量　炭化物粒子含む
3	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ10mm）多量　焼土ブロック少量　炭化物含む（爆裂し）
4	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）・焼土少量　炭化物含む
5	黒褐色土	10YR3/2	緑灰色粘土ブロック（φ30～50mm）との混土層
6	黒褐色土	10YR2/1	黄灰色粘土ブロック（φ30～50mm）含む（壁崩落土）
7	灰オリーブ色土	5Y6/2	黄褐色土ブロック（φ20～30mm）との混土層

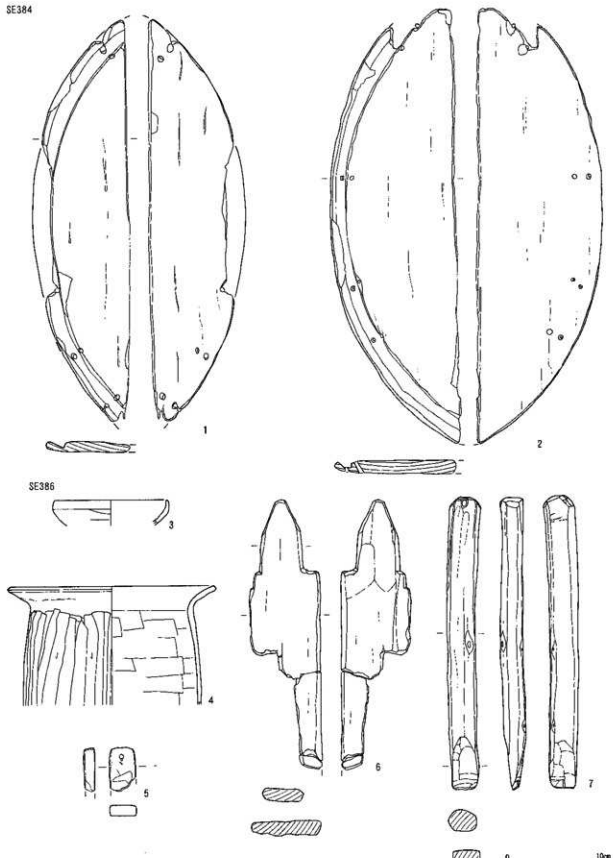
第387号井戸跡

1	黒褐色土	10YR3/2	黄灰色粘土ブロック（φ2～3mm）炭　焼土粒子少量
2	黒褐色土	10YR3/1	黄灰色粘土ブロック（φ2～3mm）少量
3	黒褐色土	10YR3/1	黄灰色粘土ブロック（φ5～8mm）多量
4	黒褐色土	10YR2/1	緑灰色粘土ブロック（φ5～8mm）炭　ザクザクした感じ

第431図　井戸跡（19）



第432図　井戸跡出土遺物（12）



第433図　井戸跡出土遺物（13）

周回転ヘラケズリを施した須恵器坏を検出した。

第385号井戸跡（第431図）

G—38グリッドに位置する。

重複する遺構は、第316号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸62cm、短軸58cmである。深さは111cmである。断面形は筒形である。

出土遺物は、土師器甕・坏破片、須恵器甕胴部破片を少量検出した。

第386号井戸跡（第431図）

H—38グリッドに位置する。

重複する遺構は、第124・321・323号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸215cm、短軸210cmである。深さは109cmである。断面形は箱形である。

出土遺物は、第433図3～7に図示した。3は土師器の北武蔵型坏である。4は土師器の甕である。5は石製の砥石破片である。6・7は木製品である。6は板材の破片、7は丸棒状の部材である。

第387号井戸跡（第431図）

H—38グリッドに位置する。

重複する遺構は、第321号住居跡、第583号溝跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸114cm、短軸61cmである。深さは推定で91cmである。断面形は口が大きく広がる筒形である。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第31表　井戸跡出土遺物観察表（1）

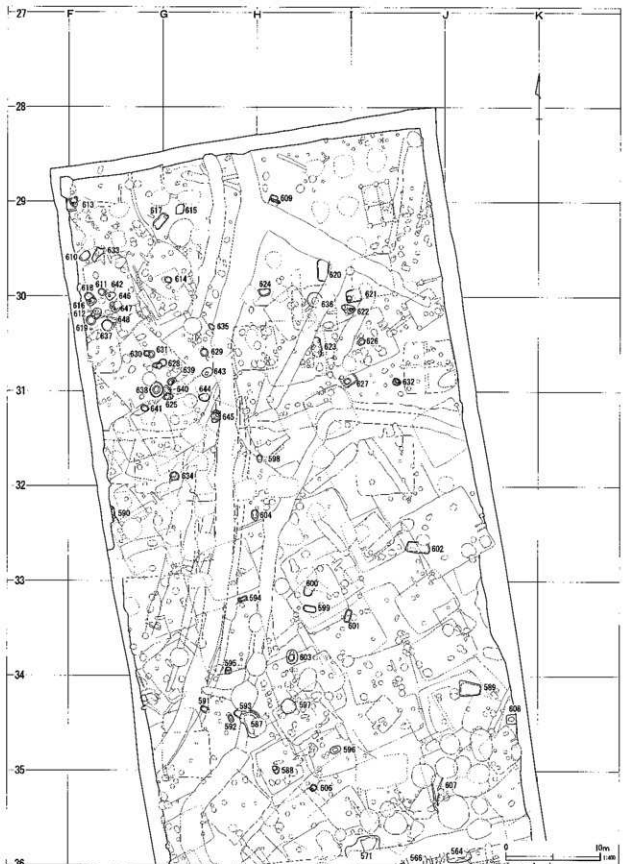
挿図番号		遺構番号		種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
403	1	SE	303	緑釉陶器	埦	—	—	—	破片	黒粒	普通	浅黄,釉オリーブ		205-1-2
403	2	SE	304	木製品	板材	幅3.9長さ15.4厚さ2.2					破片			
403	3	SE	306	須恵器	坏	(13.1)	4.9	(6.0)	1/4	石英 白粒 黒粒	普通	灰	墨書「万」	207-1
403	4	SE	306	須恵器	坏	(12.0)	3.6	5.6	1/5	石英 白粒 針 黒粒	普通	灰		
403	5	SE	306	須恵器	坏	—	[1.0]	6.4	1/2	石英 赤粒 白粒 針 黒粒	普通	灰		
403	6	SE	306	木製品	井戸枠	幅11.6長さ[50.6]厚さ5.7			1/2					
403	7	SE	306	木製品	井戸枠	幅7.1 長さ[57.2] 厚さ3.7			1/2					
403	8	SE	306	木製品	井戸枠	幅10.2 長さ[71.6] 厚さ9.0			2/3					
403	9	SE	306	木製品	井戸枠	幅12.9 長さ114.7 厚さ5.4			ほぼ完形					
403	10	SE	306	木製品	井戸枠	幅15.1 長さ88.4 厚さ9.1			ほぼ完形					
403	11	SE	306	木製品	井戸枠	幅12.2 長さ92.5 厚さ6.2			ほぼ完形					
403	12	SE	306	木製品	井戸枠	幅7.0長さ[34.6]厚さ8.1			1/3					
403	13	SE	306	木製品	井戸枠	幅11.4長さ[47.6]厚さ8.0			1/2					220-1
403	14	SE	306	木製品	井戸枠	幅11.2長さ[77.0]厚さ7.2			2/3					
404	15	SE	306	木製品	井戸枠	幅18.3 長さ74.2 厚さ9.1			2/3					
404	16	SE	306	木製品	井戸枠	幅17.1長さ[66.1]厚さ9.8			1/2					
404	17	SE	306	木製品	井戸枠	幅13.2長さ[58.2]厚さ5.7			1/2					
404	18	SE	306	木製品	井戸枠	幅12.4 長さ44.3 厚さ3.7			1/3					
404	19	SE	307	木製品	漆椀	—	[2.5]	—	3/4				黒漆塗	217-3
404	20	SE	308	銭貨	景徳元寳	径2.5重さ3.6							北宋　初鋳1004年	225-2-7
404	21	SE	308	銭貨	天聖元寳	径2.5重さ3.8							北宋　初鋳1023年	225-2-8
404	22	SE	308	銭貨	天禧元寳	径2.5重さ4.9							北宋　初鋳1023年	225-2-6
404	23	SE	308	銭貨	熙寧元寳	径2.4重さ3.6							北宋　初鋳1068年	225-2-5
404	24	SE	308	銭貨	元祐通寳	径2.4重さ3.8							北宋　初鋳1086年	225-2-3
404	25	SE	308	銭貨	元祐通寳	径2.5重さ3.1							北宋　初鋳1086年	225-2-4
404	26	SE	308	銭貨	元豊通寳	径2.4重さ3.5							北宋　初鋳1078年	225-2-2
404	27	SE	308	銭貨	紹聖元寳	径2.4重さ3.8							北宋　初鋳1094年	225-2-1
407	1	SE	309	鉄製品	短刀	刃幅2.3~2.0 背幅0.3~0.2 長さ[22.5] [illegible]			2/3					224-2-1
407	2	SE	310	木製品	曲物底板	幅(16.8) 長さ43.8 厚さ1.3			1/2					220-2
407	3	SE	312	石製品	砥石	幅(4.3) 長さ[9.9] 厚さ2.6			ほぼ完形				滑石製	214-1-10
407	4	SE	314	木製品	部材	幅12.2 長さ25.7 厚さ0.4			1/3					
407	5	SE	314	木製品	曲物底板	幅3.2長さ19.8厚さ1.6			—					
407	6	SE	315	石製品	子持勾玉	幅4.5長さ[10.2]厚さ1.3重さ86.1			3/4					210-3
408	1	SE	317	須恵器	坏	—	[1.3]	(7.0)	破片	白粒 針 礫	普通	灰		
408	2	SE	317	須恵器	坏	—	[1.7]	(5.6)	1/5	針 黒粒	良好	黄灰	墨書	
408	3	SE	317	木製品	板材	幅[5.7] 長さ[11.3] 厚さ2.2			—					
408	4	SE	317	木製品	井戸枠	幅6.0長さ30.2厚さ5.4			完形					
408	5	SE	317	木製品	井戸枠	幅4.5長さ20.8厚さ3.5			—					
408	6	SE	317	木製品	井戸枠	幅16.2長さ72.9厚さ12.9			完形					
408	7	SE	317	木製品	井戸枠	幅14.8 長さ65.2 厚さ6.6			完形					
408	8	SE	317	木製品	井戸枠	幅15.2長さ81.0厚さ15.4			完形					
408	9	SE	317	木製品	井戸枠	幅4.3長さ74.3厚さ4.1			完形					220-3
408	10	SE	317	木製品	井戸枠	幅4.4長さ71.6厚さ4.6			完形					220-4
408	11	SE	317	木製品	井戸枠	幅4.2長さ62.0厚さ4.4			完形					
408	12	SE	317	木製品	井戸枠	幅19.4 長さ75.8 厚さ1.1			完形					220-5
408	13	SE	317	木製品	井戸枠	幅6.5長さ46.1厚さ3.2			完形					
408	14	SE	317	木製品	井戸枠	幅9.9長さ62.9厚さ4.0			完形					
408	15	SE	317	木製品	井戸枠	幅2.2長さ63.7厚さ2.2			完形					
409	16	SE	317	木製品	井戸枠	幅13.3 長さ44.0 厚さ4.0			完形					
409	17	SE	317	木製品	井戸枠	幅11.8 長さ47.3 厚さ1.6			完形				転用	220-7
409	18	SE	317	木製品	井戸枠	幅4.6長さ76.9厚さ4.8			完形					
409	19	SE	317	木製品	井戸枠	幅2.1長さ58.7厚さ2.0			完形					
409	20	SE	317	木製品	井戸枠	幅4.2長さ72.4厚さ4.2			完形					

第32表　井戸跡出土遺物観察表（2）

挿図番号		遺構番号		種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
409	21	SE	317	木製品	井戸枠	幅3.5長さ82.8厚さ3.7			完形					
409	22	SE	317	木製品	井戸枠	幅3.6長さ60.9厚さ3.8			完形					
409	23	SE	317	木製品	井戸枠	幅30.6 長さ47.6 厚さ1.2			完形					221-1
409	24	SE	317	木製品	井戸枠	幅13.6 長さ55.8 厚さ10.0			完形					
409	25	SE	317	木製品	井戸枠	幅31.0 長さ37.9 厚さ1.5			完形					220-8
409	26	SE	317	木製品	板材	幅6.8長さ[11.9] 厚さ1.8			—					
409	27	SE	317	木製品	井戸枠	幅13.7 長さ[60.2] 厚さ12.8			完形					220-6
409	28	SE	317	木製品	井戸枠	幅7.8長さ[47.4] 厚さ4.4			—					
409	29	SE	317	木製品	板材	幅[10.1] 長さ[8.4] 厚さ0.9			—				木釘あり	
413	1	SE	319	土師器	坏	(10.3)	[3.2]	—	破片	雲 角	普通	褐	北武蔵型坏	
413	2	SE	319	土師器	皿	(14.0)	[3.1]	—	破片	雲 黒粒	普通	褐		
413	3	SE	319	須恵器	坏	(15.4)	3.7	(10.4)	2/5	砂粒 針 小石	良好	鈍い褐		149-6
413	4	SE	319	須恵器	甕	(27.2)	[13.4]	—	1/4	石英 砂粒 針	普通	灰		
413	5	SE	319	土師器	甕	22.3	[8.9]	—	1/4	雲 角 赤粒	良好	鈍い褐		174-6
413	6	SE	319	土師器	甕	22.5	[18.6]	—	1/2	雲 角 砂粒 赤粒	良好	鈍い橙		175-1
413	7	SE	319	土師器	甕	23.5	[14.7]	—	1/4	雲 角 赤粒 白粒	良好	黄灰		175-2
413	8	SE	319	土師器	甕	22.0	[21.5]	—	2/3	雲 角 赤粒 白粒	良好	鈍い橙		200-3
413	9	SE	319	土師器	甕	(21.9)	[10.6]	—	破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	良好	鈍い橙		
413	10	SE	319	土師器	甕	23.8	[17.7]	—	1/2	角 白粒	良好	褐灰		175-3
413	11	SE	319	土師器	甕	22.1	31.3	6.3	4/5	角 石英 砂粒 赤粒	良好	鈍い黄橙		200-4
413	12	SE	319	土師器	壺	—	[7.7]	9.9	破片	雲 赤粒 白粒	良好	鈍い褐		
414	13	SE	319	木製品	香鎧	器高21.9 幅16.3 長さ14.5 厚さ[illegible]			4/5				外面黒漆塗	223・224-1
414	14	SE	319	木製品	丸材	幅9.8長さ[32.3] 厚さ7.6			—					
415	1	SE	320	土師器	坏	(13.0)	[3.7]	—	1/5	雲 角 黒粒	普通	鈍い橙	北武蔵型坏	
415	2	SE	320	須恵器	蓋	(12.6)	[1.5]	—	破片	赤粒 白粒 黒粒 礫	普通	灰		
415	3	SE	321	木製品	柄杓	径9.8 長さ8.9 厚さ0.5			ほぼ完形					221-3
415	4	SE	322	須恵器	高台付埦	(13.5)	[4.5]	—	2/3	雲 赤粒 黒粒	普通	鈍い橙		
415	5	SE	322	須恵器	高台付埦	13.0	5.3	6.0	ほぼ完形	雲 角 黒粒	普通	灰褐		149-7
415	6	SE	322	須恵器	高台付埦	—	[3.6]	7.7	1/3	雲角石英赤粒白粒黒粒	普通	鈍い黄橙		
415	7	SE	324	青磁	碗	—	—	—	破片	黒粒	良好	オリーブ灰	中国産	206-1-4
415	8	SE	324	白磁	蓋？	(5.2)	1.5	(2.6)	1/3	砂粒	良好	灰白		206-1-3
415	9	SE	324	かわらけ	皿	(8.0)	1.3	(5.8)	1/4	赤粒 黒粒	普通	橙	13世紀後半～14世紀前半	
415	10	SE	324	かわらけ	皿	8.8	1.4	6.8	ほぼ完形	雲	普通	灰黄	13世紀後半～14世紀前半	149-8
415	11	SE	324	かわらけ	皿	—	[1.7]	6.4	破片	赤粒	普通	浅黄橙	14世紀？	
415	12	SE	324	かわらけ	皿	—	[1.9]	5.4	破片	雲 赤粒	普通	橙		
415	13	SE	324	かわらけ	皿	(9.1)	[2.3]	—	破片	雲 赤粒 白粒	普通	灰黄褐	手づくね、13世紀	
415	14	SE	324	かわらけ	皿	(10.8)	2.7	(6.2)	1/3	雲 赤粒	普通	外黒褐,内鈍い橙	外面黒漆、13世紀	
415	15	SE	324	渥美	甕	—	—	—	破片	赤粒 白粒	普通	灰	12世紀後半	
415	16	SE	324	木製品	漆椀	(16.0)	4.8	(7.0)	1/3				黒漆塗	
415	17	SE	324	木製品	漆椀	(15.4)	6.1	(9.2)	1/4				黒漆塗	
415	18	SE	324	木製品	指物容器	幅6.5長さ19.1厚さ0.9			1/5					221-2
415	19	SE	324	木製品	柄杓底板	幅7.4 長さ7.2 厚さ0.6			完形					221-4
415	20	SE	324	石	軽石	幅6.2 長さ6.5 厚さ5.2			ほぼ完形					
415	21	SE	324	木製品	丸材	幅3.3長さ[29.6] 厚さ3.0			—					222-1
418	1	SE	326	木製品	柄杓底板	幅[11.3] 長さ10.9 厚さ0.8			4/5					221-5
418	2	SE	326	鉄製品	環金具	径7.1 幅径0.5～0.6 重さ36.5			完形				最下層	224-2-3
418	3	SE	327	木製品	漆椀	13.8	6.1	6.7	2/3				黒漆塗	217-1
418	4	SE	327	在地	片口鉢	(26.8)	[6.3]	—	破片	雲 石英	不良	鈍い褐	13世紀後半	
418	5	SE	331	かわらけ	皿	(11.6)	3.4	6.5	ほぼ完形	雲 赤粒	普通	鈍い黄橙	13世紀後半	149-9
418	6	SE	333	須恵器	坏	—	[1.0]	(10.0)	破片	石英 白粒 針	普通	褐灰		
418	7	SE	333	土師器	甕	(15.8)	[7.3]	—	破片	雲 石英 赤粒	良好	褐灰		
418	8	SE	333	木製品	曲物底板	幅14.0 長さ14.9 厚さ0.7			完形					221-6

第33表　井戸跡出土遺物観察表（3）

挿図番号	遺構番号		遺物番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
418	9	SE	333	木製品	曲物側板	径(44.0) 高さ13.8 厚さ0.4			4/5					
418	10	SE	333	木製品	曲物底板	幅5.6 長さ28.6 厚さ0.8			1/5					222-2
419	1	SE	335	常滑	甕	—	—	…	破片	赤粒 黒粒	普通	灰褐		206-2-6
419	2	SE	337	在地	片口鉢	(28.4)	[11.7]	(13.1)	1/5	密 石英 赤粒 礫	普通	灰	14世紀前半	206-2-1
419	3	SE	339	木製品	曲物底板	幅11.3 長さ[62.5] 厚さ1.4			1/4					222-3
419	4	SE	339	木製品	板材	幅4.0 長さ[14.7] 厚さ0.8			—					
419	5	SE	344	木製品	板材	幅96.0 長さ[31.5 厚さ1.3			—					
419	6	SE	344	土師器	坏	—	—	—	破片	密 白粒	普通	鈍い褐	黒書「前単円」	207-2
426	1	SE	347	土師器	坏	(12.8)	3.5	…	1/3	雲 角 黒粒	不良	鈍い橙	油煙付着	
426	2	SE	347	須恵器	坏	(11.6)	[3.1]	—	1/5	密 赤粒 白粒 針 黒粒	普通	灰		
426	3	SE	347	須恵器	坏	—	[2.0]	(10.0)	破片	白粒 針	良好	灰		
426	4	SE	347	須恵器	高台付埦	—	[2.2]	3.2	底部のみ	石英 黒粒	普通	赤橙		
426	5	SE	347	須恵器	甕	(17.6)	[3.5]	…	破片	雲 白粒	良好	灰		
426	6	SE	348	木製品	漆椀	—	[2.4]	(6.8)	1/4				黒漆塗	219-3
426	7	SE	348	石製品	砥石	幅(4.3) 長さ[8.9] 厚さ2.3			ほぼ完形					214-1-9
426	8	SE	349	土師器	皿	15.7	3.4	—	4/5	角 石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	鈍い橙		149-10
426	9	SE	350	かわらけ	坏	(9.2)	2.8	3.8	1/4	雲 石英	普通	鈍い黄橙		
426	10	SE	352	山茶碗系	片口鉢	—	[6.1]	(15.5)	破片	石英 白粒	普通	褐灰		
426	11	SE	355	かわらけ	皿	(10.8)	3.5	6.3	1/2	密 赤粒	普通	鈍い橙	14世紀	
426	12	SE	355	土師器	坏	(11.5)	[4.1]	—	1/2	雲 角 赤粒 黒粒	普通	橙		
426	13	SE	357	木製品	漆椀	12.5	3.5	7.2	3/4				黒漆塗	217-2
426	14	SE	359	土師器	高坏	13.4	[7.2]	…	1/2	雲 赤粒 白粒	不良	明赤褐		
426	15	SE	364	在地	片口鉢	(28.2)	[8.4]	(13.0)	1/4	雲 石英	普通	灰黄褐	14世紀中-15世紀初頭	
426	16	SE	365	鉄滓	椀型滓	幅8.8 長さ7.3 厚さ3.3			—					
426	17	SE	370	木製品	曲物底板	幅9.7 長さ42.8 厚さ0.2			完形					222-5
432	1	SE	368	木製品	曲物側板	径35.8 高さ13.2 厚さ0.3			1/2					
432	2	SE	368	木製品	曲物側板	径41.7 高さ11.4 厚さ0.4			破片					
432	3	SE	368	木製品	曲物側板	径36.4 高さ15.3 厚さ幅0.2 重1.3			1/3					
432	4	SE	368	木製品	曲物側板	径39.0 高さ14.4 厚さ0.3			1/3					
432	5	SE	376	土師器	坏	(15.4)	[3.9]	—	1/4	密 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙	模倣坏	
432	6	SE	377	土師器	甕	(22.6)	[14.5]	…	1/5	雲 赤粒 白粒	普通	鈍い褐		
432	7	SE	378	土師器	坏	(14.0)	[5.4]	—	1/5	雲 赤粒 白粒	普通	橙	模倣坏	
432	8	SE	378	土師器	坏	(14.4)	[4.4]	—	1/3	密 赤粒 白粒	普通	橙	模倣坏	
432	9	SE	378	土師器	坏	—	[3.3]	—	破片	密 赤粒 白粒	普通	橙	模倣坏	
432	10	SE	378	須恵器	坏	—	[1.1]	(7.4)	1/5	白粒 針	普通	灰	刻書「×」	207-3
432	11	SE	382	須恵器	坏	—	[1.4]	(8.4)	底部のみ	雲 石英	良好	明褐		
432	12	SE	382	木製品	板材	幅17.1 長さ[25.4] 厚さ3.6			…					
433	1	SE	384	木製品	底板	幅(8.9) 長さ42.3 厚さ1.1			1/3					222-6
433	2	SE	384	木製品	底板	幅(13.4) 長さ(45.9) 厚さ1.3			1/3					222-7
433	3	SE	386	土師器	坏	(12.0)	[2.7]	…	破片	角 赤粒 黒粒	普通	橙	北武蔵型坏	
433	4	SE	386	土師器	甕	(21.6)	[12.5]	—	破片	雲 角 石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙		
433	5	SE	386	石製品	砥石	幅2.8 長さ[4.6] 厚さ1.1			—					214-1-2
433	6	SE	386	木製品	板材	幅7.3 長さ28.4 厚さ1.5			—					
433	7	SE	386	木製品	部材	幅3.3 長さ30.8 厚さ2.2			完形					



第434図　土坑全体図（1）

第435図　土坑全体図（2）

5．土坑

下田町遺跡第４次調査の土坑（略号 SK）番号は、平成13年度の第２次調査及び平成14年度の第３次調査の続き番号を使用している。今回の報告は平成15年度に発掘調査を実施した西区にあたる範囲である。

調査の結果、土坑番号は第563号から第657号の95基に対し付した。また、調査時では土坑と番号を付したが、整理の結果、一部に遺構番号に変更が生じた。第563号土坑は第349号井戸跡、第567号土坑は第304号井戸跡、第568号土坑は第354号井戸跡、第569号土坑は第340号井戸跡、また、第605号土坑は第10号方形周溝墓に、第570号土坑はグリッドピットＧ－35Ｐ5に変更した。さらに、欠番扱いとなった土坑は、第577・585号土坑である。

検出された土坑は古墳時代前期、後期、奈良・平安時代、そして、中世に至る時期の遺構である。以下、各土坑の検出された位置、重複関係、形態、規模、長軸方向、出土した遺物などについて記載する。

第563号土坑　　欠番

第349号井戸跡に変更。

第564号土坑（第436図）

Ｊ－35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第146・149号住居跡、第585号溝跡である。

平面形は長方形で、規模は長軸258cm、短軸は117cm、深さ85cmである。長軸方向はＮ－79°－Ｅである。

出土遺物は、検出されなかった。

第565号土坑（第436図）

Ｇ－36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第127・129号住居跡である。平面形は長方形で、規模は長軸141cm、短軸102cm、深さ33cmである。長軸方向はＮ－74°－Ｅである。

出土遺物は、常滑摺鉢、かわらけ皿を検出した。

第566号土坑（第436図）

Ｉ－35・36グリッドに位置する。

重複する遺構は、第148号住居跡、第585・589号溝跡である。

平面形は長方形で、規模は長軸320cm、短軸140cm、深さ60cmである。長軸方向はＮ－74°－Ｅである

ピットは２基検出された。ピットの深さはＰ1から順に17cm、12cmである。

出土遺物は、第440図１・２に図示した。１は常滑甕である。２は木製品の板材である。このほかに在地産の片口鉢を検出した。

第567号土坑　　欠番

第304号井戸跡に変更。

第568号土坑　　欠番

第354号井戸跡に変更。

第569号土坑　　欠番

第340号井戸跡に変更。

第570号土坑　　欠番

ピットに変更。

第571号土坑（第436図）

ＩＩ・Ｉ－35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第240号住居跡、第585号溝跡である。中世の第585号溝跡によって切られている。同様の土坑は、溝を挟んで南側に第564・566号土坑、北側に第589号土坑が存在する。

平面形は方形で、規模は長軸248cm、短軸は161cm、深さは90cmである。長軸方向はＮ－90°－Ｅである。

出土遺物は、第440図13に図示した鉄製品の短刀である。

第572号土坑（第437図）

J—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第591号溝跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸117cm、短軸は92cm、深さは40cmである。長軸方向はN—38°—Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第573号土坑（第437図）

J—37・38グリッドに位置する。

重複する遺構は、第150号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸74cm、短軸70cm、深さは26cmである。長軸方向はN—70°—Eである。

出土遺物は、土師器甕・台付甕を少量検出した。

第574号土坑（第437図）

J—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第150号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸118cm、短軸93cm、深さは55cmである。長軸方向はN—65°—Eである。

出土遺物は、土師器甕を少量検出した。

第575号土坑（第437図）

H—36・37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第114号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸73cm、短軸64cm、深さは32cmである。長軸方向はN—50°—Eである。

出土遺物は、土師器甕を少量検出した。

第576号土坑（第437図）

H—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第114号住居跡である。周辺には、第575・578～584号土坑が検出されている。いずれも規模の小さい円形もしくは不整形の土坑である。

平面形は不整形で、規模は長軸100cm、短軸83cm、深さは27cmである。長軸方向はN—50°—Eである。

出土遺物は、土師器甕を少量検出した。

第577号土坑　　欠番

第578号土坑（第437図）

H—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第115号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸66cm、短軸55cm、深さは20cmである。長軸方向はN—56°—Eである。

出土遺物は、土師器甕、赤彩された土師器埦の破片を検出した。

第579号土坑（第437図）

H—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第115号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸66cm、短軸58cm、深さは26cmである。長軸方向はN—0°である。

出土遺物は、土師器甕、赤彩された土師器埦、模倣坏の破片を検出した。

第580号土坑（第437図）

H—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第115号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸85cm、短軸66cm、深さは24cmである。長軸方向はN—63°—Wである。

出土遺物は、土師器甕、坏を少量検出した。

第581号土坑（第437図）

H—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第115・117号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸65cm、短軸56cm、深さは25cmである。長軸方向はN—62°—Eである。

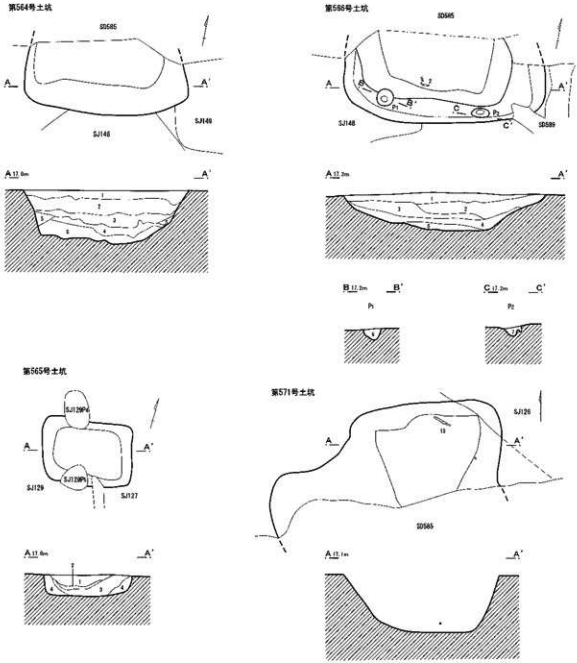
出土遺物は、土師器甕、坏の破片を少量検出した。

第582号土坑（第438図）

H—37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第114号住居跡、第583号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸88cm、短軸74cm、深



第564号土坑

1	黒褐色土	10YR3/1	地山粒子少量 焼土・炭化物微量 鉄分含む
2	オリーブ黒色土	5Y3/1	地山粒子少量 焼土・炭化物微量 鉄分含む
3	黒色土	5Y2/1	地山ブロック（φ1～15mm）含む 炭化物微量
4	オリーブ灰色土	2.5GY6/1	地山ブロック多量
5	オリーブ灰色土	2.5GY5/1	鉄分多量（粘質土）
6	暗オリーブ灰色土	2.5GY4/1	しまりなし 砂質

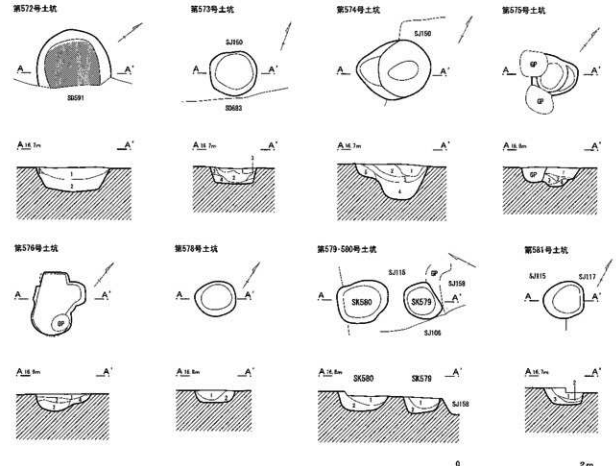
第565号土坑

1	黒褐色土	5YR2/1	地山ブロック散量 粒土粒子・鉄分含む
2	灰色土	5Y4/1	鉄分少量 しまりあり
3	黒色土	5Y2/1	地山ブロック散量 粒土粒子・鉄分含む 炭化物粒子微量
4	黒色土	5Y2/1	地山ブロック（φ1～20mm）多量 鉄分含む

第566号土坑

1	黒褐色土	10YR3/2	地山ブロック（φ1～15mm）・炭化物含む 焼土散在
2	黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック（φ1～20mm）多量 炭化物少量
3	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1～30mm）・鉄分多量 炭化物含む
4	黒色土	5Y2/1	焼土ブロック散量 炭化物含む 粘土質
5	オリーブ黒色土	5Y3/2	地山ブロック（φ1～10mm）多量 炭化物少量
	ピット1		
6	黒色土	5Y2/1	地山ブロック（φ1～10mm）多量 炭化物微量
	ピット2		
7	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1～30mm）含む 炭化物多量

第436図 土坑（1）



第572号土坑
1 暗青灰色土 5BG4/1 地山ブロック（φ1～3mm）・鉄分少量 炭化物微量
2 暗青灰色土 5BG4/1 地山ブロック微量 炭化物・鉄分少量
3 暗青灰色土 10BG4/1 地山ブロック（φ1～4mm）・鉄分少量

第575号土坑
1 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック（φ10mm～20mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
2 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子（φ1mm～5mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
3 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック（φ10mm～50mm）少量 しまりあり 粘性ややあり（堀中）
4 黒色土 N2/0 しまりなし 粘性弱い（炭層）

第576号土坑
1 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒子（φ1mm～5mm）少量 しまり・粘性ややあり
2 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子（φ1mm～5mm）少量 しまり・粘性ややあり
3 黒褐色土 10YR3/1 粘質土層 しまり弱い 粘性強い
4 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック（φ10mm～90mm）少量 しまり・粘性ややあり

第578号土坑
1 黒褐色土 10YR2/3 黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む 焼土粒子（φ1～2mm）少量
2 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～10mm）多量

第579・580号土坑
1 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子（φ1～2mm）少量
2 黒褐色土 10YR2/3 黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～10mm）多量

第581号土坑
1 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子（φ1～2mm）少量 焼土ブロック（φ2～5mm）多量
2 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土ブロック（φ3～5mm）少量 焼土ブロック（φ2～5mm）含む
3 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土ブロック（φ3～10mm）多量

第437図 土坑（2）

さは34cmである。長軸方向はN－89°－Eである。

出土遺物は、土師器甕、坏の破片を少量検出した。

第583号土坑（第438図）

H－37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第582号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸36cm、短軸32cm、深さは22cmである。長軸方向はN－54°－Wである。

出土遺物は、土師器甕、坏の破片を少量検出した。

第584号土坑（第438図）

H－37グリッドに位置する。

重複する遺構は、第114号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸57cm、短軸51cm、深さは16cmである。長軸方向はN－49°－Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第585号土坑　　欠番

第586号土坑（第438図）

Ⅰ－38グリッドに位置する。

平面形は長方形で、規模は長軸183cm、短軸97cmである。深さは30cmである。長軸方向はN－86°－Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第587号土坑（第438図）

G・H－34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第208号住居跡、第585号溝跡、第593号土坑、第326・333号井戸跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸290cm、短軸213cm、深さは70cmである。長軸方向はN－4°－Wである。

出土遺物は、第440図3に図示した瓦塔である。土師器甕の破片を少量検出した。

第588号土坑（第438図）

H－34・35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第185号住居跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸93cm、短軸70cm、深さは102cmである。長軸方向はN－45°－Wである。

出土遺物は、土師器甕・坏、模倣坏の破片を少量検出した。

第589号土坑（第438図）

J－34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第215・232・238号住居跡である。

平面形は長方形で、規模は長軸226cm、短軸142cm、深さは42cmである。長軸方向はN－90°－Wである。

出土遺物は、須恵器壺、土師器甕の破片を少量検出した。

第590号土坑（第439図）

F－32グリッドに位置する。

重複する遺構は、第190号住居跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸200cm、短軸は25cm、深さは35cmである。長軸方向はN－12°－Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第591号土坑（第439図）

G－34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第2・602号溝跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸92cm、短軸62cmである。深さは19cmである。長軸方向はN－73°－Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第592号土坑（第439図）

G－34グリッドに位置する。

平面形は円形で、規模は長軸81cm、短軸48cmである。深さは52cmである。長軸方向はN－30°－Wである。

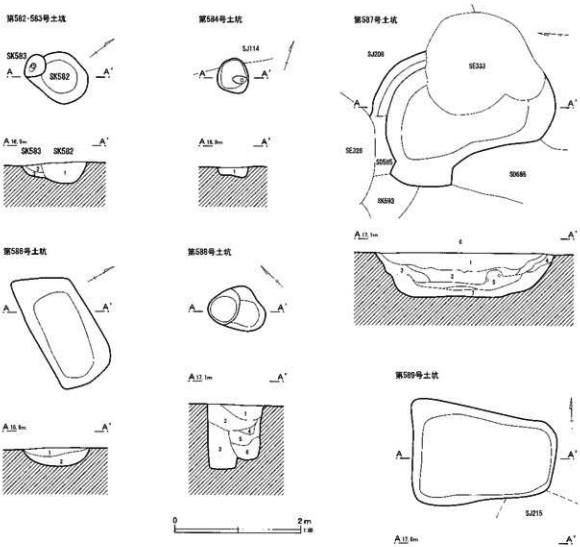
出土遺物は、土師器甕・高坏の破片を少量検出した。

第593号土坑（第439図）

G－34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第585号溝跡、第587号土坑、第326号井戸跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸82cmを検出し、短軸78cmである。深さは18cmである。長軸方向はN－89°－Eである。



第582・583号土坑

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～5mm）少量
2	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～5mm）少量
3	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～10mm）多量

第584号土坑

1	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～10mm）多量

第586号土坑

1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）少量
2	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む　黄褐色土ブロック（φ3～10mm）多量

第587号土坑

1	灰黄褐色土	10YR4/2	鉄分・焼土粒子（φ1～3mm）少量　しまり強い　粘性ややあり
2	灰色土	N4/0	青灰色砂粒（φ1～6mm）少量　粘質上層　しまりややあり　粘性強い
3	黒褐色土	5YR2/1	青灰色砂質土（φ10～30mm）ブロック状に少量　有機物を含む層　しまり・粘性ややあり
4	黒色土	7.5YR2/1	焼土粒子（φ1～2mm）微量　褐色土層　しまり・粘性ややあり
5	黒色土	2.5Y2/1	ボソボソしている　細かい有機物がたくさん混じる　しまり弱い　粘性強い
6	黒色土	10YR1.7/1	5層の下に有機物（細かく、黒い）が堆積している層　しまり・しまりなし
7	黒褐色土	2.5Y3/1	粘質上層　混じりけは少ない　土層の極少片少量　しまり弱い　粘性強い

第588号土坑

1	黒褐色土	7.5YR3/1	焼土粒子（φ1～5mm）・炭化物粒子少量　最下層にローム土が厚さ20～30mmで平滑　しまり・粘性ややあり
2	黒色土	7.5YR2/1	焼土粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
3	黒色土	10YR2/1	混じりけ少ない　粘質土層　しまり弱い　粘性強い
4	褐灰色土	10YR4/1	ローム土主体　しまり・粘性ややあり
5	褐灰色土	10YR4/1	ロームブロック（φ10～50mm）・炭化物粒子（φ5～10mm）少量　しまりややあり　粘性あり
6	褐灰色土	10YR4/1	青灰色砂質土層　しまり弱い　粘性強い

第589号土坑

1	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物粒子少量　しまりややあり　粘性弱い
2	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～50mm）・ローム粒子（φ1～10mm）少量　しまりあり　粘性弱い
3	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック（φ10～100mm）少量　黒褐色粘土　しまりややあり　粘性あり
4	にぶい黄褐色土	10YR4/3	下層にローム主体土が集中する　しまりあり　粘性弱い
5	黒色土	10YR2/1	ロームブロック（φ10～100mm）少量　暗褐色粘質土主体　青灰色砂質土ブロック状に少量　しまりややあり　粘性強い

第438図　土坑（3）

出土遺物は、土師器甕・高坏の破片を少量検出した。

第594号土坑（第439図）

G－33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第186号住居跡、第602号溝跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸102cm、短軸45cmである。深さは28cmである。長軸方向はN－64°－Eである。

出土遺物は、第440図14に図示した土製品の土玉である。その他に土師器甕・坏の破片を少量検出した。

第595号土坑（第439図）

G－33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第186号住居跡である。

平面形は円形である。規模は長軸72cm、短軸69cmである。深さは47cmである。長軸方向はN－15°－Wである。

出土遺物は、第440図４に図示した土師器甕である。その他に土師器甕・高坏の破片を少量検出した。

第596号土坑（第439図）

H－34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第205号住居跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸115cm、短軸74cmである。深さは25cmである。長軸方向はN－76°－Eである。

出土遺物は、第440図６に図示した土師器坏・甕である。その他に土師器埦の破片を少量検出した。

第597号土坑（第439図）

H－34グリッドに位置する。

重複する遺構は、第214・227・230号住居跡である。

平面形は円形である。規模は長軸160cm、短軸160cmである。深さは74cmである。長軸方向はN－0°である。

出土遺物は、第440図15に図示した土製品の土玉である。その他に須恵器蓋・坏の破片を少量検出した。

第598号土坑（第441図）

H－31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第220号住居跡である。

平面形は円形である。規模は長軸83cm、短軸57cmである。深さは25cmである。長軸方向はN－5°－Wである。

出土遺物は、土師器台付甕の破片を少量検出した。

第599号土坑（第441図）

H－33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第236号住居跡である。

平面形は長方形で、規模は長軸140cm、短軸67cmである。深さは45cmである。長軸方向はN－80°－Wである。

出土遺物は、第440図５に図示したかわらけ皿の破片を検出した。

第600号土坑（第441図）

H－33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第235・236号住居跡である。

長軸方向はN－24°－Eである。

平面形は方形で、規模は長軸92cm、短軸は78cmを検出した。深さは44cmである。

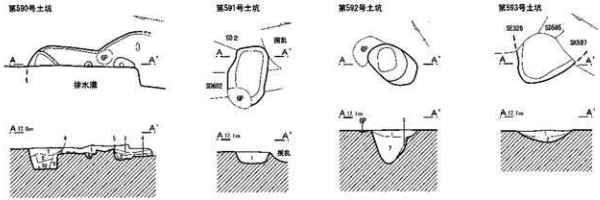
出土遺物は、土師器甕、模倣坏の破片を少量検出した。

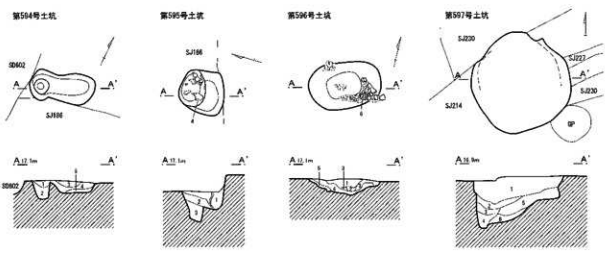
第601号土坑（第441図）

H・I－33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第236号住居跡である。

平面形は長方形で、規模は長軸137cm、短軸62cmで





第590号土坑

1	灰褐色土	10YR3/2	地山ブロック（φ1～20mm）多量　炭化物粒子含む 粘土粒子少量　焼砂多量
2	褐灰色土	10YR4/1	地山ブロック（φ1～10mm）・炭化物粒子含む 粘土粒子少量　焼砂多量
3	黒褐色土	10YR2/1	地山ブロック（φ1～10mm）・焼土粒子少量 炭化物粒子含む　焼砂多量
4	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック（φ1～30mm）多量　炭化物粒子含む
5	褐灰色土	10YR4/1	地山ブロック（φ1～5mm）多量　炭化物粒子含む
6	黄色土	7.5YR2/1	地山ブロック（φ1～5mm）・炭化物粒子含む
7	黒褐色土	2.5YR3/2	地山ブロック（φ1～30mm）多量　炭化物粒子含む 焼砂
8	黒褐色土	2.5YR3/1	地山ブロック（φ1～20mm）多量　炭化物粒子含む
9	緑灰色土	5G5/1	地山ブロック少量　炭化物粒子含む　砂粒子多量
10	緑黒色土	5G2/1	地山ブロック（φ1～10mm）少量　砂粒子含む 植物有り

第591号土坑

1	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック （φ3～4mm）少量

第592号土坑

1	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック （φ3～5mm）含む　炭化物粒子（φ1～3mm）少量
2	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック （φ3～10mm）多量
3	明黄褐色土	2.5Y7/6	地山土（黄褐色土）主体

第593号土坑

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む　炭土粒子 （φ1～2mm）少量
2	黒褐色土	2.5YR3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック （φ3～5mm）少量

第594号土坑

1	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む　炭土粒子 （φ1～2mm）少量
2	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック （φ3～5mm）多量
3	黒色土	N2/0	炭土ブロック（φ2～10mm）多量
4	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）少量
5	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ5～10mm）多量

第595号土坑

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック（φ3～10mm）多量　焼土粒子 （φ1～3mm）微量
2	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む　炭土粒子 （φ1～2mm）少量
3	暗黒褐色土	10YR3/3	黄褐色土ブロック（φ3～10mm）含む　炭土 ブロック（φ2～8mm）多量　炭化物粒子少量

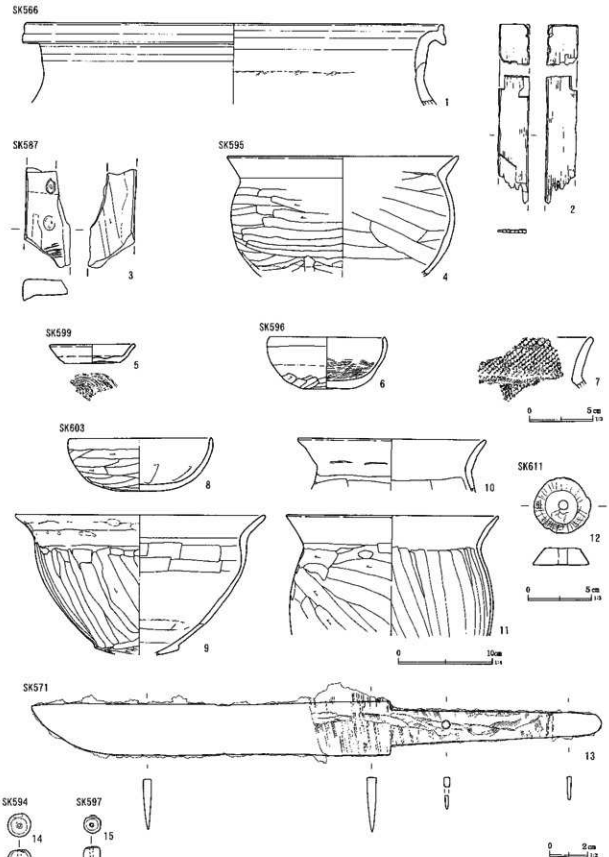
第596号土坑

1	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土粒子（φ1～2mm）少量　しまりあり 粘性ややあり
2	灰褐色土	7.5YR4/2	粘質土塊　しまりややあり　粘性強い
3	褐色土	7.5YR4/3	炭土粒子少量　しまり・粘性ややあり
4	灰褐色土	7.5YR4/2	焼土ブロック（φ10～20mm）含む　炭土粒子 （φ1～2mm）少量　しまりややあり　粘性弱い
5	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物ブロック・ブロック少量　しまりあり 粘性ややあり

第597号土坑

1	褐灰色土	10YR4/1	炭土粒子・炭化物粒子（φ0.5～1mm）含む 黄灰色シルトブロック（φ5～8mm）少量
2	褐灰色土	10YR4/3	炭土粒子・炭化物ブロック（φ3～5mm）少量 黄灰色シルトブロック（φ5～8mm）多量 （縞炭し）
3	黒褐色土	10YR3/1	炭化物ブロック（φ2～3mm）少量　黄灰色シルト ブロック（φ5～8mm）少量
4	黒色土	10YR2/1	黄灰色シルトブロック少量　3より強い
5	褐灰色土	10YR4/1	炭土ブロック・炭化物ブロック（φ3～5mm） 少量　黄灰色シルトブロック（φ5～8mm）少量
6	褐灰色土	10YR4/1	黄灰色シルトブロック（φ5～8mm）多量 （同炭し）

第439図　土坑（4）



第440図　土坑出土遺物（1）

ある。深さは25cmである。長軸方向はN－11°－Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第602号土坑（第441図）

Ⅰ－32グリッドに位置する。

重複する遺構は、第217・247号住居跡、第350号井戸跡である。

平面形は長方形で、規模は長軸250cm、短軸110cm、深さは43cmである。長軸方向はN－83°－Wである。

出土遺物は、常滑甕の破片を検出した。

第603号土坑（第441図）

H－33グリッドに位置する。

重複する遺構は、第230号住居跡である。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸145cm、短軸117cm、深さは103cmである。長軸方向はN－13°－Wである。

出土遺物は、第440図8～11に図示した。8は土師器塩、9は土師器鉢である。10・11は土師器甕である。

第604号土坑（第442図）

G・H－32グリッドに位置する。

重複する遺構は、第173号住居跡である。

平面形は不整形である。規模は長軸111cm、短軸72cm、深さは22cmである。長軸方向はN－0°である。

出土遺物は、常滑甕の破片を検出した。

第605号土坑　　欠番

第10号方形周溝墓に変更。

第606号土坑（第442図）

H－35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第192・202・237号住居跡である。

平面形は方形で、規模は長軸75cm、短軸63cm、深さは56cmである。長軸方向はN－47°－Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第607号土坑（第442図）

Ⅰ・J－34・35グリッドに位置する。

重複する遺構は、第246号住居跡、第605号溝跡、第324・336・337・358・359号井戸跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸281cm、短軸は272cm、深さは34cmである。長軸方向はN－72°－Eである。

出土遺物は、第446図16に図示した土師器壺である。このほか土師器甕の破片を少量検出した。

第608号土坑（第442図）

J－34グリッドに位置する。

平面形は長方形で、規模は長軸105cm、短軸101cm、深さは46cmである。長軸方向はN－86°－Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第609号土坑（第442図）

H－28・29グリッドに位置する。

重複する遺構は、第630号溝跡である。

平面形は長方形で、規模は長軸105cm、短軸102cm、深さは15cmである。長軸方向はN－31°－Eである。

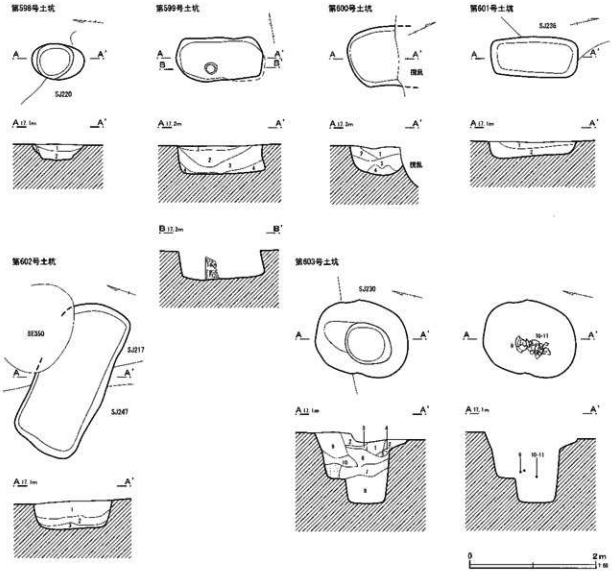
出土遺物は、土師器甕、須恵器甕の破片を少量検出した。

第610号土坑（第442図）

F－29グリッドに位置する。調査区北西端にあたる。

平面形は不整形で、規模は長軸125cm、短軸77cm、深さは7cmである。長軸方向はN－54°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。



第598号土坑

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む 焼土粒子（φ1～2mm）・炭化物粒子少量
2	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ3～5mm）多量

第599号土坑

1	褐灰色土	10YR4/1	焼土ブロック・炭化物粒子少量 しまりあり
2	黒色土	10YR1.7/1	焼土ブロック・炭化物粒子多量 しまりなし
3	黒色土	10YR1.7/1	黄褐色土ブロック微量 しまり・粘性強い
4	黒色土	2.5Y2/1	黄褐色土ブロック微量

第600号土坑

1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む 焼土粒子（φ1～2mm）微量
2	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～5mm）少量
3	黒色粘質土	10YR2/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～5mm）少量
4	灰オリーブ色土	5Y4/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む 焼土粒子（φ1～2mm）微量

第601号土坑

1	黒色土	5Y2/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む 焼土粒子（φ1～2mm）微量
2	黒褐色土	2.5YR3/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～5mm）多量 焼土ブロック（φ2～3mm）含む 炭化物粒子（φ1～3mm）少量

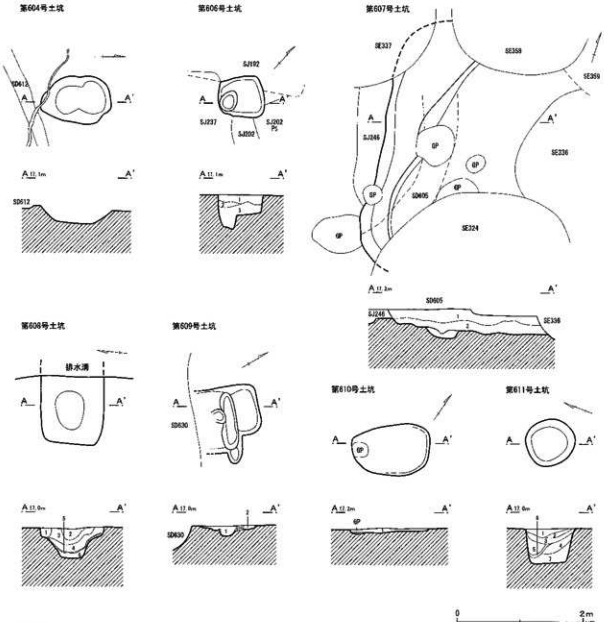
第602号土坑

1	暗褐色土	N3	黄褐色土ブロック（φ1～3mm）・焼土ブロック少量 炭化物粒子・焼分含む
2	黒色土	N1.5/1	黄褐色土ブロック（φ1～50mm）・焼分多量 炭化物粒子含む
3	灰色土	N4	青灰色粘土ブロック少量 炭化物粒子含む

第603号土坑

1	黒色土	7.5YR1.7/1	灰土体 ボソボソしている 焼土粒子含む 炭化物粒子少量 しまりややあり 粘性弱い
2	黒色土	7.5YR2/1	焼土粒子（φ1～2mm）・ローム粒子（φ1～2mm）・炭化物粒子少量 しまりあり 粘性やややあり
3	黒色土	7.5YR1.7/1	炭化物粒子および灰の崩 しまりややあり 粘性弱い
4	にぶい黄褐色土	10YR7/4	ローム ブロック主体 しまりあり 粘性やや あり（壁崩落土）
5	黒褐色土	7.5YR3/1	均質の粘質土が落ち込む しまりややあり 粘性強い
6	黒褐色土	7.5YR3/1	焼土粒子（φ1～2mm）少量 しまりあり 粘性やややあり
7	黒色土	N2/0	ローム ブロック（φ10～50mm）少量 しまり 弱い 粘性強い
8	灰色土	N4/0	砂質ロミ しまり・粘性ややあり
9	黒褐色土	7.5YR3/1	焼土粒子（φ1～2mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
10	黒色土	10YR2/1	ローム ブロック（φ10～50mm）多量 しまり あり 粘性強い（根深し）

第441図 土坑（5）



第606号土坑
1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子（φ1～3mm）少量 しまり・粘性ややあり
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック（φ10～20mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
3 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまり・粘性あり

第607号土坑
1 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）痕 焼土・炭化物微量
2 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）多量

第609号土坑
1 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒下（φ5mm）微量 褐色土ブロック（φ20mm）少量 しまり・粘性あり
2 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土ブロック（φ50mm）穴む しまり・粘性あり
3 褐色土 10YR4/4 黄褐色土ブロック（φ30～50mm）多量 しまり・粘性あり
4 黒褐色土 10YR2/2 灰色土ブロック（φ20mm）含む 焼土ブロック（φ20～30mm）少量 しまり・粘性あり
5 炭化物層
6 灰色土 N4/0 焼土粒下（φ5mm）微量 灰色粘土土体 彩多量 粘性・しまりややあり

第609号土坑
1 黒色土 N2/ 炭化物が充填
2 黄灰色土 2.5Y4/1 炭化物含む 底面が若干被熱

第610号土坑
1 褐灰色土 10YR4/1 焼土粒子（φ2mm）・炭化物微量 しまりあり 粘性ややあり

第611号土坑
1 暗灰色 N3/0 焼土粒子（φ2mm）微量 しまり・粘性あり
2 褐灰色 10YR4/1 灰色土ブロック（φ20～30mm）多量 しまり・粘性あり
3 黒褐色土 10YR3/1 青灰色粘土微塊 黄褐色土粒子（φ1mm）含む しまり・粘性あり
4 暗灰色土 N3/0 焼土粒子（φ3mm）少量 しまり・粘性あり
5 暗灰色土 N3/0 青灰色粘土微量 しまり・粘性あり
6 暗青灰色土 5B3/1 青灰色粘土多量 しまり・粘性あり
7 暗灰色土 N3/0 暗灰色粘土の層 しまり・粘性あり

第442図 土坑（6）

第611号土坑（第442図）

F－29グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸78cm、短軸74cmである。深さは56cmである。長軸方向はN－20°－Wである。

出土遺物は、第440図12に図示した石製紡錘車である。このほか、須恵器坏の破片を検出した。

第612号土坑（第443図）

F－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259号住居跡、第648号土坑である。

平面形は円形であり、規模は長軸92cm、短軸68cmである。深さは79cmである。長軸方向はN－85°－Wである。

出土遺物は、土師器甕、須恵器甕の破片を少量検出した。

第613号土坑（第443図）

E・F－28・29グリッドに位置する。

平面形は不整形で、規模は長軸142cm、短軸は111cmを検出した。深さは72cmである。長軸方向はN－4°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第614号土坑（第443図）

G－29グリッドに位置する。

重複する遺構は、第260・281号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸76cm、短軸63cmである。深さは13cmである。長軸方向はN－83°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第615号土坑（第443図）

G－29グリッドに位置する。

平面形は方形で、規模は長軸100cm、短軸84cm、深さは9cmである。長軸方向はN－1°－Wである。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第616号土坑（第443図）

F－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259号住居跡、第618号土坑である。

平面形は不整形で、規模は長軸103cm、短軸は69cm、深さは52cmである。長軸方向はN－55°－Eである。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第617号土坑（第443図）

F・G－29グリッドに位置する。

平面形は不整形で、規模は長軸185cm、短軸84cm、深さは10cmである。長軸方向はN－40°－Eである。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第618号土坑（第443図）

F－29・30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259号住居跡、第616号土坑である。

平面形は不整形で、規模は長軸88cm、短軸は66cm、深さは14cmである。長軸方向はN－57°－Eである。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第619号土坑（第444図）

F－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第648号土坑、第372号井戸跡である。調査区の北西端にあたり周辺には、第611・612・616・618・637・642・646～648号土坑など同規模の土坑を検出した。

平面形は円形で、規模は長軸101cm、短軸86cm、深さは25cmである。長軸方向はN－35°－Wである。

出土遺物は、須恵器坏の破片を少量検出した。

第620号土坑（第444図）

H—29グリッドに位置する。

重複する遺構は、第619・630号溝跡である。

平面形は長方形で、規模は長軸228cm、短軸112cm、深さは25cmである。長軸方向はN—0°である。

出土遺物は、第446図17～19に図示した石製品の臼玉である。このほか土師器甕、高坏の破片を少量検出した。

第621号土坑（第444図）

H・I—29・30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第274号住居跡、第620号溝跡である。

平面形は方形である。規模は長軸162cm、短軸131cm、深さは89cmである。長軸方向はN—82°—Eである。

出土遺物は、土師器甕、坏の破片を検出した。

第622号土坑（第444図）

H・I—30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第620号溝跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸139cm、短軸88cm、深さは94cmである。長軸方向はN—68°—Wである。

出土遺物は、土師器甕・壺の破片を検出した。

第623号土坑（第444図）

H—30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第283号住居跡、第619号溝跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸205cm、短軸推定で118cm、深さは28cmである。長軸方向はN—13°—Wである。

出土遺物は、第446図21～23に図示した。21は土師器甕で、口縁部に輪積痕が残る。22・23は土師器高坏である。22は、坏部が模倣坏である。23は、脚部にミガキを施している。

第624号土坑（第445図）

H—29グリッドに位置する。

重複する遺構は、第276号住居跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸126cm、短軸73cm、深さは15cmである。長軸方向はN—90°—Eである。

出土遺物は、全面回転ヘラケズリの須恵器坏の破片を検出した。

第625号土坑（第445図）

G—31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第640号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸110cm、短軸64cm、深さは34cmである。長軸方向はN—81°—Eである。

出土遺物は、土師器甕、甑の破片を少量検出した。

第626号土坑（第445図）

I—30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第278号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸78cm、短軸67cm、深さは39cmである。長軸方向はN—60°—Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第627号土坑（第445図）

I—30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第278号住居跡である。

平面形は方形で、規模は長軸推定で164cm、短軸108cm、深さは44cmである。長軸方向はN—54°—Eである。

出土遺物は、第446図24に図示した土師器坏である。

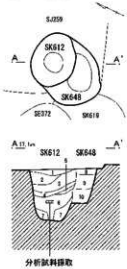
第628号土坑（第445図）

F・G—30グリッドに位置する。

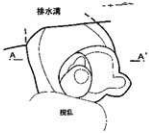
重複する遺構は、第290号住居跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸157cm、短軸68cm、深さは36cmである。長軸方向はN—74°—Eである。

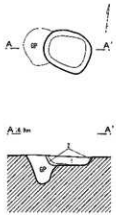
第612-648号土坑



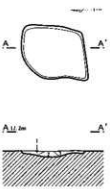
第613号土坑



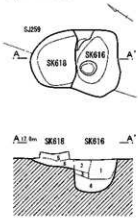
第614号土坑



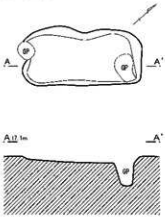
第615号土坑



第616-618号土坑



第617号土坑



第612-648号土坑

1	灰色土	N4/0	塊上粒子（φ2mm）微量　炭化物少量　しまり・粘性あり
2	灰色土	N4/0	上部に褐灰色土ブロック（φ20mm）少量　塊上粒子（φ2mm）・炭化物微量　しまり・粘性あり
3	灰黄褐色土	10YR5/2	灰色粘土主体　黄褐色土ブロック（φ20～30mm）多量　炭化物少量　しまり・粘性あり
4	黒色土	N2/0	暗灰色の灰層　しまり・粘性なし
5	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ20mm）多量　4層を含む
6	灰白色土	N8/0	白色の灰層かと思われる　大きめの炭化物（10～30mm角）多量　水分を含み非常にもろい　しまりなし　粘性ややあり
7	暗灰色土	N3/0	暗灰色の灰とローム上思われる土が混合した層　水分を多く含みもろい　しまりなし　粘性ややあり
8	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ20～30mm）多量　しまり・粘性あり
9	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒子（φ5mm）微量　しまり・粘性あり
10	黒褐色土	10YR3/2	上部に黄褐色土ブロック（φ10～20mm）少量　しまり・粘性あり

第613号土坑

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック（φ10～20mm）含む　焼土粒子（φ5mm）少量　しまりあり　粘性弱い
2	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ10mm）微量　灰色砂質土少量　しまりあり　粘性弱い
3	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ20～30mm）均等に多量　しまり・粘性あり（焼灰し）
4	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック（φ50mm）多量　しまり・粘性あり

第614号土坑

1	黒色土	10YR2/1	炭化物・灰層　真っ黒でやわらかく、繊維状の細かい物質で構成されている　しまり・粘性なし
2	灰黄褐色土	10YR5/2	粘質土層　混じりけなし　しまり弱い　粘性強い

第615号土坑

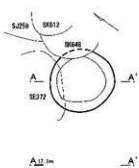
1	灰褐色土	7.5YR4/2	しまりあり　粘性ややあり
2	灰褐色土	7.5YR4/2	しまりあり　粘性ややあり　ロームブロック（φ10～20mm）少量

第616-618号土坑

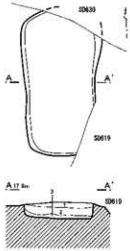
1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ10mm）含む　しまり・粘性あり
2	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック（φ30～50mm）多量　焼土粒子・炭化物含む　しまり・粘性あり
3	黒褐色土		黄褐色土ブロック（φ10mm）少量　しまり・粘性あり
4	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック（φ30～50mm）多量　しまり・粘性あり
5	褐灰色土	10YR4/1	焼土粒子（φ3mm）微量　しまり・粘性あり
6	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック（φ20～50mm）多量　しまり・粘性あり

第443図　土坑（7）

第619号土坑

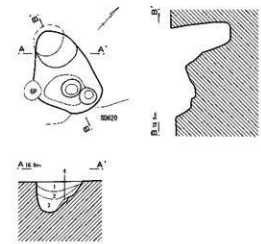


第620号土坑

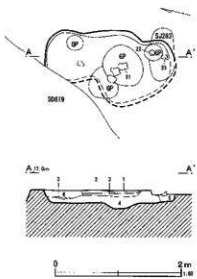


第621号土坑

第622号土坑



第623号土坑



0 2m

第619号土坑

1	褐灰色土	10YR4/1	灰色の灰土塊　黄褐色土ブロック（φ20～30mm）多量　しまり・粘性やや有り
2	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土ブロック（φ50mm以上）多量　しまり・粘性あり
3	褐灰色土	10YR4/1	灰色粘土塊　黄褐色土ブロック（φ6mm）含む　灰色の炭微量　しまり・粘性あり

第620号土坑

1	褐灰色土	10YR5/1	黄褐色土ブロック（φ5～10mm）少量　しまりあり　粘性なし
2	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ30～50mm）多量　しまりあり　粘性なし
3	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子（φ8mm）微量　しまり・粘性あり

第621号土坑

1	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土粒子（φ1～2mm）全体に散って均一に少量　しまりあり　粘性なし
2	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック（φ20mm）含む　しまりあり　粘性弱い
3	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ10mm）少量　地土粒子（φ5mm）・炭化物微量　しまりあり　粘性やや有り
4	灰色土	5Y4/0	灰色の粘性の強い土主体　砂土粒子（φ1mm）微量　しまり・粘性あり

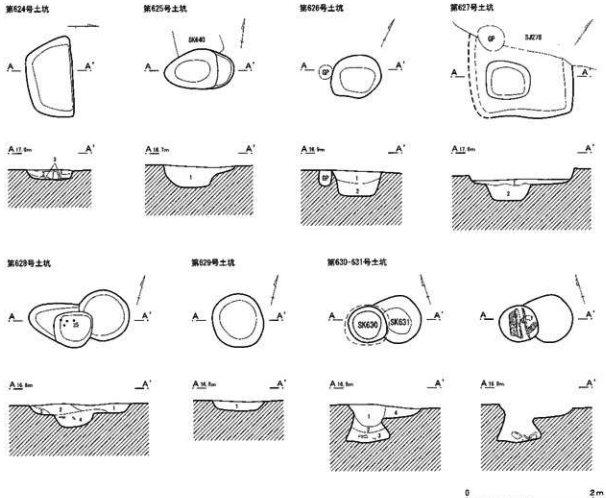
第622号土坑

1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子（φ3mm）斑　地土粒子（φ3mm）・炭化物微量　しまりあり　粘性なし
2	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ10mm）少量　しまり・粘性あり
3	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ20mm）・炭化物少量　しまり・粘性あり

第623号土坑

1	黒褐色土	10YR2/2	黒灰色の灰多量　しまり弱い　粘性なし
2	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子（φ5～10mm）極　しまり・粘性やや有り
3	黒褐色土	10YR3/1	黒灰色の灰層　黄褐色土ブロック（φ10mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
4	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土ブロック（φ10～15mm）極　しまり・粘性あり
5	褐灰色土	10YR6/1	砂土ブロック（φ5mm）・炭・炭化物多量　しまりあり　粘性ややあり
6	褐灰色土	10YR5/1	青灰色土ブロック（φ20mm）含む　砂土粒子（φ2mm）・炭化物微量　しまりあり　充性弱い

第444図　土坑（8）



第624号土坑

1	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子（φ2mm）微量　しまりあり 粘性ややあり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ5mm）・砂質じりの灰色粘土含む　しまり・粘性あり
3	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土ブロック（φ10mm）多量 しまり・粘性あり

第625号土坑

1	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック（φ1～20mm）含む 鉄分少量

第626号土坑

1	褐灰色土	10YR4/1	黄灰色粘土ブロック（φ2～3mm）微量
2	黒褐色土	10YR2/1	灰微量　ベタベタした感じ

第627号土坑

1	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ10mm）炭 しまり・粘性あり
2	にぶい黄褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック（φ20～50mm）多量 焼土粒子（φ2mm）・炭化物微量 しまり・粘性あり

第628号土坑

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック（φ1～20mm）多量 炭化物含む
2	黒色土	10YR2/1	焼土ブロック微量
3	黒色土	10YR2/1	焼土ブロック・黄褐色土ブロック多量
4	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック・焼土ブロック少量 木片が沢上

第629号土坑

1	にぶい黄褐色土	10YR4/3	しまり・粘性ややあり　ロームブロック（φ10～20mm）・焼土ブロック（φ10～30mm）少量

第630-631号土坑

1	黒色土	7.5YR2/1	焼土粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり 粘性ややあり
2	黒色土	10YR2/1	焼土粒子（φ5～10mm）・炭化物粒子微量 しまりややあり　粘性あり
3	黒色土	N2/0	しまり弱い　粘性強い　粘質土層 最下部（底）に木が数本横たわる 枝痕されたものとみられる
4	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子（φ1～8mm）少量　焼土粒子・炭化物粒子微量　しまりあり　粘性ややあり

第445図　土坑（9）

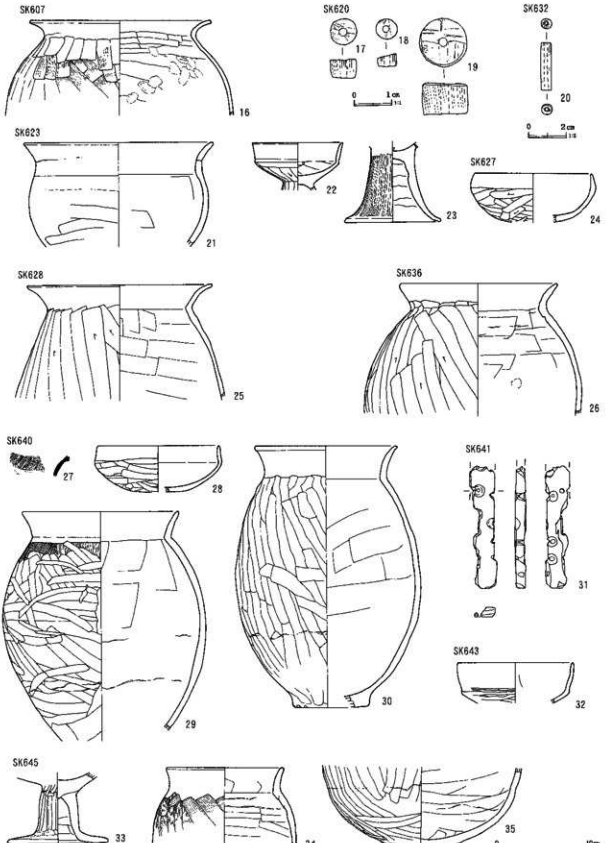
出土遺物は、第446図25に図示した土師器甕である。口縁部は、外傾に大きく開き、器壁は薄い。胴部は、肩部から中位にかけてふくらみ下半に最大径をもつタイプである。このほか模倣坏の破片を少量検出した。

第629号土坑（第445図）

G－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第282号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸87cm、短軸83cm、深さは14cmである。長軸方向はN－55°－Wである。



第446図　土坑出土遺物（2）

出土遺物は、土師器甕・埦の破片を少量検出した。

第630号土坑（第445図）

F－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第290号住居跡、第631号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸63cm、短軸56cm、深さは60cmである。長軸方向はN－51°－Wである。

出土遺物は、底部に糸切を施した須恵器坏の破片を少量検出した。

第631号土坑（第445図）

F－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第290号住居跡、第630号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸83cm、短軸73cm、深さは18cmである。長軸方向はN－48°－Wである。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第632号土坑（第447図）

I－30グリッドに位置する。

平面形は円形で、規模は長軸87cm、短軸72cm、深さは28cmである。長軸方向はN－74°－Wである。

出土遺物は、第446図20に図示した石製管玉である。このほか土師器破片を少量検出した。

第633号土坑（第447図）

F－29グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259・284号住居跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸149cm、短軸68cm、深さは10cmである。長軸方向はN－29°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第634号土坑（第447図）

G－31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第264・268・269号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸97cm、短軸90cm、深さは48cmである。長軸方向はN－88°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第635号土坑（第447図）

G－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第282号住居跡、第2号溝跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸72cm、短軸46cm、深さは27cmである。長軸方向はN－45°－Wである。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第636号土坑（第447図）

H－29・30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第275・280号住居跡、第619号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸155cm、短軸122cm、深さは66cmである。長軸方向はN－25°－Eである。

出土遺物は、第446図20に図示した土師器甕である。

第637号土坑（第447図）

F－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第286号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸137cm、短軸推定で117cm、深さは16cmである。長軸方向はN－81°－Wである。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第638号土坑（第447図）

F・G－30・31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第290号住居跡、第640号土坑、第368号井戸跡である。

平面形は円形で規模は長軸162cm、短軸138cm、深さは64cmである。長軸方向はN－6°－Eである。

出土遺物は、土師器比企型坏・模倣坏、赤彩され

た高坏の破片を検出した。

第639号土坑（第447図）

G－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第290号住居跡、第369号井戸跡である。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸92cm、短軸60cm、深さは48cmである。長軸方向はN－53°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第640号土坑（第448図）

G－30・31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第290号住居跡、第625・638号土坑、第369号井戸跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸96cm、短軸79cm、深さは51cmである。長軸方向はN－31°－Wである。

出土遺物は、第446図27～30に図示した。27は須恵器甕の口縁部破片である。28は土師器坏、29・30土師器甕である。このほか土師器比企型坏、赤彩坏の破片を検出した。

第641号土坑（第448図）

F－31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第290号住居跡である。

平面形は円形で規模は長軸86cm、短軸68cm、深さは51cmである。長軸方向はN－54°－Wである。

出土遺物は、第446図31に図示した木製品の火鑽板である。このほか土師器甕・台付甕、赤彩された坏の破片を検出した。

第642号土坑（第448図）

F－29・30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259号住居跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸102cm、短軸71cm、深さは69cmである。長軸方向はN－66°－Eである。

出土遺物は、土師器甕、比企型坏の破片を検出した。

第643号土坑（第448図）

G－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第282号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸117cm、短軸87cm、深さは68cmである。長軸方向はN－60°－Eである。

出土遺物は、第446図32に図示した土師器模倣坏である。

第644号土坑（第448図）

G－31グリッドに位置する。

平面形は東西に長い楕円形で、規模は長軸115cm、短軸74cm、深さは15cmである。長軸方向はN－66°－Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第645号土坑（第448図）

G－31グリッドに位置する。

重複する遺構は、第2号溝跡と重複である。

平面形は不整形で、規模は長軸131cm、短軸95cm、深さは75cmである。長軸方向はN－18°－Eである。

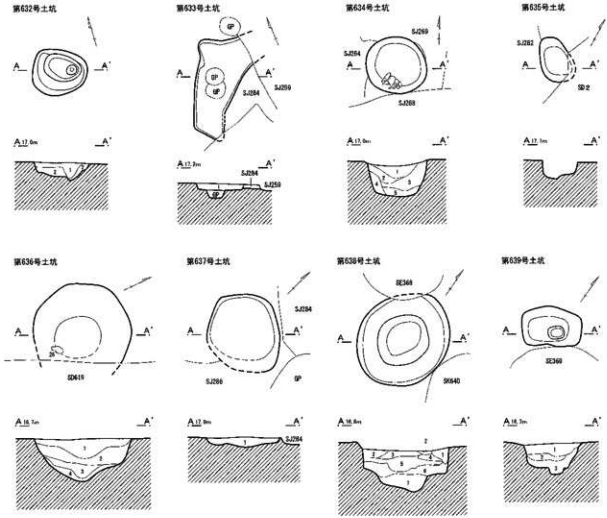
出土遺物は、第446図33～35・第451図36・37に図示した。33は土師器高坏、34は土師器小型甕、35は土師器壺、36は土師器甕である。37は石製紡錘車の未製品である。石材を紡錘車の大きさよりも一回り大きく残して周りを削り落とし、中心から外側に向かって斜めに削り出している。やや扁平な形態である。

第646号土坑（第448図）

F－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259号住居跡、第647号土坑、第365号井戸跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸75cm、短軸は59cm、



第632号土坑

1	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック少量 しまり・粘性あり
2	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック多量 しまり・粘性あり

第633号土坑

1	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ20～30mm）含む しまりあり 粘性なし

第634号土坑

1	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量 炭化物含む
2	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土ブロック（φ1～5mm）含む 炭化物少量
3	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック少量 炭化物含む
4	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック多量
5	黒色土	10YR1.7/1	炭化物含む

第635号土坑

1	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒子（φ5～7mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ10～20mm）多量 炭化物少量 焼土ブロック（φ10mm）・焼土粒子（φ3mm）微量 しまり・粘性あり
3	褐灰色土	10YR4/1	炭色土ブロック（φ20mm）・粘性のある灰色土（灰色粘土か）含む しまり・粘性あり
4	青灰色土	GB6/1	粘性のある青灰色土 しまり・粘性あり

第637号土坑

1	にぶい黄褐色土	10YR5/3	ロームブロック（φ10～60mm）少量 しまりあり 粘性ややあり

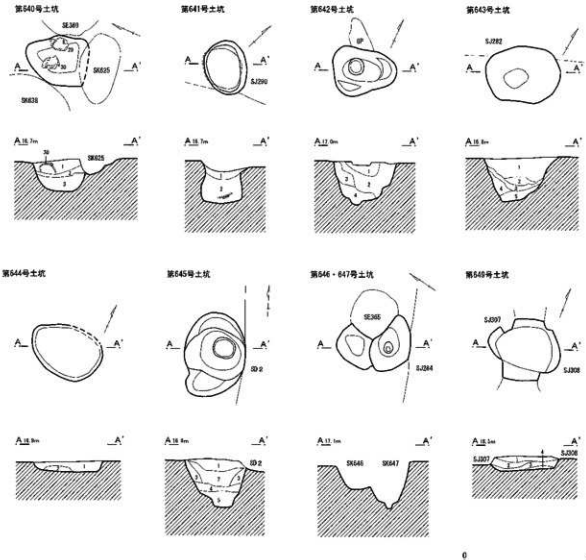
第638号土坑

1	にぶい黄褐色	10YR7/4	ロームブロックの混ぎり しまりあり 粘性ややあり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
3	黒褐色土	7.5YR3/1	焼土粒（φ1～3mm）・炭化物少量 しまりあり 粘性ややあり
4	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土粒子微量 しまりあり 粘性ややあり
5	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック（φ10～100mm）少量（2枚ほどの層状に堆積） しまりあり 粘性ややあり
6	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子（φ1～10mm）少量 しまり・粘性ややあり
7	暗灰色土	N3/0	粘質土層 しまり固い 粘性強い

第639号土坑

1	にぶい黄褐色土	10YR5/3	ロームブロック（φ10～60mm）・ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒子（φ1～8mm）少量 しまりややあり 粘性あり
3	暗オリーブ灰色土	2.5GY4/1	均質の粘質土層 しまり固い 粘性強い

第447図 土坑（10）



第640号土坑
1 灰黄褐色土 10TR4/2 ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまりあり 粘性やわり
2 黒褐色土 10YR3/1 3層と同様の粘質土少量 ロームブロック（φ10～20mm）少量 しまりあり 粘性やわり
3 黒色土 2.5GY2/1 しまりややあり 粘性強い 均質の粘質土層 地土土ブロック（φ10～30mm）少量

第641号土坑
1 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック（φ10～20mm）少量 しまり・粘性やわり
2 黒褐色土 10YR3/1 均質の粘質土層 しまり弱い 粘性強い

第642号土坑
1 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまりあり 粘性やわり
2 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック（φ10～50mm）少量 しまり・粘性あり
3 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子（φ1～5mm）・焼土粒子（φ1～5mm）少量 しまりあり 粘性やわり
4 黒色土 10YR2/1 ロームブロック（φ10～30mm）少量粘質土層 しまりやわり 粘性強い

第643号土坑
1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック（φ10～20mm）少量 しまりあり 粘性やわり
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック（φ10～50mm）少量 しまり・粘性あり
3 黒褐色土 10YR3/1 含有物を含まない しまりややあり 粘性強い
4 褐灰色土 10YR4/1 ローム土少量 しまりあり 粘性ややあり（壁の崩落土か）
5 黒色土 7.5YR2/1 均質の粘質土層 しまりややあり 粘性強い

第644号土坑
1 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒子（φ1～5mm）・ロームブロック（φ10～70mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
2 にぶい黄褐色 10YR7/3 地山土主体 しまりあり 粘性弱い

第645号土坑
1 黄灰色土 2.5YR4/1 土器片を含む 弥栄台地山土（φ10～20mm）含む しまりあり 粘性ややあり
2 黒色土 7.5YR3/1 土器片を含む ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
3 灰褐褐色土 10YR4/2 ロームブロック（φ10～40mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
4 黒褐色土 10YR3/2 炭分が粘質したような細いブロック少量 しまりややあり 粘性あり
5 オリーブ黒色土 5GY2/1 粘質土層 こまり弱い 粘性強い

第648号土坑
1 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック少量 マンガン多量 炭化物含む
2 黒色土 10YR2/1 黄褐色土ブロック多量 マンガン多量 炭化物含む
3 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック少量 焼土ブロック微量
4 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック多量 マンガン含む

第448図　土坑（11）

深さは38cmである。長軸方向はN－44°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第647号土坑（第448図）

F－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259・284号住居跡、第646号土坑、第365号井戸跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸95cm、短軸は54cm、深さは70cmである。長軸方向はN－83°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第648号土坑（第443図）

F－30グリッドに位置する。

重複する遺構は、第259号住居跡、第612・619号土坑である。

平面形は円形で、規模は長軸93cm、短軸は52cm、深さは54cmである。長軸方向はN－83°－Wである。

出土遺物は、検出されなかった。

第649号土坑（第448図）

I－39グリッドに位置する。

重複する遺構は、第307・308号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸117cm、短軸80cm、深さは22cmである。長軸方向はN－83°－Eである。

出土遺物は、土師器甕坏の破片を検出した。

第650号土坑（第449図）

J－39グリッドに位置する。

平面形は不整形で、規模は長軸74cm、短軸51cm、深さは50cmである。長軸方向はN－72°－Wである。

出土遺物は、土師器甕・台段口縁坏の破片を検出した。

第651号土坑（第449図）

H－40グリッドに位置する。

重複する遺構は、第306・318号住居跡である。

平面形は円形で、規模は長軸142cm、短軸推定で129cm、深さは19cmである。長軸方向はN－37°－Wである。

出土遺物は、検出されなかった。

第652号土坑（第449図）

I－39グリッドに位置する。

重複する遺構は、第311号住居跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸127cm、短軸は78cm、深さは15cmである。長軸方向はN－75°－Wである。

出土遺物は、土師器甕、模倣坏の破片を検出した。

第653号土坑（第450図）

H・I－39グリッドに位置する。

重複する遺構は、第297号住居跡、第654号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸188cm、短軸176cm、深さは93cmである。長軸方向はN－29°－Wである。

出土遺物は、第451図38～50に図示した。38は土師器甕、39は土師器壺の口縁部破片である。40・41・44は土師器高坏で外面は丁寧なミガキを施している。42は土師器壺の口縁部破片である。45・50は胴部球形を呈する土師器丸甕である。43・49は土師器台付甕、46・47は土師器小型台付甕で胴部外面および、脚部には刷毛目が施されている。48はミニチュア土器である。

第654号土坑（第449図）

J－39グリッドに位置する。

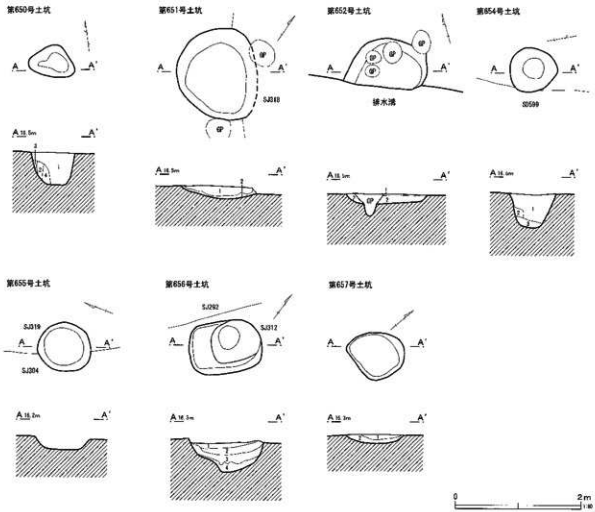
重複する遺構は、第599号溝跡である。

平面形は円形で、規模は長軸73cm、短軸68cm、深さは52cmである。長軸方向はN－10°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

第655号土坑（第449図）

G・H－41グリッドに位置する。



第650号土坑

1	暗灰色土	N3/0	青灰色土ブロック（φ1～20mm）・炭化物・マンガン含む
2	暗灰色土	N3/0	青灰色土ブロック少量
3	青灰色土	5BG6/1	青灰色土ブロック多量　マンガン含む
4	青灰色土ブロック		

第651号土坑

1	暗灰色土	10YR4/1	ローム粒子（φ1～8mm）少量　しまり・粘性あり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しまりあり　粘性ややあり

第652号土坑

1	灰黄褐色土	10YR5/2	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）少量
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）含む

第654号土坑

1	黒色土	10YR1.7/1	青灰色土ブロック少量　炭化物含む
2	黒色土	10YR1.7/1	青灰色土ブロック（φ1～20mm）・炭化物含む
3	緑黒色土	5G1.7/1	青灰色土ブロック微量　炭化物含む

第656号土坑

1	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子（φ5mm）含む　しまりあり　粘性なし
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ5～20mm）多量　しまりあり　粘性ややあり
3	暗灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ10～15mm）・炭化物含む　しまり・粘性あり
4	灰黄褐色土	10YR5/2	地山の混入土を主体　炭色粘土少量　しまり・粘性あり

第657号土坑

1	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）産
2	暗灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ5～8mm）少量

第449図　土坑（12）

重複する遺構は、第304・319号住居跡である。

調査区の南西端に位置し、谷部をのぞむ。周辺には、住居跡が多く検出されている。

平面形は円形で、規模は長軸83cm、短軸77cm、深さは19cmである。長軸方向はN－19°－Wである。

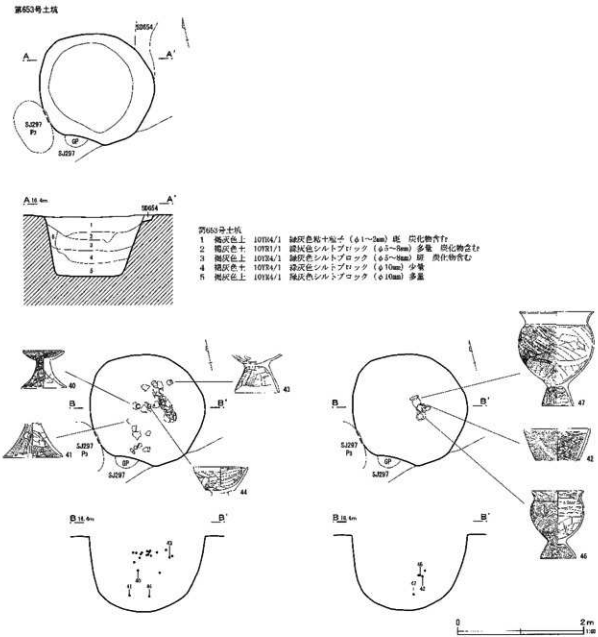
出土遺物は、土師器甕・鉢の破片を少量検出した。

第656号土坑（第449図）

H－39グリッドに位置する。

重複する遺構は、第302・312・313号住居跡である。

平面形は方形で、規模は長軸115cm、短軸82cm、深さは46cmである。長軸方向はN－52°－Eである。



第450図　土坑（13）

出土遺物は、第451図51に図示した土師器坏である。

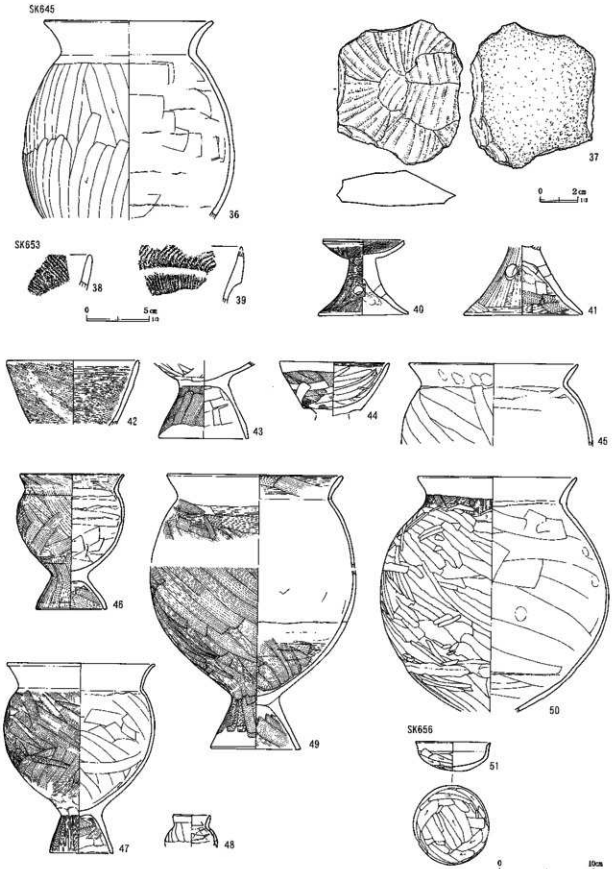
第657号土坑（第449図）

H・I－40グリッドに位置する。

重複する遺構は、第298号住居跡である。

平面形は不整形で、規模は長軸92cm、短軸86cm、深さは13cmである。長軸方向はN－37°－Eである。

出土遺物は、土師器甕、模倣坏の破片を少量検出した。



第451図　土坑出土遺物（3）

第34表　土坑出土遺物観察表

挿図番号		遺構番号		種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
440	1	SK	566	常滑	甕	(44.0)	[8.5]	—	口縁破片	白粒	普通	灰白		
440	2	SK	566	木製品	板材	幅3.1長さ[18.8]厚さ0.2			破片					
440	3	SK	587	土製品	瓦塔	幅[4.9]長さ[10.5]厚さ[2.3]			破片	黒粒				207-7-2
440	4	SK	595	土師器	甕	(24.4)	[12.7]	—	1/5	角 石英 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
440	5	SK	599	かわらけ	皿	(8.9)	2.9	(6.0)	1/4	雲 赤粒	普通	浅黄	13世紀	
440	6	SK	596	土師器	坏	(12.0)	[5.5]	(4.8)	2/3	雲 赤粒 白粒	普通	鈍い橙		150-1
440	7	SK	596	土師器	甕	—	—	—	口縁破片	砂粒	普通	明赤褐		
440	8	SK	603	土師器	埦	(15.6)	[5.6]	—	3/5	雲 角 赤粒 白粒 黒粒	普通	鈍い橙		
440	9	SK	603	土師器	鉢	(26.4)	[14.7]	—	ほぼ完形	雲 石英	普通	明赤褐		175-4
440	10	SK	603	土師器	甕	(19.8)	[5.5]	—	破片	雲 石英	普通	明赤褐		
440	11	SK	603	土師器	甕	(22.4)	[12.7]	—	破片	雲 石英	普通	橙		
440	12	SK	611	石製品	紡錘車	孔径0.7径4.5厚さ1.3重さ34.0			完形					209-2-9
440	13	SK	571	鉄製品	短刀	刃幅2.8~2.3背幅0.4刃長19.2長さ30.5			完形					224-2-2
440	14	SK	594	土製品	土玉	径1.2長さ1.0重さ1.4			完形					208-1-7
440	15	SK	597	土製品	土玉	径0.9長さ0.9重さ0.8			完形					208-1-8
446	16	SK	607	土師器	壺	(19.0)	[10.0]	—	破片	雲	普通	橙		
446	17	SK	620	石製品	臼玉	径0.8長さ0.5重さ0.4			完形					212-2-9
446	18	SK	620	石製品	臼玉	重さ0.2			完形					212-2-40
446	19	SK	620	石製品	臼玉	径1.3長さ0.8重さ2.1			完形					212-2-6
446	20	SK	632	石製品	管玉	径0.5長さ2.5重さ1.5			完形					213-1-8
446	21	SK	623	土師器	甕	(20.0)	[11.0]	—	1/5	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
446	22	SK	623	土師器	高坏	9.5	[5.0]	—	2/5	角 石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙		175-5
446	23	SK	623	土師器	高坏	—	[8.5]	10.0	脚部のみ	雲 白粒 黒粒	普通	明赤褐	暗文	
446	24	SK	627	土師器	坏	(12.4)	[5.2]	—	1/3	雲 白粒 礫	良好	赤	赤彩	150-2
446	25	SK	628	土師器	甕	(19.6)	[12.1]	—	1/5	雲 角 石英 白粒 礫	普通	鈍い褐		
446	26	SK	636	土師器	甕	16.5	[13.9]	—	1/2	雲 砂粒 赤粒	普通	明赤褐		
446	27	SK	640	須恵器	𤭯	—	—	—	破片	白粒	良好	黒灰		203-2-4
446	28	SK	640	土師器	坏	(12.8)	4.9	—	1/3	赤粒 黒粒	良好	赤褐	赤彩	
446	29	SK	640	土師器	甕	16.6	[24.3]	—	1/2	白粒 砂粒	普通	灰黄褐		201-1
446	30	SK	640	土師器	甕	15.0	27.5	(8.0)	ほぼ完形	砂粒 白粒	普通	褐		201-2
446	31	SK	641	木製品	火鑽板	幅2.1長さ[12.9]厚さ1.0			破片					222-8
446	32	SK	643	土師器	坏	(12.1)	[4.3]	—	破片	赤粒 白粒 黒粒	普通	橙	模倣坏	
446	33	SK	645	土師器	高坏	—	[7.5]	(10.8)	脚部2/3	雲 角	普通	鈍い橙	赤彩	
446	34	SK	645	土師器	小型甕	(12.3)	[8.5]	—	破片	黒粒	普通	浅黄橙		
446	35	SK	645	土師器	壺	—	[8.7]	8.5	1/5	雲 砂粒	普通	鈍い赤褐		
451	36	SK	645	土師器	甕	(18.0)	[21.2]	—	破片	雲 赤粒 砂粒	普通	鈍い赤褐		
451	37	SK	645	石製品	紡錘車未製品	幅6.6長さ7.7厚さ1.9重さ123.2			完形					209-1-3
451	38	SK	653	土師器	甕	—	—	—	口縁破片	雲 石英	普通	黒褐		
451	39	SK	653	土師器	壺	—	—	—	破片	雲 黒粒	普通	鈍い黄橙	赤彩	
451	40	SK	653	土師器	高坏	8.7	8.0	9.6	ほぼ完形	雲 白粒	良好	鈍い橙	三方透	175-6
451	41	SK	653	土師器	高坏	—	[7.4]	12.7	脚部のみ	雲 石英	普通	浅黄橙		176-1
451	42	SK	653	土師器	壺	14.0	[6.7]	—	口縁4/5	白粒	普通	赤褐	赤彩	
451	43	SK	653	土師器	台付甕	—	[8.2]	(9.6)	破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
451	44	SK	653	土師器	高坏	(11.5)	[5.6]	—	1/5	雲 石英 赤粒 白粒	普通	赤褐	赤彩	
451	45	SK	653	土師器	甕	(18.0)	[8.7]	—	口縁のみ	黒粒	普通	黒褐		176-2
451	46	SK	653	土師器	小型台付甕	10.9	14.3	7.5	完形	石英 砂粒 白粒	普通	鈍い橙	外面煤付着	201-3
451	47	SK	653	土師器	小型台付甕	15.5	20.0	6.7	完形	雲 砂粒 赤粒	普通	鈍い橙	外面煤付着	176-3
451	48	SK	653	土師器	ミニチュア	(3.9)	[3.4]	—	1/5	雲 石英 赤粒 白粒	普通	浅黄橙		
451	49	SK	653	土師器	台付甕	(18.6)	[28.7]	9.6	1/3	角 赤粒 白粒	普通	鈍い橙		
451	50	SK	653	土師器	甕	17.0	[24.8]	—	1/2	砂粒 黒粒	普通	鈍い橙		201-4
451	51	SK	656	土師器	坏	8.0	3.0	—	ほぼ完形	雲 赤粒 白粒	普通	灰黄褐		150-3

6. ピット

第35表　ピット一覧表 (1)

グリッド	番号	埋土	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
F−28	1	C	69	55	12	土師器甕 須恵器坏	
F−28	2	A	50	39	31	土師器甕	
F−28	3	D	81	72	33	土師器甕 須恵器坏	
F−28	4	欠番					
F−28	5	F	86	54	39	土師器甕 坏	
F−28	6	D	44	36	34	土師器甕 坏	
F−29	1	D	92	85	37	土師器甕	柱痕あり
F−29	2	D	69	72	55	土師器甕 坏	
F−29	3	D	37	33	50	土師器甕	
F−29	4	E	46	38	59	土師器甕	
F−29	5	E	31	21	13		
F−29	6	E	50	40	50		
F−29	7	F	66	55	62	土師器甕	
F−29	8	D	48	35	17		焼土粒子含む
F−29	9	D	40	[30]	7		
F−29	10	D	60	54	62		
F−29	11	D	46	[25]	35		
F−29	12	B	26	26	29	土師器甕	
F−29	13	B	29	24	7	土師器甕	
F−29	14	B	45	37	24	土師器甕	
F−29	15	D	36	30	24		
F−29	16	E	29	25	12		
F−29	17	D	44	43	23	土師器甕	
F−29	18	E	34	33	13		
F−29	19	E	34	32	71	土師器甕	
F−29	20	D	39	37	51	土師器甕	
F−29	21	F	100	67	27	須恵器坏	
F−29	22	B	35	35	13		
F−29	23	B	32	30	15		
F−29	24	D	65	54	50	土師器甕 赤彩椀	
F−29	25	D	66	56	14		
F−29	26	B	66	55	44	土師器甕	
F−29	27	D	86	57	28	土師器甕 北武蔵型坏	
F−29	28	D	117	45	14		
F−29	29	B	27	23	20		
F−29	30	B	40	25	8		
F−29	31	E	54	46	56	土師器甕 坏	
F−29	32	B	28	[19]	25		
F−29	33	E	30	[30]	12	土師器甕	
F−29	34	E	[31]	31	9		
F−29	35	B	40	[24]	26	土師器甕 坏	
F−29	36	B	54	45	79		
F−29	37	F	38	30	27		
F−29	38	A	31	26	30		
F−29	39	欠番 SJ266 P1へ変更					
F−29	40	F	60	56	52		
F−29	41	D	[77]	50	21	土師器甕	
F−29	42	欠番					
F−29	43	D	[32]	27	5	土師器甕	
F−29	44	D	24	17	39		
F−29	45	D	30	28	36		
F−29	46		31	[20]	19		
F−29	47		30	29	16		
F−29	48		35	[23]	5		
F−29	49		55	50	15		
F−29	50	D	56	30	26		
F−30	1	D	69	50	37		
F−30	2	図	75	57	41	土師器甕	
F−30	3	D	62	54	57	土師器甕	
F−30	4	E	35	[32]	24	土師器甕	焼土ブロック・炭化物粒子含む
F−30	5	E	56	46	29	土師器甕	
F−30	6	D	30	27	8		
F−30	7	A	101	53	20	土師器甕	
F−30	8	E	44	35	53		
F−30	9	D	61	58	13		焼土粒子含む
F−30	10	D	78	71	61	土師器甕 坏 赤彩椀	焼土粒子含む
F−30	11	F	44	39	23	須恵器坏	
F−30	12	欠番 SJ290 P1へ変更					
F−30	13	欠番 G−30G P29へ変更					
F−30	14	欠番 F−31G P13へ変更					
F−30	15	B	46	39	32	須恵器甕 土師器甕	
F−30	16	欠番					
F−30	17	D	33	24	56		焼土粒子含む
F−30	18	E	69	[55]	47	土師器甕	
F−30	19		36	30	30	土師器甕	
F−30	20		24	23	21	土師器甕	
F−30	21		21	[18]	17		

グリッド	番号	埋土	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
F−30	22		39	(32)	12		
F−30	23		26	23	21		
F−30	24	図	69	50	57	土師器坏(465図1)	SX3を変更平面図あり
F−30	25	図	101	68	40		SX3を変更平面図あり
F−31	1	A	22	[15]	10	土師器甕	
F−31	2	A	34	32	8		
F−31	3	A	47	34	28		
F−31	4	A	34	24	—		
F−31	5	A	38	36	31	土師器甕	
F−31	6	A	45	42	27	土師器甕	
F−31	7	A	39	35	35	土師器甕	
F−31	8	A	34	27	32		
F−31	9	F	39	38	27		
F−31	10	F	29	28	32		
F−31	11	A	60	56	23		
F−31	12	欠番					
F−31	13	B	44	[34]	26		
F−31	14		40	38	26		
F−32	1	図	[42]	40	31	土師器甕	
F−32	2	図	58	43	34	土師器甕	
F−32	3	図	[59]	49	31		
F−32	4	図	41	32	43	土師器甕	柱痕あり
F−32	5	図	70	56	42	土師器甕	平面図あり
F−32	6		39	29	39		
F−32	7		56	48	55		
F−32	8		29	25	21		
F−32	9		27	23	12		
F−32	10		99	60	29		
F−33	1	D	32	27	54	土師器甕 土玉(465図2)	平面図あり
F−33	2	図	21	16	12	土師器甕	平面図あり
F−33	3	図	51	46	33	土師器甕 土玉(465図3)	平面図あり
F−33	4	図	74	64	77		平面図あり
F−33	5	図	71	60	31	土師器甕	
F−33	6	図	49	44	31	土師器甕 模倣坏	平面図あり
F−33	7	欠番					
F−33	8	A	53	49	49	土師器甕	
F−33	9		30	25	31	土師器甕	
F−33	10	図	69	59	57	土師器甕	
F−33	11		27	19	19		
F−34	1		[56]	37	42		
F−34	2		39	[31]	31		
F−34	3		21	20	10		
F−35	1		28	24	16		
G−28	1	図	49	45	46	土師器坏(465図4)	平面図あり
G−28	2	B	41	38	20	土師器甕	
G−28	3	D	35	[27]	18		
G−28	4	D	38	28	17	土師器甕 坏	
G−28	5	B	65	36	13	土師器甕	
G−28	6	B	50	47	6		
G−28	7		33	31	12		
G−29	1	B	34	32	20	土師器甕	
G−29	2	D	59	49	24		
G−29	3	D	62	46	39	土師器甕 灰釉陶器	
G−29	4	D	28	15	33		
G−29	5	B	66	35	59		
G−29	6	D	35	29	55	土師器甕	
G−29	7	D	49	46	15		
G−29	8	B	48	45	60	土師器甕 坏	
G−29	9	D	36	25	17		
G−29	10	欠番 F−29G P50へ変更					
G−29	11	D	(41)	31	33		
G−29	12	図	60	56	45	土師器甕	
G−29	13	D	68	39	42	土師器甕	
G−29	14	D	35	35	45	土師器甕	
G−29	15	B	46	45	56		
G−29	16	E	101	57	61	土師器甕 須恵器坏	
G−29	17	D	39	25	58		
G−29	18	D	42	39	22	土師器甕 模倣坏	
G−29	19	D	95	63	46	土師器甕	
G−29	20	D	91	67	41	土師器甕	
G−29	21	欠番 G−30G P23へ変更					
G−29	22	欠番 G−30G P25へ変更					
G−29	23	欠番 G−30G P24へ変更					
G−29	24	欠番 G−30G P26へ変更					
G−29	25	D	53	44	43		
G−29	26	欠番 G−30G P22へ変更					
G−29	27	欠番 F−29G P45へ変更					

第36表　ピット一覧表（2）

グリッド	番号	埋土	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備　考
G−29	28	D	45	32	37	土師器甕	
G−29	29	欠番					
G−29	30	D	52	50	42	土師器甕	
G−29	31	欠番					
G−30	1	欠番					
G−30	2	C	41	26	35		
G−30	3	E	46	32	38	土師器甕	
G−30	4	E	36	34	14	土師器甕	
G−30	5	E	44	30	39	土師器甕	
G−30	6	図	45	40	17	土師器甕(465図5)	平面図あり
G−30	7	欠番					
G−30	8	D	78	49	66		柱材遺存
G−30	9	欠番					
G−30	10	E	36	31	17	土師器甕	
G−30	11	D	80	60	34		
G−30	12	図	32	27	44	土師器甕	
G−30	13	E	60	50	9	土師器甕	
G−30	14	D	47	32	33	土師器甕	
G−30	15	A	24	23	31		
G−30	16	F	43	38	61	土師器甕	
G−30	17		63	37	21	土師器赤彩埦 模倣坏	
G−30	18	A	44	43	14		
G−30	19	D	46	34	36	土師器甕	
G−30	20	A	83	60	30	土師器甕 砥石	
G−30	21	D	69	50	53	土師器甕	柱痕あり
G−30	22	D	46	44	73	土師器甕 赤彩埦	
G−30	23	D	23	19	11		
G−30	24	D	49	41	43	土師器甕 坏	
G−30	25	B	32	29	32	土師器甕	
G−30	26	B	47	35	36		
G−30	27		25	21	12		
G−30	28		41	39	25		
G−30	29	E	40	37	34	土師器甕	
G−30	30		50	[44]	27		
G−30	31		39	26	22		
G−30	32		33	29	8		
G−31	1	欠番					
G−31	2	F	36	34	16	土師器甕	
G−31	3	欠番					
G−31	4	F	53	50	23	土師器甕 坏 焼土塊	
G−31	5	図	82	56	92	土師器甕	
G−31	6	図	54	53	55	土師器赤彩埦 模倣坏	
G−31	7		32	32	29		
G−31	8		36	32	20		
G−31	9		65	56	31		
G−32	1	図	55	51	48	須恵器坏 甕	
G−32	2		31	30	34	須恵器甕 坏	
G−32	3		49	38	26	土師器甕	
G−32	4		34	28	13	土師器甕	
G−32	5		50	45	–		
G−33	1	図	49	40	22		
G−33	2	図	61	(52)	30		
G−33	3	A	25	25	13	土師器甕	
G−33	4		47	43	18		
G−33	5		62	47	19		
G−33	6		97	80	25		
G−34	1	A	47	42	26		
G−34	2	D	26	18	51	土師器台付甕	
G−34	3	D	50	45	39	土師器甕高坏 模倣坏	
G−34	4	C	43	40	46	土師器甕 坏	
G−34	5	B	38	30	24	土師器甕 坏	
G−34	6	C	42	36	33	土師器甕 坏	
G−34	7	A	[24]	24	20		
G−34	8	C	45	38	32	土師器甕 縄文施文	
G−34	9	C	41	39	32	土師器甕	
G−34	10	A	62	40	50	土師器甕 坏	
G−34	11	C	30	30	23	土師器甕	
G−34	12	A	56	56	49	土師器甕 坏	
G−34	13	A	56	43	19		
G−34	14		45	31	38		
G−35	1	D	68	51	31	土師器甕 坏	
G−35	2	図	123	71	38		
G−35	3	D	91	59	45		
G−35	4	A	76	37	42		柱痕
G−35	5		50	44	24		SK570を変更
G−36	1	B	26	22	6		
G−36	2	A	30	30	7	土師器器台	
G−36	3	A	33	31	32	土師器甕	
G−36	4	F	66	36	60	土師器甕 北武蔵型坏	
G−36	5		26	15	6		
G−36	6		47	[24]	18		
G−36	7		69	33	15		
G−36	8		37	20	19		
G−36	9		61	[50]	28		
G−36	10		41	[25]	25		
G−36	11		46	30	25		
G−36	12		75	[26]	20		
G−37	1	欠番					
G−37	2	図	41	39	40		
G−37	3	図	17	15	17		
G−37	4	H	50	36	44		
G−37	5		52	[48]	5	土師器甕	
G−37	6	図	64	46	32	土師器甕 坏	
G−37	7	H	43	33	18	土師器甕 坏	
G−37	8	図	59	48	15		
G−37	9	図	45	42	16	土師器甕 坏	
G−37	10	図	42	29	8	土師器甕 坏	
G−37	11	A	52	41	6		
G−37	12	図	35	23	9		
G−37	13	D	43	41	8	土師器甕	
G−37	14	D	44	31	9		
G−37	15	図	74	65	32	土師器甕(465図6)	平面図あり
G−37	16	図	59	54	30		
G−37	17	図	73	42	17	土師器甕	
G−37	18	図	32	30	37		
G−37	19		39	33	10		
G−37	20	図	50	40	33		
G−37	21	図	50	48	49		
G−37	22		61	53	26		
G−37	23	A	38	36	5		焼土粒子わずかに含む
G−37	24		40	36	61	土師器甕 赤彩坏	
G−37	25		43	33	48	土師器甕 坏	
G−37	26		104	53	24		
G−37	27		78	27	27		
G−37	28		26	25	14		
G−37	29		32	31	21		
G−37	30		51	49	27		
G−37	31		67	57	42		
G−37	32		61	53	22		
G−38	1	E	39	33	18	土師器甕	
G−38	2	A	45	27	38	土師器甕	
G−38	3	A	52	39	29	土師器甕 坏	
G−38	4	図	40	35	44		
G−38	5	図	37	[33]	33		
G−38	6	図	43	37	19	土師器甕	
G−38	7	A	23	21	19		
G−38	8	D	28	26	10	土師器甕	焼土粒子含む
G−38	9	C	42	41	23	土師器甕	
G−38	10	A	31	30	38	土師器甕	
G−38	11	A	36	32	24	土師器甕	
G−38	12		46	33	27		
G−38	13		57	51	29		
G−38	14		37	36	—	土師器甕	
G−38	15		37	34	39	土師器甕	
G−38	16		37	28	8		
G−38	17		22	18	9		
G−39	1	E	49	44	8		焼土粒子多量に含む
G−39	2	C	55	54	21	土師器甕	
G−39	3	F	40	31	16		
G−39	4	欠番 H−39G P14へ変更					
G−39	5	D	73	25	48	土師器甕	
G−39	6	D	50	38	39	土師器甕	
G−39	7	図	43	39	35		
G−39	8	図	50	44	55	土師器甕	
G−39	9	D	32	30	16		
G−39	10		32	28	17		
G−39	11		70	56	23		
G−39	12		40	32	22		
G−39	13	D	66	51	35	土師器甕	焼土粒子含む
G−39	14	A	39	39	42	土師器甕	
G−39	15	A	26	26	15	土師器甕	
G−39	16	欠番 SJ320 P1へ変更					
G−39	17	欠番 SJ320 P1へ変更					
G−39	18		19	18	6		
G−40	1	A	60	58	22		柱痕あり
G−40	2	図	42	35	37		
H−28	1	第3次調査分					
H−28	2	第3次調査分					
H−28	3	E	45	40	63	土師器甕	
H−28	4	A	27	27	18		

第37表　ピット一覧表（3）

グリッド	番号	遺士	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備　考
H－28	5	A	29	20	13		
H－28	6	A	30	30	22		
H－28	7	D	34	29	20		
H－28	8	A	25	25	30		
H－28	9	A	28	26	36		柱材遺存
H－28	10	A	30	26	34	土師器壺	
H－28	11	D	35	31	29	土師器甕	
H－28	12		47	29	43		
H－28	13	A	30	27	17	土師器甕 坏 須恵器坏	
H－28	14	D	96	90	65		
H－28	15	D	96	90	65	須恵器甕(465図7・8)	柱痕あり
H－28	16	D	80	47	55		柱痕あり
H－28	17		49	31	75		
H－29	1	図	68	48	15	土師器甕	
H－29	2	H	59	37	9	土師器甕	埋土ブロック含む
H－30	1	図	91	71	52	土師器甕 坏	
H－30	2	E	70	65	40		
H－30	3	E	66	51	9	土師器甕 器台底部	
H－30	4	E	45	39	76	土師器甕	柱痕あり
H－30	5	D	46	42	22	土師器甕 坏	
H－30	6	D	50	39	60	土師器甕 坏 蓋	
H－30	7	B	40	39	20	滑石片 土師器甕	
H－30	8	A	28	27	54	滑石片 土師器甕	
H－30	9	B	78	77	60	土師器甕	
H－30	10	G	51	49	26	滑石片 土師器甕 坏	
H－30	11	B	53	46	29	土師器甕	
H－30	12	B	44	39	44	土師器甕	
H－30	13	E	32	(27)	5		
H－30	14	A	50	41	69		
H－30	15	欠番					
H－30	16	A	29	26	30		
H－30	17	A	27	23	18		
H－30	18	D	60	41	28	土師器甕	
H－30	19	A	35	32	29		
H－30	20	A	36	27	8		
H－30	21	図	96	45	34	土師器甕 坏	
H－30	22	F	54	40	13		
H－30	23	F	50	44	47	土師器甕 坏	
H－30	24	図	41	36	81	土師器坏 須恵器甕	平面図あり
H－30	25	F	52	49	37		
H－30	26	A	33	27	13	土師器甕	
H－30	27	E	41	30	29	土師器甕 把手型坏	
H－30	28	E	41	38	31	土師器甕 坏	
H－30	29	E	45	50	63	土師器甕 坏	
H－30	30		34	28	32		
H－30	31	G	32	31	35		
H－30	32		50	40	23		
H－30	33		68	60	30		
H－30	34	1	18	[8]	8		
H－31	1	図	61	47	61	土師器坏(465図9)	柱痕あり 平面図あり
H－31	2	D	55	39	32	土師器甕 坏	
H－31	3	D	55	41	28	土師器甕 段掘坏	
H－31	4		42	35	51		
H－32	1	欠番					
H－32	2		26	20	10		
H－32	3		23	20	14		
H－32	4		40	31	28		
H－33	1	D	47	36	29	土師器甕	
H－33	2	F	56	53	37		
H－33	3	欠番					
H－33	4	F	62	53	28	土師器甕 坏 須恵器坏	
H－33	5		30	28	9	土師器坏	
H－33	6		46	42	20	土師器小型坏	
H－33	7		46	45	28	土師器坏(465図10)	
H－33	8		59	45	41		
H－33	9		45	43	33		
H－33	10		40	30	29	土師器甕	
H－33	11		57	55	43		
H－33	12		84	70	42		
H－33	13		38	33	46	土師器甕 坏	
H－33	14		33	26	54		
H－33	15	E	61	52	6	土師器甕 坏	
H－33	16	E	50	45	8	土師器甕 坏	
H－33	17		38	33	24		
H－33	18		60	45	46		
H－33	19		35	21	12		
H－33	20		53	45	11		
H－33	21	F	64	[24]	26		
H－33	22		45	43	7		
H－33	23		45	[26]	5		

グリッド	番号	遺士	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備　考
H－33	24		37	36			
H－33	25		60	58	57	土師器坏(465図11)	SI241 P1を変更
H－34	1	図	67	37	25	土師器甕(465図12)	
H－34	2	欠番	SI214 P8へ変更				
H－34	3	F	95	83	48	須恵器坏 土師器甕 坏	炭化物含む
H－34	4	欠番					
H－34	5	欠番					
H－34	6	欠番					
H－34	7	欠番					
H－34	8	E	50	46	26	土師器甕	
H－34	9	E	44	40	21	須恵器甕 土師器甕	
H－34	10	D	43	35	64	土師器甕 坏	
H－34	11	D	90	73	19	土師器甕 坏	
H－34	12	E	41	41	29	土師器甕 坏	
H－34	13	D	48	37	51	土師器甕 坏	
H－34	14	D	33	32	19	土師器甕	
H－34	15	D	40	32	8	土師器甕 高坏	
H－34	16	D	63	63	33	土師器甕 模倣坏	
H－34	17	E	66	59	62	土師器甕 赤彩坏	
H－34	18	B	54	53	18	土師器甕	
H－34	19	E	66	35	38	模倣坏 無模倣坏	
H－34	20	B	43	34	31		
H－34	21	D	28	27	35	須恵器坏	
H－34	22	D	37	32	59	土師器甕 坏	
H－34	23	F	51	51	21	土師器甕 坏 須恵器坏	
H－34	24	F	57	56	127	土師器甕 坏 須恵器坏	
H－34	25	D	53	50	73		
H－34	26	F	34	33	12	土師器甕 坏	
H－34	27	F	43	39	41	土師器甕 坏	
H－34	28		47	51	5		
H－34	29		65	60	13		
H－34	30		21	19	10		
H－34	31		42	[14]	11		
H－34	32		35	35	5		
H－34	33		47	45	11		
H－34	34		76	66	8		
H－34	35		(49)	36	5		
H－35	1	図	53	43	17	土師器甕	
H－35	2	図	37	33	23	土師器甕	
H－35	3		60	14	38		
H－35	4		30	28	11		
H－36	1	D	62	44	28	土師器甕 坏	柱痕あり
H－36	2	A	29	24	18	土師器甕 坏 模倣坏	ブロック混入しない
H－36	3	欠番	SI142 P2へ変更				
H－36	4	欠番	SI142 P4へ変更				
H－36	5	A	42	41	50		
H－36	6	A	34	30	12	土師器甕 坏	
H－36	7	D	54	50	43	土師器甕 坏 底	
H－36	8	D	46	41	27	土師器甕 坏	
H－36	9	B	47	24	38	土師器甕 坏	
H－36	10	C	47	41	28	土師器甕 坏	
H－36	11	A	45	37	34	土師器甕 底	
H－36	12	E	48	37	21	土師器甕 把手型坏	
H－36	13	B	58	38	30	土師器甕 坏	
H－36	14	B	62	45	47	土師器甕 坏	
H－36	15	D	101	57	53	土師器甕 坏 高坏	
H－36	16	A	39	32	35	土師器甕	
H－36	17	D	50	47	35	土師器甕 坏	
H－36	18		54	44	24	土師器甕	
H－36	19	E	35	[23]	15	土師器甕	
H－36	20	B	40	20	8		
H－36	21	欠番	I－36G P9へ変更				
H－36	22	欠番	I－36G P10へ変更				
H－36	23	D	45	44	16	土師器甕	
H－36	24		38	31	16		
H－37	1	D	45	40	27	土師器甕 坏	
H－37	2	欠番	II－36G P23へ変更				
H－37	3	B	55	37	31	土師器甕	
H－37	4	D	40	32	16		
H－37	5	D	36	33	44	土師器甕	
H－37	6	A	51	47	12		
H－37	7	A	44	40	20		
H－37	8		42	36	14		
H－37	9		30	26	35		
H－37	10		24	22	33		
H－37	11		29	[13]	9		
H－37	12		26	25	21		
H－37	13		[74]	49	24		
H－38	1	D	37	37	20	土師器甕 坏	
H－38	2	A	31	30	19	土師器甕	

第38表　ピット一覧表（4）

グリッド	番号	埋土	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備　考
H−38	3	A	40	37	35	土師器甕	
H−38	4	F	37	34	18	土師器甕	
H−38	5		59	42	51	土師器甕	
H−38	6		62	57	62	土師器甕 比企型坏	
H−38	7	A	63	55	34	土師器甕	
H−38	8	D	35	34	32	土師器甕	
H−38	9	C	57	54	28	土師器甕 坏	
H−38	10	C	19	17	28	土師器甕 比企型坏	
H−38	11	D	36	35	11		
H−38	12	D	34	34	37		
H−38	13	A	33	32	26	土師器甕	
H−38	14	A	21	21	27	土師器甕	
H−38	15	A	21	19	21		
H−38	16	A	25	24	7		
H−38	17	A	39	39	49		
H−38	18	C	30	29	8		
H−38	19		32	[23]	38		
H−38	20		42	40	17		
H−38	21		42	23	6		
H−38	22		25	24	22		
H−38	23	D	47	45	46	土師器甕 坏	
H−38	24	A	38	38	34	土師器甕	
H−38	25	C	43	42	61		SJ 320 P5を変更
H−38	26	A	47	33	28		SJ 320 P6を変更
H−38	27		40	38	8		
H−38	28		54	[19]	15		
H−39	1	欠番 SJ320 P2へ変更					
H−39	2	A	39	[19]	33	土師器坏	
H−39	3	A	41	40	14	土師器坏 甕	
H−39	4	D	41	28	29	土師器甕 坏	
H−39	5	C	47	45	27	土師器甕 坏	
H−39	6	C	46	44	18	土師器甕 坏	
H−39	7	D	48	35	51	土師器甕	
H−39	8	D	44	44	19	土師器甕 須恵器坏	
H−39	9	D	34	32	52	土師器甕	攪乱あり 炭化物粒子含む
H−39	10	A	46	34	39	土師器甕 坏	
H−39	11	A	42	37	23	土師器甕	
H−39	12	A	28	22	26	土師器甕 坏	
H−39	13	図	66	62	23		
H−39	14	A	33	32	22		
H−39	15	A	47	41	26	土師器甕	
H−39	16	A	46	38	37	土師器甕 砥石(463図13)	
H−39	17		42	39	22	土師器甕	
H−39	18	欠番 H−38G P23へ変更					
H−39	19	D	38	35	38	土師器坏	
H−39	20	A	39	37	40	土師器甕	
H−39	21	欠番 H−38G P24へ変更					
H−39	22	D	63	52	14	土師器甕 坏	
H−39	23	D	52	51	45		
H−39	24	D	37	33	37	土師器甕	
H−39	25	D	44	42	14	土師器甕	
H−39	26	D	28	26	15		焼土粒子含む
H−39	27	E	35	35	31		
H−39	28	D	38	35	56	土師器甕 坏 赤彩埦	
H−39	29	D	39	35	29	土師器甕 坏	焼土粒子含む
H−39	30	図	34	33	28	土師器甕 坏 模造品	
H−39	31	欠番 SJ320 P4へ変更					
H−39	32	A	36	35	20	土師器甕 坏	
H−39	33	A	20	20	14		
H−39	34	A	25	25	15	土師器甕 坏	
H−39	35	A	35	30	29	土師器甕 坏 赤彩埦	
H−39	36	D	45	40	11	土師器甕 坏	焼土ブロック含む
H−39	37		40	39	29		
H−39	38		41	18	21		
H−40	1	B	61	33	32	土師器甕 比企型坏	
H−40	2	B	38	32	24	土師器甕 坏	
H−40	3	D	28	27	33		
H−40	4	D	42	40	51		
H−40	5	B	31	30	14		
H−40	6	B	42	35	18		
H−40	7	B	47	40	7		
H−40	8	B	38	35	11		炭化物粒子含む
H−40	9	D	60	48	10		
H−40	10	B	36	26	32	土師器甕 坏	
H−40	11	D	42	39	10		
H−40	12	欠番					
H−40	13	欠番					
H−40	14	欠番					
H−40	15	欠番					
H−40	16	B	(30)	27	6		
H−40	17	D	34	32	37	土師器甕 坏 赤彩埦	
H−40	18	D	31	30	30	土師器高坏	
H−40	19	D	34	33	15	土師器甕	
H−40	20	E	83	58	14		
H−40	21	欠番					
H−40	22	C	30	30	11	土師器甕	
H−40	23	A	47	42	22		
H−40	24	B	30	29	17	土師器甕	
H−40	25	欠番 H−41G P3へ変更					
H−40	26	欠番 I−40G P7へ変更					
H−40	27	C	61	60	68	土師器甕 比企型坏	粘性強い
H−40	28	A	65	57	37	土師器甕	
H−40	29	A	60	47	52	土師器甕	
H−40	30	D	(46)	42	21	土師器甕 坏	
H−40	31	B	57	68	18	土師器甕 坏	
H−40	32	D	34	30	25		
H−40	33	欠番					
H−40	34	D	67	40	26	土師器甕	
H−40	35	B	74	47	10	土師器甕	
H−40	36	欠番 I−40G P8へ変更					
H−40	37	欠番					
H−40	38	欠番					
H−40	39	B	57	48	43	土師器甕 模倣坏	
H−40	40	D	51	27	22	土師器甕	
H−40	41	D	53	48	25	土師器甕	
H−40	42	欠番					
H−40	43	B	43	36	24		
H−40	44	欠番 SJ320 P3へ変更					
H−40	45	D	40	39	42	土師器甕 坏	
H−40	46	欠番 G−40G P2へ変更					
H−40	47	欠番 SJ320 P4へ変更					
H−40	48		41	34	10		
H−40	49		53	43	64		
H−40	50		72	66	10		
H−40	51		45	37	19		
H−41	1	G	62	49	10		粘性強い
H−41	2	D	70	57	13	土師器甕 坏	
H−41	3	D	30	22	25		
H−41	4		[36]	35	9		
H−41	5		55	53	31		
H−41	6		63	59	38		
I−28	1	A	39	29	59		
I−28	2	A	44	36	29		
I−28	3	A	23	22	21		
I−28	4	A	27	21	6	土師器甕	
I−28	5	A	37	33	6		
I−28	6	F	40	37	29		
I−28	7	A	56	46	39		
I−28	8	A	35	34	8		
I−28	9	F	31	31	35		
I−28	10	F	31	29	35		
I−28	11	B	39	32	44		
I−28	12	A	32	30	24		
I−28	13		31	23	9		
I−28	14		26	22	21		
I−28	15		21	20	14		
I−29	1	D	46	44	63		
I−29	2	D	50	46	32	土師器甕	
I−29	3	D	78	53	33	土師器甕	
I−29	4	A	45	42	20	土師器甕	
I−29	5	A	34	31	16	土師器甕	
I−29	6	A	30	29	6		
I−29	7	A	85	35	19		
I−29	8	E	93	30	25		
I−29	9	E	61	28	22		
I−29	10	E	67	59	117		
I−29	11	F	45	33	33		
I−29	12	A	46	42	23		
I−29	13	A	35	23	12		
I−29	14	E	45	33	19		
I−29	15	A	34	31	14		
I−29	16	E	48	39	38	土師器甕 坏	
I−29	17	E	55	40	30	土師器甕	
I−29	18	E	71	42	14		
I−29	19	E	53	48	15	土師器甕 模倣坏	
I−29	20		28	26	64		
I−29	21		31	30	14	土師器甕	
I−29	22		35	33	39	土師器甕	
I−29	23		93	50	24		
I−29	24	D	53	37	39		

第39表　ピット一覧表（5）

グリッド	番号	埋土	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
Ⅰ−29	25	D	30	30	39		
Ⅰ−29	26	D	25	21	25	土師器甕 坏 赤彩埦	
Ⅰ−29	27	D	92	35	48		
Ⅰ−29	28		58	41	44	土師器甕 北武蔵型坏	
Ⅰ−29	29		24	24	14	土師器甕 坏	
Ⅰ−29	30	D	45	34	42	土師器甕	
Ⅰ−29	31	A	26	15	28		
Ⅰ−29	32		41	29	27		
Ⅰ−29	33		40	36	42		
Ⅰ−29	34		37	[30]	12		
Ⅰ−29	35		41	34	21		
Ⅰ−29	36		31	29	22		
Ⅰ−29	37		35	34	12		
Ⅰ−29	38		29	27	28		
Ⅰ−29	39		34	33	18		
Ⅰ−29	40		32	24	10		
Ⅰ−29	41		38	36	19		
Ⅰ−29	42		50	47	80		
Ⅰ−30	1	A	40	[29]	12	土師器甕	
Ⅰ−30	2	A	45	42	32		
Ⅰ−30	3		52	51	51		
Ⅰ−30	4		56	49	92	土師器甕 坏	
Ⅰ−30	5	欠番 SJ278貯蔵穴1へ変更					
Ⅰ−30	6	H	43	30	27	土師器甕 坏 赤彩埦	焼土粒子含む
Ⅰ−30	7	A	44	43	10		
Ⅰ−30	8	C	43	42	40	土師器甕 赤彩埦	
Ⅰ−30	9	A	52	31	40	土師器甕	
Ⅰ−30	10	E	41	36	10	土師器甕	
Ⅰ−30	11	F	23	19	30	土師器甕	
Ⅰ−30	12	A	35	30	25		
Ⅰ−30	13	A	26	23	21		
Ⅰ−30	14	A	35	34	39	土師器甕 高坏	
Ⅰ−30	15	A	27	19	23		
Ⅰ−30	16	A	37	34	17		
Ⅰ−30	17	C	28	26	18	土師器甕	
Ⅰ−30	18	A	38	31	20		
Ⅰ−30	19	F	38	37	40	土師器甕 模倣坏	炭化物粒子含む
Ⅰ−30	20	欠番 J−30G P1へ変更					
Ⅰ−30	21	D	87	61	67	土師器甕	柱痕あり
Ⅰ−30	22		51	49	46	土師器甕	
Ⅰ−30	23	欠番 SJ278 P3へ変更					
Ⅰ−30	24	D	45	40	53	土師器甕	
Ⅰ−30	25	E	85	68	53	土師器甕 坏	
Ⅰ−30	26	E	38	38	10	土師器高坏	
Ⅰ−30	27	B	46	45	20	あり	
Ⅰ−30	28	B	53	52	23	土師器甕	
Ⅰ−30	29	E	42	40	12	土師器甕	
Ⅰ−30	30	欠番 SJ278貯蔵穴2へ変更					
Ⅰ−30	31	D	60	34	21	土師器甕 坏	
Ⅰ−30	32		74	59	49	土師器甕 坏	
Ⅰ−30	33		67	53	70	あり	
Ⅰ−30	34	A	31	23	12		
Ⅰ−30	35	A	20	20	10		
Ⅰ−30	36	D	37	33	10		
Ⅰ−30	37	欠番 Ⅰ−31G P3へ変更					
Ⅰ−30	38	欠番 Ⅰ−31G P4へ変更					
Ⅰ−30	39	欠番 Ⅰ−31G P2へ変更					
Ⅰ−30	40	D	70	47	40	土師器甕 坏	
Ⅰ−30	41	欠番					
Ⅰ−30	42		38	37	41		
Ⅰ−30	43		[55]	[22]	31		
Ⅰ−30	44		28	24	44		
Ⅰ−30	45		29	21	18		
Ⅰ−30	46		28	25	7		
Ⅰ−30	47		40	35	57		
Ⅰ−30	48		28	28	24		
Ⅰ−31	1	欠番 J−31G P1へ変更					
Ⅰ−31	2	A	35	24	28		
Ⅰ−31	3	A	28	27	22		
Ⅰ−31	4	D	56	47	21		
Ⅰ−31	5		27	31	19		
Ⅰ−32	1		33	28	44		
Ⅰ−32	2		31	20	5		
Ⅰ−32	3		67	13	31		
Ⅰ−32	4		58	40	60		
Ⅰ−32	5		48	39	18		
Ⅰ−32	6		25	23	−		
Ⅰ−32	7		48	43	43		
Ⅰ−33	1	E	85	75	49		
Ⅰ−33	2	B	52	43	63		

グリッド	番号	埋土	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
Ⅰ−33	3	E	76	52	43		
Ⅰ−33	4	E	84	40	43		
Ⅰ−33	5	E	55	53	25	土師器甕 坏	
Ⅰ−33	6	欠番					
Ⅰ−33	7	D	46	42	55	土師器甕	
Ⅰ−33	8	A	80	65	36		
Ⅰ−33	9	E	74	68	41		
Ⅰ−33	10	E	51	34	38		
Ⅰ−33	11	E	40	32	13	須恵器坏 土師器甕	
Ⅰ−33	12	A	47	38	58	土師器台付甕 須恵器甕	
Ⅰ−33	13	欠番					
Ⅰ−33	14	E	86	69	56	土師器甕 比企型坏	
Ⅰ−33	15	E	69	54	44		
Ⅰ−33	16	B	33	[26]	28		
Ⅰ−33	17	E	64	38	14	土師器甕	
Ⅰ−33	18		71	69	49	土師器甕	
Ⅰ−33	19	欠番					
Ⅰ−33	20	欠番					
Ⅰ−33	21		48	41	24		
Ⅰ−33	22		28	22	18		
Ⅰ−33	23		83	74	37		
Ⅰ−33	24		61	55	22		
Ⅰ−33	25		20	[17]	34		
Ⅰ−34	1	欠番					
Ⅰ−34	2	欠番					
Ⅰ−34	3	欠番					
Ⅰ−34	4	欠番					
Ⅰ−34	5	E	35	34	40		
Ⅰ−34	6	欠番					
Ⅰ−34	7	欠番					
Ⅰ−34	8		35	34	11	土師器甕	
Ⅰ−34	9		48	43	9	土師器甕	
Ⅰ−34	10		79	51	31	土師器甕	
Ⅰ−34	11		50	25	56		
Ⅰ−34	12		38	28	40	土師器甕	
Ⅰ−34	13		52	47	45		
Ⅰ−34	14		65	58	46		
Ⅰ−34	15		67	64	29		
Ⅰ−34	16		52	43	13		
Ⅰ−34	17		47	37	30		
Ⅰ−34	18		37	[27]	22		
Ⅰ−34	19		39	37	8		
Ⅰ−35	1	D	38	32	35	土師器甕	
Ⅰ−35	2	A	18	18	8		
Ⅰ−35	3	D	80	58	45		柱痕あり
Ⅰ−35	4	D	32	31	14		
Ⅰ−35	5	欠番					
Ⅰ−35	6	A	30	23	30	土師器甕	
Ⅰ−35	7	A	24	24	−		
Ⅰ−35	8	欠番					
Ⅰ−35	9	D	69	60	62		
Ⅰ−35	10		48	[26]	3		
Ⅰ−35	11		24	16	13		
Ⅰ−35	12	関	37	35	28		
Ⅰ−35	13		46	30	6		
Ⅰ−35	14		20	17	8		
Ⅰ−35	15		55	52	52		
Ⅰ−36	1	図	72	56	44	土師器台付甕(465図14)	平面図あり
Ⅰ−36	2	E	32	30	8		
Ⅰ−36	3	E	55	37	6		
Ⅰ−36	4	欠番 J−36G P−12へ変更					
Ⅰ−36	5	図	44	35	28	土師器甕 坏	
Ⅰ−36	6	関	39	35	36		
Ⅰ−36	7		35	24	22		
Ⅰ−36	8		38	[27]	41		
Ⅰ−36	9		68	51	40	土師器甕	
Ⅰ−36	10		47	36	15	土師器甕	
Ⅰ−36	11		32	29	30		
Ⅰ−36	12		24	[21]	55		
Ⅰ−37	1	D	46	34	12		
Ⅰ−37	2	D	56	49	18	土師器甕	
Ⅰ−37	3	C	22	21	9		
Ⅰ−37	4	B	50	32	55	土師器甕 坏	柱痕あり
Ⅰ−37	5	B	46	39	26	土師器甕	
Ⅰ−37	6	D	43	40	17		
Ⅰ−37	7	E	36	33	23		
Ⅰ−37	8	D	35	26	24		
Ⅰ−37	9	B	36	36	22		
Ⅰ−37	10	欠番					
Ⅰ−37	11	D	59	47	28		柱痕あり

第40表　ピット一覧表（6）

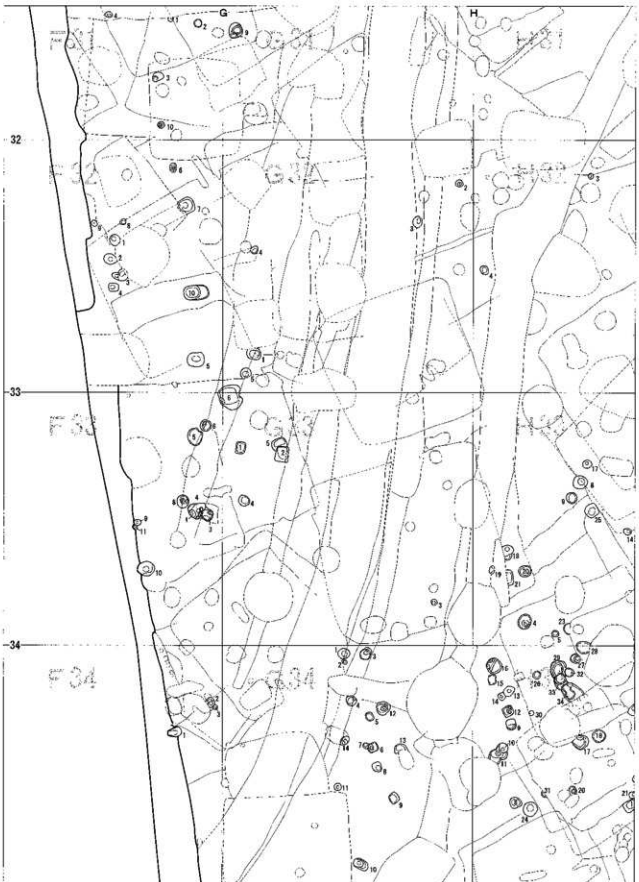
グリッド	番号	埋土	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
I－37	12	D	42	41	48		
I－37	13	D	45	32	27		柱痕あり
I－37	14	D	43	37	25		
I－37	15	B	33	30	51		
I－37	16	E	29	26	68	比企型坏	焼土粒子・炭多量に含む
I－37	17		65	59	15		
I－37	18		59	[30]	17		
I－37	19	図	41	36	52	土師器甕(465図15)	SJ132 P1より変更
I－37	20		29	25	29		
I－38	1	E	85	77	56	土師器甕	
I－38	2	D	55	45	56	土師器甕	
I－38	3	A	45	45	31	土師器甕	
I－38	4	A	59	45	39	土師器甕 埦	
I－38	5	D	25	25	7		
I－38	6		28	25	47		
I－38	7	D	41	29	52		
I－38	8	D	40	40	82		
I－38	9		28	21	55		
I－38	10		(39)	19	38		
I－38	11		42	36	25		
I－38	12		46	30	23		
I－39	1	図	60	46	20		
I－39	2	F	43	41	14		
I－39	3	図	65	52	35		
I－39	4		23	22	—		
I－39	5	欠番					
I－39	6	D	30	27	45		
I－39	7	A	28	27	30		
I－39	8	A	41	41	35		
I－39	9	A	30	29	30		
I－39	10	F	35	[25]	23		
I－39	11	A	25	21	20		
I－39	12	A	40	30	19		
I－39	13	A	34	31	39		
I－39	14	A	42	35	32	土師器甕	
I－39	15	D	67	48	48	土師器甕	
I－39	16	A	67	46	52	土師器甕	
I－39	17		38	34	38	土師器甕	
I－39	18	E	70	65	16	土師器甕	
I－39	19	E	23	[22]	4		
I－39	20		37	35	23		
I－39	21		42	41	11		
I－39	22		58	55	14		
I－39	23		35	31	8		
I－40	1	欠番　I－36G　P9へ変更					
I－40	2	A	27	23	13		
I－40	3	F	65	47	50	土師器甕	
I－40	4	F	34	30	27		
I－40	5	F	36	35	25	土師器甕	
I－40	6	F	34	30	38	台付甕	
I－40	7	D	70	29	26	土師器甕	
I－40	8	D	53	47	16		
J－30	1	図	47	42	34	土師器甕 坏 須恵器甕	
J－31	1	D	42	42	31	土師器甕	
J－32	1		44	40	30		
J－32	2		[51]	36	32		
J－32	3		83	66	52		
J－33	1	A	42	41	51		
J－33	2	欠番					
J－33	3	F	77	56	39		
J－34	1	C	35	32	11		
J－34	2	C	38	34	25	須恵器坏	
J－34	3	C	60	25	22	土師器甕	
J－34	4	F	40	[28]	38		
J－34	5	E	37	34	41		
J－34	6	欠番					
J－34	7	欠番					
J－34	8		[33]	20	5		
J－34	9		63	61	39		
J－34	10		37	31	42		
J－35	1	図	39	35	23	土師器甕 須恵器坏	
J－35	2	図	123	105	78	土師器甕	
J－35	3		70	[24]	—		
J－35	4		23	19	36		
J－35	5		25	23	43		
J－35	6		33	25	17		
J－36	1	図	45	40	73	土師器甕	
J－36	2	図	40	32	53	土師器甕	
J－36	3	E	28	27	31	土師器甕	
J－36	4	図	85	78	70		
J－36	5	欠番					
J－36	6		39	[28]	13		
J－36	7		69	33	30		
J－36	8	D	41	35	9	土師器甕	
J－36	9	B	23	22	7		
J－36	10		23	19	22		
J－36	11	図	50	38	67		
J－36	12	図	62	47	39	土師器甕 模倣坏	
J－37	1	J	31	31	19		
J－37	2	図	70	53	60		
J－37	3	図	70	46	30		
J－37	4	図	35	31	61	土師器甕	
J－37	5	図	43	38	42	土師器甕	
J－37	6	図	45	39	50		
J－37	7	図	55	43	132	土師器坏・木器(466図1・2)	平面図あり
J－37	8		38	[22]	7		
J－37	9		32	28	14		
J－37	10	図	71	68	34		
J－37	11		30	25	21		
J－37	12		30	30	12		
J－37	13		32	32	55		SJ133 P3より変更
J－38	1	D	42	39	23	あり	柱痕あり
J－38	2	D	45	44	39		
J－38	3		44	37	14		
J－38	4		45	25	18		
K－36	1	欠番　J－36G　P9へ変更					
K－36	2	欠番　J－36G　P8へ変更					
K－36	3	D	55	41	8	土師器坏	
K－36	4	D	36	34	6	土師器甕	
K－36	5	図	30	28	30	土師器甕	
K－36	6	D	48	38	8		
K－37	1	A	74	51	12	土師器坏	
K－37	2	図	68	65	47	土師器甕 模倣坏	
K－37	3	A	71	[65]	12	土師器甕 坏	
K－37	4	D	71	60	8		
K－37	5		56	[39]	12		
K－37	6		24	18	5		

埋土凡例

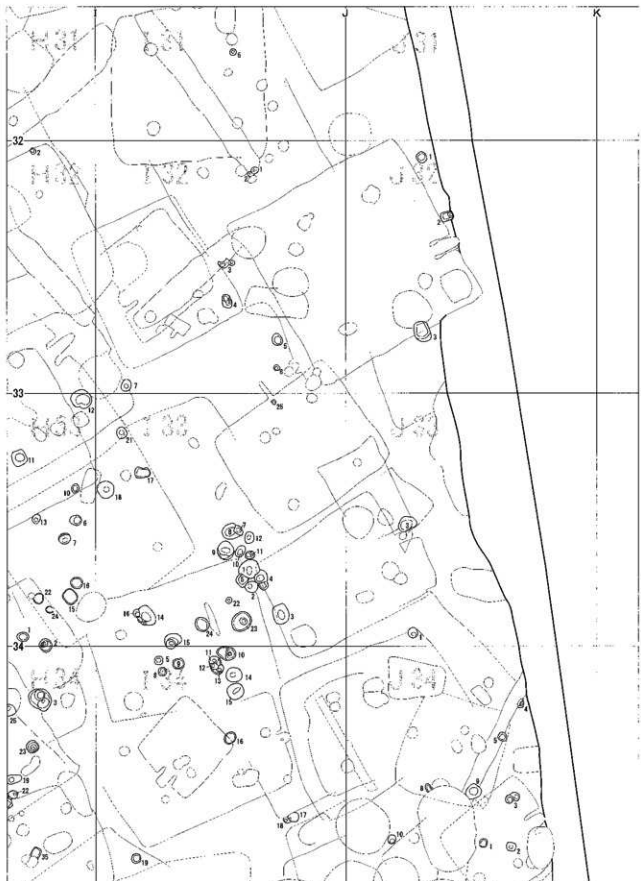
A：黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土ブロック含む
B：にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄褐色土ブロックを含まない
C：黒色土 7.5YR1.7/1 黄褐色土ブロックを含まない
D：にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄褐色土ブロック含む
E：褐色土 10YR4/6 焼土粒子含む
F：黒褐色土 10YR3/1 焼土粒子含む
G：褐灰色土 10YR4/1 焼土粒子・炭化物粒子含む
H：灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む
I：灰色土 N4/0 粘土層
J：緑黒色土 10G2/1

第452図　ピット全体図（1）

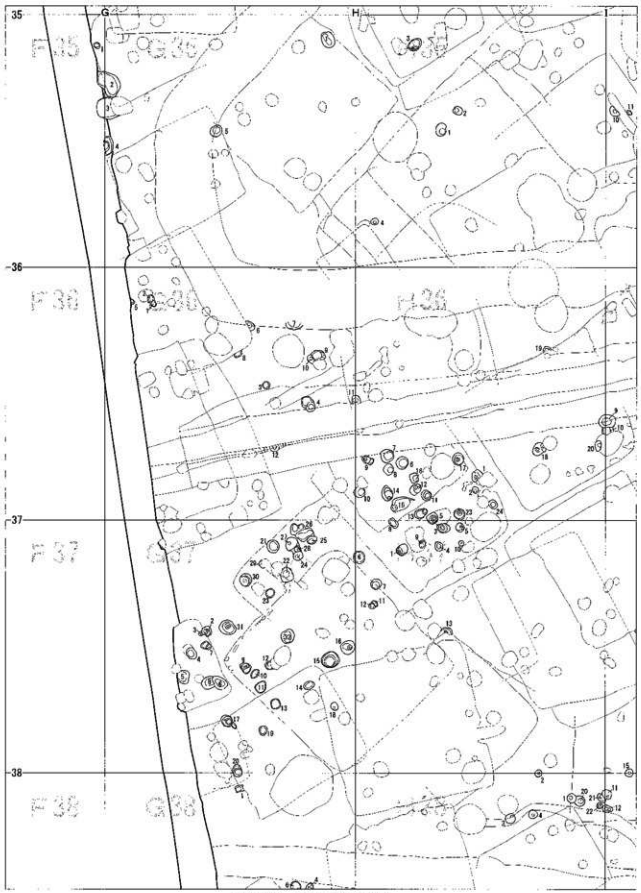
第453図　ピット全体図（2）



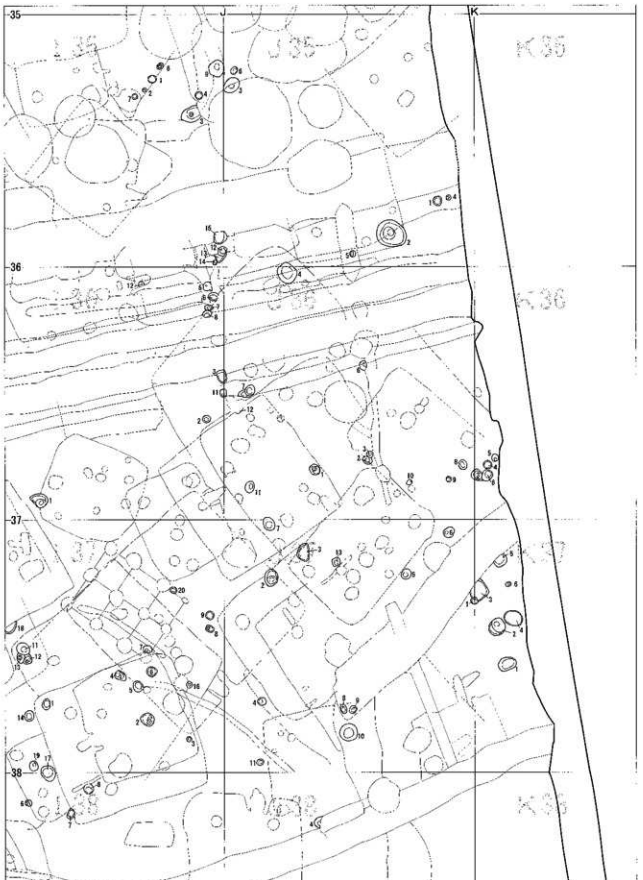
第454図　ピット全体図 (3)



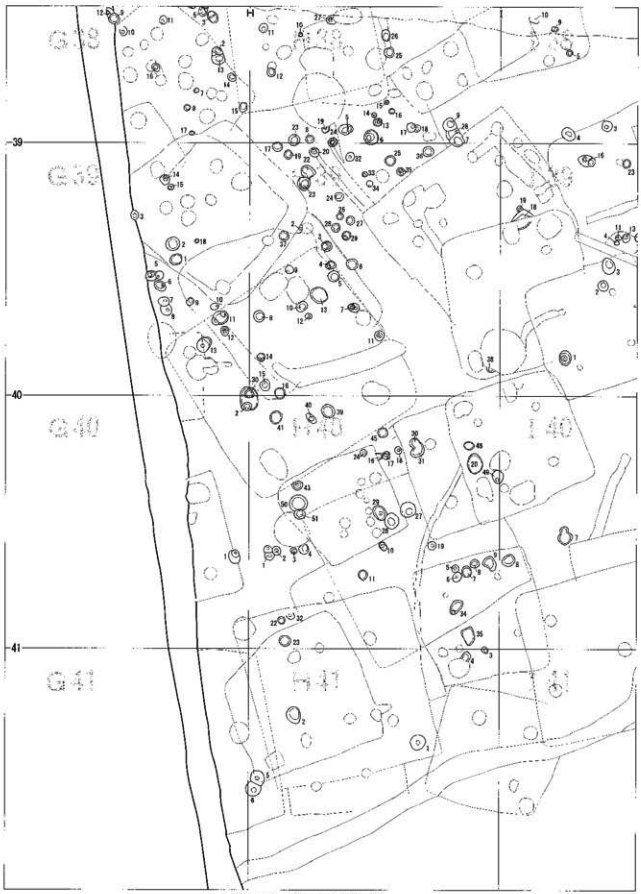
第455図　ピット全体図（4）



第456図　ピット全体図（5）

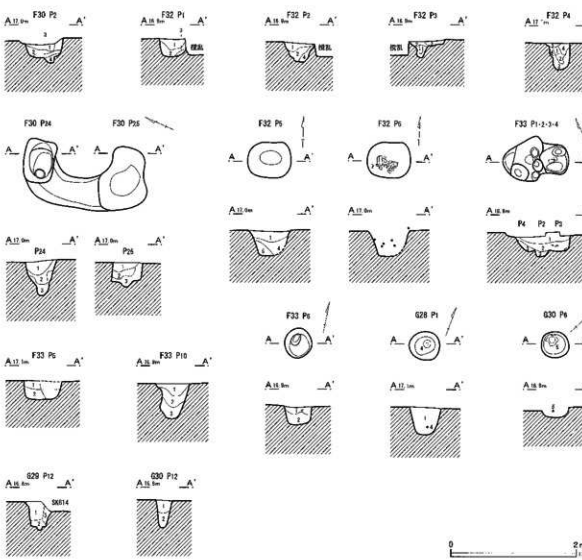


第457図　ピット全体図（6）



第458図　ピット全体図（7）

第459図　ピット全体図（8）



F30 P2

1	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム ブロック主体 ローム ブロック（φ10～30mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
2	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム ブロック（φ10～20mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
3	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム土主体 ローム ブロック少量 しまりあり 粘性ややあり
4	黒褐色土	10YR3/1	ローム ブロック（φ10mm）少量 しまり弱い 粘性あり

F30 P24・P25

1	黒色土	10YR2/1	ローム ブロック（φ10～30mm）・ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
2	黒色土	10YR2/1	含有物を含まない しまりあり 粘性ややあり
3	黒色土	10YR2/1	ローム ブロック（φ10～70mm）少量 しまりあり 粘性ややあり（埋戻し）

F32 P1～P5

1	黒色土	10YR4/6	焼土粒子含む
2	にぶい黄褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック含む
3	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土ブロック含む
4	黒色土	10YR3/1	焼土粒子含む
5	にぶい黄褐色土	10YR5/3	含有物を含まない

F33 P2～P4

1	黒褐色土	10YR3/2	焼土ブロック（φ2～5mm）多量 炭化物粒子（φ2～3mm）含む 黄褐色土ブロック（φ3～6mm）少量
2	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック（φ2～5mm）含む 炭化物粒子（φ2～3mm）少量
3	灰オリーブ色土	10YR5/2	緑灰色粘土ブロック（φ3～10mm）多量

F33 P5

1	黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック（φ5～40mm）含む 焼土ブロック少量 炭化物粒子含む
2	黒褐色土	10Y2/2	焼土ブロック少量 炭化物粒子含む

F33 P6

1	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック少量 焼土粒子微量 炭化物粒子含む
2	オリーブ黒色土	7.5Y3/2	地山ブロック多量 鉄分含む

F33 P10

1	黒褐色土	10Y2/2	地山ブロック（φ1～20mm）多量 焼土ブロック（φ1～20mm）・炭化物粒子含む
2	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック少量 炭化物粒子含む
3	オリーブ黒色土	7.5Y2/2	地山ブロック少量 粘性強い

G28 P1

1	にぶい黄褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック含む

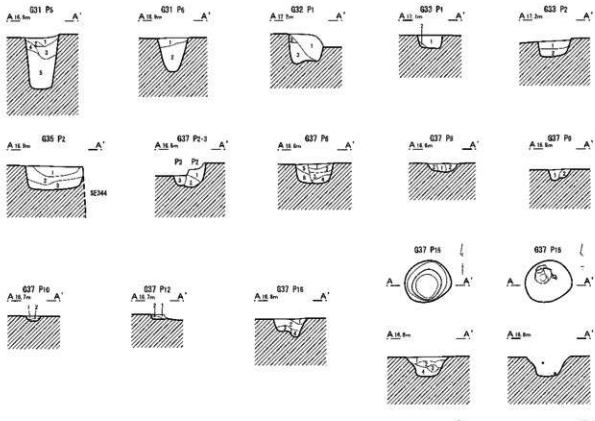
G29G P12

1	黒灰色土	10YR4/1	ローム ブロック（φ10～20mm）少量 しまり・粘性ややあり
2	黒灰色土	10YR4/1	焼質の粒質土 しまりややあり 粘性あり
3	褐灰色土	10YR4/1	ローム ブロック（φ10～20mm）少量 しまりあり 粘性ややあり

G30 P12

1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ1～20mm）・炭化物含む
2	黒褐色土	10YR2/3	黄褐色土ブロック少量 炭化物含む

第460図 ピット（1）



G31 P5
1 褐灰色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック少量 焼土ブロック微量 炭化物含む
2 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック（φ1～30mm）多量 炭化物含む
3 黒色土 10YR2/1 黄褐色土ブロック（φ1～10mm）・炭化物含む
4 黒褐色土 10YR2/2 炭化物含む
5 黒色土 10YR1.7/1 黄褐色土ブロック少量

G31 P6
1 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土ブロック（φ1～5mm）・炭化物含む 焼土ブロック微量
2 黒色土 10YR2/1 黄褐色土ブロック少量 炭化物含む

G32 P1
1 黒褐色土 10YR3/2 黄灰色シルト粒子（φ2～3mm）含む
2 灰黄褐色土 10YR4/2 灰灰色シルトブロック（φ3～5mm）多量
3 黒褐色土 10YR3/2 黄灰色シルトブロック（φ3～5mm）・炭化物粒子少量

G33 P1
1 黒色土 2.5Y2/1 地山ブロック・焼土ブロック少量
2 黒色土 10YR1.7/1 地山ブロック・焼土ブロック少量

G33 P2
1 黒色土 2.5Y2/1 地山ブロック・焼土ブロック少量
2 褐灰黄色土 2.5Y4/2 地山ブロック（φ1～20mm）多量 焼土ブロック少量

G35 P2
1 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む 焼土粒下
2 黒色土 10YR3/1 黄褐色土粒子（φ1～2mm）含む 焼土粒子（φ1～2mm）少量
3 黄灰色土 2.5Y3/1 黄褐色土粒子（φ1～2mm）・黄褐色土ブロック（φ3～6mm）少量

G37 P2-P3
1 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック（φ10～30mm）少量 しまりあり 粘性ややあり（環状に）
2 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック主体 しまりあり 粘性ややあり
3 褐灰色土 7.5YR4/1 しまりあり 粘性ややあり

G37 P6
1 褐灰色土 10YR4/1 しまりあり 粘性ややあり
2 灰黄褐色土 10YR6/2 ローム粒子（φ1～8mm）少量 しまり・粘性あり
3 褐灰色土 10YR4/1 しまり・粘性あり
4 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック（φ5～10mm）少量 しまりややあり 粘性あり
5 灰黄褐色土 10YR1/2 ロームブロック（φ10～30mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
6 灰黄褐色土 10YR1/2 しまりあり 粘性ややあり

G37 P8
1 褐灰色土 10YR4/1 しまりややあり 粘性あり（酸化）
2 灰黄褐色土 10YR5/2 ロームブロック（φ10～20mm）少量 しまり・粘性ややあり

G37 P9
1 黒色土 10YR2/1 しまり弱い 粘性強い（柱痕）
2 黒褐色土 7.5YR3/2 ロームブロック（φ10～30mm）少量 しまりあり 粘性ややあり（壁上）

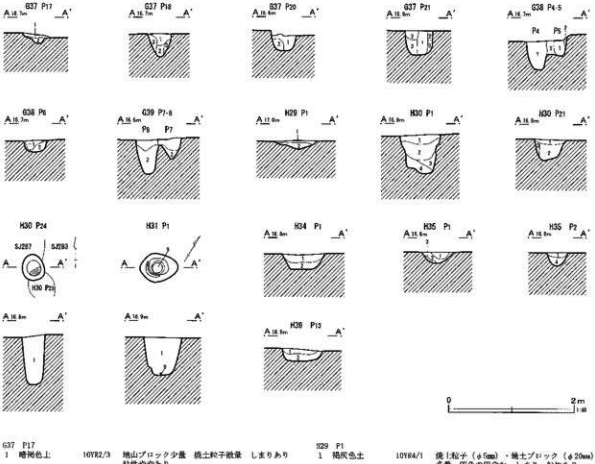
G37 P10
1 黒褐色土 10YR3/1 しまりあり 粘性ややあり
2 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック（φ10～30mm）少量 しまりあり 粘性ややあり

G37 P12
1 黒褐色土 10YR3/1 しまりあり 粘性ややあり
2 黒褐色土 10YR2/1 ロームブロック（φ10～20mm）少量 しまりあり 粘性ややあり

G37 P15
1 灰褐色土 7.5YR7/N しまり強い 十器片少量
2 褐灰色土 10YR5/1 地山ブロック（φ1～3mm）・炭（φ1～2mm）少量 しまりややあり 十器片少量
3 褐灰色土 7.5YR4/1 しまり弱い 土器片少量
4 灰灰色土 10YR4/1 地山ブロック（φ2～10mm）少量 しまりややあり

G37 P16
1 明色土 7.5YR4/4 地山ブロック（φ1～15mm）少量 しまり強い
2 黄褐色土 10YR4/3 地山ブロック（φ1～30mm）・粘土（φ1～2mm）・炭（φ1～2mm）少量
3 黒褐色土 7.5YR3/2 地山ブロック（φ1～50mm）多量
4 黒褐色土 7.5YR3/1 地山ブロック（φ1～20mm）少量 しまり弱い

第461図 ピット（2）



G37 P17
1 暗褐色土 10YR2/3 地山ブロック少量 焼土粒子微量 しまりあり 粘性ややあり
2 暗褐色土 10YR2/3 地山ブロック多量 炭化物少量 (部分的に含む) しまりあり 粘性ややあり

G37 P18
1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (φ10mm~30mm) 少量しまり・粘性ややあり
2 黒色土 10YR2/1 粘質土層 しまり弱い 粘性ややあり (柱痕)
3 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック (φ10mm~30mm) 少量しまり・粘性あり

G37 P20
1 黒色土 7.5YR2/1 しまり・粘性ややあり
2 黒色土 7.5YR2/1 ロームブロック (φ10~20mm) 少量 しまり弱い 粘性あり

G37G P21
1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (φ30~100mm) 多量 しまりあり 粘性弱い (柱痕)
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒子 (φ2~5mm)・ロームブロック (φ20~50mm) 少量 しまりややあり 粘性弱い
3 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒子 (φ1~5mm)・ロームブロック (φ10mm) 微量 しまりややあり 粘性弱い

G38 P4·P5
1 黒褐色土 10YR3/1 粘性のある灰色上主体 黄褐色土粒子 (φ2mm) 含む 炭化物少量 しまりややあり 粘性あり SBP5は黄褐色上粒子 (φ2mm) 多少混在む
2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色ブロック (φ10~20mm) 含む しまりややあり 粘性あり

G38 P6
1 暗灰色土 10YR4/1 焼土粒子 (φ7mm) 微量 しまりややあり 粘性弱い 土師器を含む
2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色ブロック (φ10mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり

G39 P7·P8
1 黒褐色土 10YR3/1 灰色上ブロック (φ20mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
2 灰黄褐色土 10YR5/2 黄褐色上ブロック主体 灰色粘土少量 しまり・粘性あり

H29 P1
1 暗灰色土 10YR4/1 焼土粒子 (φ5mm)・焼土ブロック (φ20mm) 多量 灰色の炭含む しまり・粘性あり
2 灰黄褐色土 10YR5/2 灰色土ブロック (φ10~20mm)・焼土ブロック (φ10~20mm) 含む しまり・粘性あり

H30 P1
1 暗灰色土 10YR4/1 黄褐色粘土粒子 (φ1~2mm) 少量 炭化物粒子 (φ2~5mm) 多量
2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ5~8mm) 他
3 灰黄褐色土 10YR5/2 黄褐色粘土ブロック (φ20~30mm) 多量
4 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色粘土ブロック (φ20~30mm) 他

H30 P21
1 暗灰色土 10YR4/1
2 黒褐色土 10YR2/1
3 オリーブ黒色土 7.5Y3/1
H30 P24
1 灰色土 10YR3/1 焼土粒子含む

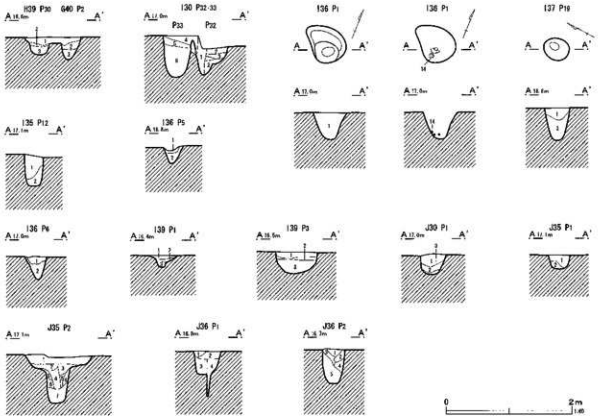
H31 P1
1 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄褐色上ブロック含む

H34 P1
1 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土ブロック微量 しまり・粘性ややあり
2 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック (φ10~50mm) 少量 しまりややあり 粘性あり

H35 P1·P2
1 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土粒子 (φ1~5mm) 少量 しまり・粘性ややあり
2 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子 (φ1~5mm) 少量 しまり・粘性ややあり
3 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム上主体 しまり・粘性ややあり
4 灰色土 7.5YR2/1 しまりややあり 粘性あり

H29 P13
1 褐灰色土 10YR4/1 粘性のある灰色土主体 焼土粒子 (φ3mm)・炭化物少量 しまりあり 粘性ややあり
2 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄褐色上ブロック (φ3~10mm) 多量 層の下部には灰色の粘質のある上を含む しまり・粘性あり

第462図 ピット (3)



H39 P30・H40 P2

1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック（φ5mm）・焼土粒子（φ5mm）微量　しまりややあり　粘性あり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ20～30mm）多量　灰色粘土少量　しまりややあり　粘性あり HH40 P2の方が、灰色粘土の量がやや多い
3	黒褐色土	10YR3/1	灰色土ブロック　灰色土ブロック（φ10mm）少量 しまりなし　粘性あり

130 P32・33

1	暗褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ5～8mm）少量（斑点）
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土ブロック（φ5～8mm）多量
3	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック（φ5～8mm）少量
4	灰黄褐色土	10YR4/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・焼土少量
5	黒褐色土	10YR3/2	灰褐色土ブロック（φ5～8mm）少量
6	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒土ブロック（φ5～8mm）・焼土少量

135 P12

1	黒褐色土	10YR3/2	地山ブロック（φ1～10mm）少量
2	黒褐色土	10YR2/2	地山ブロック（φ1～40mm）多量

136 P1

1	褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック含む

136 P5

1	灰白色土	5Y7/2	地山層厚上
2	黒色土	5Y2/1	地山ブロック少量　粘性強い

136 P6

1	黒褐色土	2.5Y3/1	焼土ブロック多量　焼土粒子・炭化物少量
2	黒褐色土	10YR3/2	地山ブロック（φ1～15mm）・焼土粒子・炭化物少量

137 P19

1	褐灰色土	10YR4/1	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）図　炭化物少量
2	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）微量

139 P1

1	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック少量　炭化物含む
2	黒褐色土	10YR2/2	炭化物少量
3	黒褐色土	10YR2/3	黄褐色土ブロック少量

139 P3

1	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック少量
2	黒色土	10YR2/1	炭化物含む
3	黒褐色土	10YR3/2	炭化物含む

130P1

1	黒褐色土	10YR3/1	コーム粒子（φ1～5mm）少量　しまり・粘性あり
2	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子（φ1～5mm）・ローム土ブロック多量 しまり・粘性あり
3	黒褐色土	10YR3/2	2層とローム土ブロックの混合土　しまり・粘性あり

135 P1

1	黒褐色土	10YR2/2	地山ブロック（φ1～10mm）少量　炭化物微量
2	黒色	5Y2/1	地山ブロック（φ1～10mm）多量

135 P2

1	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック（φ1～5mm）含む　焼土ブロック少量　炭化物含む
2	黒褐色土	5YR3/1	地山ブロック（φ1～10mm）・焼土ブロック少量
3	暗灰黄色土	2.5Y5/2	地山ブロック（φ1～20mm）多量　焼土ブロック少量　炭化物（φ1～15mm）含む
4	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1～10mm）多量　焼土ブロック・炭化物含む
5	黒褐色土	10YR2/3	地山ブロック（φ1～10mm）少量　炭化物含む
6	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック（φ1～20mm）多量　炭化物含む
7	オリーブ黒色土	5YR3/1	地山ブロック（φ1～15mm）多量

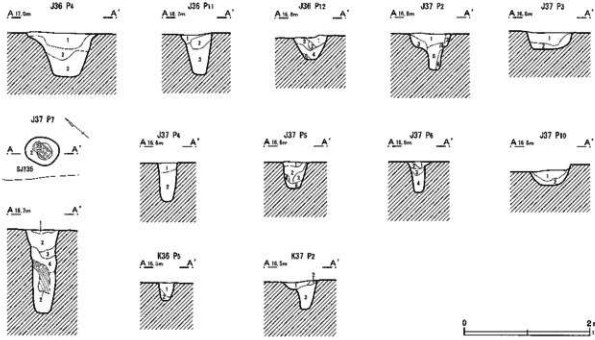
136 P1

1	黒色土	2.5GY2/1	焼山ブロック（φ1mm～10mm）含む　しまり強い
2	暗灰色土	N3/0	地山ブロック少量　炭化物含む
3	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1mm～20mm）多量　焼土ブロック微量
4	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック（φ1mm～30mm）少量　粒焼か

136 P2

1	黒褐色土	7.5Y3/1	地山ブロック少量　焼土ブロック含む
2	黒褐色土	10YR2/2	地山ブロック少量
3	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック（φ1～10mm）含む　焼土ブロック少量
4	黒色土	5Y2/1	地山ブロック（φ1～30mm）多量　炭化物含む
5	黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック（φ1～20mm）・軟分含む

第463図　ピット（4）



J36 P4

1	暗褐色土	10YR3/4	炭褐色土ブロック（φ1～30mm）少量 焼土粒子（φ1～5mm）微量
2	灰黄褐色土	10YR4/3	炭褐色土ブロック（φ1～40mm）多量 焼土粒子（φ3～10mm）微量
3	褐色土	7.5YR4/3	炭褐色土ブロック（φ1～20mm）・焼土 粒子（φ2～10mm）微量　缺生やわり

J36 P11

1	茶色土	7.5YR2/1	地山ブロック少量　炭化物含む
2	オリーブ黒色土	5Y3/1	地山ブロック（φ1～50mm）・炭化物含む
3	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック少量

J36 P12

1	黒褐色土	7.5YR3/1	地山ブロック（φ1～20mm）多量　焼土 ブロック少量　炭化物粒子含む
2	黒色土	5Y2/1	地山ブロック微量　焼土ブロック少量
3	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1～10mm）多量　焼土 ブロック少量
4	黒褐色土	10Y3/1	地山ブロック（φ1～5mm）・焼土ブロック 少量　炭化物粒子含む
5	灰オリーブ色土	5Y5/3	地山ブロック多量

J37 P2

1	灰色土	N5/0	緑泥片岩含む
2	灰色土	5Y2/1	炭化物含む
3	黄灰色土	2.5Y4/1	緑泥片岩・赤褐色土含む
4	緑黒色土	7.5GY2/1	上部器片含む
5	灰色土	N4/0	黄色土含む
6	灰色土	N3/0	赤褐色土・緑泥片岩含む

J37 P3

1	褐灰色土		緑泥片岩・粘土塊含む
2	褐灰色土		緑泥片岩ブロック・上部器片含む

J37 P4

1	黒色土	7.5YR2/1	焼土ブロック（φ1～5mm）多量　炭化物含む
2	黒色土	N1.5/	粘性　焼土ブロック少量

J37 P5

1	灰色土	5Y5/1	地山ブロック（φ1～20mm）多量 焼土ブロック（φ1～5mm）・鉄分含む
2	黒色土	N2/	地山ブロック微量　焼土ブロック少量 炭化物含む
3	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1～40mm）多量 炭化物含む
4	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1～10mm）含む
5	暗オリーブ褐色土	2.5Y3/3	地山ブロック多量

J37 P6

1	黒色土	2.5GY2/1	地山ブロック少量　焼土粒子微量　鉄分含む
2	黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック少量　鉄分含む
3	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック微量
4	黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック（φ1～5mm）・炭化物・鉄分含む

J37 P7

1	黒色土	5Y2/1	焼土ブロック少量　炭化物含む
2	暗灰色土	N3/	地山ブロック（φ1～20mm）少量　炭化物含む
3	黒色土	2.5Y2/1	地山ブロック少量　粘性
4	黒色土	N2/	地山ブロック含む

J37 P10

1	暗褐色土	10YR3/4	地山ブロック（φ5～30mm）・炭化物含む
2	黒色土	10YR1.7/1	地山ブロック少量　18Cは炭化物で充填される

K36 P5

1	褐色土	10YR5/3	黄褐色土ブロック含む
2	褐色土	10YR5/3	ブロック混入しない

K37 P2

1	黒色土	7.5Y2/1	地山ブロック（φ1～30mm）・焼土ブロック 少量　鉄分含む
2	オリーブ黒色土	7.5Y2/2	焼土粒子微量
3	暗褐灰色土	10GY3/1	炭山ブロック少量　鉄分含む

第464図　ピット（5）

ピットはグリッドごとに1番から通し番号をつけて調査し、複数のグリッドにまたがるものは、もっとも広い面積を占めるグリッドに帰属させた。

調査中や整理時において、帰属するグリッドが違っていたものや、住居跡など遺構に伴うと判断したものは、新たに振り替えて欠番とし、欠番はそのままとした。反対に、調査時に土坑（SK）や遺構に伴うピットとしたものが、後にそうではないと判断された場合は、番号を新規につけて報告した。その変更内容は、一覧表に記載した。

ピットの平面図は、第452～459図に記載し、特に必要と考えられるものについては、土層断面図とともに別個に記載した。備考欄に「平面図あり」としたものがそれにあたる。

土層断面図は、分層できたものは極力掲載に努めた。一覧表で埋土欄に「図」と記してあるものは第460～464図に断面図を記載したピットである。埋土が一層のものは、A～Jまでに類型化して一覧表に記載した。類型にない含有物がある、もしくはない場合は、備考欄にその内容を記載した。埋土の凡例は一覧表の最後に記してある。

規模と深さのデータは、一覧表にまとめて記載した。単位はcmである。（ ）は推定値、〔 〕は残存値である。一は、埋没・崩落等、諸事情によってデータを得ることができなかったものである。

出土遺物は、図示したものを含め、その内容を一覧表に記載した。時期的に混在している場合も、そのままとした。

本調査区において検出されたピットの総数は819基である。形状や規模は多岐にわたるが、その多くは柱穴と考えられる。柱穴に関しては調査時においても、建物跡や構列などの遺構として、規則性を見出すことができるかどうか検討を重ねた。特に中世の居住域である遺跡の性格上、当該期の建物跡が存在するであろうことは容易に想定できた。しかし、恣意的な解釈を極力排除した結果、明確にこうした遺構として、これらのピットを判断することはできないという結論に達し、ここにグリッドピットとして報告することとした。報告者の力不足であるが、ご容赦願いたい。

以下、特徴的なピットに関して、記述する。

F－30グリッド　P24・P25（第460図）

調査区の北西、古墳時代後期（6世紀前半中心）の住居跡の密集地帯に位置しており、これらを切って掘り込まれている。2つとピットが布掘りで連結しているものである。一連の遺構になると考えられる。当初は、SX3として調査したが、個々のピットは柱穴と判断されるため、ここに掲載した。2つの柱穴で構成される施設（例えば門など）の可能性もある。

出土遺物には土師器坏（第465図1）がある。

本遺構の時期は、遺構の切り合い関係や、出土遺物から、古墳時代後期に属するものと考えられる。

F－33グリッド　P1～P3（第460図）

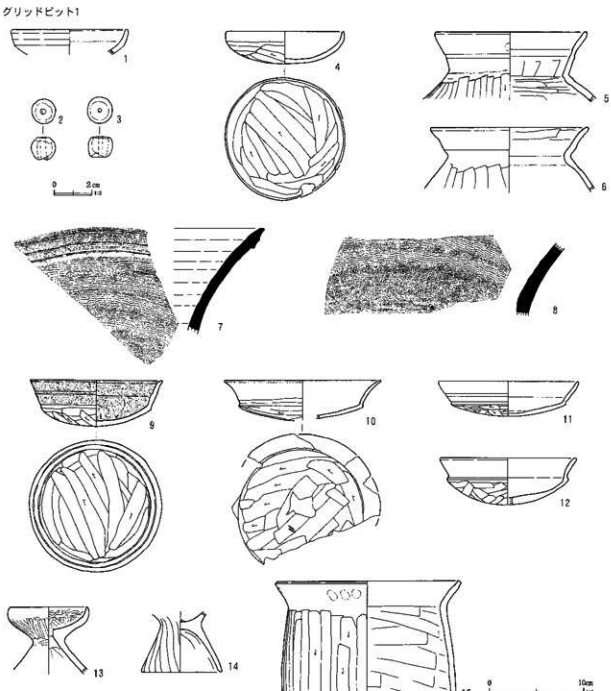
調査区中央西端に位置する。第194号住居跡を切るピットである。数基のピットが連結しているものであるが、埋土の状況から、切り合うピットではなく、少なくとも埋没時には連続したひとつの遺構であったことを示している。土坑としたほうが適当かもしれない。

P1とP3の埋土から、土玉が1点ずつ出土した（第465図2・3）。他にも土師器の破片が出土している。遺構の性格は不明である。遺物は切り合う住居跡に帰属する可能性もある。

遺構の時期は不明であるが、古墳時代後期の範疇にあるものと考えられる。

G－28グリッド　P1（第460図）

調査区の北端で検出されたピットである。底面近くから、ほぼ完形の土師器坏（第465図4）が置かれた状態で出土した。埋土は一層で、一気に埋め戻さ



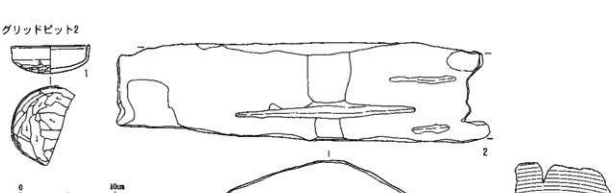
第465図　ピット出土遺物（1）

れた可能性がある。こうした状況は、このピットが何らかの祭祀（例えば地鎮など）に絡んだものであることを想起させる。このピットの周辺には住居跡は存在せず、空白地帯になっていることにも意味があるのかもしれない。

出土遺物から、本遺構の時期は下田町Ⅱ期と考えられる。

H—31グリッド　P1（第462図）

調査区の北、第222号住居跡と第300号住居跡との間に位置する4基のピットのうちの一つである。底に接して、完形の土師器坏（第465図9）が置かれて状態で出土した。他のピットとの関連は不明である。埋土や遺物の出土状況は、このピットもまた祭祀的な遺構であることを指摘できよう。



第466図　ピット出土遺物（2）

第41表　ピット出土遺物観察表

挿図番号		遺構番号		種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
465	1	F30	P24	土師器	坏	(12.4)	[2.7]	—	破片	雲 赤粒 白粒	普通	明赤褐	赤彩	
465	2	F33	P1	土製品	土玉	径1.2 長さ1.2 重さ1.7			完形					208-1-9
465	3	F33	P1	土製品	土玉	径1.3 長さ1.1 重さ2.2			完形					208-1-10
465	4	G28	P1	土師器	坏	12.4	3.5	—	完形	雲 白粒	普通	鈍い黄橙	北武蔵型坏	150-4
465	5	G30	P6	土師器	壺	16.0	[7.4]	—	口縁のみ	石英	普通	鈍い橙		176-4
465	6	G37	P15	土師器	甕	(16.6)	[6.8]	—	口縁破片	雲 石英	普通	鈍い褐		
465	7	H28	P2	須恵器	甕	—	—	—	口縁破片	石英 針	良好	灰		204-1-1
465	8	H28	P2	須恵器	甕	—	—	—	破片	白粒 針	良好	灰		
465	9	H31	P1	土師器	坏	14.0	4.8	—	完形	雲 角 白粒 黒粒	普通	褐灰	黒色台段口縁坏	150-5
465	10	H33	P7	土師器	坏	(16.6)	4.3	—	1/2	赤粒 白粒	良好	橙	横做坏	
465	11	H33	P25	土師器	坏	(14.2)	3.7	—	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	明赤褐	有段口縁坏	
465	12	H34	P1	土師器	坏	(14.2)	[5.0]	—	1/4	雲 赤粒 白粒	普通	鈍い橙	横做坏	
465	13	H39	P16	土師器	器台	8.2	[7.1]	—	1/2	雲 石英 赤粒 黒粒	普通	鈍い黄橙		
465	14	J 36	P1	土師器	古付壺	—	6.4	8.5	脚部のみ	雲 角 石英	普通	鈍い橙		
465	15	I 37	P19	土師器	甕	(19.2)	[12.4]	—	1/5	砂粒 白粒	良好	鈍い橙		176-5
466	1	J 37	P7	土師器	坏	(8.2)	2.9	—	1/2	雲 黒粒	普通	灰黄褐	赤彩	
466	2	J 37	P7	木製品	建築部材	幅11.7 長さ[60.3] 厚さ15.2			4/5					222-4

出土遺物から、本遺構の時期は下田町IX期と考えられる。

J—37グリッド　P7（第464図）

調査区の南寄り、谷の落ち際から約20m北に位置する。第157・135号住居跡を切って掘り込まれている。形状は径50cmほどの円形で、1m以上の深さがある。特記すべき点は、このピットに押し込まれるように大型の木製品が出土したことである。

木製品（第466図2）は、長さ約60cm、幅12cmではほぼ完形である。片面は山形にカットされ、反対面は大きくえぐられている。片側の端部は失われているが、左右対称になると推定される。建築部材の一部と考えられるが、詳細は不明である。樹種はスギである。なお、樹種同定の詳細については、第320集『下田町IV』の自然科学分析の章を参照されたい。

出土遺物には他に土師器坏（第466図1）などがあるが、住居跡からの流れ込みの可能性がある。

本遺構の時期は不明であるが、木製品は中世の所産と考えられる。

7．火葬土坑

下田町遺跡第４次調査の火葬土坑番号は、平成13年度の第２次調査及び平成14年度の第３次調査の続き番号を使用している。今回の報告は平成15年度に発掘調査を実施した西区にあたる範囲である。

調査の結果、土坑番号は第30号から第35号の６基に対し付した。また、調査時では火葬土坑と番号を付したが、整理の結果、一部の遺構番号に変更が生じた。また、第30号火葬土坑は調査区最北端に位置し、排水溝の掘鑿により確認のみの記録となってしまった。

下田町遺跡からは、全体で35基の火葬土坑を検出した。検出位置は、遺跡全体に広がりを持ち、集中する状況ではない。

検出した火葬土坑の特徴は、いずれも、南北方向に主軸方位を持ち、東西辺のいずれかに煙道部あるいは送風口として設けられた細長い溝状の施設が取り付いている。

火葬土坑の中には、まとまった量の人骨片が出土した土坑も存在した。これらの人骨については、すでに、平成16年度の整理の際に、拾骨の有無、年齢や性別の偏り、荼毘に臥した際の安置の状態などに関する手がかりが得られる可能性があるものと考え、人骨の分析を委託し行った。分析の結果を簡単にまとめると、火葬土坑１基につき１体分の人骨が確認され、複数個体が含まれる状況にはなかった。骨の状況は、大半が小さな破片となって検出されている。火葬遺体は破片となっており、大きな骨や長い骨は認められない。また、遺構によって残存の状況が異なっていることから、火葬された遺骨が墓地などに運ばれた際にどの程度反映されているのか異なった状況が存在するのかもしれない。

分析を行った第３～29号火葬土坑の22基のうち、確認された性別および推定年齢は、成人男性が２遺体、成人男性の可能性があるのが２遺体、女性の可能性があるのが３遺体、少年期の遺体は２例確認した。

検出された火葬土坑はいずれも中世の時期の遺構である。遺跡全体に検出された区画溝との関連はつかめないが、いずれの火葬土坑も溝跡との重複は見られず、同時存在の可能性が指摘できる。

以下、各土坑の検出された位置、重複関係、形態、規模、長軸方向、出土遺物などについて記載する。

第30号火葬土坑

Ｆ－28グリッドに位置する。

形態はＴ字状である。長方形に掘り込まれ、南北方向に長軸をもつ。東側の長辺中央部分に煙道部を検出した。規模は長軸約80cm、短軸13cmである。長軸方向はやや北東方向に振れる。

第31号火葬土坑（第469図）

Ｈ－35グリッドに位置する。

形態はＴ字状である。長方形に掘り込まれた西側の中央部分から煙道部が細く突き出している。長方形の主体部からは底面全体に炭化物が検出された。煙道部は、焼土粒子が全体を覆っていた。

規模は、焚口の長さは21cm、長軸107cm、短軸47cmである。深さは８cmである。長軸方向はＮ－１°－Ｗである。

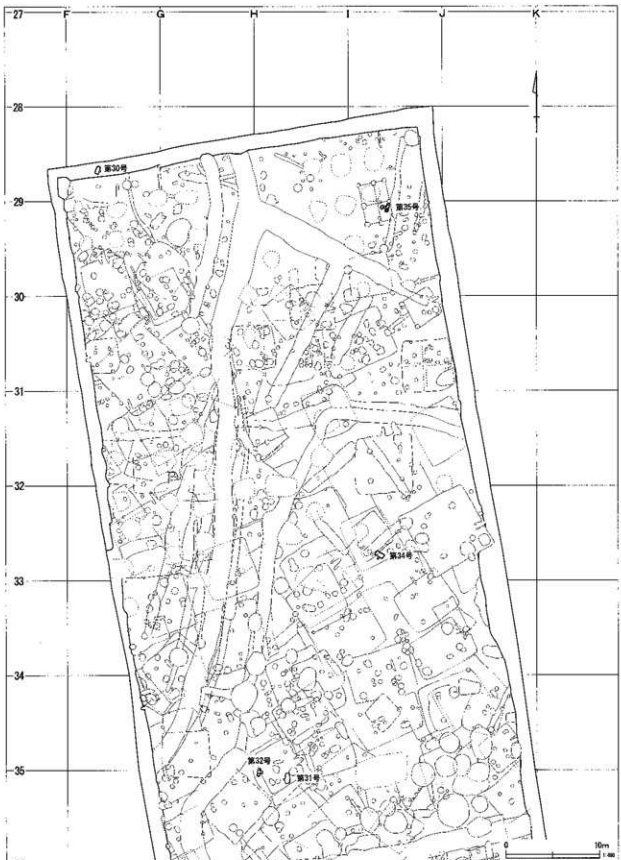
出土遺物は、土師器甕を混入していた。

第32号火葬土坑（第469図）

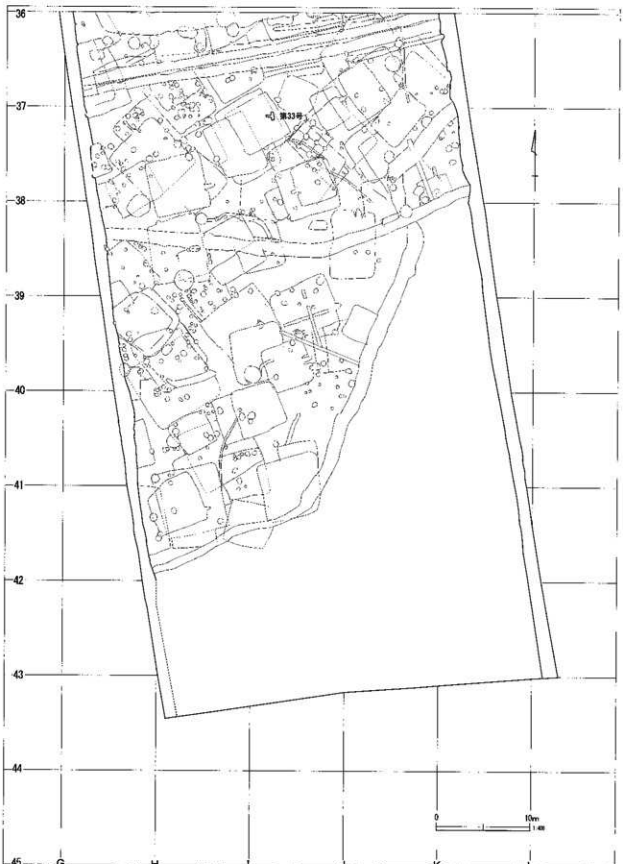
Ｈ－34・35グリッドに位置する。

形態はＴ字状である。長方形に掘り込まれた東側の中央部分から煙道部が細く突き出している。長方形の主体部は骨片で覆われていた。底面全体に炭化物が検出された。煙道部は、焼土粒子が全体を覆っていた。また、主体部から煙道部にかけての壁面は被熱を受け焼土化していた。

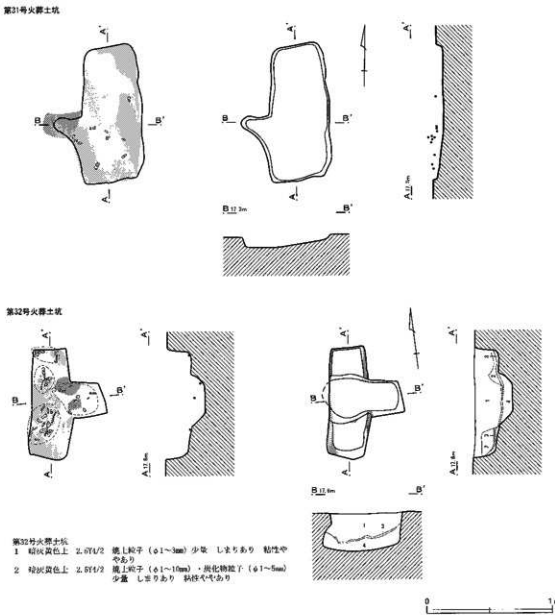
規模は、焚口の長さは25cm、長軸87cm、短軸33cmである。深さは30cmである。長軸方向はＮ－７°－Ｅである。



第467図　火葬土坑全体図（1）



第468図　火葬土坑全体図（2）



第469図　第31・32号火葬土坑

出土遺物は、土師器甕を混入していた。

第33号火葬土坑（第470図）

Ⅰ－37グリッドに位置する。

形態はT字状である。長方形に掘り込まれた西側の中央部分から煙道部が細く突き出している。長方形の主体部は密集状態の骨片で覆われていた。底面は焼土粒子が全体を覆っていた。また、主体部から煙道部にかけての壁面は、被熱を受け焼土化していた。

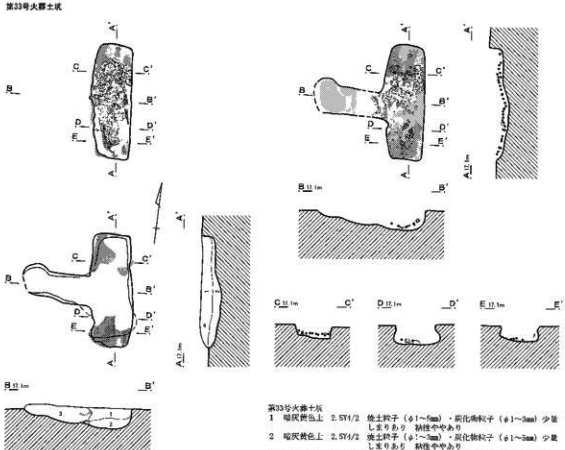
規模は焚口の長さは推定で53cm、長軸88cm、短軸32cmである。深さは16cmである。長軸方向はN－5°－Wである。

出土遺物は、土師器甕を混入していた。

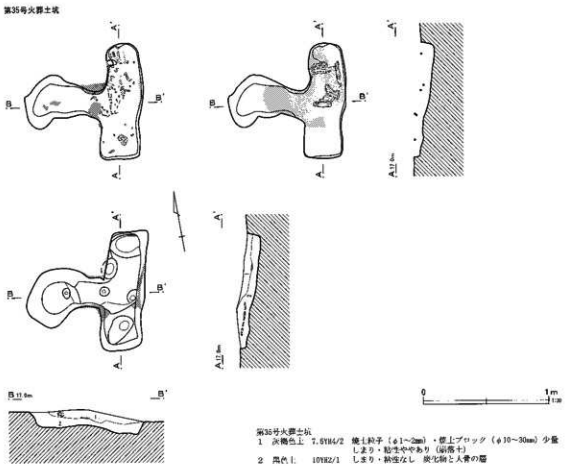
第34号火葬土坑（第470図）

Ⅰ－32グリッドに位置する。

形態はT字状である。長方形に掘り込まれた西側



第470図　第33・34号火葬土坑



第471図　第35号火葬土坑

の中央部分から煙道部が細く突き出している。長方形の主体部中央付近は密集状態の骨片で覆われていた。底面中央部は炭化物と焼土粒子が覆っていた。

規模は焚口の長さは32cm、長軸96cm、短軸46cmである。深さは8cmである。長軸方向はN－59°－Wである。

出土遺物は、土師器甕を混入していた。

第35号火葬土坑（第471図）

I－29グリッドに位置する。

形態はT字状である。長方形に掘り込まれた両側の中央部分から煙道部が細く突き出している。長方形の主体部は、密集状態の骨片で全体を覆われていた。底面は炭化物が覆っており、部分的に炭化材が残っていた。煙道部の一部には、炭化物と焼土粒子が残っていた。また、主体部から煙道部にかけての壁面は被熱を受け焼土化している。

規模は焚口の長さは61cm、長軸91cm、短軸30cmである。深さは12cmである。長軸方向はN－11°－Eである。

出土遺物は、検出されなかった。

8．溝跡

下田町遺跡第４次調査の溝跡（略号 SD）番号は、平成13年度の第２次調査及び平成14年度の第３次調査の続き番号を使用している。今回の報告は平成15年度に発掘調査を実施した西区にあたる範囲である。

調査の結果、第４次の発掘調査における溝跡番号は第583号から第654号を付し72条検出した。一部の溝跡については、今回の整理作業において他の遺構番号に振り替え、第610・611・614・615・616号溝跡は第10号方形周溝墓、第653号溝跡は第322号住居跡に変更した。第590・596・613号溝跡は欠番である。また、これまでの第２・４号溝跡はそのまま続けて番号を使用したため、本調査においても同じ番号で使用している。

本調査区は、南北方向に細長く、南北約140ｍ、東西40ｍほどである。北側はすでに調査を終了し、先年度『下田町遺跡Ⅱ』として報告書が刊行されている。また、東側は第５次調査としてすでに調査が終了し、整理作業を進めて『下田町遺跡Ⅳ』として刊行を予定している。本溝跡の報告は、『下田町遺跡Ⅲ』で第４次調査西区の報告である。

西区から検出された溝跡は、古墳時代前期、後期、奈良・平安時代、中世に至る時期のであり、遺構数が多く、遺物も大量に出土した。整理の結果、溝跡は下田町遺跡の土地利用のあり方を考える上で極めて重要であり、時代とともに溝跡の形成にも影響し変化している。

古墳時代の溝跡は、集落内を緩やかな地形の起伏に合わせ東西方向にわずかに蛇行しながら伸びる。溝跡はいずれも細長く、途切れ途切れに検出されている。奈良・平安時代の溝跡は、東西南北方向に伸び、幅の広い直線的な溝跡である。特に、平安時代の９世紀末から10世紀にかけては、第608・622・644号溝跡が東西に直線的に伸びる。また、第620号溝跡は南北方向に直線的に伸びる。さらに自然堤防縁辺部にあたる遺跡南端には、地形に沿って、第599号溝跡を検出した。平安時代の９世紀後半から10世紀、さらに、かわらけの伴う12世紀代においてこうした区画溝跡が集落形成に大きな役割を見せている。建物跡が十分に把握できないが、溝跡、井戸跡は明らかに確認でき、下田町遺跡は、溝区画の中にそれぞれの居住空間を持ち、地割された土地所有の形跡が窺える。また、こうした、土地利用のあり方は、中世の遺構にも受け継がれており、より顕著なかたちとなって現れる。中世の溝跡は、調査区をほぼ東西に区切る第２・４号溝跡と南北に区切る第584・586号溝跡、さらに、方形区画をとる第585号溝跡などで構成され、下田町遺跡全体が大規模な溝跡によって区画されている。

以下、各遺構について報告する。

第２号溝跡

北側はG－28グリッド、南側はF－34グリッドに位置する。

本溝跡は、西側調査区の中央付近を南北方向に縦断して伸びる。北側は第２・３次調査において検出しており、本調査区域まで延びる。南側は緩やかに西寄りに弧を描き、調査区域外に繋がる。本溝跡の西側には第４号溝跡が並行して伸びている。また、東側は、「L」字状に分岐する第630号溝跡が伸びている。さらに、第585号溝跡が「コ」の字状に検出され溝跡西辺と並行する。断面形は箱薬研状である。

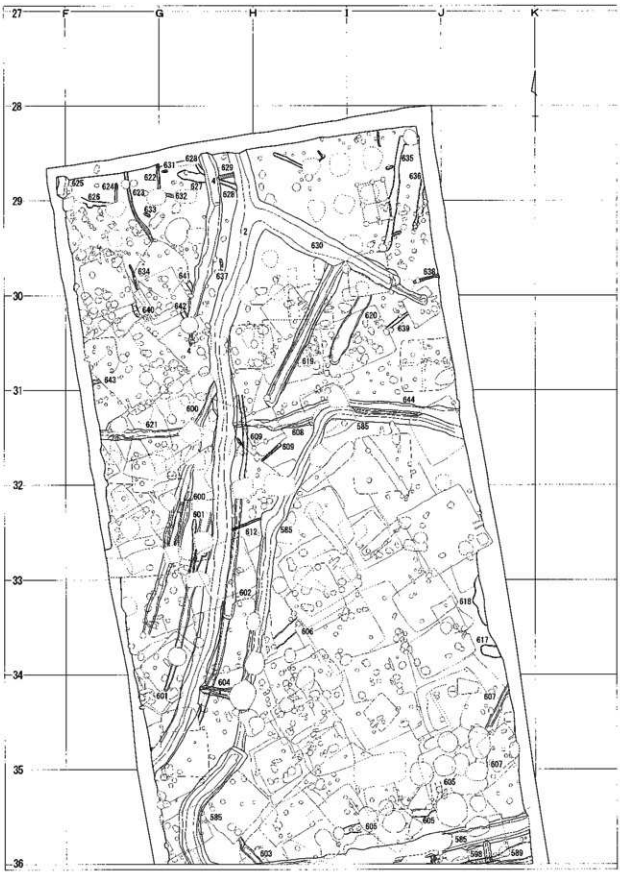
規模は、全長67.5ｍ、幅170～300cm、深さはG－34グリッドで110cmである。

出土遺物は、第481図１に図示した蓮弁文様の青磁碗を検出した。この他、覆土中からは在地片口鉢、常滑甕、内耳鍋の胴部破片を検出した。

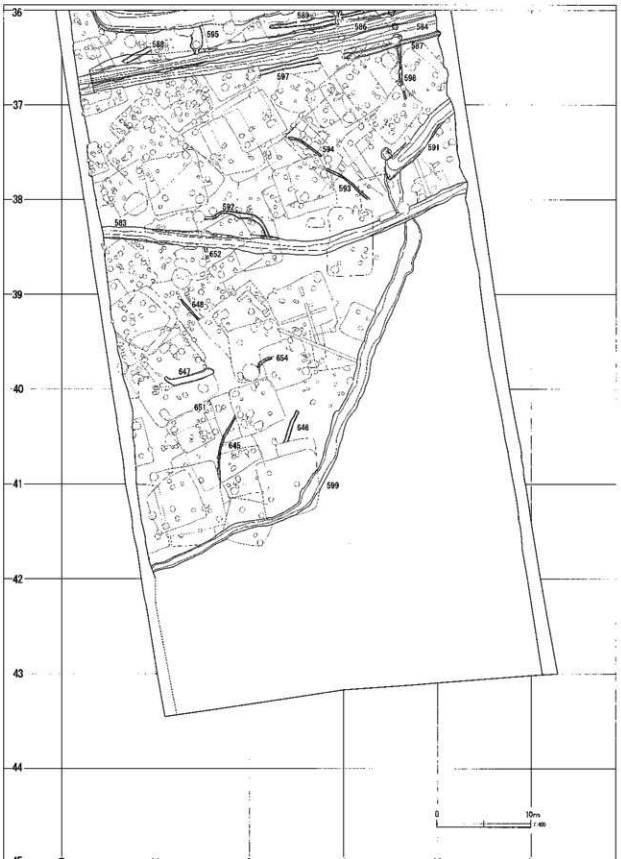
第４号溝跡

北側はG－28グリッド、南側はG－30グリッドに位置する。

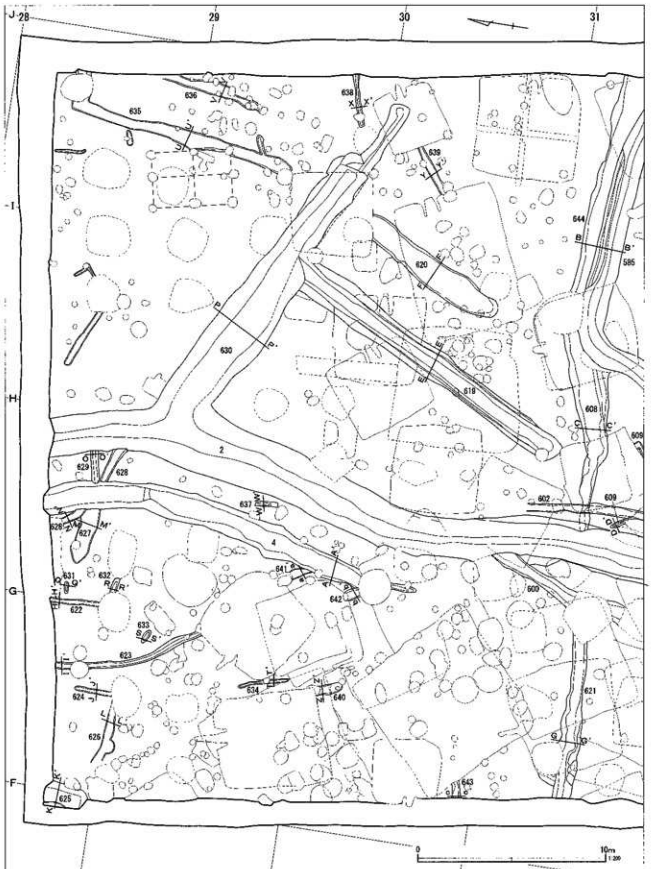
本溝跡は調査区中央付近やや西寄りに検出され、



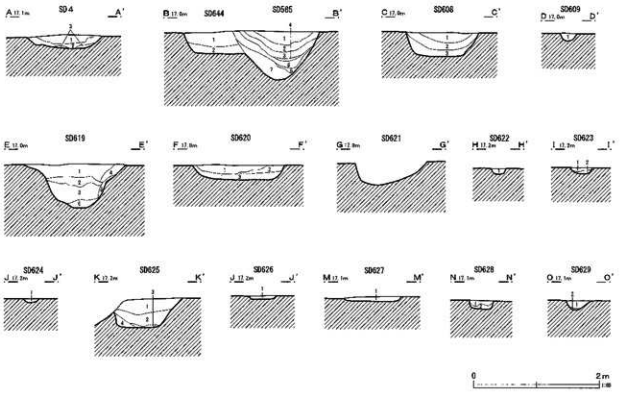
第472図　溝跡全体図（1）



第473図　溝跡全体図（2）


J
28
29
30
31
I
H
G
F
635
636
638
639
644
585
620
630
618
608
609
2
629
628
637
602
609
626
627
631
632
622
641
642
600
633
623
624
634
640
621
625
643
0
10m

第474図　溝跡（1）



第4号溝跡

1	灰色土	10Y5/1	鉄分少量　しまり・粘性ややあり
2	黄灰色土	2.5Y4/1	粘質土層（周壁）　しまりあり　粘性弱い
3	黄灰色土	2.5Y4/1	古灰色地山ブロック（φ10～40mm）少量 しまり・粘性あり

第585号溝跡

1	にぶい黄橙色土	10YR7/3	暗褐灰色土を　縞に互層状に含む
2	暗灰色土	10YR5/1	暗褐灰色土を一部に互層状に含む　炭化物 （φ1～2mm）少量
3	暗灰色土	10YR4/1	炭化物と有機物を全体に互層状に含む
4	黄灰色土	2.5Y4/1	褐色土と緑灰色土の混土層
5	黒褐色土	2.5Y3/2	炭化物（φ2～3mm）少量　有機物含む
6	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物（φ2～3mm）少量　有機物含む
7	黒褐色土	10YR3/2	緑灰色シルトブロック（φ2～3mm）含む　炭化 物（φ2～3mm）少量　有機物多量

第644号溝跡

1	暗灰色土	10YR6/1	黄灰色砂土粒子（φ1～2mm）少量
2	暗灰色土	10YR4/1	炭灰色砂土粒子（φ5～8mm）少量　1より暗い

第608号溝跡

1	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土粒子（φ1～2mm）　地土粒子　炭化物 粒子（φ1～2mm）微量　炭化ブロック粒子（φ 1～2mm）微量
2	黒褐色土	10YR3/1	炭褐色土粒子（φ1～2mm）　地土粒子　炭化物 粒子（φ1～3mm）微量　浅黄ブロック粒子（φ 1～2mm）微量
3	黒色土	10YR2/1	黄褐色土粒子（φ1～2mm）・ブロック（φ3～6 mm）多量

第609号溝跡

1	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土ブロック（φ3～5mm）　地土粒子（φ 1～2mm）少量

第619号溝跡

1	黒色土	N2/0	鉄分多量　地山ブロック（φ1～10mm）含む
2	灰色土	N4/0	鉄分少量　炭化物含む
3	暗灰色土	N3/0	青灰色土ブロック少量　炭化物含む
4	黒色土	N2/0	青灰色土ブロック少量
5	黒色土	N2/0	青灰色土ブロック少量　鉄分含む
6	青灰色土	5GN/1	炭化物含む

第620号溝跡

1	黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック（φ1～20mm）・炭化物含む　地 土ブロック少量
2	黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック（φ1～20mm）・炭化物含む
3	黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック（φ1～30mm）多量　暗土ブ ロック少量　炭化物含む

第622号溝跡

1	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒子（φ1～3mm）微量　上位均質 しまりあり　粘性ややあり

第623号溝跡

1	暗褐色土	10YR3/3	粘質土塊　ローム粒子（φ1～2mm）少量 しまりあり　粘性ややあり
2	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒子（φ1～3mm）少量　しまりあり 粘性ややあり

第624号溝跡

1	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しま りあり　粘性ややあり

第625号溝跡

1	黒褐色土	7.5YR3/1	地土粒子（φ1～3mm）・炭化物粒子（φ1 ～3mm）少量　しまりあり　粘性弱い
2	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック（φ10～30mm）上方に少量 しまりあり　粘性ややあり
3	暗灰色土	N3/0	粘質土層　しまり弱い　粘性強い
4	にぶい黄橙色土	10YR6/4	粘質土（φ1～5mm）少量　しまり・粘性や やあり

第626号溝跡

1	黒色土	7.5YR2/1	ロームブロック（φ10～30mm）少量　しま り・粘性ややあり

第627号溝跡

1	暗灰色土	10YR4/1	ロームブロック（φ10～30mm）少量　しま り・粘性ややあり

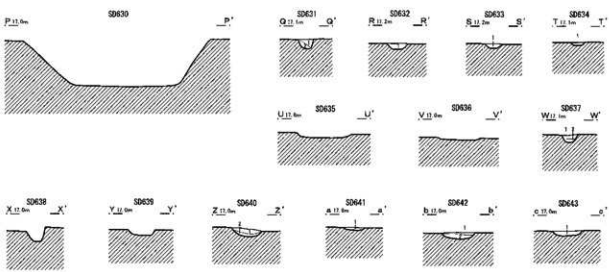
第628号溝跡

1	黒色土	10YR2/1	しまり・粘性ややあり
2	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック（φ10～20mm）少量　しま り・粘性ややあり

第629号溝跡

1	黒灰色土	2.5Y4/1	酸化鉄分を含み部分的に赤茶色を帯びる しまりあり　粘性強い
2	黄灰色土	2.5Y4/1	灰色粒子（φ1mm）少量　しまりあり　粘 性強い

第475図　溝跡土層断面図（1）



第631号溝跡
1 褐灰色土 10YR4/1 ローム ブロック（φ10～20mm）少量 しまり・粘性 ややあり
2 黒色土 10YR2/1 明黄褐色土が細立りで多量 しまり弱い 粘性やや あり

第632号溝跡
1 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム ブロック（φ10～20mm）少量 しまり・粘性 ややあり

第633号溝跡
1 黒褐色土 10YR2/1 黒色の強い黒褐色土 しまりあり 粘性ややあり 密講度の堆積土で 一度に堆積したものと思われる

第634号溝跡
1 灰黄褐色土 10YR4/2 灰色土ブロック（φ5～10mm）少量 しまり・粘性 あり

第637号溝跡
1 黒褐色土 10YR3/2 ローム ブロック（φ10～15mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
2 黒色土 10YR2/1 しまりややあり 粘性あり

第640号溝跡
1 黒褐色土 10YR3/2 焼土粒子（φ5～10mm）少量 しまりあり 粘性 ややあり
2 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまり弱い 粘性 ややあり

第641号溝跡
1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼土粒子（φ1～2mm）少量 しまりあり 粘性やや あり

第642号溝跡
1 灰黄褐色土 10YR4/2 焼土粒子（φ1～2mm）・炭化物粒子微量 しまりあり 粘性ややあり
2 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム ブロック（φ10～30mm）少量 しまりあり 粘性ややあり

第643号溝跡
1 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまり・粘性やや あり

第476図 溝跡土層断面図（2）

南北方向に伸びる。北側は第３次調査区に繋がる。南側は調査区域外に伸びる。

規模は、全長18m、幅100～190cm、深さはG－30グリッドで22cmである。断面形態は、皿状である。

出土遺物は、第481図２に図示した楕円形状の石製品を検出した。

第583号溝跡

東側はK－37グリッド、西側はG－38グリッドに位置する。

東西方向にやや湾曲しながら伸びる。西側および東側は調査区外に伸びる。本溝跡は調査区東側で、平安時代の第599号溝跡と重複する。また、古墳時代の住居跡とも重複する。

規模は、全長41m、幅100～180cm、深さはG－38グリッドで51cm、I－38グリッドで64cmである。断面形態は逆台形である。

出土遺物は、第481図３の木製黒漆塗椀と、４の内耳鍋を検出した。

第584号溝跡

東側はJ－36グリッド、西側はG－36グリッドに位置する。

本溝跡は、東西方向に直線的に伸び、西側および東側は調査区外に伸びる。本溝跡の北側には隣接して、第586号溝跡が並行する。さらに20～30cmの間隔

を離して、第585号溝跡が並行して検出されている。

規模は、全長39m、幅70～130cm、深さはG－36グリッドで71cm、I－36グリッドで60cmである。断面形態は逆台形である。

出土遺物は、第481図5の細長い砥石と、6の在地産片口鉢破片を検出した。

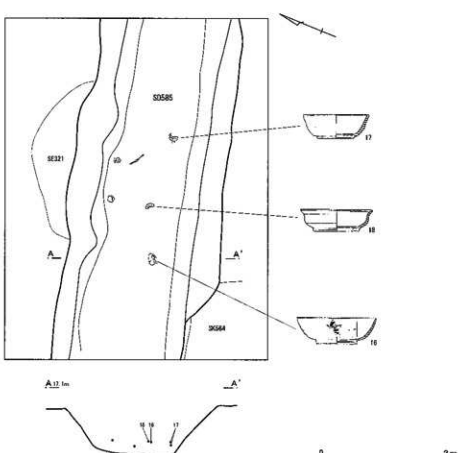
第585号溝跡

東側はJ－31グリッド、北側はH－31グリッド、西側はG－36グリッド、南側はJ－36グリッドに位置する。

本溝跡は、方形区画の西側部分が検出されており、北辺は東西方向に直線的に伸び、東側は調査区域外に続く。また、西側は直角に曲がり西辺に繋がる。北辺部分の距離は15mである。西片は南北方向に伸び、北辺と南辺とのコーナーまでの距離は51mである。西南のコーナー部分では、西側に大きく張り出しをもつ。南辺は東西方向に直線的に伸び、東側部分は調査区域外に続く。南辺部分の距離は35mである。重複する遺構は、西辺の溝跡部分で、第327・357号井戸跡を切る。また、第325・326号井戸跡に切られる。さらに南辺の溝跡では、第317・316号井戸跡を切り込み、第304・319・315号井戸跡に切られる。

規模は、全長102m、幅100～240cm、深さはI－31グリッドで76cm、H－32グリッドで94cm、G－34グリッドで40cm、G－35グリッドで57cm、H－36グリッドで85cmである。断面形態は箱薬研である。

出土遺物は、第478図1～18・第479図19～21・第480図22～24である。1は双雀鏡である。中央の内区には、2羽の雀がそろって左を向いてはばたいてい



第477図　第585号溝跡遺物出土状況

る。周囲には、松葉が一単位3個で五単位見られる。また、外区には、細い凸線による区画を境に菊の花が一単位2個で八単位見られる。材質は銅による鋳造品である。表面には、全体に緑錆が吹いている。室町時代の所産と考えられる。

2は緑釉陶器耳皿、3～5・7は在地産のかわらけ皿である。かわらけの胎土は砂質で軟質である。底部糸切による輪轤成形である。焼成は酸化焔で、色調灰白から灰黄である。6は古瀬戸緑釉小皿である。8・9は古瀬戸直縁大皿である。内外面にはけ塗りによる釉が見られる。10は瀬戸の摺鉢、11・13は常滑産の甕である。12は古瀬戸天目茶碗。14は在地産片口鉢で、胎土は粉っぽく軟質である。15は、在地産の内耳鍋で、器高が深い。16～18は木製の黒漆塗り椀である。16は、内外面に赤漆による文様が施されている。19・20は石臼である。21は木製の杭。22～24は板石塔婆である。22は中央部分にキリークが彫られている。下半部には「文□・・・　十月」の紀年銘が刻まれている。24は「・・・六日」の日付がみられる。

22の板碑は、「文」の文字が頭につく年号である。二文字目がわずかに見られることから推定して、室町時代の「文」のつく年号が「文保」・「文和」・「文中」・「文安」・「文正」であることから本板碑は「文和」と考えられる。文和は西暦1350年を初年とする。この1350年代は板碑の出土例において最盛期でもある。

板碑は、1200年代前半に出現する。1200年代後半には、広がりを見せ、その後、1300年代には最盛期となり1350年頃が最も多くの板碑が見られる。1400年代になると半減するがまだまだ板碑の出土は見られる。1500年代になるとほとんど衰退し消滅する。

第586号溝跡

東側はJ－35グリッド、西側はG－36グリッドに位置する。

本溝跡は、東西方向に直線的に伸び、西側および東側は調査区域外に続く。南側には第584号溝跡、北側には第585号溝跡が位置する。重複する遺構は本溝跡の東側で、古墳時代後期の第598号溝跡と交差する。

規模は、全長39m、幅90～160cm、深さはG－36グリッドで71cm、I－36グリッドで85cmである。断面形態は箱薬研である。

出土遺物は、第481図7～19に図示した。7は木製の黒漆塗椀で、内外面に赤漆で梅花文様が描かれている。8は木製の黒漆塗椀である。9は瀬戸灰釉末広碗、11はかわらけ皿で、底部はヘラ切りである。12・13は瓦塔。14は機形鍛冶滓を検出した。10は混入の須恵器坏である、この他覆土中からは常滑甕、在地鉢、瀬戸碗が出土している。

第587号溝跡

J・K－36グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に直線的に伸びる。東側は調査区域外に続き、西側は5m程途切れて第597号溝跡に続くと考えられる。さらに本溝跡の北側には第584～586・589号溝跡が並行して検出されている。

重複する遺構は、第303号井戸跡に切られ、第598号溝跡を切り込む。

規模は、全長10m、幅45～60cm、深さはJ－36グリッドで21cmである。断面形態は箱形である。

出土遺物は、検出されなかった。

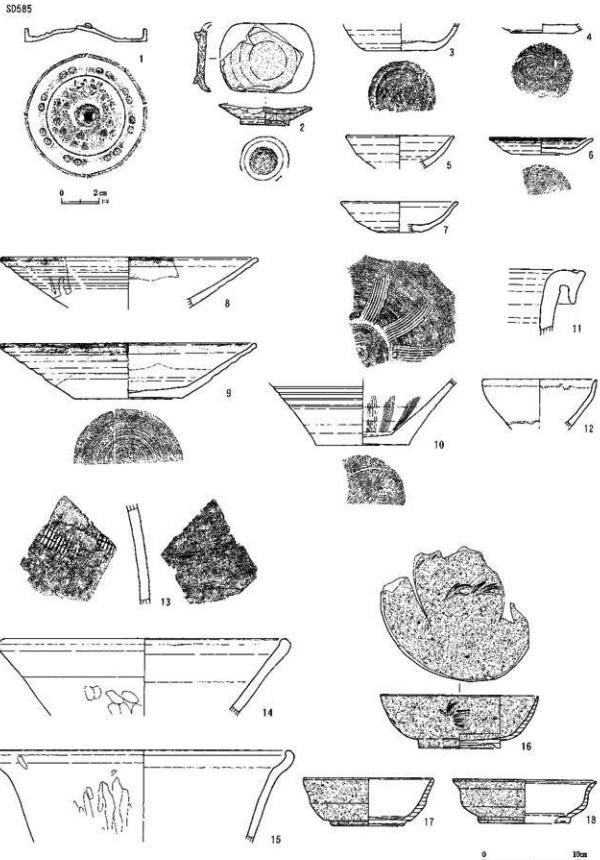
第588号溝跡

G－36グリッドに位置する。

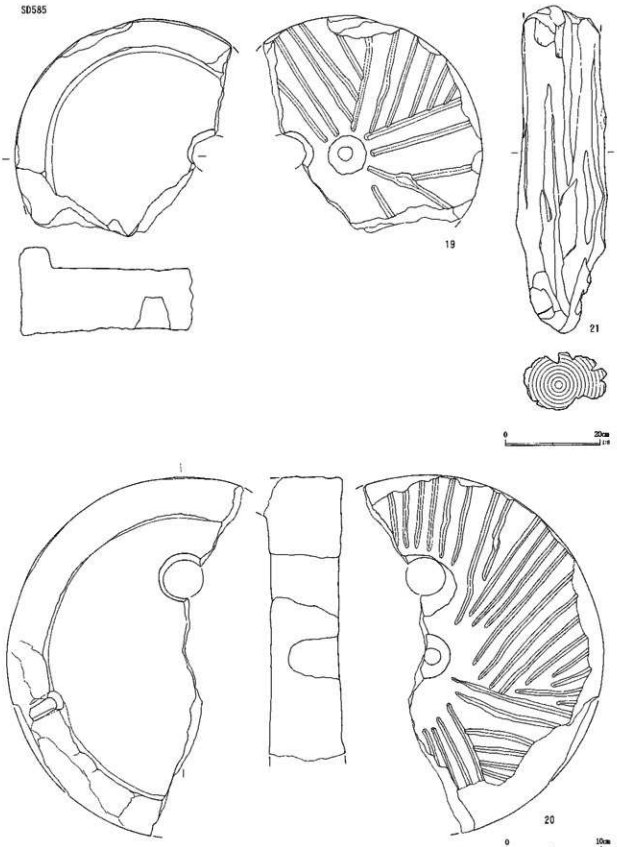
東西方向に直線的に伸びる短い溝跡である。南側は第586号溝跡に切られ、東側は第312号井戸跡に切られている。

規模は、全長3m、幅40～45cm、深さはG－36グリッドで9cmである。断面形態は皿状である。

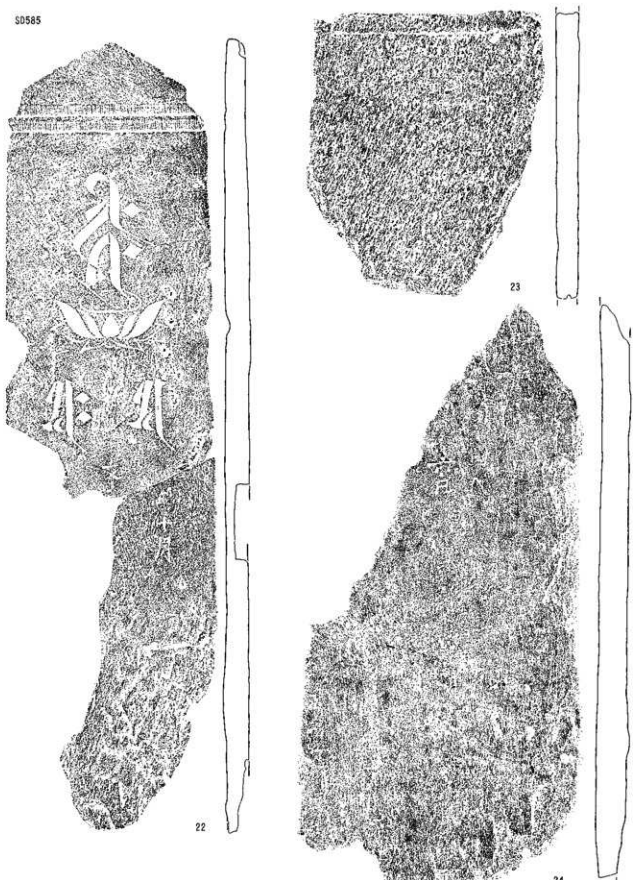
出土遺物は、土師器の高坏脚部、比企型坏、甕の破片を少量検出した。



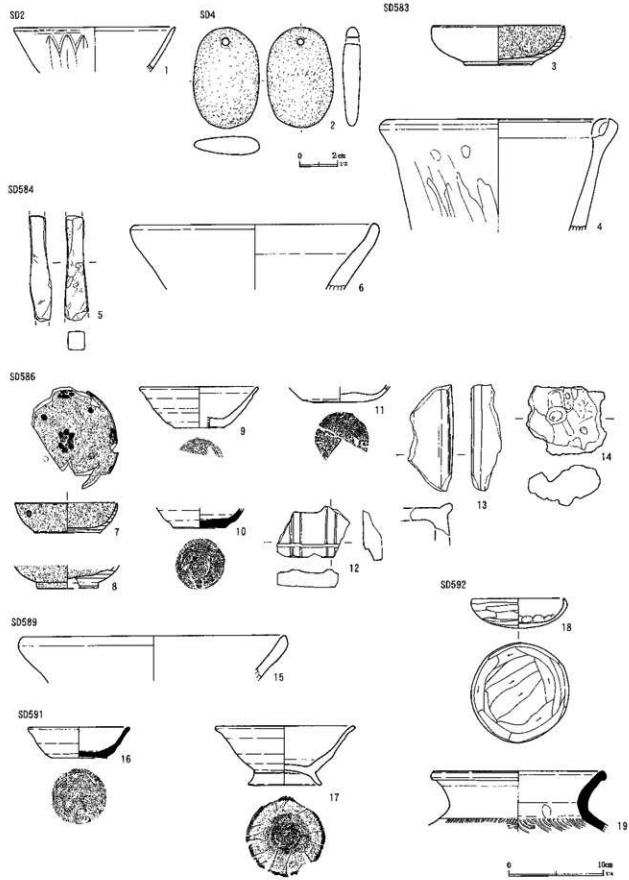
第478図　溝跡出土遺物（1）



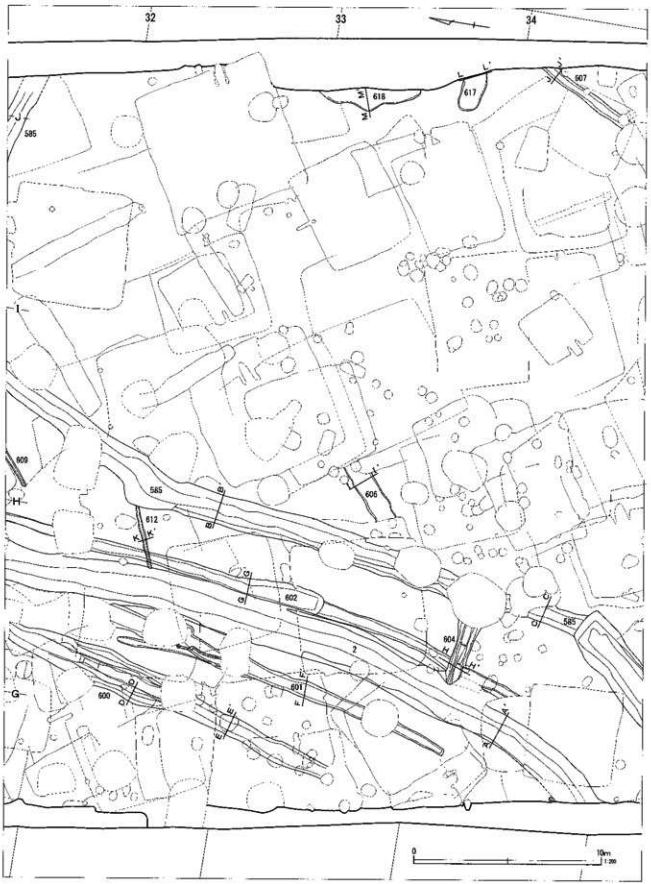
第479図　溝跡出土遺物（2）



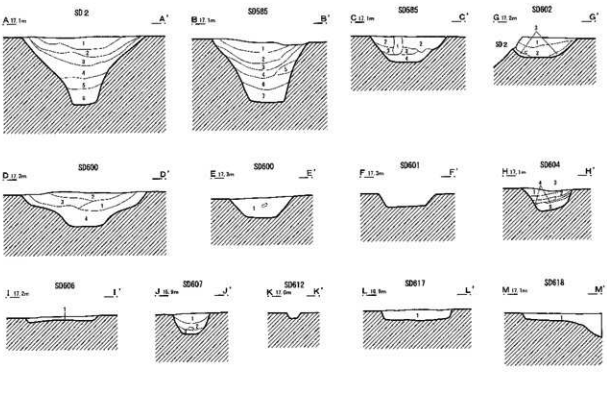
第480図　溝跡出土遺物（3）



第481図　溝跡出土遺物（4）



第482図　溝跡（2）



第2号溝跡

1	にぶい黄橙色土	10YR6/3	粘土質 灰化物粒子ブロック（φ8～10mm）少量 炭化物粒子（φ2～3mm）少量
2	灰色土	10Y5/1	粘土質 炭化物粒子を部分的に層状に含む
3	灰色土	10Y5/1	粘土質 炭化物粒子（φ3～5mm）を全体に含む
4	灰色土	10Y4/1	シルト質 炭化物粒子（φ3～5mm）を全体に含む 部分的に層状 有機物多量
5	オリーブ黒色土	5Y3/1	シルト質 明灰色粘土をブロック状に若干含む 炭化物粒子（φ3～5mm）少量
6	黒色土	5Y2/1	緑灰色砂質ブロック（φ2～3mm）を含む 砂っぽい

第585号溝跡 B－B' SD2の斜面上に近づいている

1	にぶい黄橙色土	10YR7/3	暗褐灰色土を一部に互層状に含む
2	褐灰色土	10YR6/1	暗褐灰色土を一部に互層状に含む 炭化物（φ1～2mm）少量
3	褐灰色土	10YR5/1	暗褐灰色土を全体に互層状に含む 炭化物（φ1～2mm）少量 有機物あり
4	褐灰色土	10YR4/1	炭化物と有機物を全体に互層状に含む
5	褐灰色土	10YR4/1	緑灰色シルトブロック（φ2～3mm）多量 炭化物少量
6	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物（φ2～3mm）少量 有機物含む
7	黒褐色土	10YR3/2	緑灰色シルトブロック（φ2～3mm）含む 炭化物（φ2～3mm）少量 有機物多量

第585号溝跡 C－C'

1	にぶい黄褐色土	10YR4/3	砂利混じり しまりややあり 粘性強い 新しい溝壁の一部分
2	褐灰色土	10YR4/1	ローム粒子・焼土粒子少量 しまりのある粘土 しまり強い 粘性ややあり
3	灰色土	N4/0	青灰色砂粒（φ1～3mm）混入する しまりややあり 粘性強い
4	黒色土	7.5Y2/1	均一の単色層 粘質土層 しまり強い 粘性強い

第600号溝跡

1	黒褐色土	10YR3/1	黄灰色粘土ブロック（φ2～3mm）多量 焼土粒子少量
2	暗褐色土	10YR3/4	黄灰色粘土ブロック（φ3～8mm）少量
3	黒褐色土	10YR3/1	黄灰色粘土ブロック（φ10mm）斑 焼土粒子少量
4	黒色土	10YR2/1	黄灰色粘土ブロック（φ10mm）微量 焼土粒子少量

第602号溝跡

1	黒褐灰色土	7.5YR3/1	鉄分斑（φ1～5mm）多量 黄褐色土粒子（φ1～2mm）少量
2	黒色土	10YR2/1	鉄分斑（φ1～2mm）少量
3	黒色土	10YR2/1	黄褐色土ブロック（φ3～10mm）多量

第604号溝跡

1	褐灰色土	10YR4/1	鉄分斑（φ2～5mm）多量 焼土粒子・炭化物粒子（φ2～3mm）微量
2	黄灰色土	2.5Y4/1	鉄分斑（φ2～5mm）少量
3	暗灰黄色土	N3/0	鉄分斑（φ2～5mm）少量
4	暗灰黄色土	N3/0	黄褐色土ブロック（φ3～5mm）多量
5	暗灰黄色土	N3/0	黄褐色土ブロック（φ3～10mm）少量

第606号溝跡

1	黒褐灰色土	10YR3/2	ロームブロック（φ10～50mm）少量 しまりあり 粘性ややあり

第607号溝跡

1	黒褐色土	10YR2/2	黒褐色土を主体 焼土粒子（φ5mm）・ローム ブロック（φ10mm）・炭化物粒子少量（1番多いの灰焼土粒子）均等に混入する。しまり・粘性あり
2	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒子（φ2～3mm）微量 黒褐色の粘性のある土主体 しまり・粘性あり
3	黒褐色土	10YR3/2	黒灰色の砂を含む しまり・粘性あり

第617号溝跡

1	黒褐色土	10YR2/3	黒褐色土主体 褐色土粒子多量 しまりあり 粘性弱い

第618号溝跡

1	黒褐色土	10YR3/1	黄灰色粘土ブロック（φ5mm）・焼土少量

第483図 溝跡土層断面図（3）

第589号溝跡

東側はJ－35グリッド、西側はI－36グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に直線的に伸びる。東側は調査区域外に伸びる。南側は調査区中央付近で途切れる。本溝跡の南側には、第584・586・587号溝跡が位置し、北側には第585号溝跡が位置する。

規模は、全長18m、幅35～65cm、深さはJ－35グリッドで13cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、第481図15に図示した在地産片口鉢を検出した。この他覆土中からは、かわらけ皿破片を検出している。

第590号溝跡　　欠番

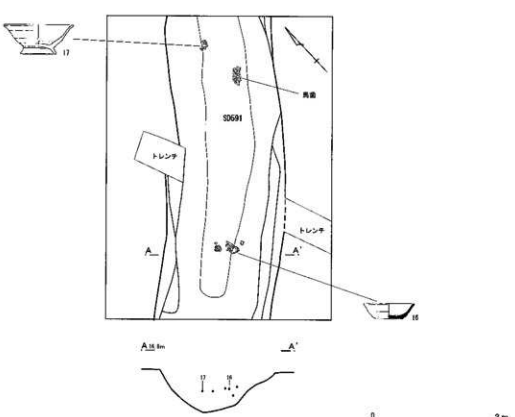
第591号溝跡

北側はK－36グリッド、南側はJ－37グリッドに位置する。

本溝跡は、北東から南西方向に直線的に伸びる。東側は調査区域外に続く。南側は、調査区域内で立ち上がる。本溝跡の南側には第599号溝跡が位置し本溝跡と繋がる可能性がある。

規模は、全長10m、幅160～180cm、深さはJ－37グリッドで68cmである。断面形態は逆台形である。

出土遺物は、第481図16・17に図示した。16は底部糸切調整の須恵器坏で、還元焔調整されている。17は須恵器高台付埦である。この他覆土中から、内黒土器、須恵器甕の破片が出土している。



第484図　第591号溝跡遺物出土状況

第592号溝跡

H・I－38グリッドに位置する。

本溝跡は、調査区中央部分に東西方向に弧を描くように伸びる。下田町遺跡ではこれまでにも、同様の形態をもつ溝跡が検出され、古墳時代の竪穴住居跡に伴う排水溝とみられる。

規模は、全長８m、幅20～70cm、深さはH－38グリッドで12cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、第481図18・19に図示した。18は土師器の北武蔵型坏である。底部は丸底でヘラケズリされ、口縁部は横ナデされている。19は須恵器甕の口縁部破片である。

第593号溝跡

北側はI－37グリッド、南側はJ－38グリッドに位置する。

本溝跡は、北西から南東方向に斜めに緩やかに弧を描いて伸びる。第592号溝跡と同様の機能が考えられる。

規模は、全長６m、幅15～20cm、深さはJ－37グリッドで６cmである。

出土遺物は、検出されなかった。

第594号溝跡

I－37グリッドに位置する。

本溝跡は、北西から南東方向に斜めに緩やかに弧を描いて伸びる。本溝跡の南側には、第593号溝跡が位置し一連の溝跡と考えられる。

規模は、全長４m、幅15～20cm、深さは８cmである。

出土遺物は土師器甕、坏の破片少量を検出した。

第595号溝跡

H－36グリッドに位置する。

本溝跡は、南北方向に伸びる。北側は第585号溝跡、南側は第586号溝跡に切られる。また、溝跡の中央には第319号溝跡が掘り込まれている。

規模は、全長３m、幅1.1m、深さはH－36グリッドで９cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、土師器甕、坏の破片少量を検出した。

第596号溝跡　　欠番

第597号溝跡

I－36グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に直線的に伸びる。東側は調査区域外に続き、東側は５m程途切れて第587号溝跡に続くと考えられる。西側は調査区中央で途切れる。さらに本溝跡の北側には第584～586・589号溝跡が並行して検出されている。

規模は、全長6.5m、幅45～55cm、深さは16cmである。

出土遺物は、検出されなかった。

第598号溝跡

J－35・36・37グリッドに位置する。

本溝跡は、南北方向に直線的に伸びる。北側は第585号溝跡に切られる。南側は第133号住居跡付近で途切れる。また、溝跡の中央部分には、第584～587号溝跡が横断する。

規模は、全長3.1m、幅70～75cm、深さはJ－35グリッドで44cmである。断面形態は箱形である。

出土遺物は、土師器甕・坏の破片少量を検出した。

第599号溝跡

北側はJ－37グリッド、南側はI－41グリッド、西側はG－41グリッドに位置し、調査区の南端にあたる。南北に伸びる自然堤防の端部と考えられ、下田町遺跡の南限である。

本溝跡は、北北東から西南西方向に湾曲して伸びる。溝跡の東側には谷部が形成されており、この谷の周部に掘り込まれている。溝跡の北側は第591号溝跡と繋がり、南側は調査区域外に繋がる。

規模は、全長55.5m、幅70～200cm、深さはJ－38

グリッドで36cmである。断面形態は箱形である。

出土遺物は、第485図1～14に図示した。1～4は酸化焔焼成された須恵器坏、5～8は高台付埦、9～13は覆土中から出土した混入品と考えられる。9は土師器甑、10は須恵器高盤、11は土師器壺、12は須恵器壺、14は滑石製紡錘車である。

第600号溝跡

北側はG—30グリッド、南側はF—33グリッドに位置する。

本溝跡は、南北方向に直線的に伸び、北側には第2号溝跡が位置し、南側は調査区域外に伸びる。重複する遺構は、溝跡の南端で第339・345号井戸跡に切られる。中央部分には、階段状の段をもち、南側にいくに従い掘り込みが深くなる。また、本溝跡の東側10mの位置には方形区画を呈する第585号溝跡が並行して走る。

規模は、全長28m、幅40～120cm、深さはG—32グリッドで32cm、F・G—33グリッドで55cmである。断面形態は逆台形である。

出土遺物は、第485図15～20である。15・20は灰釉陶器埦、16は青磁皿、18は青磁碗、17は白磁皿、19は尾張産片口鉢である。他に覆土中より、山茶碗、在地鉢を検出した。

第601号溝跡

北側はG—32グリッド、南側はG—34グリッドに位置し、調査区のほぼ中央西側にあたる。

本溝跡は、南北方向に直線的に伸びる。

規模は、全長18.5m、幅40～100cm、深さはG—33グリッドで20cmである。断面形態は逆台形である。

出土遺物は、第485図21～24に図示した。21は須恵器壺、22は非常に作りの良い須恵器蓋、23は土師器模倣坏、24は滑石製紡錘車の破片である。他に覆土中からは土師器甕、模倣坏を多量に検出した。

第602号溝跡

北側はG—31グリッド、南側はG—34グリッドに位置し、調査区中央西側に位置する。

本溝跡は、南北方向に伸びる。北側には第2号溝跡が位置し、南側は第175・176号住居跡と重複する。また、本溝跡の西側には古墳時代後期の第601号溝跡、中世の第2・600号溝跡が並行し、東側には第585号溝跡が並行する。

規模は、全長35m、幅40～120cm、深さはG—33グリッドで32cmである。断面形態は逆台形である。

出土遺物は、第488図1～6に図示した。1・2は土師器埦、3・4は底部外周回転ヘラケズリを施した須恵器坏で、4には刻書「×」がみられる。5は砥石、6は滑石製紡錘車である。

第603号溝跡

G・H—35グリッドに位置する。

本溝跡は、北西方向に短く伸びる。北側には第164号住居跡、南側には第585号溝跡に切られる。

規模は、全長3.5m、幅35～80cm、深さはH—35グリッドで25cmである。断面形態は箱形である。

出土遺物は、第488図7の土師の甑、覆土中から土師器の胴部にハケ目をもつ小型甕、甕破片を少量検出した。

第604号溝跡

G—34グリッドに位置する。

本溝跡は、東西方向に直線的に伸びる。掘り込みが深く、薬研堀状である。重複する遺構は西側に第2号溝跡、東側に第585号溝跡が位置し、両溝跡と繋がっている。

規模は、全長3.5m、幅50～110cm、深さは34cmである。断面形態は箱形である。

出土遺物は、土師器の甕、台付甕破片を検出した。

第605号溝跡

H・I－35グリッドに位置する。

本溝跡は、東西方向に直線的に伸びる。

規模は、全長2.5mと1.8m、幅70～85cm、深さはI－35グリッドで8cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、第488図8の鉄製品の他刃物の破片、土師器の甕・坏破片を少量検出した。

第606号溝跡

H－33グリッドに位置する。

本溝跡は、北東方向に直線的伸びる短い溝跡である。重複する遺構は北側に第236号住居跡、南側に第226号住居跡が位置する。

規模は、全長3.5m、幅95～100cm、深さは7cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、土師器の甕、坏を少量検出した。

第607号溝跡

J－34グリッドに位置する。

本溝跡は、北東から南西方向に直線的に伸びる。北側は調査区域外に続き、南側は第341号井戸跡に切られる。

規模は、全長5.2m、幅45～55cm、深さは32cmである。断面形態は箱形である。

出土遺物は、第488図9～11に図示した。9・10は土師器の坏である。9は赤彩の施された比企型坏、10は内面に放射状の暗文が施された北武蔵型坏である。11は板状の木製品である。他に土師器の甕を少量検出した。

第608号溝跡

G・H－31グリッドに位置する。

本溝跡は、東西方向にほぼ直線的に伸びる。東側は第645号溝跡と繋がると考えられる。また、西側は第2号溝跡と交差し、その西側に検出した第621号溝跡に繋がる可能性があると考えられる。重複する遺構は、東側で第585号溝跡、西側で第2号溝跡に切られる。

規模は、全長11m、幅70～185cm、深さはH－31グリッドで38cmである。断面形態は逆台形である。

出土遺物は、第488図12～18に図示した。12・13は須恵器坏、14は須恵器高台付埦、15～17は灰釉陶器埦、18は瓦塔である。他に覆土中より、土師器甕、須恵器坏、皿、羽釜、甕破片などを多量に検出した。

第609号溝跡

G－31グリッドに位置する。

本溝跡は、北西から南東方向に短く伸びる。東側には第602号溝跡が、西側には第2号溝跡が位置する。

規模は、全長0.75m、幅15～25cm、深さは13cmである。

出土遺物は、検出されなかった。

第610号溝跡　　欠番

第10号方形周溝墓に変更。

第611号溝跡　　欠番

第10号方形周溝墓に変更。

第612号溝跡

G・H－32グリッドに位置する。

本溝跡は、東西方向に直線的に短く伸びる。住居跡の周溝の可能性が考えられる。

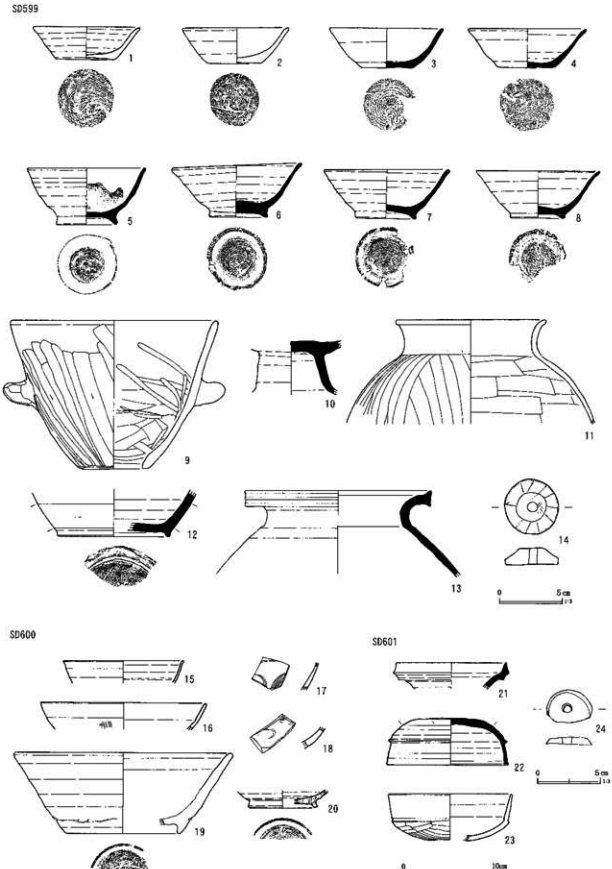
規模は、全長3.6m、幅15～20cm、深さはG－32グリッドで8cmである。

出土遺物は、土師器の甕・坏破片を少量検出した。

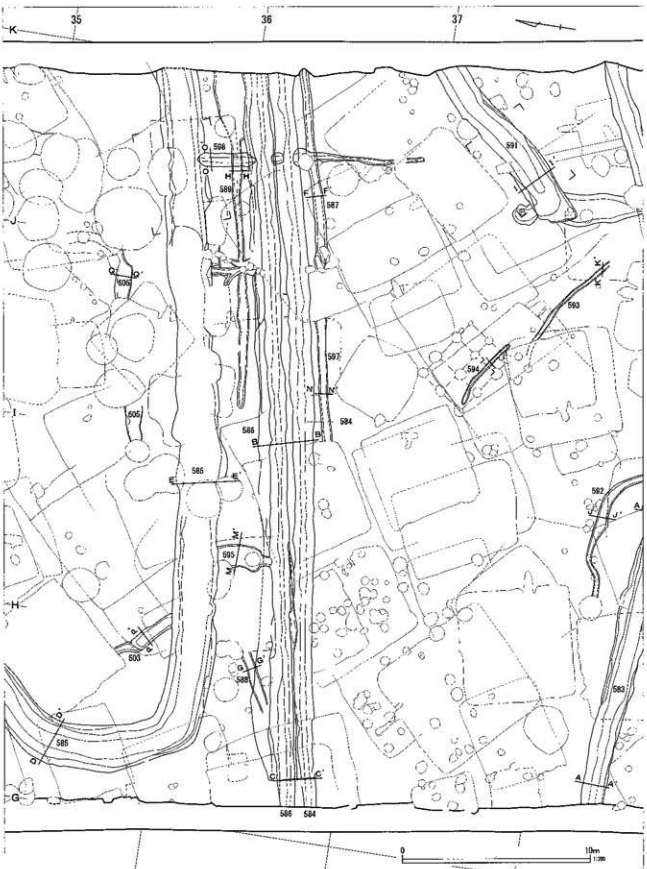
第613号溝跡　　欠番

第614号溝跡　　欠番

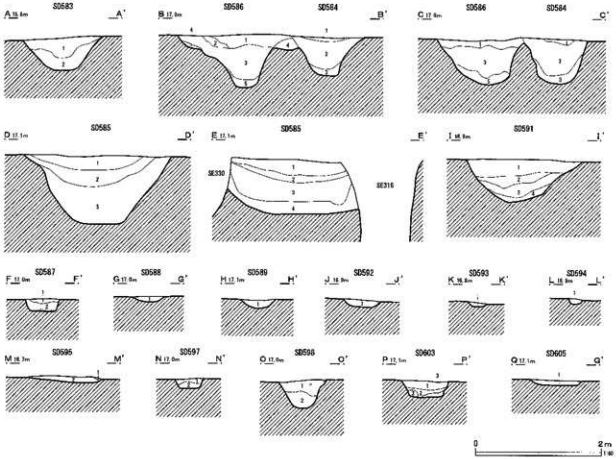
第10号方形周溝墓に変更。



第485図　溝跡出土遺物（5）


K
35
36
37
L
J
I
H
G
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
I
I'
J
J'
K
K'
L
L'
M
M'
N
N'
O
O'
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
0
10m

第486図　溝跡（3）



第583号溝跡
1 オリーブ黒色土 5GY2/1 炭化物ブロック少量 鉄分・マンガン含む 粘性強い
2 緑灰色土 5G5/1 底部付近に鉄分・マンガン沈殿 炭化物少量 しまり・粘性強い

第584号溝跡
1 オリーブ灰色土 2.5GY6/1 粘性強い 鉄分・マンガン少量
2 オリーブ黒色土 5GY2/1 炭化物ブロック・鉄分・マンガン少量 しまり・粘性強い
3 緑灰色土 5G5/1 地部付近に鉄分・マンガン沈殿 しまり・粘性強い

第585号溝跡
1 灰色土 10Y5/1 炭化物下層付近に含む しまりやや強 粘性強い
2 オリーブ黒色土 7.5Y3/2 炭化物ブロック少量 粘性強い
3 オリーブ黒色土 5Y3/1 地山ブロック少量 炭化物含む 粘性特に強い
4 砂層

第586号溝跡
1 灰色土 7.5Y5/1 鉄分多量 地山ブロック少量 しまり強い 粘性ややあり
2 黄褐色土 2.5Y5/4 地山ブロック・鉄分・マンガン含む
3 オリーブ黒色土 5Y3/1 地山ブロック少量 粘性強い
4 暗褐色土 10YR3/3 鉄分・マンガン含む 包含層か
5 緑灰色土 10GY6/1 粘性強い

第587号溝跡
1 黒褐色土 焼土ブロック少量
2 黒褐色土 地山ブロック（φ1～25mm）含む 焼土ブロック・炭化物粒子少量

第588号溝跡
1 黒色土 7.5YR1.7/1 しまり・粘性あり

第589号溝跡
1 黒褐色土 10YR3/1 地山ブロック（φ1～15mm）少量 暗褐色土斑

第591号溝跡
1 黒褐色土 2.5Y3/1 地山ブロック（φ1～5mm）少量 焼土粒子・炭化物・鉄分含む
2 黒色土 5Y2/1 地山ブロック（φ1～5mm）・鉄分少量
3 オリーブ黒色土 5Y3/1 地山ブロック（φ1～10mm）少量
4 オリーブ黒色土 5Y3/1 地山ブロック（φ1～20mm）多量

第592号溝跡
1 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色粘土粒子（φ0.5～1mm）少量 焼土ブロック（φ3mm）含む 炭化物微量

第593号溝跡
1 暗褐色土 10YR4/1 黄褐色粘土ブロック（φ3～5mm）多量 焼土ブロック（φ3mm）含む 炭化物微量

第594号溝跡
1 黒褐色土 10YR3/2 焼土粒子微量

第595号溝跡
1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子（φ1～3mm）少量 しまりややあり 粘性あり
2 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック（φ10～50mm）少量 しまりあり 粘性ややあり （湿度L）

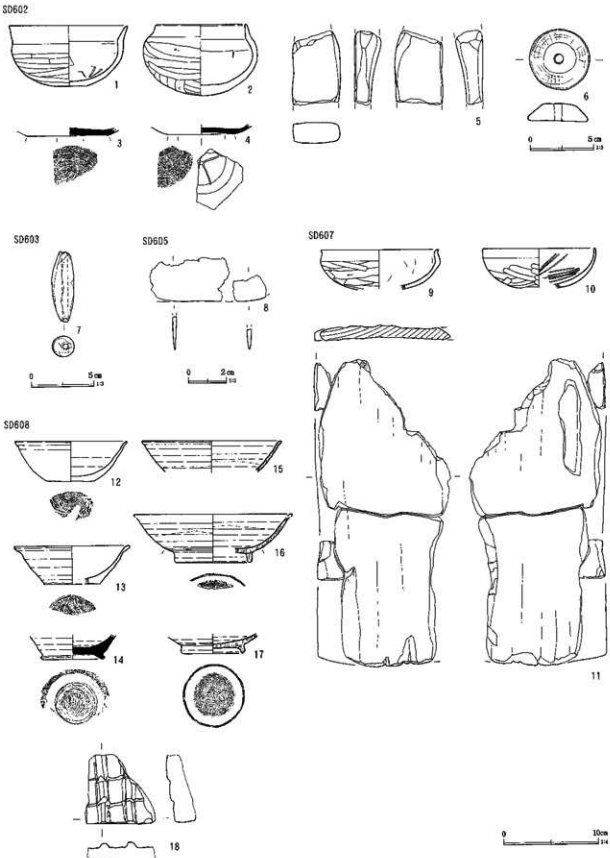
第597号溝跡
1 オリーブ黒色土 10Y3/1 地山ブロック（φ0.5～1.5mm）少量 粘性ややあり
2 オリーブ黒色土 10Y3/1 地山ブロック（φ10～30mm）多量 粘性強い

第598号溝跡
1 暗褐色土 7.5YR3/4 黄褐色土ブロック（φ1～18mm）少量 粘性ややあり
2 灰褐色土 7.5YR4/2 黄褐色土ブロック（φ1～32mm）少量 粘性あり

第603号溝跡
1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子（φ1～5mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
2 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック（φ10～30mm）少量 ローム粒子（φ1～3mm）少量 しまりあり 粘性ややあり
3 黒色土 10YR2/1 しまりややあり 粘性あり

第605号溝跡
1 褐灰色土 10YR4/1 黄褐色粘土ブロック（φ2～3mm）・炭化物（φ5mm）少量

第487図 溝跡土層断面図（4）



第488図　溝跡出土遺物（6）

第615号溝跡　　欠番

第10号方形周溝墓に変更。

第616号溝跡　　欠番

第617号溝跡

J－33グリッドに位置する。

本溝跡は、東西方向に伸びる。東側は調査区域外に伸びる。西側は第250・255・256号住居跡付近で立ち上がる。

規模は、全長２ｍ、幅110～125cm、深さは17cmである。幅が広く、やや船底気味の浅い底面である。断面形態は皿状である。

出土遺物は、検出されなかった。

第618号溝跡

J－33グリッドに位置する。

本溝跡は、南北方向に広がり、東側は調査区域外に伸びる。

規模は、全長4.85ｍ、幅50～120cm、深さは37cmである。

出土遺物は、土師器甕・坏破片を少量検出した。

第619号溝跡

北側はH－29グリッド、南側はH－31グリッドに位置する。

本溝跡は、南北方向に直線的に伸びる。北側には第630号溝跡が位置し、南側には第608号溝跡が位置する。重複する遺構は、本溝跡の中央付近で第275・280・283号住居跡を切り、第636号土坑に切られる。溝跡の南端部では第381号井戸跡に切られる。

規模は、全長17ｍ、幅125～180cm、深さはH－30グリッドで68cmである。断面形態は箱薬研である。

出土遺物は、第489図１～５に図示した。１は青磁碗、２～５は覆土から検出された混入遺物である。

第620号溝跡

H・I－30グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に直線的に伸び、北側には第630号溝跡が位置する。また北西側には、本溝跡と並行して走る、第619号溝跡が位置する。重複する遺構は、北側に位置する第274号住居跡を切って造られている。なお本溝跡の北側には第635号溝跡が位置し、連続している可能性がある。

規模は、全長８ｍ、幅100～160cm、深さはH・I－30グリッドで23cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、第489図６の灰釉陶器塊を検出した。

第621号溝跡

F・G－31グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に直線的に伸びる。西側は調査区域外に続く。東側は第２・600号溝跡に切られているが、東側に伸びる第608号に繋がるものと考えられる。このほか重複する遺構は第258・271号住居跡を切り、第370号井戸跡に切り込まれている。

規模は、全長８ｍ、幅70～120cm、深さはF－31グリッドで35cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、第489図８～19に図示した。８～11は土師器坏である。口縁部横ナデを施し、体部内外面には指頭痕が残る。底部外面は丁寧なヘラケズリを施し、器壁は薄い。12～19は須恵器の坏である。18の底部外面にはヘラ記号が残る。また19の底部外面には、ヘラ記号と墨痕が見られる。

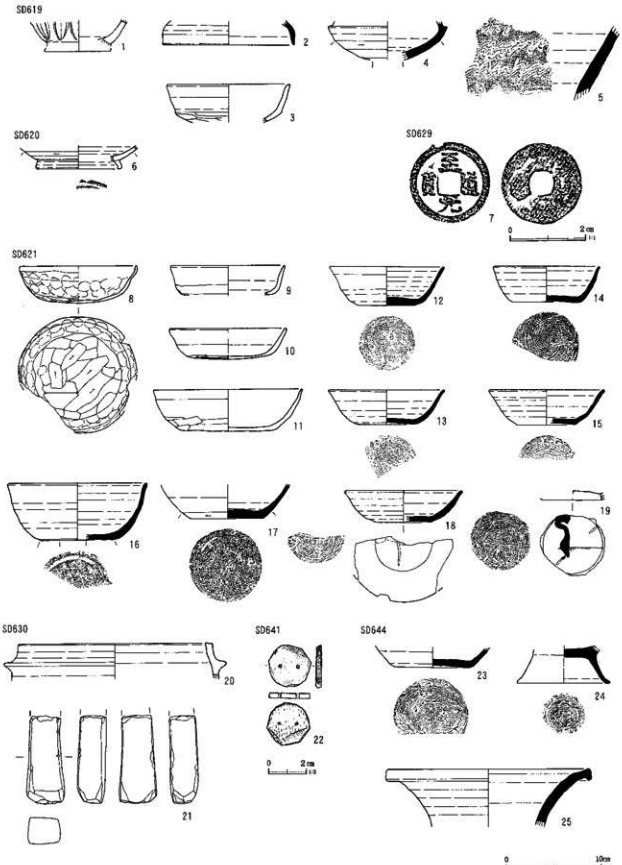
第622号溝跡

F・G－28グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に細長く伸びる。北側は調査区域外に続き、南側は攪乱によって壊されている。

規模は、全長2.6ｍ、幅20～25cm、深さはF－28グリッドで９cmである。

出土遺物は検出されなかった。



第489図　溝跡出土遺物（7）

第623号溝跡

F－28・29グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向にやや蛇行しながら伸びる。北側は調査区域外に続き、南側は第260号住居跡で途切れる。重複する遺構は、北側部分で第362号井戸跡に切られる。

規模は、全長8m、幅30～35cm、深さはF－28グリッドで9cmである。

出土遺物は、土師器の甕・坏の破片を少量検出した。

第624号溝跡

F－28・29グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に伸びる。北側はなだらかに立ち上がり、南側は撹乱を受けている。また本溝跡の東側には、第623号溝跡が並行して走る。

規模は全長2mと非常に短い。幅25cm、深さはF－28グリッドで6cmである。

出土遺物は、土師器の甕・坏の破片を少量検出した。

第625号溝跡

E・F－28グリッドに位置する。

本溝跡は調査区の北西コーナー部で検出され、南北方向に伸びる。北側および西側は調査区域外となり、溝跡の様子はわからない。

規模は、全長2.3m、幅110～120cm、深さはE・F－28グリッドで45cmである。断面形態は逆台形である。

出土遺物は、土師器の甕破片、須恵器の高台付埦1点を検出した。

第626号溝跡

F－28・29グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に伸びる。西側は緩やかに立ち上がり、東側は撹乱を受けている。また東側には第623・624号溝跡が直行して走る。

規模は、全長3.5m、幅35～50cm、深さはF－29グリッドで5cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、底部回転糸切りの須恵器坏1点と、土師器の甕破片を少量検出した。

第627号溝跡

G－28グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に伸びる。西側は緩やかに立ち上がり、東側は第4号溝跡に切られている。

規模は全長3mと非常に短い。幅90～95cm、深さは7cmである。断面形態は皿状である。幅の広い船底状の浅い溝跡である。

出土遺物は、土師器の甕・坏の破片を少量検出した。

第628号溝跡

G－28グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に伸びる。北側は調査区域外へ続き、南側は第4号溝跡に切られ、第627号溝跡を切っている。また第4号溝跡の東側でも検出され、第2号溝跡に切られている。

規模は全長5mと短い。幅30～65cm、深さは14cmである。断面形態は箱形である。

出土遺物は、底部回転糸切りの須恵器坏1点と、土師器の甕破片を少量検出した。

第629号溝跡

G－28グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に伸びる。東側は第2号溝跡、西側は第4号溝跡によって切られている。なお、第4号溝跡の西側に伸びる第627号溝跡と繋がるものと考えられる。

規模は、全長1.65m、幅35～40cm、深さは15cmである

出土遺物は、第489図7に図示した北宋銭「至道通寶」が出土した。「至道通寶」の初鋳は995年である。また、本通貨には、楷書体と草書体による鋳造銭が

存在している。

第630号溝跡

北側はH—29グリッド、南側はI—30グリッドに位置する。

本溝跡は北西から南東方向に直線的に伸びる。北西側は第2号溝跡と連続している。南東側はI—30グリッド地点で掘り込みが止まる。また本溝跡中央付近では、第619号溝跡が南側に連続して伸びる。重複する遺構は、この連続して伸びる第619号溝跡の分岐部分に第370号井戸跡が造られている。さらに、本溝跡の東端部には、規模の小さな溝跡が南東方向に伸びる。

規模は、全長20m、幅70～300cm、深さはH—29グリッドで73cmである。断面形態は逆台形である。

出土遺物は、第489図20、21に図示した。20は羽釜、21は砥石である。このほか覆土中からは須恵器坏・高台付塊、土師器の甕を検出した。

第631号溝跡

G—28グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に短く伸びる。西側には第622号溝跡が位置し、東側には627号溝跡が途切れて繋がる位置に存在する。

規模は、全長0.6m、幅15～20cm、深さは15cmである。

出土遺物は、土師器の甕少量を検出した。

第632号溝跡

G—28グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に伸びる。東西の両端は攪乱を受けている。

規模は、全長0.8mと非常に短く、幅30～35cm、深さは9cmである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第633号溝跡

F—29グリッドに位置する。

本溝跡は北西方向に伸びる。周辺は同様の規模の溝跡が検出されており、第622・632号溝跡が存在する。

規模は、全長0.75mと非常に短く、幅20～30cm、深さは13cmである。

出土遺物は、土師器の甕少量を検出した。

第634号溝跡

F—29グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に伸びる。細長く、北側は緩やかに立ち上がり、南側は第284号住居跡と重複する。溝跡の規模から住居跡の周溝の一部とも考えられる。

規模は、全長2.8m、幅10～20cm、深さは6cmである。

出土遺物は、土師器の甕少量を検出した。

第635号溝跡

I—28・29グリッドに位置する。

本溝跡は調査区の北東端にあたり、北側で東に鍵の手状に曲がり、南方向には直線的に伸びる。東端部は調査区域外に伸びる。また、南端部は調査区立ち上がる。南側には第630号溝跡が直行し、第274号住居跡が位置する。これらの遺構のさらに南側には、第620号溝跡が同軸方向に伸びており、連続する溝跡の可能性が考えられる。重複する遺構は、北側に第364号井戸跡が切り込んでいる。また、中央付近では、第51号掘立柱建物跡が位置し、南端には第378号井戸跡が切り込んでいる。

規模は、全長14m、幅50～90cm、深さはI—28グリッドで7cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、須恵器坏、灰釉陶器壺の破片を少量検出した。

第636号溝跡

Ⅰ－28・29グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に伸びる。北側は調査区域外に続がる。南側は緩やかに立ち上がる。本溝跡の西側には第635号溝跡が並行して検出されている。周辺には、ピットが多く確認されている。

規模は、全長6.3m、幅35～70cm、深さはⅠ－29グリッドで3cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、検出されなかった。

第637号溝跡

G－29グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に伸びる。中世の第2・4号溝跡に挟まれた位置に検出された。

規模は、全長1.2mと非常に短く、幅20cm、深さは21cmである。

出土遺物は、土師器甕、須恵器壺の破片少量を検出した。

第638号溝跡

Ⅰ－29グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に直線的に伸びる。東側は調査区域外に続き、西側は攪乱および第630号溝跡に切られている。

規模は、全長2.8m、幅20～25cm、深さは21cmである。

出土遺物は、検出されなかった。

第639号溝跡

Ⅰ－30グリッドに位置する。

本溝跡は北東から南西方向に直線的に伸びる。北側には第273号住居跡、南側には第278号住居跡が位置する。

規模は、全長2.75mと短く、幅30～40cm、深さは8cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第640号溝跡

F－30グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に伸びる。北側には第259号住居跡、南側には第286号住居跡が位置する。

規模は、全長1.25m、幅50cm、深さは12cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、土師器甕・坏破片少量を検出した。

第641号溝跡

G－29グリッドに位置する。

本溝跡は北西から南東方向に伸びる。北側には第260号住居跡が位置し、南側は第4号溝跡によって切られている。

規模は、全長0.9m、幅30～50cm、深さは4cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、第489図22に図示した石製模造品の有孔円板を検出した。このほか、土師器の比企型坏1点を検出した。

第642号溝跡

G－30グリッドに位置する。

本溝跡は北西から南東方向に伸びる。北側は第281号住居跡が位置し、南側は第376号井戸跡によって切られている。

規模は、全長0.6m、幅45～50cm、深さは11cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、土師器甕の破片少量を検出した。

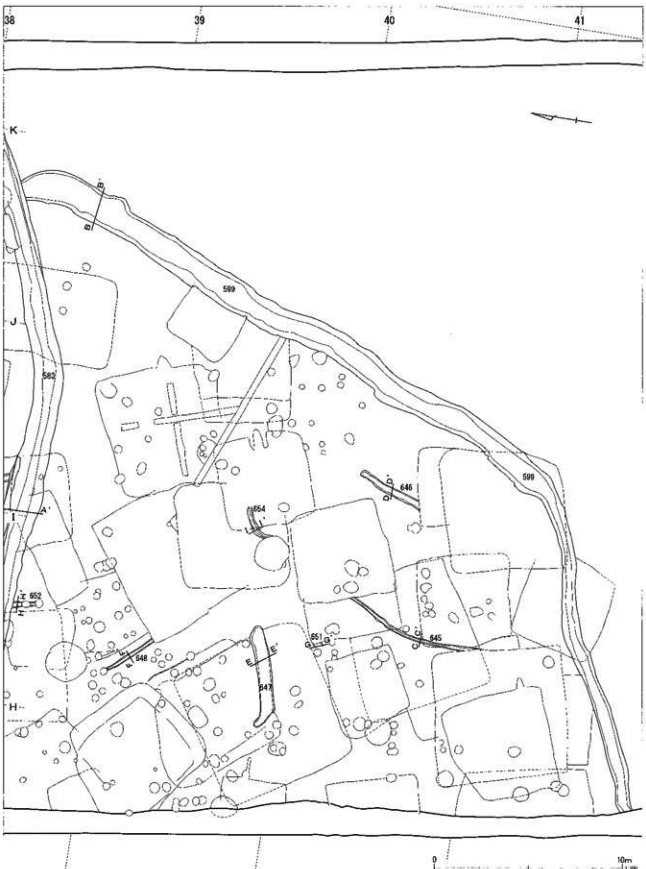
第643号溝跡

F－30グリッドに位置する。

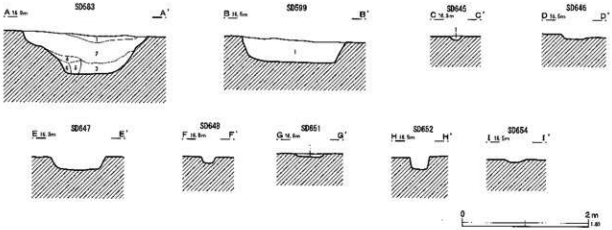
本溝跡は東西方向に伸びる。西側は調査区域外に続く、東側には第290号住居跡が位置する。

規模は、全長0.95m、幅45～50cm、深さは13cmある。断面形態は皿状である。

出土遺物は、検出されなかった。



第490図　溝跡（4）



第583号溝跡
1　青灰色土　5B6/1　しまり・粘性強い
2　オリーブ黒色土　5GY2/1　炭化物ブロック微量　しまり・粘性強い
3　緑灰色土　5G3/1　炭化物ブロック微量　鉄分含む　マンガン生部
　　弓近集中　しまり・粘性強い
4　オリーブ黒色土　5GY2/1　緑灰色粘土ブロック含む　炭化物ブロック少量
　　しまり・粘性強い
5　黒色土　2.5GY2/1　緑灰色粘土ブロック・鉄分・マンガン含む　しま
　　り・粘性強い
6　明緑灰色土　5G7/1　鉄分・マンガン含む　しまり強い　粘性ややあり

第599号溝跡
1　暗灰色土　5G3/0　暗灰色の粘土層　粘質は中程度　炭化物微量　しまりあり

第645号溝跡
1　暗灰色土　10YR4/1　青灰色地山土粒子（φ1～5mm）少量　しまりややあり
　　粘性あり

第651号溝跡
1　黒褐色土　10YR3/1　ロームブロック（φ1～5mm）少量　しまり・粘性ややあり

第491図　溝跡土層断面図（5）

第644号溝跡

Ⅰ・Ⅰ―31グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に緩やかな弧を描いて伸びる。東側は調査区域外に続く、西側は攪乱を挟んで第608号溝跡に繋がると考えられる。さらに、西側の延長線上に検出された第621号溝跡に続くと考えられ、ほぼ、調査区を東西方向に横断する溝跡である。さらに、本溝跡と同時期と考えられる第620号溝跡が北側に南北方向に伸びており、東西南北方向の区画された溝跡を形成している。

規模は、全長12m、幅100～160cm、深さはⅠ―31グリッドで33cmである。

出土遺物は、第489図23～25に図示した。23は底部に回転糸切りを残す須恵器坏である。24は須恵器高盤、25は須恵器甕の口縁部破片である。このほか、覆土中からは土師器甕の破片などを検出した。

第645号溝跡

Ⅱ―40グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に緩やかに弧を描くように伸びる。北側には第298号住居跡、南側には第314号住居跡が位置する。住居跡の周囲を巡る溝跡と考えられる。本溝跡の場合は第309・310号住居跡の外縁を巡っていたと考えられる。

規模は、全長7m、幅15～20cm、深さは6cmである。

出土遺物は、土師器甕の破片少量を検出した。

第646号溝跡

Ⅰ―40グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に伸びる。細長く、規模なども第645号溝跡に近似する。北側に位置する住居跡群の排水施設の可能性も考えられる。

規模は、全長3.6m、幅30～35cm、深さは7cmである。

出土遺物は、土師器甕の破片少量を検出した。

第647号溝跡

Ⅱ―39グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に伸びる。幅が広く掘り込みは

浅い。周囲には掘り込みの浅い住居跡が重複して検出されていることから、住居跡の掘り方の可能性もある。また、吉ヶ谷式土器が覆土中から検出されたことから、この時期の遺構の可能性も考えられるが不明な点が多い。

規模は、全長5.5m、幅30～80cm、深さは21cmである。断面形態は箱形である。

出土遺物は、土師器の高坏・甕、吉ヶ谷式土器の褒破片を検出した。

第648号溝跡

H－39グリッドに位置する。

本溝跡は北西から南東方向に伸びる。細く短い溝跡で、東側にも同様の溝跡が検出された。二条でセットになる可能性が考えられる。本溝跡の北側にはピット群が検出され、南側には第296号住居跡が位置する。

規模は、全長2.95m、幅15cm、深さは9cmである。

出土遺物は、検出されなかった。

第649号溝跡　　欠番

第650号溝跡　　欠番

第651号溝跡

H－40グリッドに位置する。

本溝跡は東西方向に直線的に伸びる。第315号住居跡の北辺にあたり、住居跡の北側周溝とほぼ一致する。住居跡の内側に延びた部分だけが本溝跡として捉えることができた。

規模は、全長2.7m、幅25～40cm、深さは5cmである。断面形態は皿状である。

出土遺物は、検出されなかった。

第652号溝跡

H－38グリッドに位置する。

本溝跡は南北方向に伸びる。第321号住居跡の東辺にあたり、住居跡の東側周溝とほぼ一致する。住居跡の東側に延びた部分だけが本溝跡として捉えることができた。北側は第583号溝跡に切られている。また、南側は第321・322号住居跡内にあたり、緩やかに立ち上がり溝跡の痕跡が途切れる。

規模は、全長1.55m、幅15～25cm、深さは20cmである。断面形態は箱形である。

出土遺物は、検出されなかった。

第653号溝跡　　欠番

第654号溝跡

I－39グリッドに位置する。

本溝跡は北東方向に伸びる。南側に検出した第645号溝跡に繋がる可能性も考えられる。北側は第307号住居跡内で立ち上がり、南側は第653号井戸跡によって切られている。細く幅の狭い溝跡である。古墳時代後期に住居跡の周囲をめぐる排水溝として掘られた溝跡と類似する。

規模は、全長2m、幅25～30cm、深さは4cmである。

出土遺物は、検出されなかった。

第42表　溝跡出土遺物観察表（1）

挿図番号		遺構番号		種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
478	1	SD	585	銅製品	和鏡	鏡径6.5	高さ0.7	重さ57.6	完形				双雀鏡	225 1
478	2	SD	585	緑釉陶器	耳皿	(9.7)	[3.0]	5.5	3/4	黒粒	普通	釉白、胎灰オリーブ		205-1-6
478	3	SD	585	かわらけ	皿	-	[2.9]	(7.4)	1/3	雲 赤粒 黒粒	普通	鈍い橙		
478	4	SD	585	かわらけ	皿	—	[1.0]	6.6	1/5	雲 赤粒	普通	鈍い黄橙		
478	5	SD	585	かわらけ	皿	(11.5)	[3.5]	—	1/4	雲 石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙		
478	6	SD	585	古瀬戸	緑釉小皿	(11.0)	1.8	5.8	1/4	雲	良好	釉:緑・胎:灰黄		206-1-10
478	7	SD	585	かわらけ	皿	(12.2)	3.2	(4.9)	破片	石英 白粒 針	普通	灰		
478	8	SD	585	古瀬戸	直縁大皿	(27.0)	[5.4]	—	破片	白粒 黒粒	普通	鈍い橙		
478	9	SD	585	古瀬戸	直縁大皿	(27.0)	5.9	(11.4)	2/5	白粒 黒粒	普通	内面黒		178-5
478	10	SD	585	古瀬戸	擂鉢	—	[7.0]	(10.0)	破片	石英	普通	鈍い赤褐	G-35G	206-2-4
478	11	SD	585	常滑	甕	—	[6.7]	—	破片	白粒 黒粒	普通	暗灰		
478	12	SD	585	古瀬戸	天目茶碗	(12.0)	[5.3]	—	破片	黒粒	普通	黒		
478	13	SD	585	常滑	甕	—	—	—	破片	石英 赤粒 白粒 礫	普通	鈍い黄褐	I-31G	206-2-3
478	14	SD	585	在地	片口鉢	(30.0)	[8.2]	—	破片	石英 白粒	普通	灰		206-2-5
478	15	SD	585	在地	内耳鍋	(31.0)	[9.7]	—	破片	石英	普通	黒褐		206-2-2
478	16	SD	585	木製品	漆椀	(16.8)	5.5	8.8	1/2				黒漆塗	218-1
478	17	SD	585	木製品	漆椀	13.2	5.1	7.6	3/4				外面黒漆、内面赤漆	218-3
478	18	SD	585	木製品	漆椀	(14.9)	4.6	9.7	1/3				外面黒漆、内面赤漆	218-2
479	19	SD	585	石製品	石臼	幅(23.2) 長さ[23.0] 厚さ6.3~9.3			2/3				安山岩	216-1
479	20	SD	585	石製品	石臼	幅(26.0) 長さ[37.5] 厚さ8.0			1/2				安山岩	216-2
479	21	SD	585	木製品	杭	幅8.7 長さ[34.6] 厚さ6.1			破片				I-35G	
480	22	SD	585	板石塔婆		幅(22.7) 長さ[83.6] 厚さ2.8			破片				「十月」銘	215-1
480	23	SD	585	板石塔婆		幅(24.8) 長さ[32.6] 厚さ2.5			破片					
480	24	SD	585	板石塔婆		幅(31.6) 長さ[60.3] 厚さ3.3			破片					215-2
481	1	SD	2	青磁	蓮弁碗	(17.4)	[4.7]	—	破片	白粒	良好	オリーブ灰	G-29G	206-1-6
481	2	SD	4	石製品	不明品	幅3.5 長さ5.4 厚さ1.0 重さ31.4			完形				G-33G	210-4-3
481	3	SD	583	木製品	漆椀	(13.8)	4.2	7.1	1/3				外面赤漆、内面黒漆	219-1
481	4	SD	583	在地	内耳鍋	—	[11.8]	—	破片	雲 石英 白粒 黒粒 礫	普通	黒褐	15世紀前半	
481	5	SD	584	石製品	砥石	幅(2.5) 長さ[11.2] 厚さ1.9			ほぼ完形					214-2-1
481	6	SD	584	在地	片口鉢	(26.0)	7.0	—	破片	雲 赤粒	普通	橙	14世紀後半~15世紀初頭	
481	7	SD	586	木製品	漆椀	(11.0)	3.1	7.0	1/3				黒漆塗	219-2
481	8	SD	586	木製品	漆椀	(3.4)	[2.4]	—	1/5				黒漆塗	
481	9	SD	586	瀬戸	灰釉末広碗	(12.6)	[4.3]	(5.4)	1/3	赤粒 白粒	良好	灰白		206-1-11
481	10	SD	586	須恵器	坏	—	[2.2]	5.6	1/4	雲 石英 赤粒 白粒	普通	橙		
481	11	SD	586	かわらけ	皿	—	1.6	5.8	1/5	赤粒	普通	鈍い黄橙	J-36G、14世紀	
481	12	SD	586	土製品	瓦塔	長さ[5.5] 幅(7.7) 厚さ(1.5)			破片	黒粒				207-7 4
481	13	SD	586	土製品	瓦塔	長さ[11.4] 幅(4.8) 厚さ1.5			破片	黒粒				207-7-3
481	14	SD	586	鉄滓	椀型滓	幅7.7 長さ7.0 厚さ3.5			—					
481	15	SD	589	在地	片口鉢	(27.8)	[4.7]	—	破片	砂粒	普通	褐	14世紀後半~15世紀初頭	
481	16	SD	591	須恵器	坏	(10.7)	3.3	5.9	3/5	角 石英 白粒 黒粒	普通	灰	J-37G	
481	17	SD	591	須恵器	高台付埦	(14.5)	6.3	7.8	1/2	角 石英 赤粒 白粒	不良	灰	J-37G	
481	18	SD	592	土師器	坏	9.8	3.1	—	完形	雲 角 白粒	普通	橙	北武蔵型坏	150-6
481	19	SD	592	須恵器	甕	(18.0)	[6.4]	—	口縁	石英	普通	灰	末野産	
485	1	SD	599	須恵器	坏	11.1	3.5	6.2	ほぼ完形	石英 赤粒	普通	淡橙		150-7
485	2	SD	599	須恵器	坏	(11.3)	3.8	5.4	1/2	石英 赤粒 白粒 針	普通	鈍い橙		
485	3	SD	599	須恵器	坏	(12.0)	4.2	5.4	3/4	雲 赤粒 白粒	普通	灰	J-38G	
485	4	SD	599	須恵器	坏	(12.4)	4.2	6.0	1/3	雲 石英 赤粒 白粒 針	不良	灰		
485	5	SD	599	須恵器	高台付埦	(12.6)	6.0	6.4	1/2	角 赤粒 白粒 黒粒	普通	灰	J-38G	
485	6	SD	599	須恵器	高台付埦	13.6	5.8	6.3	ほぼ完形	石英 白粒	普通	褐灰		150-8
485	7	SD	599	須恵器	高台付埦	13.4	5.2	6.5	4/5	雲 角 石英 白粒 黒粒	普通	鈍い橙		150-9
485	8	SD	599	須恵器	高台付埦	13.1	5.0	6.0	1/2	雲 石英 白粒 針	普通	灰	J-38G	150-10
485	9	SD	599	土師器	甑	(21.6)	15.6	7.6	1/2	雲 石英 黒粒	普通	灰黄褐	J-39G	176-6
485	10	SD	599	須恵器	高盤	—	[5.7]	—	破片	雲 角 石英 赤粒 白粒	普通	鈍い黄橙		
485	11	SD	599	土師器	甕	(15.8)	[11.0]	—	破片	雲 石英	普通	明赤褐	J-39G	
485	12	SD	599	須恵器	壺	—	[4.9]	(12.0)	破片	石英 白粒	普通	灰		

第43表　溝跡出土遺物観察表（2）

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
485	13	SD 599	須恵器	甕	(19.6)	[8.8]	…	破片	石英 赤粒 白粒	普通	灰	J-38G	
485	14	SD 599	石製品	紡錘車	孔径0.8 径4.2 厚2.1	重さ37.6		完形				滑石	209-2-3
485	15	SD 600	灰釉陶器	埦	(12.9)	[2.4]	…	破片	黒粒	良好	灰白,釉灰白	G-32G,ツケガケ?	204-2-3
485	16	SD 600	青磁	皿	(17.6)	[2.8]	—	破片	白粒	良好	灰オリーブ	G-32G,外面描き	206-1-7
485	17	SD 600	白磁	皿	—	—	…	破片	黒粒	良好	灰オリーブ灰	G-31G,横描き	206-1-2
485	18	SD 600	青磁	碗	—	…	—	破片	白粒	良好	灰オリーブ	F-33G	206-1-1
485	19	SD 600	尾張？	片口鉢	(22.8)	8.5	(12.0)	1/5	石英 砂粒 白粒	良好	灰	G-31G	
485	20	SD 600	灰釉陶器	埦	—	[1.9]	(7.4)	破片	黒粒 小粒	普通	灰白	G-32G	204-2-4
485	21	SD 601	須恵器	壺	(11.6)	[2.8]	…	破片	白粒	良好	灰	東毛産？	
485	22	SD 601	須恵器	蓋	(12.7)	[4.9]	—	1/4	白粒 礫	普通	褐灰	G-33G，群鳥産	203-2-13
485	23	SD 601	土師器	坏	(13.0)	[4.9]	…	1/5	雲 角 赤粒	普通	鈍い橙	G-33G，横撫ケ	
485	24	SD 601	石製品	紡錘車	孔径0.5 径3.6 厚2.0	重さ6.3		破片				G-33G，滑石	209-2-11
488	1	SD 602	土師器	埦	12.6	6.5	3.8	ほぼ完形	雲 石英 砂粒 黒粒	普通	鈍い黄橙	赤彩	177-1
488	2	SD 602	上師器	埦	9.5	7.5	—	3/4	砂粒 赤粒 小粒	普通	鈍い黄橙		177-2
488	3	SD 602	須恵器	坏	—	[8.0]	(8.2)	破片	石英 白粒 針 黒粒	普通	灰		
488	4	SD 602	須恵器	坏	—	[1.0]	(7.0)	破片	角 白粒 針	普通	灰	G-33G,刻書「×」	207-4
488	5	SD 602	石製品	砥石	幅(5.2) 長さ7.9	厚さ2.2		1/2					214-2-3
488	6	SD 602	石製品	紡錘車	孔径0.6 径4.7 厚2.1	重さ40.2		完形				滑石	209-2-12
488	7	SD 603	土師器	土錘	孔径0.5 長さ5.5 厚さ1.7	重さ14.2		ほぼ完形					208-2-7
488	8	SD 605	鉄製品	刀物	幅[2.3・1.3] 長さ4.1	1.7		破片				二片	
488	9	SD 607	上師器	坏	(12.4)	[4.2]	—	1/3	角 石英 白粒 針	良好	赤	比企型坏，赤彩	
488	10	SD 607	土師器	坏	(12.0)	[4.2]	—	1/5	雲 白粒	普通	橙	J-34G,北武蔵型坏	
488	11	SD 607	木製品	板材	幅[14.9] 長さ32.4	厚さ1.3		破片					
488	12	SD 608	須恵器	坏	(12.0)	[4.3]	(5.0)	1/4	雲 石英	普通	鈍い橙		
488	13	SD 608	須恵器	坏	(12.0)	4.0	(6.0)	1/5	角 赤粒 白粒	普通	鈍い黄橙		
488	14	SD 608	須恵器	高台付埦	—	[2.6]	6.8	1/5	雲 赤粒 白粒	普通	灰		
488	15	SD 608	灰釉陶器	埦	(14.6)	[3.3]	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰白,釉白	ツケガケ	204-2-5
488	16	SD 608	灰釉陶器	埦	…	[4.7]	(8.2)	1/4	白粒 黒粒	良好	灰白,釉白	ツケガケ	204-2-6
488	17	SD 608	灰釉陶器	埦	…	[2.1]	6.7	底部のみ	白粒 黒粒	良好	灰白	転用硯，黒書	204-2-7
488	18	SD 608	上製品	瓦塔	幅(7.4) 長さ7.3	厚さ2.3		破片	石英 黒粒				207-7-5
489	1	SD 619	青磁	碗	…	—	…	破片	白粒	良好	オリーブ灰	H-30G，13世紀	206-1-8
489	2	SD 619	須恵器	蓋	(14.0)	[2.6]	…	破片	白粒	普通	灰	H-30G	
489	3	SD 619	上師器	坏	(13.0)	[4.0]	—	破片	雲 赤粒 白粒	普通	鈍い橙	H-30G,有段口縁坏	
489	4	SD 619	須恵器	高坏	—	[4.0]	…	破片	赤粒 白粒 黒粒	普通	灰	H-30G	
489	5	SD 619	須恵器	甕	—	…	…	破片	石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	黒	H-30G	204-1-5
489	6	SD 620	灰釉陶器	埦	—	[2.5]	(9.0)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白		204-2-8
489	7	SD 629	銭貨	半通元寶	径2.2	重さ1.1						北宋 初鋳955年	225-2-9
489	8	SD 621	土師器	坏	12.3	3.9	—	3/4	角 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙		151-1
489	9	SD 621	土師器	坏	(12.2)	[3.1]	—	1/5	雲 石英	普通	明赤褐		
489	10	SD 621	土師器	坏	12.3	3.2	9.0	2/3	角 石英 赤粒 白粒	良好	鈍い橙		151-2
489	11	SD 621	土師器	坏	(15.8)	4.4	10.0	1/3	雲 角 黒粒	普通	橙		
489	12	SD 621	須恵器	坏	(12.2)	4.1	6.0	1/2	石英 白粒 針	普通	灰		
489	13	SD 621	須恵器	坏	(12.4)	3.6	(6.0)	1/4	雲 白粒	普通	灰		
489	14	SD 621	須恵器	坏	(11.3)	3.8	7.0	1/2	石英 赤粒 白粒 針	普通	暗赤灰		
489	15	SD 621	須恵器	坏	(12.0)	[3.7]	(6.0)	1/3	針	普通	灰		
489	16	SD 621	須恵器	坏	(14.6)	6.0	(7.8)	1/4	白粒 針	良好	灰		
489	17	SD 621	須恵器	坏	…	[3.7]	7.8	1/3	石英 白粒 針 黒粒	普通	灰白		
489	18	SD 621	須恵器	坏	(12.3)	3.4	6.0	1/3	石英 針	普通	灰	刻書	207-5
489	19	SD 621	須恵器	坏	—	[1.0]	6.2	1/5	白粒 針	普通	灰	墨書，刻書	207-6
489	20	SD 630	土師器	坏蓋	(20.5)	[3.8]	…	破片	角 赤粒 白粒 黒粒	普通	褐灰		
489	21	SD 639	石製品	砥石	幅(4.0) 長さ9.3	厚さ2.8		1/2					214-2-2
489	22	SD 641	石製模造品	有孔円板	幅2.2 長さ2.3	厚さ0.3	重さ2.4	ほぼ完形					211-2-20
489	23	SD 644	須恵器	坏	—	[2.2]	(8.0)	1/5	白粒 針	普通	灰	I-31G	
489	24	SD 644	須恵器	高盤	—	[4.0]	(9.6)	底部のみ	石英	普通	灰	I-31G	
489	25	SD 644	須恵器	甕	(21.4)	[5.7]	—	破片	石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	灰	I-31G	

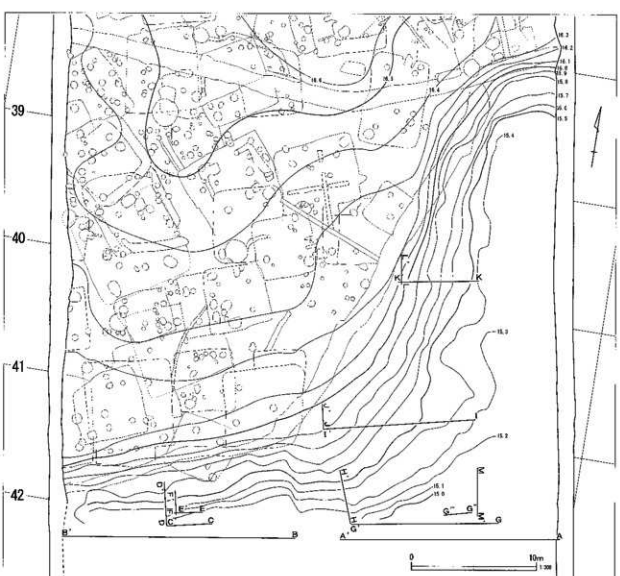
9．谷部

第4次調査西区の調査では、南側に東に向けて大きく湾曲する谷部が検出された。

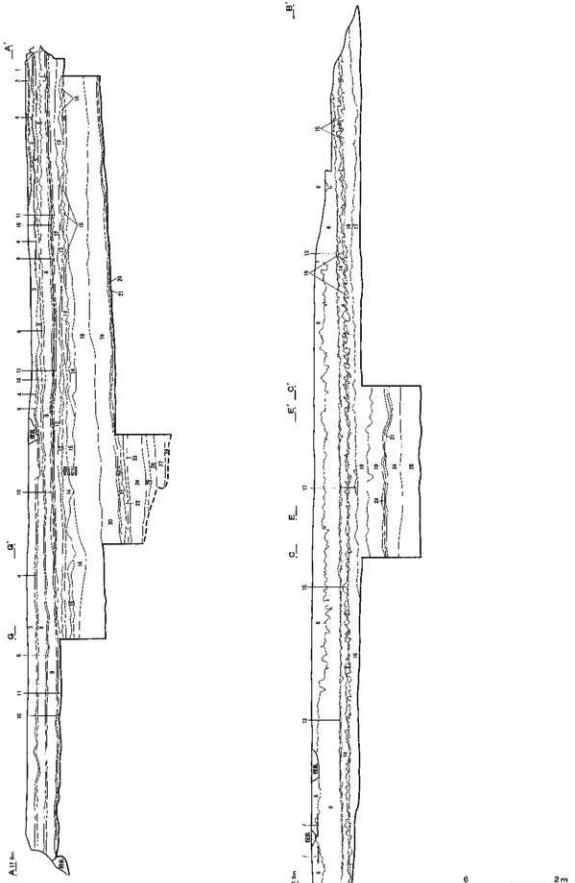
谷部の調査は、すべての遺構の調査が終了した後に、重機を導入して古墳時代の遺構確認面（地山）を追って掘り下げた。調査区における掘削深度に限界があるため、それより深いところには、トレンチを設定して調査した。

調査の結果、谷部には古代と古墳時代の包含層が確認された。包含層からは、古墳前期・後期、平安時代の土器類が出土した。遺物の包含密度はさほど多くはない。

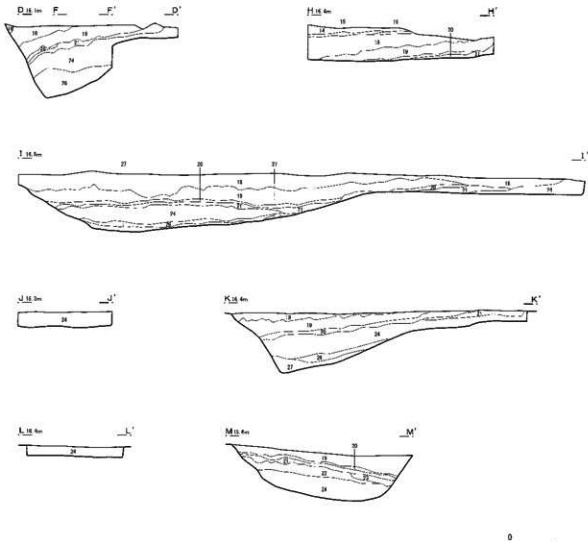
包含層の土壌を自然科学分析に供し、古環境の復元を試みた。その結果、谷部は、全体的に湿地から河川の影響を受け、水生植物が生い茂る浅水域の環境であることが判明した。古墳時代には、乾湿を繰り返し、時に海水ないしは汽水の影響を受けていたと考えられ、古代には人里や耕地に育つ雑草類が生育するB当りのよい環境であり、水出も営まれていたと推定されている。また、古代包含層で検出された火山灰は、浅間Bテフラ（1108年降灰）であることが判明した。自然科学分析の詳細は第VI章を参照されたい。



第492図　谷部全体図

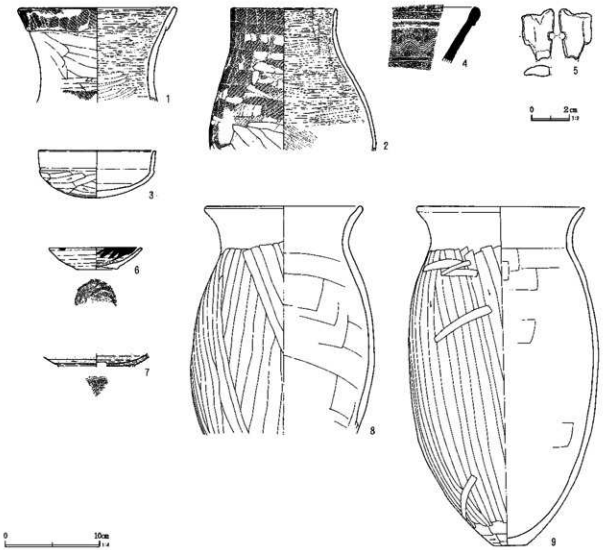


第493図　谷部土層断面図（1）



第区谷部			
1	褐灰色土	10YR5/1	酸化鉄・マンガン含む　粘土質
2	黒褐色土	10YR3/1	マンガンの集積層　粘土質
3	褐灰色土	10YR6/1	酸化鉄・マンガン含む　模状の酸化鉄多量　粘土質
4	黒褐色土	10YR3/1	マンガンの集積層　粘土質
5	灰灰色土	10YR6/1	酸化鉄・マンガン含む　部分的に土層状になる
6	灰オリーブ色土	5Y5/2	酸化鉄分がまだらタタキ状に結状に入る（10～20%）（構物の痕）しまりあり　粘性ややあり
7	灰オリーブ色土	5Y5/2	下方10cmほどシタ方向にやや暗色の酸化鉄がみられる（筋が無数に入る）しまりあり　粘性あり～強い
8	灰色土	N5/0	酸化鉄をほとんど含まない　マンガン少量　粘土質
9	緑灰色土	7.5Y6/1	マンガンの集積層　粘土質
10	黒褐色土	10YR3/1	マンガンの集積層　粘土質
11	黒褐色土	10YR3/1	緑灰鉄少量　粘土質
12	緑灰色土	7.5GY6/1	
13	緑灰色土	7.5GY6/1	青灰色のやや明るいブロック土が堆積する　しまりややあり　粘性あり
14	灰色土	N4/0	白色粒子（φ1～5mm）少量　しまりややあり　粘性あり～強い　十師器を少量含む（古墳時代以前）
15	黒色土	N1.5/0	黒色土がまだらに混入しており、16層の土がやや堅さ上げしれている　一部に火山灰（浅間B）とみられる純粒を含む　（古墳時代以前）
16	褐色土	10GY5/1	シャリシャリした白色粒子（φ1～3mm）少量　16層の土と混じったまだらである　しまりややあり　粘性あり～強い　土師器を含む（混入）
17	オリーブ灰色土	2.5GY6/1	やや明色のブロックが堆積する　しまりややあり　粘性あり～強い
18	黒色土	2.5GY2/1	地質の粘質土層　混じりけ少ない　白色粒子（φ1mm）少量　しまりあり　粘性ややあり
19	緑灰色土	5G6/1	19層のセボ状ブロック状に少量　ボソボソした質　しまりやや弱い　粘性あり
20	青黒色土	5G2/1	黒色土（有機物か）少量　しまりやや弱い　粘性あり　（古墳時代以前堆積）
21	青黒色土	5G2/1	ブロック状の青灰色土が上層に被状に堆積する　白色粒子少量　しまりやや弱い　粘性あり　（古墳時代以前堆）
22	灰色土	5Y5/0	21層の上をまだらに含む　しまりややあり　粘性あり
23	青灰色土	5B5/1	砂質　包含物なし　しまりややあり　粘性あり
24	暗青灰色土	10BG4/1	黒色粒子（炭化物？）（φ1～3mm）少量　しまりややあり　粘性あり　（古墳時代以前）
25	暗緑灰色土	10GY4/1	うすい有機物層が2～3層うとなりながら堆積している　しまりややあり　粘性あり
26	暗青灰色土	5BG4/1	暗質の粘質土層　混入物なし　しまりややあり　粘性あり
27	オリーブ黒色土	10Y3/1	3枚のしっかりした有機物層が入り込む　炭化自然木を含む木片、灰状に堆積した質の層を含む　しまりややあり　粘性あり
28	オリーブ黒色土	10Y3/1	

第494図　谷部土層断面図（2）



第495図　谷部出土遺物

第44表　谷部出土遺物観察表

挿図番号		遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
495	1	グリッド	H42	土師器	甕	(17.0)	[10.0]	—	1/3	雲 片 角 石英 赤粒	良好	橙	石英多量	
495	2	グリッド	H42	土師器	甕	11.2	[15.0]	—	3/5	片 角 石英 赤粒	良好	灰褐		177-3
495	3	グリッド	J41	土師器	坏	12.4	5.0	—	4/5	砂粒 赤粒 白粒	普通	橙	横倒坏	151-3
495	4	グリッド	J37	須恵器	甕	—	—	—	破片	砂粒 白粒	良好	灰白		204-1-3
495	5	グリッド	J39	石製模造品	不明品	幅1.7 長さ2.7 厚0.5 重さ3.7			破片					
495	6	グリッド	J38	かわらけ	小皿	9.8	2.3	4.6	4/5	雲 砂粒 赤粒	普通	灰黄褐	油煙付着	151-4
495	7	グリッド	J38	緑釉陶器	塊	—	[1.4]	—	破片	白粒	普通	灰 釉リーフ		205-1 4
495	8	グリッド	J41	土師器	甕	16.5	[24.0]	—	1/3	砂粒 赤粒 白粒	普通	鈍い橙		202-1
495	9	グリッド	J41	土師器	甕	17.0	35.7	3.6	4/5	雲 赤粒	良好	鈍い褐		202-2

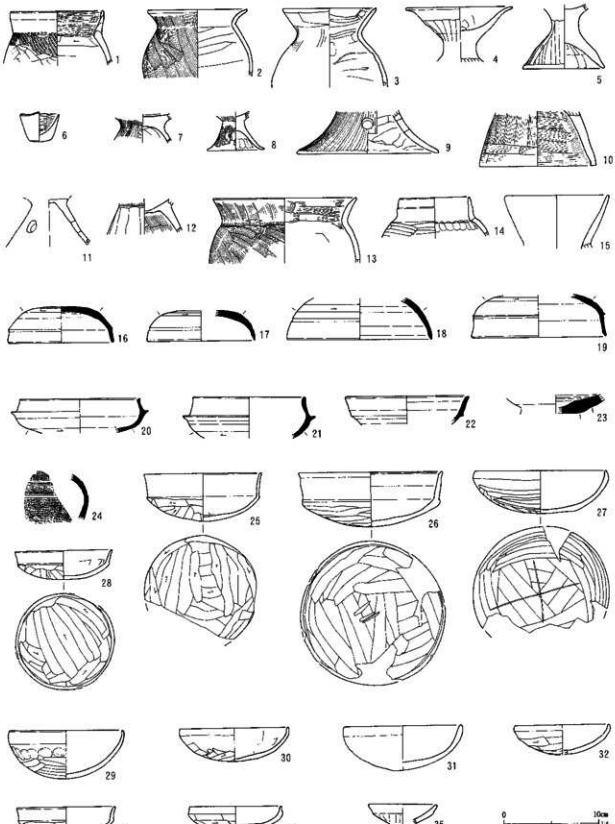
10. グリッド・表採

下田町遺跡第4次調査において、遺構確認面を覆う黒色の包含層から遺物を多く検出した。これらの遺物は10m四方に区切られたグリット遺物として取り上げをおこなった。縄文時代、古墳時代前期・後期、奈良時代、平安時代、中世に至る時期の遺物まで存在し、第496図～第502図に図示した。1～15は古墳時代前期の遺物である。16～24は古墳時代後期の須恵器である。25～55は土師器の坏・高坏・鉢・甕・甑などである。56～73は奈良・平安時代の土師器坏、須恵器坏・甕、灰釉陶器埦類である。74は中世の在地産片口鉢、75は擂鉢の上製品である。76は硯の破片である。77は石製勾玉、78～88は石製模造品、89は管玉、90～95は白玉である。また、96～98は石製紡錘車、99・100は土錘である。104～106は砥石、107～109は瓦塔である。110は椀形鍛冶滓で、112は小口径の鍛冶用羽口である。115～118は鉄製品である。116はやや大きい鎌、117は刀子である。

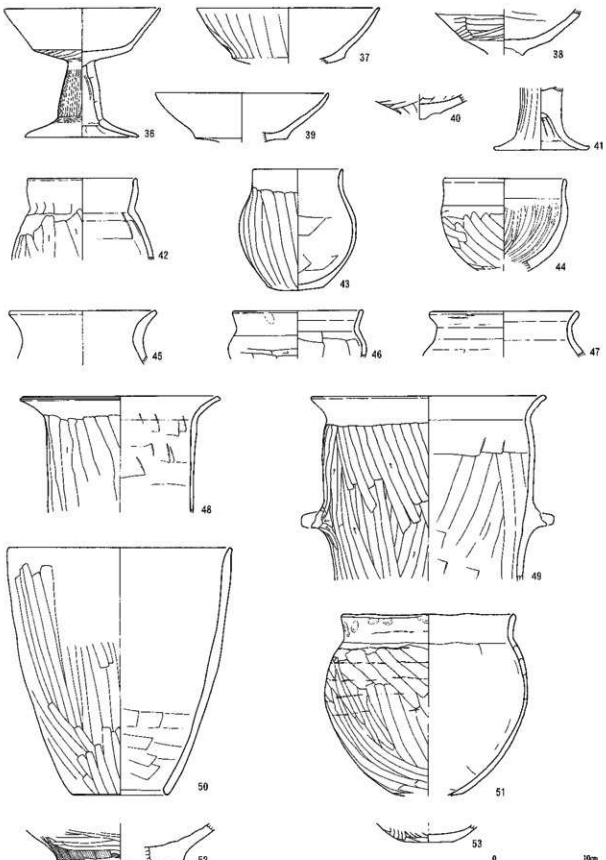
120～140は表採遺物である。132は上半部のみの資料であるが表面にキリークが明瞭に残された遺存状態の良い板碑である。

第45表　グリッド・表採出土遺物観察表（1）

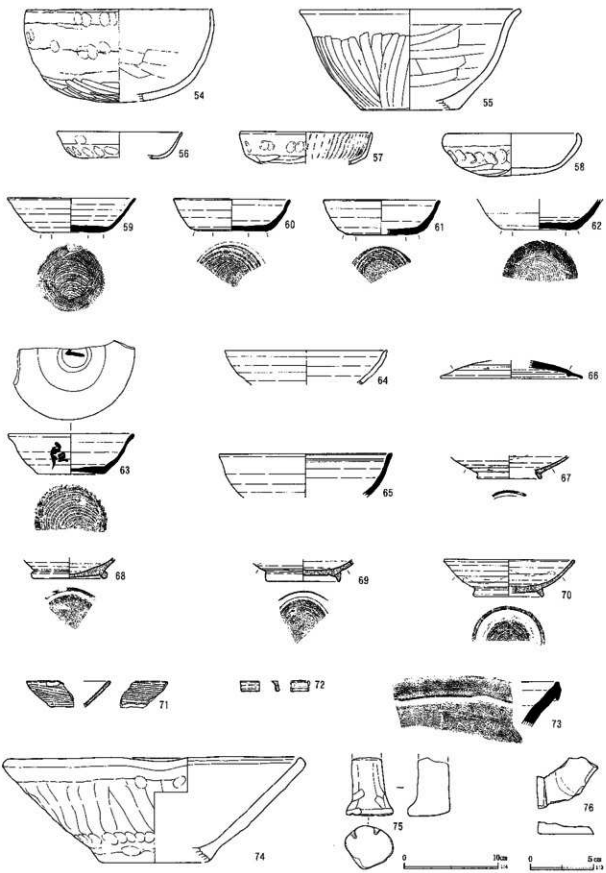
挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
496	1	グリッド	G30	土師器	甕	(10.0)	[5.8]	—	1/3	角 石英 赤粒 白粒	良好	鈍い黄褐		
496	2	グリッド	H39	土師器	小型甕	10.5	[7.0]	—	1/4	砂粒 白粒	普通	黒褐		177-4
496	3	グリッド	H39	土師器	小型壺	(9.7)	[8.4]	—	破片	雲 角 石英 赤粒	普通	橙		
496	4	グリッド	G40	土師器	高坏	11.4	[5.9]	—	坏部	雲 砂粒 白粒	普通	褐		
496	5	グリッド	G40	土師器	高坏	—	[6.8]	(8.8)	1/2	雲 石英 砂粒 白粒	普通	鈍い褐		
496	6	グリッド	I 34	土師器	ミニチュア	4.2	3.1	2.5	完形	黒粒	普通	橙		177-5
496	7	グリッド	F 34	土師器	台付甕	—	[3.1]	-	脚部破片	雲 角 礫	普通	鈍い褐		
496	8	グリッド	G 34	土師器	高坏	—	[4.0]	6.2	脚部のみ	砂粒 赤粒 白粒	普通	明褐		
496	9	グリッド	I 35	土師器	高坏	—	4.5	(15.0)	脚部1/5	赤粒 白粒	良好	鈍い橙	四方透	
496	10	グリッド	H39	土師器	台付甕	—	[5.8]	12.2	脚部	砂粒	普通	鈍い橙		
496	11	グリッド	F 35	土師器	高坏	—	[5.0]	—	破片	石英 赤粒 白粒	普通	橙	三方透	
496	12	グリッド	F 35	土師器	台付甕	—	[3.8]	—	破片	雲 砂粒	普通	橙		
496	13	グリッド	H34	土師器	甕	(15.2)	[6.9]	—	破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
496	14	グリッド	H39	土師器	短頸壺	(7.5)	[4.3]	—	口縁	黒粒	普通	鈍い橙		
496	15	グリッド	H36	土師器	壺	(11.0)	[5.7]	—	口縁1/2	赤粒	普通	明赤褐		
496	16	グリッド	I 39	須恵器	蓋	(11.2)	3.8	—	1/4	白粒	良好	灰黄褐		
496	17	グリッド	I 39	須恵器	蓋	(11.6)	3.2	—	破片	石英 赤粒 白粒	良好	灰褐		
496	18	トレンチ		須恵器	蓋	(15.5)	4.3	—	破片	白粒 針	良好	灰		
496	19	グリッド	G38	須恵器	坏蓋	(14.2)	[4.4]	—	1/5	黒粒	良好	青灰		203-2-14
496	20	グリッド	H38	須恵器	坏身	(13.0)	[3.6]	—	破片	白粒	良好	青灰		203-2-2
496	21	グリッド	F 30	須恵器	坏身	(12.0)	[4.4]	—	破片	白粒 黒粒	良好	青灰	ロクロ右回転	203-2-9
496	22	グリッド	I 37	須恵器	盤	(13.0)	[3.0]	—	破片	黒粒 褐粒	良好	灰白		
496	23	グリッド	J 36	須恵器	甑	—	[2.0]	—	底部1/4	白粒 黒粒	良好	灰		
496	24	グリッド	G36	須恵器	甕	—	—	—	破片	白粒	良好	青灰		
496	25	グリッド	G29	土師器	坏	(12.6)	5.0	—	1/2	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙	模倣坏	
496	26	グリッド	J 34	土師器	坏	15.4	5.8	—	4/5	砂粒 赤粒	普通	橙	模倣坏	151-5
496	27	グリッド	I 32	土師器	坏	(13.8)	4.5	—	1/2	雲 赤粒 白粒	普通	赤	赤彩	151-6
496	28	グリッド	I 32	土師器	坏	(10.2)	3.0	—	ほぼ完形	雲 赤粒 黒粒	普通	橙	模倣坏	151-7
496	29	グリッド	H30	土師器	坏	(12.0)	5.1	—	2/3	雲 赤粒 白粒	普通	橙		151-8
496	30	グリッド	G34	土師器	坏	(11.6)	3.5	—	1/2	雲 石英	良好	鈍い橙		
496	31	グリッド	G35	土師器	坏	12.5	4.7	—	1/2	白粒 黒粒	普通	明赤褐		151-9
496	32	グリッド	G37	土師器	坏	(10.2)	[3.1]	—	1/4	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙		
496	33	グリッド	G34	土師器	坏	(10.3)	[2.4]	—	破片	石英 白粒 黒粒	良好	橙	模倣坏	
496	34	グリッド	G37	土師器	坏	(9.7)	[2.5]	—	1/5	角 石英 白粒	普通	橙		
496	35	グリッド	G35	土師器	器台	(7.4)	[2.2]	—	破片	砂粒 赤粒	良好	橙	赤彩	
496	36	グリッド	G33	土師器	高坏	16.6	13.6	12.1	4/5	雲 石英 赤粒	普通	明赤褐	赤彩	177-6



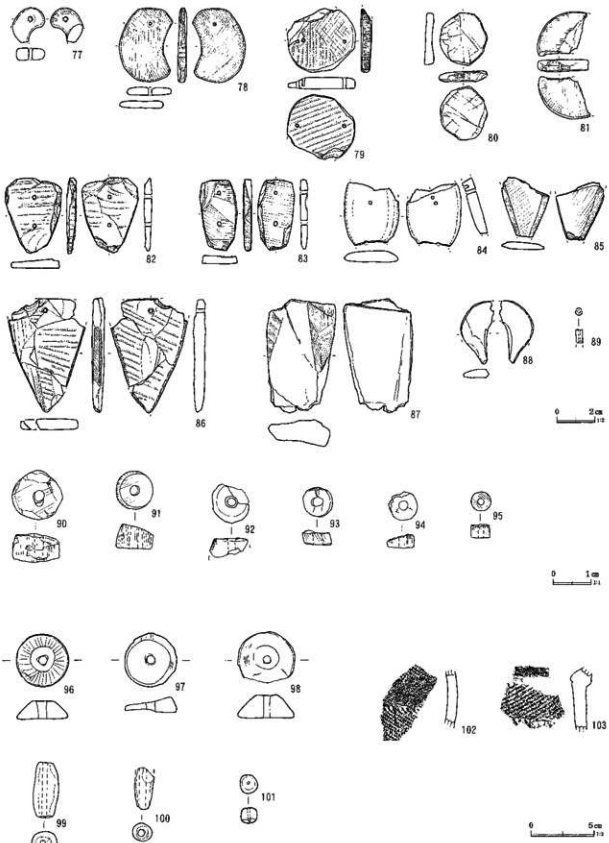
第496図　グリッド・表採出土遺物（1）



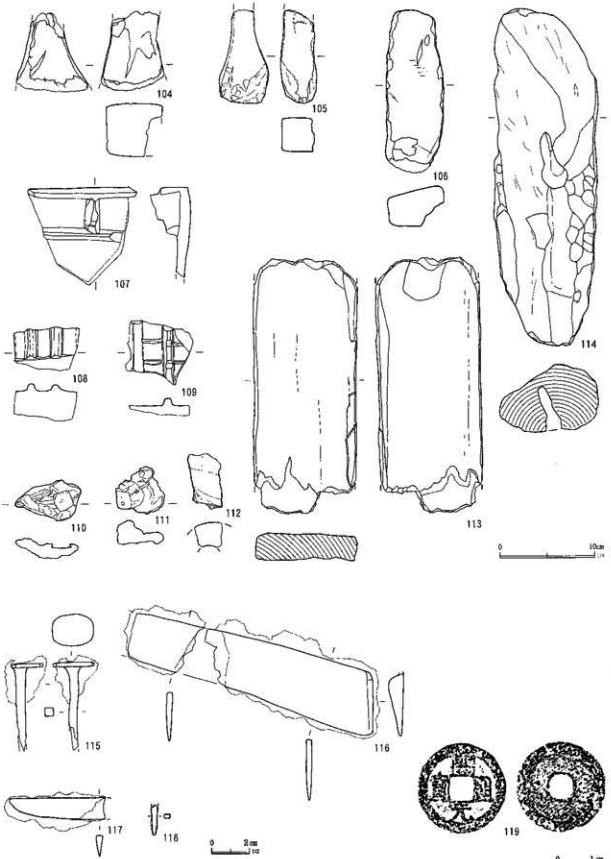
第497図　グリッド・表採出土遺物（2）



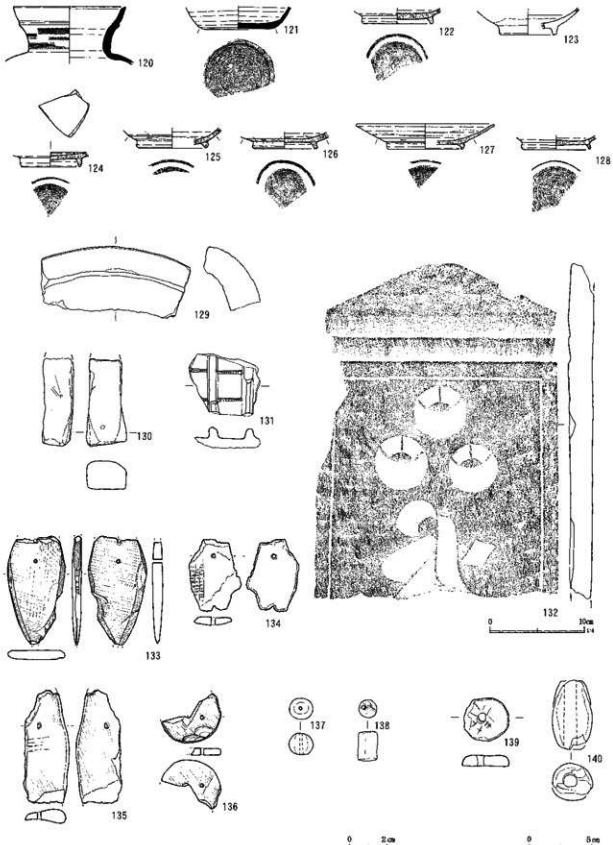
第498図　グリッド・表採出土遺物（3）



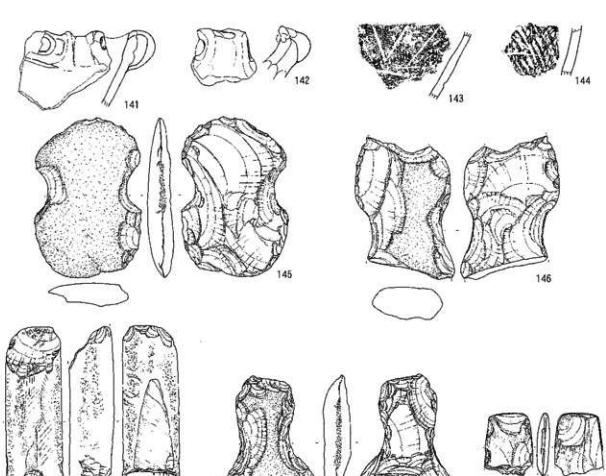
第499図　グリッド・表採出土遺物（4）



第500図　グリッド・表採出土遺物（5）



第501図　グリッド・表採出土遺物（6）



第502図　グリッド・表採出土遺物（7）

141・142は縄文時代後期の曽谷式である。いずれも波状口縁深鉢形土器の波底部の破片である。波底部には、貼付文を施している。143は縄文時代後期の堀之内2式である。鋸歯状の磨消縄文を施した胴部破片である。144は縄文時代後期の器面全体に縄文を施した深鉢形土器の胴部である。

145・146・148は打製石斧である。145は長さ12.6cm、幅8.5cm、厚さ2.0cm、重さ261.6gである。石器石材はホルンフェルス製で、形状はいわゆる分銅形である。146は両端を欠損する。残存の長さ11.2cm、幅7.5cm、厚さ2.6cm、重さ269.9gである。石器石材は砂岩製で、形状はいわゆる分銅形になると思われる。148は長さ10.9cm、幅7.9cm、厚さ2.2cm、重さ170.5gである。石器石材はホルンフェルスで、形状は月部付近に最大幅があるいわゆる撥形の範疇に含まれる。

147・149は磨製石斧である。147は両端を欠損する。残存の長さは16.2cm、幅4.5cm、厚さ3.5cm、重さ416.8gで、石器石材は黒色頁岩である。両側に敲打痕が認められ、欠損後に磨製石斧から敲石に転用されたと思われる。149は基部の破片である。残存の長さは5.0cm、幅3.9cm、厚さ1.0cm、重さ28.1gで、石器石材はシルト岩である。

第46表　グリッド・表採出土遺物観察表（2）

種別番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
497	37	グリッド	G36	土師器	高坏	(19.3)	[5.9]	—	口縁破片	雲 石英 白粒	普通	赤褐		
497	38	グリッド	F30	土師器	高坏	—	[4.8]	—	1/5	角 石英 赤粒 白粒	普通	橙	赤彩	
497	39	グリッド	G32	土師器	高坏	(18.0)	[5.2]	—	坏部破片	雲 角 石英 赤粒	普通	橙		
497	40	グリッド	F30	土師器	高坏	—	[2.6]	—	破片	雲 角 石英 白粒	普通	赤	赤彩	
497	41	グリッド	I 31	土師器	高坏	—	[6.6]	(9.6)	脚部	雲 石英 白粒	普通	橙		
497	42	グリッド	I 31	土師器	壺	(11.4)	[8.6]	—	破片	雲 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
497	43	グリッド	G31	土師器	鉢	(9.5)	12.8	6.0	2/3	赤粒 黒粒	普通	橙		202-3
497	44	グリッド	I 39	土師器	鉢	(12.8)	[9.8]	—	3/4	雲 石英	普通	赤		
497	45	グリッド	F30	土師器	甕	(15.6)	[5.7]	—	破片	雲 石英	普通	明赤褐		
497	46	グリッド	F30	土師器	小型壺	(13.8)	[5.0]	—	破片	雲 白粒	普通	橙		
497	47	グリッド	I 38	土師器	小型甕	(16.0)	[4.8]	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	浅黄橙		
497	48	グリッド	H29	土師器	甕	20.8	[12.3]	—	1/2	砂粒 赤粒 小礫	普通	鈍い黄褐		178-1
497	49	グリッド	G32	土師器	甑	(25.0)	[19.5]	—	1/5	雲 角 赤粒 黒粒	普通	鈍い黄橙		
497	50	グリッド	H39	土師器	甑	(23.3)	25.4	(14.4)	1/5	雲 石英 赤粒 白粒	普通	橙		
497	51	グリッド	J 35	土師器	甕	18.0	[19.1]	(7.4)	2/5	雲 黒粒	普通	灰褐		178-2
497	52	グリッド	F35	土師器	壺	—	[4.3]	(12.8)	底部破片	雲 白粒	普通	橙		
497	53	グリッド	F35	土師器	甕	—	(2.0)	5.5	底部	石英 赤粒	普通	外暗褐,内橙		
498	54	グリッド	H33	土師器	鉢	(19.6)	[9.9]	—	1/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	鈍い赤褐		
498	55	グリッド	H31	土師器	鉢	(23.3)	10.7	(10.5)	破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	褐灰		
498	56	グリッド	F31	土師器	坏	(13.2)	[2.8]	—	破片	角 白粒 黒粒	普通	橙		
498	57	グリッド	F31	土師器	坏	(13.8)	[3.4]	—	破片	雲 黒粒	普通	橙		
498	58	グリッド	G35	土師器	坏	14.0	4.5	6.0	2/3	赤粒 黒粒	普通	鈍い赤褐	赤彩	
498	59	グリッド	F31	須恵器	坏	(13.6)	3.6	6.8	1/2	雲 白粒 針	普通	灰		
498	60	グリッド	F32	須恵器	坏	(12.2)	3.4	(7.7)	1/4	石英 針	良好	灰		
498	61	グリッド	F34	須恵器	坏	(12.4)	3.7	(7.8)	1/4	長石 白粒 針	良好	暗青灰		
498	62	グリッド	I 33	須恵器	坏	—	[3.3]	(8.0)	底部1/2	雲 白粒 針	良好	灰		
498	63	グリッド	G31	須恵器	坏	(13.2)	4.2	7.0	1/2	砂粒 針	良好	灰	墨書	
498	64	グリッド	I 31	須恵器	皿	(17.4)	[3.6]	—	破片	黒粒	普通	オリーブ黄		206-1-5
498	65	グリッド	F30	須恵器	蓋	(18.3)	[4.6]	—	破片	白粒 針	良好	灰		
498	66	グリッド	I 29	須恵器	蓋	(15.0)	[1.9]	—	破片	雲 白粒	普通	灰白		
498	67	グリッド	H32	灰釉陶器	埦	—	[2.5]	(6.9)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白		204-2-10
498	68	グリッド	H36	灰釉陶器	埦	—	[2.2]	(7.9)	底部1/4	白粒 黒粒	良好	灰白		204-2-9
498	69	グリッド	G31	灰釉陶器	埦	—	[2.3]	(7.9)	底部1/3	白粒 黒粒	良好	灰白		204-2-11
498	70	グリッド	H31	灰釉陶器	埦	(13.9)	3.9	(7.3)	1/2	黒粒	良好	灰白		151-10
498	71	グリッド	H31	緑釉陶器	稜埦	—	—	—	破片	白粒	普通	明るいオリーブ灰		205-1-3
498	72	グリッド	F31	緑釉陶器	埦	—	—	—	破片	白粒	普通	灰オリーブ		205-1-5
498	73	グリッド	I 36	須恵器	甕	—	—	—	破片	砂粒 白粒	良好	灰		204-1-4
498	74	グリッド	H36	在地	片口鉢	(31.2)	11.0	(11.6)	2/5	砂粒	普通	鈍い褐		178-3
498	75	グリッド	G30	土製品	紡錘車	幅5.4 長さ[6.0] 厚さ4.5				雲 赤粒 白粒	普通	褐		
498	76	グリッド	G36	石製品	硯	幅4.8 長さ4.0 厚さ0.9			破片					
499	77	グリッド	H39	石製品	勾玉	幅1.7 長さ1.9 厚さ0.7 重さ2.7			1/2					212-1-3
499	78	グリッド	H30	石製模造品	勾玉形	幅2.4 長さ3.9 厚さ0.5 重さ10.1			完形					212-1-7
499	79	グリッド	I 36	石製模造品	有孔円板	幅3.6 長さ3.4 厚さ0.6 重さ11.6			4/5					211-2-21
499	80	グリッド	G37	石製模造品	円板形	幅2.8 長さ2.5 厚さ0.5 重さ5.8			ほぼ完形					
499	81	グリッド	I 30	石製模造品	勾玉形	幅2.2 長さ2.2 厚さ0.6 重さ6.0			1/2					
499	82	グリッド	I 40	石製品	剣形品	幅3.0 長さ4.0 厚さ0.5 重さ8.4			ほぼ完形					211-1-13
499	83	グリッド	G40	石製模造品	剣形品	幅2.0 長さ3.8 厚さ0.5 重さ6.0			1/2					211-1-15
499	84	グリッド	I 35	石製模造品	剣形品	幅2.9 長さ3.4 厚さ0.6 重さ10.7			1/2					
499	85	グリッド	H38	石製模造品	剣形品	幅2.5 長さ3.1 厚さ0.4 重さ4.7			1/2					
499	86	グリッド	H30	石製模造品	剣形品	幅1.1 長さ6.0 厚さ0.6 重さ10.4			4/5					211-1-14
499	87	グリッド	G30	石製品	未製品	幅3.7 長さ6.8 厚さ0.9 重さ31.0			破片					
499	88	グリッド	I 38	石製模造品	勾玉形	幅1.8 長さ3.3 厚さ0.5 重さ2.7			4/5					
499	89	グリッド	H39	石製品	管玉	径(0.3) 長さ[0.7] 重さ0.1			破片					213-1-9

第47表　グリッド・表採出土遺物観察表（3）

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
499	90	グリッド	H33	石製品	石斧	径1.3 長さ0.7 重さ1.8	ほぼ完形					212-2-8
499	91	グリッド	H30	石製品	石玉	径0.7 長さ1.0 重さ1.0	ほぼ完形					212-2-7
499	92	グリッド	H34	石製品	石斧	径(1.0) 長さ0.5 重さ0.5	破片					
499	93	グリッド	H35	石製品	石玉	径0.7 長さ0.3 重さ0.3	ほぼ完形					212-2-11
499	94	グリッド	F30	石製品	石斧	径0.7 長さ0.3 重さ0.3	ほぼ完形					212-2-10
499	95	グリッド	H39	石製品	石玉	径0.5 長さ0.3 重さ0.2	完形					212-2-41
499	96	グリッド	H38	石製品	紡錘車	孔径0.6 径1.7 厚さ1.4 重さ0.9	完形					209-2-14
499	97	グリッド	F32	石製品	紡錘車	孔径0.7径4.1厚さ1.3重さ16.4	破片					209-2-13
499	98	グリッド	G34	石製品	紡錘車	孔径0.6径4.5厚さ1.8重さ19.1	ほぼ完形				滑石	209-2-10
499	99	グリッド	G40	土製品	土錘	孔径0.4長さ4.4厚さ2.0重さ16.6	ほぼ完形					208-2-8
499	100	グルーブ	I 36	土製品	土錘	孔径0.6長さ3.3厚さ1.6 重さ4.6	3/4					
499	101	グリッド	F33	土製品	土玉	径1.4 長さ1.0 重さ2.5	完形					208-1-11
499	102	グリッド	F31	土師器	壺	— — —	破片	雲 角	普通	褐灰		
499	103	グリッド	G38	土師器	甕	— — —	破片	雲 黒粒	普通	灰白		
500	104	グリッド	G37	石製品	砥石	幅7.7 長さ8.4 厚さ5.7	1/2					214-2-6
500	105	グリッド	G37	石製品	砥石	幅5.3 厚さ9.9 長さ3.6	1/2					214-2-4
500	106	グリッド	G36	石製品	砥石	幅6.1長さ17.3厚さ4.0	1/2					214-2-7
500	107	グリッド	I 38	土製品	瓦塔	幅[11.6] 長さ[10.2] 厚さ[1.3]	破片	赤粒 白粒 黒粒				207-7-6
500	108	西側排水溝	I 35	土製品	瓦塔	幅[7.0] 長さ[4.6] 厚さ[3.0]	破片	赤粒 白粒 黒粒				207-7-7
500	109	グリッド	H36	土製品	瓦塔	幅(7.2) 長さ[6.8] 厚さ(1.1)	破片	赤粒 白粒 黒粒				207-7-1
500	110	グリッド	H32	鉄滓	楕型滓	幅6.5 長さ4.2 厚さ1.6	—					
500	111	グリッド	H31	鉄滓	鉄片？	幅4.4 長さ3.6 厚さ2.4	—					
500	112	グルーブ	F30	土製品	羽口	径(2.0)長さ[3.8]孔径(2.3)重さ6.0	破片	赤粒	普通	褐		
500	113	グリッド	H30	木製品	板材	幅10.8 長さ[27.0] 厚さ2.8	—					
500	114	グリッド	I 31	木製品	丸材	幅10.4 長さ35.6 厚さ6.8	ほぼ完形					
500	115	グリッド	H32	鉄製品	針	頭幅1.6×2.2 長さ[4.6] 脚幅0.4~0.5	ほぼ完形					
500	116	グリッド	I 32	鉄製品	鏃	刃幅3.3~2.6 茎幅0.3 長さ[4.0]	3/4					224-2-4
500	117	グリッド	H35	鉄製品	刀子	刃幅1.1~1.0 長さ[5.0]	1/2					
500	118	グリッド	J 37	鉄製品	棒状品	幅0.3×0.2 長さ[1.5]	破片				先端のみ	
500	119	グリッド	I 33	銭貨	開元通宝	径2.4 重さ2.5					唐 初鋳621年	225-2-10
501	120	グルーブ	表採	須恵器	壺	(12.0) [5.8] —	1/4	白粒 黒粒	良好	青灰		203-2-8
501	121	グレーン	表採	須恵器	坏	— [2.4] 7.1	底部3/4	石英 白粒 針 黒粒	良好	灰白		
501	122	グリッド	表採	灰釉陶器	壺	— [1.7] (7.5)	底部1/4	白粒 黒粒	良好	灰白		204-2-16
501	123	グリッド	表採	白磁	碗	— [3.8] (6.2)	破片	黒粒	良好	白灰		206-1-9
501	124	グリッド	表採	灰釉陶器	壺	— [1.6] (6.3)	破片	白粒 黒粒	普通	灰白	転用硯、朱墨付着	204-2-17
501	125	グレーン	表採	灰釉陶器	壺	— [2.1] (6.6)	破片	黒粒	良好	灰白、釉灰白	刷毛塗り	204-2-13
501	126	グリッド	表採	灰釉陶器	壺	— [1.8] (6.9)	底部1/2	白粒 黒粒	普通	灰白		204-2-14
501	127	グリッド	表採	灰釉陶器	壺	(14.8) 2.7 (8.0)	1/5	白粒 黒粒	良好	灰白、明灰白	ツケガケ	204-2-12
501	128	グルーブ	表採	灰釉陶器	壺	— [1.5] (7.2)	底部1/4	白粒 黒粒	良好	灰白		204-2-15
501	129	グレーン	表採	石製品	石鍾	(39.0) [5.8] —	破片			暗灰		214-2-8
501	130	グリッド	表採	石製品	紡石	幅4.2 長さ9.3 厚さ3.0	ほぼ完形					214-2-5
501	131	グリッド	表採	土製品	瓦塔	幅[7.5] 長さ[6.5] 厚さ1.0	破片	赤粒 白粒 黒粒				207-7-8
501	132	グラーデ	表採	板石塔婆		幅26.1 長さ35.3 厚さ2.4	破片				緑泥片岩	215-3
501	133	グレーン	表採	石製模造品	剣形品	幅3.0 長さ5.8 厚さ0.5 重さ15.1	ほぼ完形					211-1-16
501	134	グリッド	表採	石製模造品	剣形品	幅2.7 長さ3.8 厚さ0.5 重さ4.7	1/2					
501	135	グリッド	表採	石製模造品	不明品	幅2.4 長さ6.0 厚さ0.8 重さ7.8	1/2					
501	136	グリッド	表採	石製模造品	有孔円板	幅3.2 長さ2.6 厚さ0.4 重さ2.9	1/2					
501	137	グレーン	表採	土製品	土玉	径1.3 長さ1.1 重さ1.7	完形					208-1-12
501	138	グリッド	表採	石製品	管玉未製品	径1.0 長さ1.5 重さ3.0	ほぼ完形					
501	139	グリッド	表採	石製品	紡錘車	孔径0.6 径3.6 厚さ0.8 重さ9.2	ほぼ完形					209-2-15
501	140	グリッド	表採	土製品	土錘	孔径0.8 長さ3.4 径3.2 重さ9.1	ほぼ完形					

11．腕輪形石製品

下田町遺跡第４次調査西区では、腕輪形石製品の完形のものが１点、同一個体と考えられる破片が２点、計２個体分出土している。これらが出土したのは、古墳時代後期の竪穴住居跡の確認面や、埋土上層、掘り方埋土中である。

腕輪形石製品は、基本的には古墳時代前期の所産であり、おもに墳墓の副葬品として出土する遺物である。集落遺跡においても、祭祀遺構に伴い出土する例もあるが、下田町遺跡の場合は、遺構は通常の竪穴住居跡であり、その場においてなんらかの祭祀行為が行われていた状況は見受けられない。

したがって、これらの腕輪形石製品は、住居跡を構築、ないしは埋没する際に周辺から流れ込んだものであり、遺構に伴う遺物ではないと判断した。

本来ならば、他の遺構帰属不明の出土遺物とともに報告するべきではあるが、腕輪形石製品が集落内から出土することはきわめて稀であり、その資料的価値を考慮に入れて、別に節を設けて記載することとした。

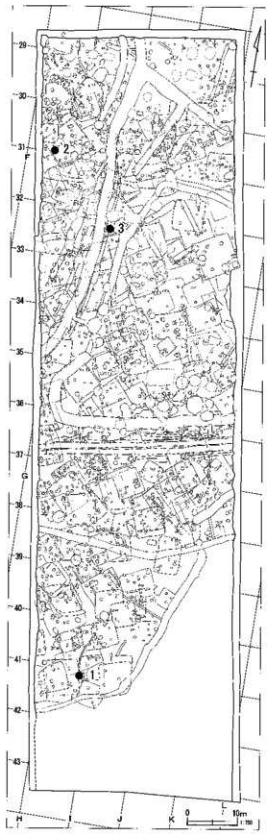
腕輪形石製品Ａ（第504図１）

典型的な石釧である。H―41グリッド、第303号住居跡確認面から出土した。重機による確認作業中であったため、出土時に半裁してしまったが、ほぼ完形品である。

大きさは、外径7.7cm、内径5.5cm、幅1.1cm、高さ1.8cmである。重さは69.2ｇである。

平面形状は正円形で、断面はやや内向気味に立ち上がる。上端を斜めに面取りし、その斜面に放射状の沈線を刻む。沈線はほぼ等間隔で施されている。総数は164本である。

側面には一段の稜を巡らす。側面および裏面は滑らかに研磨され光沢がある。側内面には、穿孔の際につく螺旋状の削痕が何条も平行して認められる。表面は平滑だが、外面のように光沢のある研磨はされていない。



第503図　腕輪形石製品出土地点

色調は、標準土色帖に当てはめるならば、オリーブ灰色(2.5GY5/1)が最も近い。材質は凝灰岩と思われる。

腕輪形石製品B（第505図2・3）

両面に彫刻文を有する腕輪形石製品の破片である。

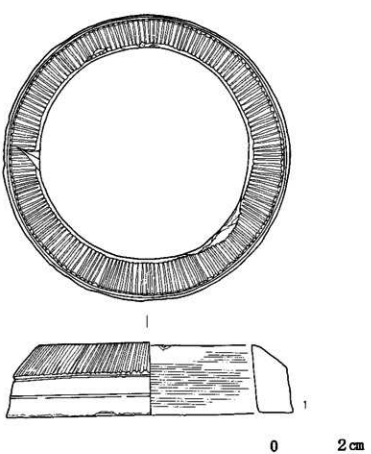
2はF—31グリッド、第290号住居跡掘り方埋土から出土した。現存長3.5cm、幅1.8cm、高さ1.0cm、重さ6.8gである。外側はほとんど欠損しているが、かろうじて縁まで残っている部分があり、本来の幅を知ることができる。

3はG—32グリッド、第173号住居跡の埋土上層から出土した。現存長2.1cm、現存幅1.7cm、高さ0.9cm、重さ4.0gである。2よりも欠損の具合が著しい。両者とも、割れ口に2次的な調整は認められない。

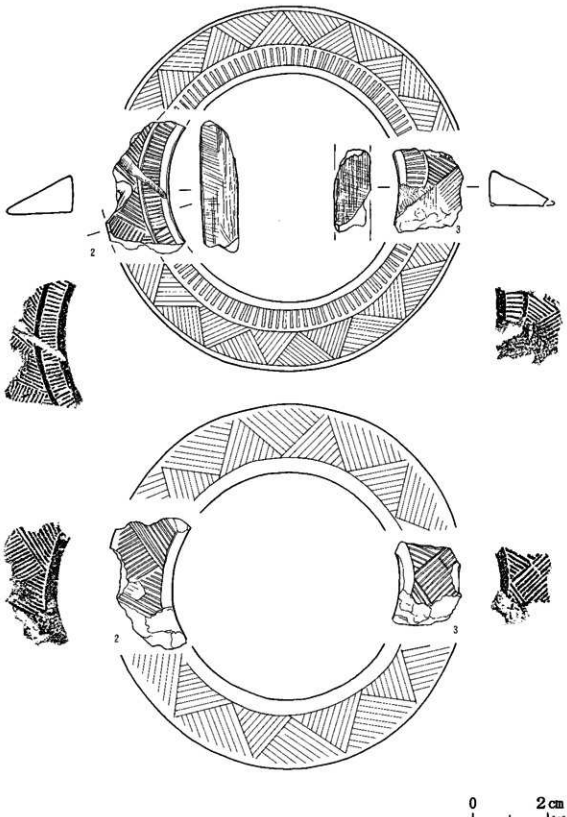
2点には接点がなく、高さにわずかな違いはあるが、表裏ともに施される文様パターンは共通しており、同一の個体の破片と考えられる。復元すると、外径9.6cm、内径6.0cmになると推定される。

平面形状は正円形で、断面は直角三角形を呈する。表側の外斜面は、内側に櫛歯状の刻み目が巡り、外側に複合鋸歯文が施される。裏面には外縁に縁取りのない複合鋸歯文のみが施される。側内面には細かい研磨の痕跡がみられる。

色調は、2・3ともに同じである。側内面の色調を標準土色帖に当てはめるならば、暗緑灰色(10G3/1)が最も近い。材質は緑泥石である。



第504図　腕輪形石製品A



第505図　腕輪形石製品 B

V　調査のまとめ

1．第4次調査の遺構変遷

下田町遺跡4次調査の結果、古墳時代～鎌倉・室町時代までの遺構を検出した。

ここでは、第4次調査の遺構について時期別の変遷を検討する。検出した遺構は、方形周溝墓1基、竪穴住居跡218軒、掘立柱建物跡2棟、井戸跡85基、土坑95基、ピットは多数、火葬土坑6基、溝跡72条を確認した。各遺構から出土した土師器、須恵器などの遺物をもとに時期を判断し、段階の設定を行い、これらの時期を下田町Ⅰ～Ⅳ段階に時期区分した。

1期は古墳時代前期の布留Ⅰ式並行である。該期の遺構は、第10号方形周溝墓が古ヶ谷式の土器を出土する。また、第113、130、139、140、141、157、164、168、171、308、316号住居跡が古ヶ谷式土器を共伴する。

Ⅱ期は古墳時代前期の布留Ⅱ式並行である。第206号住居跡出土の1・2の甕はやや古いものの、10-12はハケ目が付かない白付甕と共伴する。また、第174号住居跡1や第205号住居跡1の口縁部が屈曲する坩が出土している。該期の遺構は、第109、119、138、158、174、176、179、205、206、236、227、312号住居跡である。

Ⅲ期（5c3/4）は古墳時代中期である。検出した該期の遺構は、第171、198、203、207、220号住居跡である。住居跡は調査区域内に2～3軒の単位でまとまりがみられる。Ⅲ期の出土遺物は埴類が主体である。第198号住居跡から出土した埴は丸底で口縁部が短く外方に開いて屈曲する。調整は口縁部横ナデ、体部外面をヘラケズリする。また、体部外面から内面にかけて赤彩を施す埴を共伴させる。高坏は長脚タイプで柱状部分は細長いのが特徴でである。甕は丸甕を主体とする。

Ⅳ期（5c4/4）は模倣坏の成立期である。この段階の遺構はさほど多くは検出されていない。該期の遺構は、第115、128、134、142、160、177、189、190、193、269、272、273、281、285号住居跡である。集落形成の中で、重要な時期であり、また、下田町遺跡において、該期の遺構が多く検出された区域は自然堤防の南側縁辺部にあたる部分にまとまりが認められる。竪穴住居跡の主軸方向は、第134号住居跡でN－51°－Wを測り、谷地形に沿った方位である。他の住居跡もほぼ地形に合わせた主軸方位であると見られる。

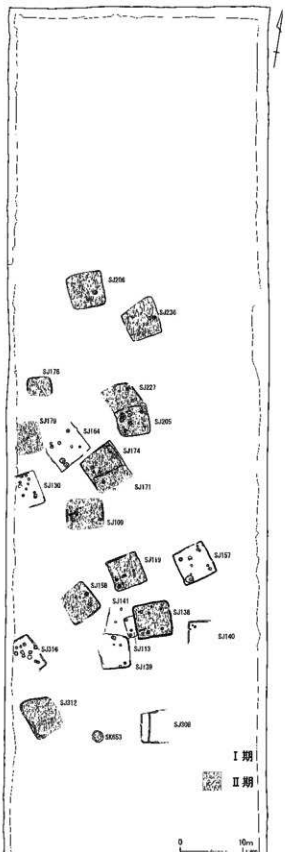
Ⅳ期の出土遺物は、埴類のタイプに加え、模倣坏が出現する。赤彩を施す埴も定量検出される。高坏も柱状の長脚タイプのもので赤彩が施されている。

Ⅴ期（6c1/4）は集落の発展期と位置付けられる。遺構件数も多くなり遺跡全体に展開を見せる。該期の遺構は、第108、111、114、116、126、143、146、169、175、187、201、225、239、247、279、280、282、284、286、289、290、300、321号住居跡である。

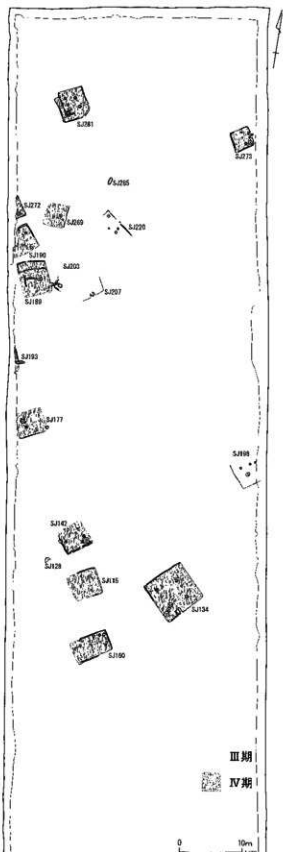
Ⅴ期の出土遺物は、模倣坏を主体とする段階である。埴は赤彩が施されているタイプが出土する。高坏は脚部がやや膨らみ短く、坏部は逆への字状で外傾して大きく開く。甕は長胴化するが胴部中位に最大径をもつ。須恵器は、第116、290、321号住居跡から高坏が出土しており該期に位置付けた。第116、290号住居跡出土の蓋は径11.9・11.5cmと小ぶりであることからTK23段階からTK47段階にかけてと考える。

Ⅵ期（6c2/4）は、遺跡全体に住居跡が確認され繁栄期である。第48表に示したとおり住居跡の件数は最もピークになる時期である。該期の遺構は、第122、125、127、129、181、182、183、199、200、210、215、216、223、229、238、240、259、261、271、275、277、287、288、295、296、299、305、318、322号住居跡である。

Ⅵ期の出土遺物は、模倣坏を主体とする段階である。埴は赤彩が施されているタイプが出土する。高坏は脚部がやや膨らみ短く、坏部は逆への字状で外傾して大きく開く前段階のタイプと、短脚で模倣坏が坏部に張り付くタイプとに区分される。甕は長胴化し、胴部下位に最大径をもつ。須恵器は、第127号住居跡から高坏の脚部が出土しており該期に位置付け



第506図　遺構変遷図（1）



第507図　遺構変遷図（2）

た。第275、299号住居跡から径10.9・10.0cmと小ぶりの坏身であることからMT15段階にかけてと考える。

Ⅶ期（6c3/4）は、前期に比較し確認した住居跡の件数が同じように多い。この時期が下田町遺跡の安定した時期と捉えることができる。該期の遺構は、第150、161、162、186、194、197、209、214、217、222、224、230、235、242、244、243、249、255、260、262、264、265、268、278、297、304、306、307号住居跡、第315、378号井戸跡である。

Ⅶ期の出土遺物は、ややⅡ径が大きく、口縁部の形態が外側に開き、器高が浅くなる模倣坏を主体とする段階である。塊は赤彩が施されているタイプが出土し、高坏は脚部がやや膨らみ短く、坏部は逆ハの字状で外傾して大きく開くタイプである。甕はさらに長胴化する。

Ⅷ期（6c4/4）は、Ⅶ期に比べやや住居跡の件数は少なくなり、遺跡としてはやや変化する時期である。該期の遺構は、第110、137、148、167、173、180、188、196、208、218、224、234、251、270、274、283、293、294、298、309号住居跡、第376、377号井戸跡である。

Ⅷ期の出土遺物は、ややⅡ径が大きく、口縁部の形態が外側に開き、器高がさらに浅くなる模倣坏を主体とする段階である。塊は赤彩が施されているタイプが出土し、須恵器身模倣の坏が多く認められる。

Ⅸ期（7c1/4）は、遺構数は半減する。該期の遺構は、第106、133、135、147、153、185、195、250、292、302号住居跡である。

Ⅸ期の出土遺物は、口縁部の立ち上がりの短い模倣坏へと大きく変化し、この他、有段口縁坏、模倣坏C型なども見られる。

Ⅹ期（7c2/4）は、さらに減少化傾向が見られる。該期の遺構は、第124、131、132、211、258、311号住居跡である。Ⅹ期の出土遺物は、模倣坏の最終段階で稜の弱い坏へと変化する。

Ⅺ期（7c3/4～4/4）は北武蔵型坏が出土する段階である。該期の遺構は、第117号住居跡、第320号井戸跡である。住居跡は、調査区の南寄りに検出されており、特に、谷部に面した位置に認められた。

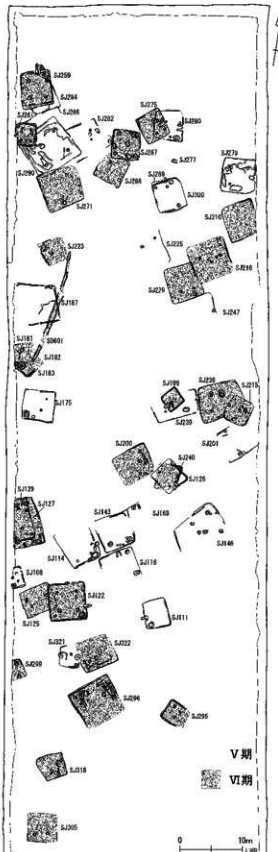
本遺跡では該期の遺構は希薄になる時期でもある。これは、初期律令段階であり、集落形成のあり方に変化が生じる時期と考えられる。また、条里制の施行などと連動して集落が低地から丘陵上に移動する傾向が各地で認められる時期でもある。下田町遺跡においても、このような理由から該期の遺構が減少し、移動した可能性が指摘できる。

Ⅺ期の出土遺物は、第320号井戸跡から、北武蔵型坏と末野産の須恵器蓋を検出した。この他、赤彩が施された比企型坏、須恵器の坏Gを検出した。

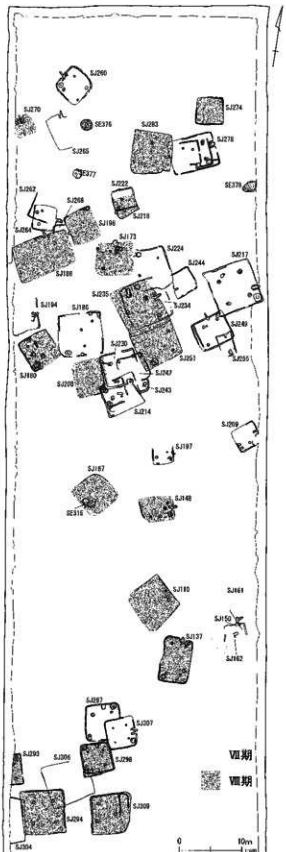
Ⅻ期は、奈良時代にあたる。該期の遺構は、第291号住居跡、第319、333、344、349、355、382、386号井戸跡、第602号溝跡である。中でも、奈良時代の井戸跡は、木製黒漆塗壺鐙を検出した第319号井戸跡に見られるように、径がやや大きく、掘り込みも筒状で幅を持つ。

ⅩⅢ期の出土遺物は、壺鐙と共伴する南比企産須恵器坏、末野産須恵器甕、在地産土師器甕を検出した。

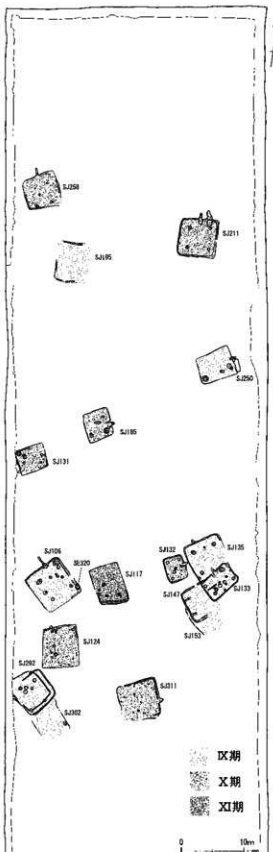
ⅩⅣ期は、平安時代である。該期の遺構は、第145、246、310号住居跡、第303、306、312、317、322、347、365号井戸跡、第591、592、599、608、620、621、630、644号溝跡である。これまでの下田町遺跡の調査で注目される遺構は、第2次調査で検出した建物群である。建物は、南側に開いた「コ」の字状に配置されている。田中広明氏は、下田町遺跡の建物群が栃木県堀越遺跡の建物群と様相が類似していることを指摘されている。堀越遺跡は「成生庄」との関わりが言われており、「庄家」、「有力層の居館型荘所」としての性格付けがなされている。初期荘園のあり方と考古学の成果を考えて見ると、下田町遺跡が位置する地域は、「武蔵国大里坪付」文書に記載されている。また、この文書が記されている資料は九条家文書の裏書された文書である。時期は平安時代にあたる966年から1078年の事項が表に記されていることからほぼ近似した時期であると捉えることができる。これらの背景を推察すると、九条家領などに属する所領との見方も考えられる。また、文書の記載を検討すると各坪の作付けの面積が表記され、さらに田の帰属と見られる公田、菱田、乗田、庄田の区分が明記されている。下田町遺跡は自然堤防上に発達した



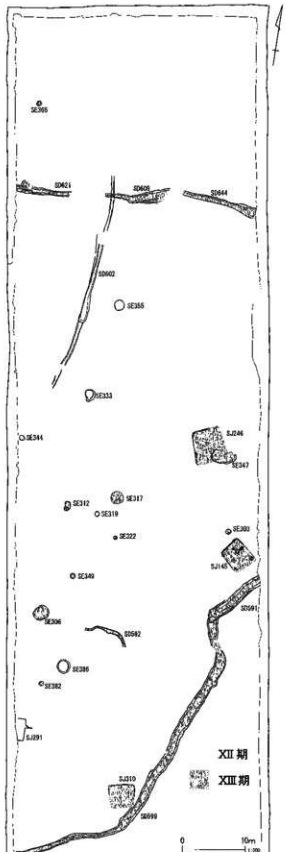
第508図　遺構変遷図（3）



第509図　遺構変遷図（4）



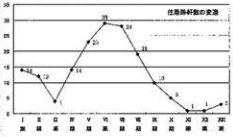
第510図　遺構変遷図（5）



第511図　遺構変遷図（6）

第48表　下田町遺跡時期別住居軒数

時期	軒数
I 期	14
II 期	12
III 期	4
IV 期	14
V 期	25
VI 期	29
VII 期	38
VIII 期	19
IX 期	10
X 期	5
XI 期	1
XII 期	1
XIII 期	3



集落域であるが、北東側は、低地、遺跡南端には谷部が形成されている。周辺には水田が形成されていたものと考えられる。坪付で「庄」とあるのは八条七坪の柱田里と八条八坪の幡田里である。両坪の位置が下田町遺跡の東側に広がることが推測される。

また、九条家文書によると、1256年（建長八）の九条家領荘園は武蔵国内に四ヶ所と記されているが、稲毛庄と船木田本庄・同新庄である。

下田町遺跡の建物群は、坪付文書に記されている『樣田庄』の荘園を管理する在地領主の中心的な館と考えられないだろうか。

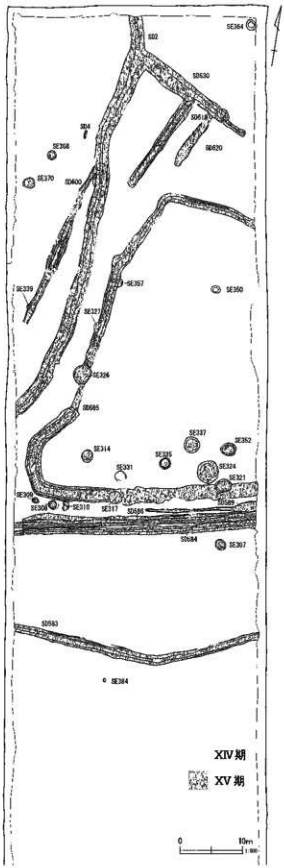
出土遺物は、緑釉陶器、灰釉陶器が多く検出される。緑釉陶器には雲付香炉や段皿が出土し、灰釉陶器は猿投・東濃・尾北産の出土が確認されている。須恵器は、坏や高台付塩が検出され、還元焔焼成された須恵器と還元が弱く灰白色や褐色、酸化焔焼成され橙色の須恵器が混在する。

第317号井戸跡からは木製の井戸枠が検出された。第322、608号溝跡からは、瓦塔の破片も検出された。さらに、第306号井戸跡からは「万」、第344号井戸跡から「前麻呂」の墨書土器を検出した。

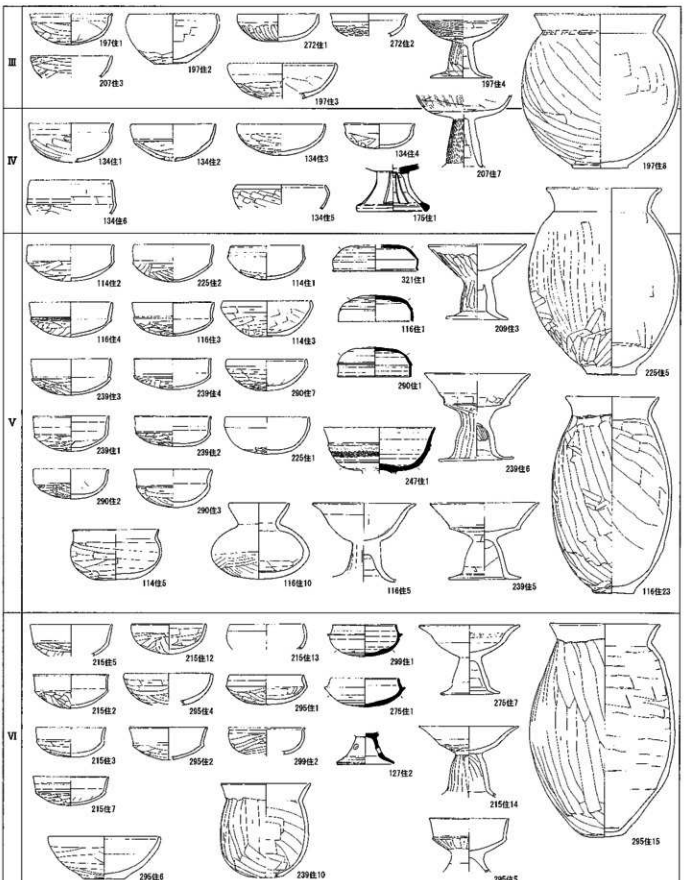
XIV期は鎌倉時代で、第331、350号井戸跡である。

XV期は室町時代にあたる。該期の遺構は、第307、308、309、310、314、317、321、324、326、327、335、337、339、352、357、364、368、370、384号井戸跡、第2、4、583、584、585、586、589、600、619号溝跡を検出した。遺跡全体には、薬研状に掘り込まれた規模の大きな溝跡が東西南北に区画溝として掘り込まれている。この時期の集落構造として捉えられる。

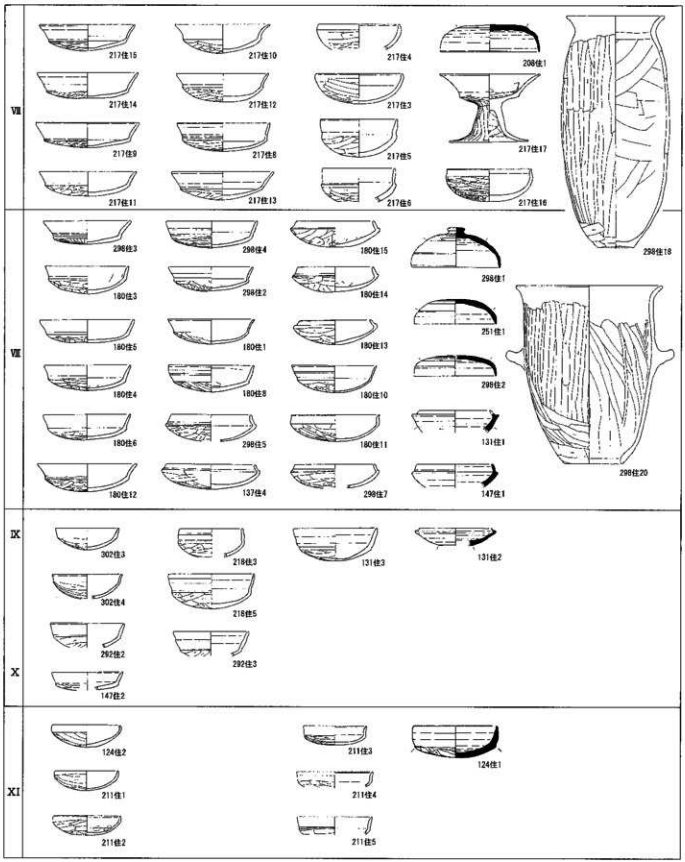
下田町遺跡は、江戸時代に行われた荒川の瀬替えによって、自然堤防上の居住域に終焉をむかえる。



第512図　遺構変遷図（7）



第513図　出土遺物編年図（1）



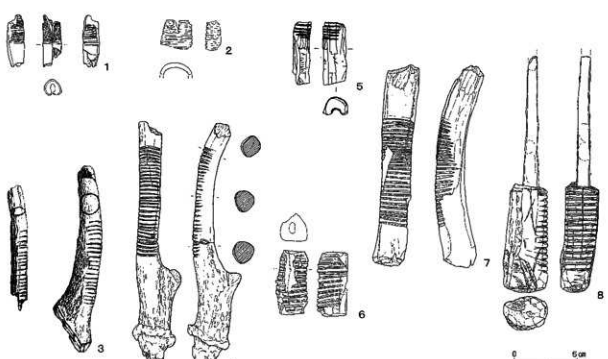
第514図　出土遺物編年図（2）

2．第157号住居跡出土の骨角器について

古墳時代前期の第157号住居跡から、3点の骨角器が出土した。出土したのは、刀子の柄とみられる骨角器（第111図22）、刻みを有する骨角器（第111図20、第515図1）、短冊状の破片（第111図21）であり、いずれも鹿角製で、意図的に焼いている可能性がある（註）。特に、刻みを有する骨角器の出土例は少なく、珍しいものである。

刀子の柄とみられる骨角器は、上端の一部で髄質部分を抉って茎の挿入部を作り出している。抉りはちょうど出土時には割れていた箇所より先（図では左側）に入れられている。表面全体は削り研磨加工され、下端のカーブ部分では、形を作り出すために削り過ぎたのか、髄質部分が露出している。現存で5.8cmだが、本来の長さは9cmほどで、欠損部には目釘穴が打たれていたと思われる。炉1近くの床面付近で出土した。古墳時代初頭以降、刀子の把は鹿角製のものが広く使われ、大型のもの以外は、鹿角の髄質部を抉って茎を差し込むものである（藤沢2002）。今回の例も一般的な刀子の柄であろう。

刻みを有する骨角器は、主に弥生後期～古墳時代の遺跡で出土し、一般に刻骨と呼ばれている。鹿角製が大半を占め、管見に触れた限りでは本遺跡を含め30遺跡48例におよぶ。埼玉県内では、本庄市後張遺跡で出土している（第515図2　立石他1983）。後張遺跡の例は破片だが、径が2.4cmで刻みの間隔が1.5mmあり、千葉県村田服部遺跡などこれまでの出土



1 下田町遺跡
2 後張遺跡（埼玉）
3 瓜郷遺跡（愛知）
4 出土地不明（黎明館収蔵品）
5 貝田西分貝塚（佐賀）
6 青谷上寺地遺跡（鳥取）
7 村田服部遺跡（千葉）
8 青谷上寺地遺跡（鳥取）

1・2 筆者実測
3～8 各引用文献より転載

第515図　刻骨の出土事例

例と同様の形態をもつ。これに対して下田町遺跡出土の刻骨は、径が1.4cmと小さい点、刻み目の間隔が狭く幅が約0.5mmと細かい点が特徴的である。刻み範囲を区切るように、最後の刻みの外側に、刻みとは異なる筋状の条線が二、三重につく点も注目される。床面から3～4cm上で口縁部を下にして潰かれた甕の、胴部下半割れ口付近から出土した。

刻骨の用途については刀装具、ささら状の楽器、何かを擦るための道具、呪術性をもつ道具などが推測されている。類例の多くは、径2.5～3.0cmで中央に刻みを施すものである。幅が小さく刻みも細かい下田町遺跡出土の刻骨は、用途が推測されているこれまでの出土例とは明らかに形態が異なる（第515図）。

例えば刻みを有する骨角器によくみられる典型的な形態で遺存状態の良い村田服部遺跡の例（第515図7）では、幅2.2～2.4cm、長さが16.0cmと長く、鹿角の反った方の側の中央部に刻みを施している。刻みの幅は1.0～2.0mm、刻みの間隔は2.0～3.0mmと粗めにしっかりと施されている（金丸・小宮1985）。径および刻みを施す場所、刻みの間隔などが共通するこのような形態の刻骨には、ささら状楽器説（木川1999など）、何かを擦る道具説（松山1989など）、呪術的なものとする説などが想定されている。

これらの例とは違って用途の明らかな例が鳥取県青谷上寺地遺跡から出土している（第515図8）。これは、刻みを施した鹿角柄付き鑿で、鹿角製の柄に棒柱状の鉄器をはめ込み、柄の一面に滑り止めと考えられる溝を15本彫りこんでいる。柄の幅は2.7cm、刻みの幅・間隔は2mmで、鉄器がはめ込まれているということ以外の特徴は、よくみられる刻骨と変わらない。管見に触れた限り、国内で出土した刻みを持つ鹿角製の柄は本例のみだが、韓国では刻みを有する鹿角製刀子柄の出土例があると紹介されている（木村1987）。韓国の城山貝塚出土のこの例は、大きさをみる限り、幅が1.5cmと下田町遺跡出土の刻骨と同様に小さい。

用途は特定できないが、下田町遺跡出土の刻骨のような径の小さい刻骨なら国内にも出土例がある。瓜郷遺跡では2点の刻骨が出土しているが、うち1点は幅が1.1cmあり（第515図3左）、もう1点（3右）と同様に刻み目のない鹿角と2本1組で出土している。黎明館収蔵の出土地不明の例（第515図4）も幅が1.6cmと径は小さい。ただし、いずれも鹿角の形そのものを生かして作られており、刻み目の幅や間隔は典型的な太さの刻骨に近い。

今回の下田町遺跡の出土例は、ささら状楽器には向かないと思われる繊細な刻み目と、径が小さいことから、呪術性をもつ道具とするのが最も矛盾ないようにみえる。しかし、本例のような小形品の類例は少なく、現時点では刀装具など他の可能性を否定することはできない。同じ住居跡から出土している刀子柄の径も1.6cmと刻骨の幅に近いことも考慮して、韓国の例のように滑り止めのために刻みを施した刀子か何かの柄の可能性も考えておきたい。

骨角器は木製品と同様、土壌中で分解され、遺存しにくい性質をもっている。しかし、木製品が多数出土する低地の遺跡でも骨角器の出土数が少ない遺跡も多く、当時の骨角器の使用は限られたものであったとの指摘もある（藤沢2002）。下田町遺跡でも、骨角器の出土数は極めて少ない。遺跡内で骨角器が出土した古墳時代の住居跡は他になく、第157号住居跡は特異な存在にみえる。用途の検討にはさらなる資料の蓄積が必要であり、複数の骨角器を出土した本住居跡は貴重な事例の一つになるだろう。

註　下田町遺跡出土品の観察については樋泉岳二氏に御教示いただいた。

3．腕輪形石製品について

下田町遺跡では、異なる2形式の腕輪形石製品が出土した。前章でもふれたように、これらは竪穴住居跡等の遺構に伴う遺物ではなく、周辺からの混入品と位置づけた。この仮定が正しいとしても、一方は完形品、もう一方は破片という、この2種類の腕輪形石製品の対照的なあり方は、同一集落遺跡における腕輪形石製品の出土状況としては特異と考えられる。

そこで、これら腕輪形石製品が、下田町遺跡の性格を考える上で、どのような意味をもつのか、県内及び他地域の類例と比較することによって明らかにしていきたい。

まず、型式学的分析から、この腕輪形石製品がどのように位置づけられているかを確認しておく。Aとした腕輪形石製品は（第504図1、第517図9）は、通常、石釧と呼称され、蒲原宏行氏の分類に従えば、Ⅲ類a型式に該当する。氏が設定された石製品の編年では、Ⅲ類の出現は2期におかれ、2期の腕輪形石製品は4世紀中頃の所産と推定されている（蒲原1987/1991）。

Bとした腕輪形石製品（第505図2・3、第516図1）は、表裏に彫刻文を施し、杉山晋作氏のいう「特異な彫刻文のある」腕輪形石製品に分類され、古墳時代前期後半から中期初頭に製作されたものとされている（杉山1985）。類例は十数例と少なく、おそらく集落遺跡では本例が全国でも初めての出土例となろう。本例は、そのうち、梅鉢文を特徴とする一群に含まれる。彫刻技法は細線による陰刻であり、どちらかといえば古い技法とされている。

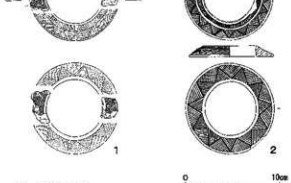
本例Bと同型式の出土例としては、奈良県奈良市猫塚北古墳例（第516図2）がある。猫塚北古墳は、径20m程の円墳で、佐紀盾列古墳群中の前方後円墳である猫塚古墳の陪塚と考えられている。主体部は粘土槨で、車輪石・石釧などの石製品や玉類が出土した。これらの石製品の時期は4世紀末～5世紀初頭と考えられている（河上他1990）。

類例が少ないため、本例Bの時期を明示するには苦慮せざるを得ないが、ここでは、4世紀後葉～末頃に製作されたものと考えたい。

次に、古墳時代前期における下田町遺跡の状況において簡単にふれておく。第2・3次調査において検出された方形周溝墓群は、第4・5次調査区の北東部まで分布する。方形周溝墓は四隅切れのものと、全周するものとがあり、前者から後者へという変遷をとげると考えられる。住居跡群は方形周溝墓群の南西側から谷部までの範囲に展開し、第5次調査区において、谷を挟んだ対岸にも集落が形成されていることが確認されている。墓域と集落域は近接するもののほぼ明瞭に区別される（第518図）。

方形周溝墓群の築造は、第12号方形周溝墓をもって終了する。その時期は出土遺物から4世紀中葉と考えられる。第12号方形周溝墓は、一辺20mを越す大型の方形周溝墓で、主体部は検出されなかったが、盛り土の一部が残存していた（磯崎・中山2006）。集落の形成時期は4世紀後半頃までであり、周溝墓の築造終了後もしばらく継続していたと考えられる。

ここで、県内における腕輪形石製品の出土例をみてみると、墳墓では桶川市熊野神社古墳（村井1956）、川越市三変稲荷神社古墳（川越市1972）、本庄市下野



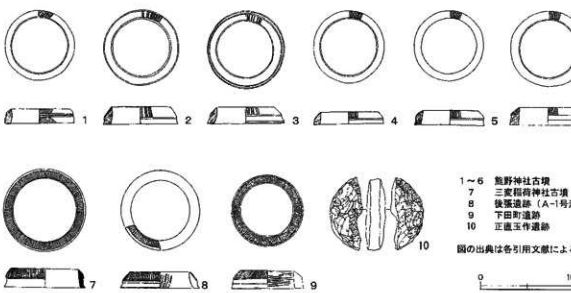
1　下田町遺跡
2　猫塚北古墳（河上他1990より）

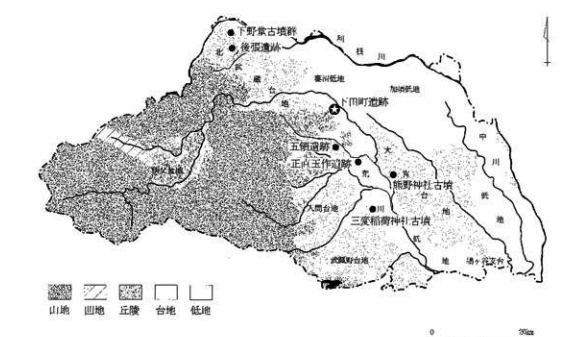
第516図　腕輪形石製品の類例

堂古墳群（並木1976、埼玉県1982）が、集落では本庄市後張遺跡（立石他1983）、東松山市五領遺跡（金井塚他1963）があり、未製品が川島町正直玉作遺跡（石岡1980）から出土している（第517図）。

熊野神社古墳は、荒川左岸に位置する径40mほどの円墳である。主体部は粘土槨と推定され、筒形銅器、巴形石製品、筒形石製品、紡錘車形石製品、玉類などとともに、石鋸が6点出土した（第517図1～6）。墳丘確認調査では、赤彩された壺形土器や、小型丸底土器などが出土し、築造時期は4世紀後葉と考えられている（増田他1986）。

三変稲荷神社は川越台地北東端に立地する仙波古墳群に含まれる。一辺20mほどの方墳で、墳丘から蘇龍鏡と石鋸（第517図7）が採取された。墳丘確認





第517図　埼玉県の腕輪形石製品及び未製品

調査では底部焼成前穿孔の壺形土器が出土し、築造年代は4世紀第4四半期と考えられている（増田他前掲書）。

下野堂古墳群は本庄台地の北東縁辺に位置し、周溝墓と古墳で形成される古墳群である。石鋼は一辺24mで周溝墓群中最大規模を有する、第10号方形周溝墓の周溝の立ち上がり部分から出土している。伴出土器等の詳細は未報告のため不明である。

後張遺跡は女堀川右岸に位置し、古墳時代前期後半から後期にかけての大規模な集落遺跡である。石鋼の破片（第517図8）が出土したA－1溝跡は、住居跡群と重複して東西に走る溝跡である。溝跡からの出土遺物は5世紀前半に属するものが多いが、住居跡との切り合い関係から、4世紀後半から機能していた可能性がある。

五領遺跡は松山台地南東部に位置し、古墳時代前期を中心とした大規模集落で、前期の土器型式である五領式土器の標式遺跡である。石鋼はB区の10号住居址と17号住居址の埋土からそれぞれ1点ずつ、型式の異なる破片が発見されている。

正直玉作遺跡は越辺川の右岸、埋没した自然堤防上に位置する。工事中に偶然発見された遺跡で、管玉の未製品と考えられる多くの四角柱形加工品とともに、半円形の加工品（第517図10）が出土した。その形状や大きさから、鋼の未製品とされている。排土中から、6世紀前半の赤彩模倣坏が1点発見されているが、正式な調査を経ていないため、未製品類との関連は明らかでない。

県内における石鋼の盛行時期は、ほぼ、4世紀後半代、降っても5世紀初頃までと考えられる。

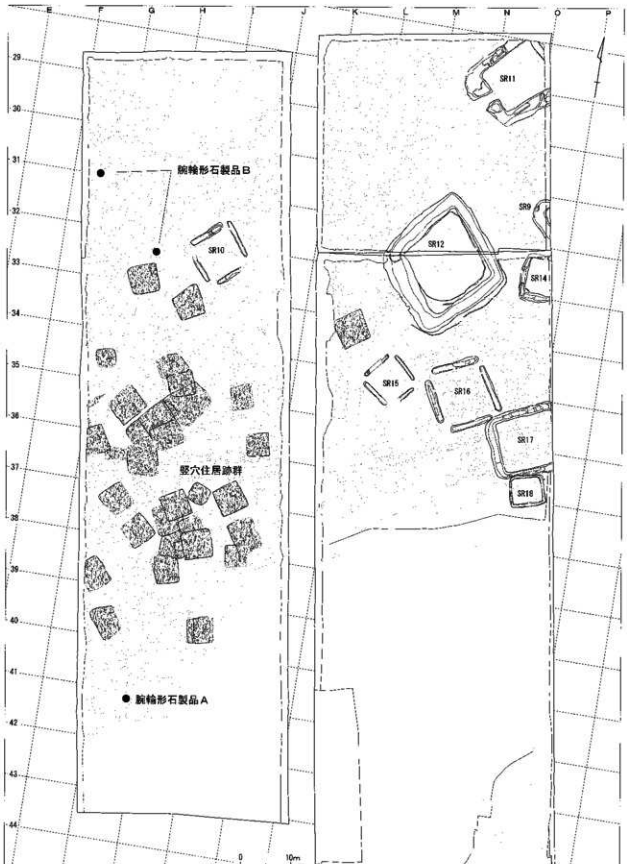
さて、以上のように県内出土例を概観しても明らかであるが、下田町遺跡のように、完形品の腕輪形石製品が墳墓の主体部や周溝以外の場所から出土した例はない。これは全国的に見ても稀で、関東地方では、神奈川県逗子市持田遺跡の出土例をあげるほかにない。持田遺跡では、L区のトレンチの中央で検出された炉跡付近の和泉式土器包含層から完形の石鋼が採取された（赤星他1975）。ただし、持田遺跡の場合は試掘調査で出土したものであり、遺跡全体の状況を把握できない現状では、この石鋼の性格を位置づけることはむずかしい。

完形品の腕輪形石製品のほとんどすべてが、墳墓の副葬品として出土している状況をみると、下田町遺跡で、この石鋼（腕輪形石製品A）が、墳墓、すなわち方形周溝墓の副葬品であった可能性は見出せないだろうか。

方形周溝墓から石鋼が出土する例は少ないが、先に紹介したような下野堂古墳群第10号方形周溝墓例なども県内には存在しており、下田町遺跡の方形周溝墓群に石鋼が伴っていた可能性は低くはないと考えられる。そして、この仮説をとると、石鋼は周溝墓群中、最大で最も新しい方形周溝墓である第12号方形周溝墓の副葬品として埋納されたと考えるのが、石鋼の副葬品としての価値や、相互の年代観からいって、もっとも矛盾がない説明といえよう。

ただし、そこには大きな問題がある。それは出土地点と方形周溝墓の位置関係である。第12号方形周溝墓から石鋼の出土地点までは、直線距離で100m以上離れている（第518図）。下田町遺跡で、時々に洪水等の自然災害がもたらされていたことは、本遺跡の立地環境や、遺構の埋土の様子から十分想定できる。とはいうものの、洪水によって方形周溝墓の主体部が削平され、内部の副葬品が流出したときに、石鋼が1点だけほぼ無傷で移動したとする説は、あまりにも偶然に依拠しすぎるのは確かである。しかし、ほかにこの現象をうまく解釈する手立てが見つからない（これは筆者の力量不足といえるが）以上、これが、現状ではもっとも考古学的に理にかなった仮説と考えられる。

一方、破片で出土した腕輪形石製品Bは、どのような価値を有するのであろうか。後張遺跡や五領遺跡のように、集落遺跡から腕輪形石製品が破片となって、溝跡や住居跡から出土する例は、近年、少しずつ報告例が増えてきており、以前より注目され



第518図　古墳時代前期の遺構と腕輪形石製品の出土地点

るようになってきた。

集落遺跡において、溝跡などから石鋤を含む腕輪形石製品の破片が出土する状況を、北條芳隆氏は腕輪形石製品の祭祀に伴う破砕埋納行為ととらえ、古墳時代前期末（4世紀第4四半期）に普遍的にみられる現象であり、古墳での祭祀行為と集落や溝との間で、祭式の意味内容に重複する部分があることを指摘されている（北條1994）。

この指摘は、下田町遺跡における腕輪形石製品Bの出土の意味を考える上で、重要である。腕輪形石製品Bは破断面に研磨など、破断後の調整は認められず、同一個体が打ち割られた砕片と推定される。集落で普遍的に用いられる石鋤とは形式が異なるが、下田町遺跡で、破砕埋納行為が行われた可能性は高いと考えられる。

では、先の腕輪形石製品Aで提示した、副葬品の流出という仮説は、腕輪形石製品Bの場合にも当てはめることができるのだろうか。本例Bと類似する腕輪形石製品を含め、多数の腕輪形石製品の破砕祭祀が行われた奈良県天理市櫛山古墳（奈良県立橿原考古学研究所付属博物館1983）など、破砕品が主体部から出土する古墳が少数ながら報告されていることも考慮しなければならない。

しかし、下田町遺跡で検出された方形周溝墓群の造営は、4世紀中葉で終焉しており、北條氏の指摘のように、腕輪形石製品を用いた祭祀が4世紀第4四半期に限定されているとするならば、腕輪形石製品Bの型式学的位置づけに一抹の不安は残るものの、本品が方形周溝墓に伴う可能性は低いと考えられる。

この2点が出土した地点は、古墳時代前期の住居跡群が分布するすぐ北側であり、集落域というよりも、どちらかといえば墓域の一角にあたる（第518図）。出土状況がプライマリーなものではないことから、これ以上論を進めることは、屋上屋を架すことになりかねないが、祖先の墓前で執行した祖霊祭祀といった性格も垣間見えるのではないだろうか。

下田町遺跡の方形周溝墓群は、第12号方形周溝墓や、その一段階前に築造されたと考えられる前方後方形の第11号方形周溝墓など、その規模や墳形から、この地域の有力な首長層によって築造され、墓域とは画して集落を形成した集団の長として君臨していたのであろう。石鋤のような上質な祭器を所持していたとしても、決して意外ではないと考えられる。

現在のところ、県内における腕輪形石製品の分布は、資料寡少のそしりを受けるのを覚悟すれば、群馬境となる利根川中流域右岸と、荒川中流域とに限られており、下田町遺跡は荒川流域ではもっとも上流に位置している（第517図）。時期確定に問題を残すが、石鋤を製作していた正直玉作遺跡が、荒川流域における分布の中央に位置することは、その生産と供給を考える上で示唆的である。石材入手経路の解明や、各資料の石材鑑定など、課題は山積しているが、現段階では、下田町遺跡の首長層が腕輪形石製品を入手したことは決して偶然ではなく、当地域における、政治的な流通ネットワークが背景にあったものと理解したい。

本稿を執筆するに当たって、北條芳隆氏には、発掘調査時から数多くのご教示をいただいた。また、江原昌俊氏には、五領遺跡の資料を実見させていただいた。末筆ながら記して感謝の意を表する次第である。

4．第319号井戸跡出土の黒漆塗壺鐙について

下田町遺跡の第４次調査で発見された黒漆塗の木製壺鐙は、出土品としては類例がきわめて少なく、井戸跡から土器類とともに出土した一括資料であるため、考古資料としての価値が非常に高い遺物といえる。そこで、ここでは、この壺鐙について、前章では触れられなかった解説を加え、あわせてその歴史的意義について考えていく。

壺鐙（第414図13・第520図１）は高さ21.9cm、長さ14.6cm、幅16.3cm、縦木一木造りの木製である。黒漆は、足先を入れる内面以外の、ほぼ全面に塗布されている。表面には部分的に細かい傷や漆の剝落が認められるが、いずれも古い痕跡であり、出土時についたものではない。全体のおよそ８割が残存している。樹種はクスノキである。

鐙頭には鐙靼を通すための孔（鐙靼受孔）をあけた吊り手が設けられている。鐙靼受孔は長方形を呈し、大きさは1.0×2.4cmである。吊り手は両縁が造り出されている。鐙靼がかかる部分には漆が認められないが、新品の時には塗られていたものが使用することによって剝落したのか、当初から塗られていなかったのかは不明である。

壺部は甲に鍋を立てた沓先形となり、壺口部分には蒲鉾形の縁を造りだしている。踏込の部分は欠損しているが、おそらく浅い舌を設けていたものと考えられる。背面は、縁部からわずかに内傾にかかるくらいまで漆が塗布されている。

壺鐙の吊り手部を、馬に吊り下げられている状態を仮定して、垂直にしたときに、壺口の下辺（滑止部）がやや右下がりになるので、この壺鐙は右足用（右隻）と考えられる。

この壺鐙は第319号井戸跡から、須恵器坏・甕、土師器坏・甕などとともに出土した（第410図）。これらの土器類は、８世紀第１四半期でも新しく位置づけられるものである。

下田町遺跡以外には、管見では次の５つの遺跡から同形の壺鐙が出土している。

大阪府大阪市　四天王寺旧境内遺跡
新潟県柏崎市　笠輪遺跡
静岡県浜松市　城山遺跡
福岡県北九州市　石田遺跡
福岡県北九州市　紙園町遺跡

四天王寺旧境内遺跡は、７世紀前半に創建された四天王寺の旧境内にあたり、壺鐙（第520図２）はST96-４次調査で検出された井戸跡（SE01）から出土した。壺鐙の高さは約21cmで、全体の約１/３が残存する。黒漆はほとんど剝落している。左足用とされる。共伴遺物には墨書土器を含む土師器・須恵器、軒瓦などがあり、これらの土器の時期は８世紀末と考えられている（松本他1999）。

笠輪遺跡では、壺鐙は平成11年度調査区（H区）で検出された自然流路の下層から、大量の土器や木製品とともに出土した。高さ約24cm、遺存状態は良好で、下田町遺跡例に匹敵する。左足用とされる。共伴する土器の年代は奈良時代末～平安時代初頭とされている（高橋1999）。また、この自然流路から出土した木簡のなかに、「駅家村」と記された木簡が含まれていることから、この壺鐙の存在と合わせて、付近に駅が存在する可能性が指摘されている（岡田2000）。

城山遺跡では、包含層から吊り手部を中心とした

第519図　壺鐙の各部名称

破片が出土している。材質は鋳銅製であり、復元すると法隆寺献納宝物などの伝世品と同じ形の壺鐙になる可能性がある。奈良時代前半～中葉の年代が与えられている（向坂他1981）。

石田遺跡では、Ⅰ区の自然流路に設けられた堰上層から出土した。上層の遺物には古墳時代の上師器や弥生時代の甕、木製品類が含まれているが、この層は、奈良・平安時代の土器類がまとまって堆積していた杭列の下層部分にあたる。壺鐙（第520図3）は現存高24cm、全体の約1/3が残存する。左足用とされ、樹種はケヤキである（梅崎他1990）。

祇園町遺跡第3地点では、河川跡包含層から、吊り手部の破片（第520図4）が出土している。吊り手の形状は類似するが、鐙細受孔は正方形に近く、縁を造りださない点が異なっている。漆は塗られていない。共伴する土器の年代は8世紀後半から9世紀にかけてのものとされている（半野1995）。

伝世品に目を転ずると、法隆寺献納宝物の壺鐙（第520図5　原田他2003）や、正倉院宝物の馬装（馬鞍）のなかでも、特に馬鞍第3号や、馬鞍第7号の壺鐙は大きさや形状が類似している（正倉院事務所1994）。これらの材質はすべて鉄製黒漆塗である。

法隆寺献納宝物には、古くは奈良時代を遡る時期（飛鳥時代）の品々が含まれているといい（矢島1959）、正倉院宝物の成立した時期は、光明皇后が東大寺大仏に聖武天皇の御物を献納した756年前後であるため、8世紀前半に製作・使用されたものと考えられる。

以上にあげた出土資料や伝世品の壺鐙は、材質や形状の細部には相違点が認められるが、基本的には下田町遺跡出土例と同じ型式の壺鐙と考えて差し支えないであろう。共伴遺物や伝世品のおす年代観から、これらの壺鐙の製作年代は7世紀に遡る可能性を残すが、その流行は奈良時代を中心にしたものと考えられる。

さて、壺鐙を含む第319号井戸跡の遺物は、出土状況をみてもわかるように、すべて井戸跡の底近くにまとまって埋没していた。さらに、土器の中には完存品がなく、すべて破片の状態で出土し、その多くは接合しても完全な形になることはなかった。こうした状況は、これらの遺物が、井戸の崩落や、埋め戻しなどの際に、たまたま周囲から流れ込んだものではなく、人為的に井戸内に持ち込まれたことを意味している。そして、持ち込まれた時にはすでに土器は壊れていた可能性が高く、壺鐙も使用痕の残る破損品であるため、本来の用途に耐えられなくなった器物を「処理」するという行為がなされたものと考えられる。では、その行為にはどのような意思が働いていたのであろうか。

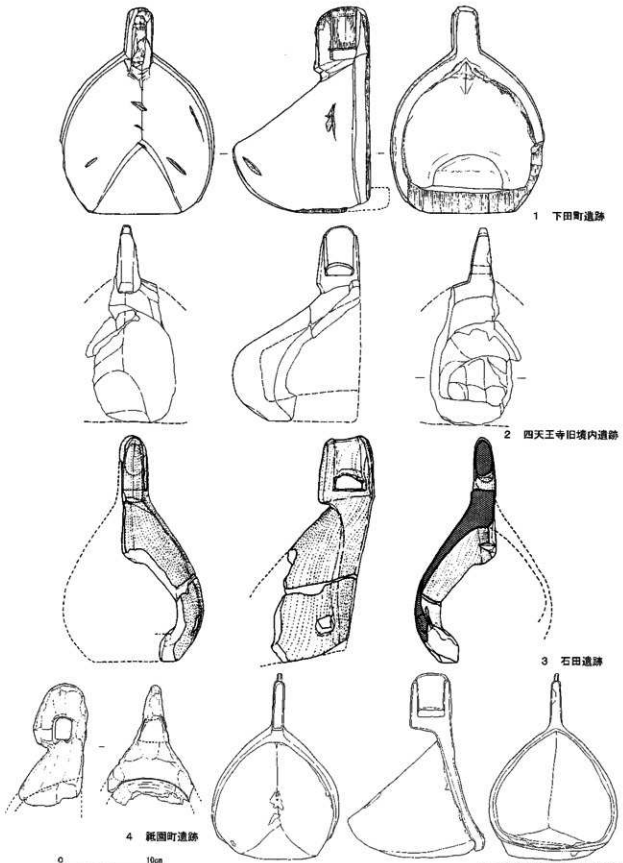
この問題を検討するために、まず、県内の周辺の遺跡から、ほぼ同時期で同様の出土状況を呈する遺構を抽出し、比較してみよう。

本庄市八幡太神南遺跡第1号住居跡には、廃絶後に投棄されたと考えられる大量の一括資料が出土している。土師器坏・甕類、須恵器坏・蓋などがあり、その割合は土師器坏が半分以上を占める。時期は7世紀第4四半期である（富田・赤熊1985）。

行田市築道下遺跡で検出された第9号性格不明遺構は、埋土に焼土層や炭化物層が堆積する不整形の土坑である。遺物は小破片が多く、その出土状況から、木材などを燃やした後に一括して投げ込まれたものと考えられている。遺物は土師器坏が主体で、土師器甕・甑、少量の須恵器坏・蓋などで構成される。時期は7世紀第4四半期である（栗岡他1998）。

深谷市（旧岡部町）の熊野遺跡7次調査区で検出された石組井戸跡は、埋土上層から大量の土器が出土している。時期は7世紀末から8世紀初頭とされ、須恵器坏・蓋、土師器坏が主体となる。井戸跡はその特異な形状や規模から、儀礼等に関係する井戸の可能性も指摘されている（岡部町文化財保護室2002）。

熊野遺跡ではまた、事業団調査A区で検出された第2号特殊遺構から、焼土や炭化物などと共に一括投棄された大量の土器類が出土した。器種構成は土



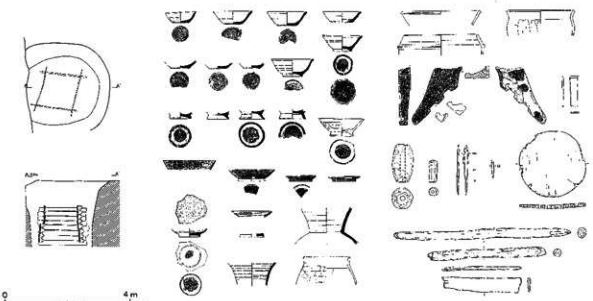
第520図　壺鐙の類例

師器坏・甕・甑、須恵器坏・蓋・瓶・甕などで、個体数は土師器坏類が圧倒的に多い。時期は8世紀第1四半期である（富田2002）。

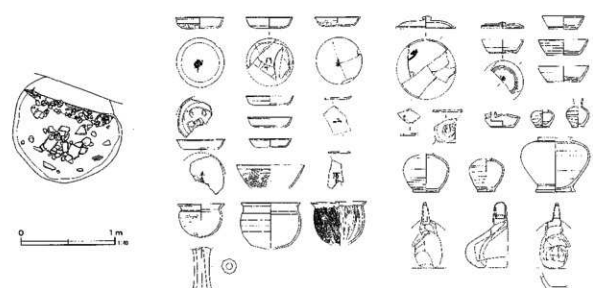
以上にあげた各例に共通するのは、遺物の量（個体数）が多いにもかかわらず、その器種構成は、住居跡などから出土する一括資料とあまり変わらないということである。これらの例が、不用品を捨てるという意思の働いた、一般的な意味での廃棄の結果であるとするならば、現在使用している食器や煮沸具などの土器の器種構成が反映するのはむしろ当然のことといえよう。

ところが、第319号井戸跡の出土土器（第413図）をみると、土師器甕類が8点とその割合が多く、先にあげた例とは対照的であることが指摘でき、この時期の典型的な「廃棄」というパターンからは逸脱した状況を示していることがわかる。

次に、壺鐙や鞍などの馬具が井戸跡から出土した他の遺跡の例をあげ、比較検討する。出土例が少な



下田町遺跡第2号井戸跡・出土遺物



四天王寺旧境内遺跡SE01・出土遺物（松本他1990より）

第521図　馬具を出土した井戸跡例

いため、時期は平安時代～中世の事例を含める。

今回と同じく井戸跡から壺鐙が出土した例には、先にあげた四天王寺旧境内遺跡がある。SE01の共伴土器は、土師器坏・埦・高坏・甕、須恵器壺・坏・瓶類・壺などである（第521図）。墨書土器には「中」「東」「米屋」「酒十」などがあり、米や酒を扱う施設が近くに存在していたことを示すものとされている（松本他前掲書）。

木製鞍が出土した井戸跡も数例存在する。下田町遺跡では、今回の調査区の北側にあたる第２次調査区の第２号井戸跡から、木製黒漆塗の鞍橋の一部が出土している。第２号井戸跡は、「井」形の木枠を設け、他の出土遺物には土師器甕、須恵器坏・高台付埦、緑釉陶器、灰釉陶器、曲物、土錘、鉄鏃などがある（第521図）。土器類の時期は10世紀第１四半期である。９世紀末から10世紀にかけての下田町遺跡は、館跡と推定される大規模な建物跡が形成されている。馬具以外の出土遺物には、灰釉陶器や緑釉陶器、銅製刀装具などがあり、在地有力領主層が居住していた可能性が高いことが指摘されている（赤熊・岡本2004）。

佐賀県神埼郡三田川町の下中杖遺跡では、SE202井戸跡から、木製黒漆塗鞍橋（前輪）の完形品が出土している。土師器、須恵器、緑釉陶器、青磁、白磁などのほか、砥や糸車などの木製品、牛や鹿などの獣骨が共伴する。土師器の占める割合が多く、坏類が主体である。時期は９世紀中頃とされる。平安時代前期における下中杖遺跡は、豊富な輸入陶磁器の出土や文献などから、荘園関係の施設ではないかと推測されている（七田他1980）。

佐賀県武雄市のみやこ遺跡では、SE104井戸跡から、土師器坏・小皿、瓦器椀・小皿、磁器類、桃の種子などと共に、木製鞍橋（前輪）の欠損品が出土している。土器の示す時期の上限は12世紀中頃と考えられている。みやこ遺跡を含む六角川沿いの遺跡では、遺跡の西側に位置する中世山城の瀬見城を築造した橘氏との関連が強いと考えられている（原田他1986）。

佐賀県佐賀郡大和町の大願寺二本松遺跡では、３号井戸から木製鞍橋が出土している。ただし、型式的には、前３例とは異なり、乗馬用ではなく荷鞍の可能性がある。共伴する土器はなく、用途不明の木製品とともに出土した。時期は不明であるが、遺構は８世紀前半～９世紀に属すると考えられている。大願寺二本松遺跡は、８世紀後半代に規則的な大型の掘立柱建物跡群が形成され、輸入磁器や東海産須恵器、腰帯具や鏡片などが出土することから、郡衙関連施設あるいは郷衙として位置づけられている（谷澤他1993）。

これら５つの例から出土した木製馬具のうち、下中杖遺跡例と大願寺二本松遺跡例は鞍橋の完存品ではあるが、これだけでは鞍としては機能しない。その意味では、破損品と同等に、不用品としての価値が与えられよう。大願寺二本松遺跡例を除き、共伴する遺物の種類や量はおおむね豊富であり、各遺跡のその時期における性格からも、その経済的優位性は明らかといえる。この遺物にみられる優位性は、第319号井戸跡の場合には認められない要素である。このことは、下田町遺跡における当該期の遺構や遺物の検出状況を概観してもわかる。壺鐙のみ、なぜか突出した遺物なのである。

以上、下田町遺跡第319号井戸跡における、壺鐙を含めた出土遺物について、２つの方向からアプローチを行い、それぞれ検討を試みた。その結果、本例は７世紀末～８世紀前半における、集落における廃棄遺構とは、土器構成に根本的な違いがあること、また、木製馬具出土の他の遺跡の類例と比較して、壺鐙を除く出土遺物には、質・量ともに経済的優位性が認められないということを明らかにすることができた。

このことは、第319号井戸跡にみる壺鐙や土器などの出土遺物が、通常の廃棄行為とは異なる動機によって投棄されたものであることを示しているのではないだろうか。馬は祭祀と結びつきの強い動物で

あり、本例を含め馬具が井戸跡から出土するその現象をもって、単純にそれを、「井戸に関わる祭祀」と推測することは容易ではあるが、考古学的な事実からでは、そのことを証明することはできない。今回はその可能性が含まれることを、指摘しておくにとどめておきたい。

ところで、古代以降において、馬具と祭祀の関連が明らかとなった調査例が、近年いくつか報告されている。

大阪府吹田市の五反島遺跡では、神崎川の旧河道と堤防が検出され、河道内から大量の土器類と共に、唐式鏡や人面墨書土器、大型甕、鉄鎌などが出土した。平安時代前期の水辺の祭祀跡と考えられ、北方1.7kmに位置する式内大社垂水神社との関連が指摘されている（西本他2002/2003、高橋・西本2002）。この祭祀遺物と考えられる遺物群の中に、鉄製黒漆塗壺鐙が含まれる。壺鐙は鐙靼受けに四連の兵庫鎖を付属するもので、型式的には、本例をはじめとする壺鐙より新式である。

静岡県浜北市の中屋遺跡では、居館の可能性が高い方形に区画された堀と、旧河道が検出された。旧河道の両岸には、杭列や築堤の護岸施設が設けられており、西側の築堤部の盛り上のなかから、鞍橋（前輪・後輪）と居木が組み合わさったまま、ほぼ完全にそろった黒漆塗の鞍が出土した。居木の下には呪符木簡が5枚重なって出土しており、護岸工事に伴う祭祀のために一緒に埋納されたと考えられている。その時期は、護岸施設の築造年代や鞍の型式、居館の機能していた時期から、13世紀後半と考えられている（財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2005）。

このように、あまり例は多くはないが、馬具の一部が古代から中世にかけて、水にかかわる祭祀の道具として用いられていたことが明らかになってきている。今後のさらなる資料の増加によって、その祭祀のシステムの解明が進展することを期待したい。

最後に、下田町遺跡における、壺鐙出土の背景について考えてみたい。鉄製黒漆塗壺鐙が、天皇家を中心とした中央の最高位の貴族階級の所蔵品であったことを考えると、材質は異なるものの、壺鐙のなかでは優品といえる同じ型式の壺鐙を所有していた人物は、当時、農耕ではなく、交通手段として用いられた馬に騎乗できる階級の人物、例えば郡司クラスの在地首長層に属していた人物であったと推定される。とすれば、この壺鐙の樹種が、おもに関西地方以西に分布するクスノキであり、他の地域からの搬入品である可能性が高いこと（第VI章第2節参照）は、非常に興味深い見解であるといえよう。

先にもふれたが、下田町遺跡の第2～5次までの調査で検出された奈良時代の遺構から推定される当時の様相は、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが数基単位で散漫に存在する集落に過ぎず、出土遺物からも官衙や貴族の居宅といったような、壺鐙を所有する人物との関連は見出すことはできない。しかし、乗馬用の馬具という遺物の性質上（その授業の理由に祭祀的動機があるなしにかかわらず）、使用された形跡のある壺鐙が、所有者と何もかかわりのない遠く離れた地点に持ち出されるとは考えにくい。遺跡の未調査区域に、当該期の官衙的な性格を有する拠点集落か、あるいは、賓輪遺跡で想定されているような、街道沿いに営まれたであろう交通の要所が存在する可能性は高いと考えられる。

本稿を執筆するに当たっては、発掘調査時から多くの方々にお世話になった。末筆ながら記して感謝の意を表する次第である。（五十音順・敬称略）

岩原　剛　大谷晃二　大谷宏治　白木原宜
相馬和徳　西本安秀　水澤幸一

引用・参考文献

赤熊浩一・岡本健一　2004　『下田町遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第296集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

赤熊浩一・岡本健一・松岡有希子　2005　『下田町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第301集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

赤星直忠 他　1975　『持田遺跡発掘調査報告　本文篇』逗子市文化財調査報告書第6集　逗子市教育委員会

石岡憲雄　1980　「北武蔵の玉作遺跡」『研究紀要』第2号　埼玉県立歴史資料館　pp.41-65

磯崎一・中山浩彦　2006　『下田町遺跡Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第320集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

梅崎恵司 他　1990　『石田遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第88集　財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室

大里村　1990　『大里村史』通史編

岡田和則　2000　「箕輪遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成11年度　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　pp.21-31

岡部町教育委員会文化財保護室　2002　『古代の役所―武蔵国榛沢郡家の発掘調査から―』岡部町教育委員会

河上邦彦 他　1990　『松林苑跡Ⅰ』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第64冊　奈良県教育委員会

金井塚良一 他　1963　『五領遺跡B区―発掘調査中間報告―』東松山市教育委員会

金丸　誠・小宮　孟　1985　『千葉市村田服部遺跡』千葉県文化財センター

川越市　1972　『川越市史』第1巻　原始・古代編

蒲原宏行　1987　「石釧研究序説」『比較考古学試論』雄山閣　pp.103-169

蒲原宏行　1991　「腕輪形石製品」『古墳時代の研究』第8巻　古墳Ⅱ　副葬品　雄山閣　pp.131-146

木川正夫　1999　「刻骨と鋸歯状木製品に関する比較考察―楽器説をめぐる諸問題について」『年報　平成10年度』財団法人愛知県埋蔵文化財センター　pp.160-181

北浦弘人 他　2001　『青谷上寺地遺跡3』鳥取県教育文化財団調査報告書72　財団法人鳥取県教育文化財団

北浦弘人 他　2002　『青谷上寺地遺跡4』鳥取県教育文化財団調査報告書74　財団法人鳥取県教育文化財団

木戸春夫　2005　『宮西遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第310集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

木村幾太郎　1987　「刻骨」『弥生文化の研究』8　祭と墓と装い　雄山閣　pp.55-65

栗岡　潤 他　1998　『築道下遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第199集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

鍬持和夫　2000　『築道下遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第245集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

埼玉県　1982　『新編埼玉県史』資料編2　原始・古代　弥生・古墳

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　2005　『中屋遺跡現地説明会』

七田忠昭 他　1980　『下中杖遺跡』佐賀県文化財調査報告書第54集　佐賀県教育委員会

正倉院事務所編　1994　『正倉院寶物』4　中倉Ⅰ　毎日新聞社

杉山晋作　1985　「特異な彫刻文のある石製腕飾」『古代探叢Ⅱ―早稲田大学考古学会創立35周年記念考古学論集―』早稲田大学出版部　pp.299-318

高橋幸治　2003　「集落出土の腕輪形石製品―大和を中心に―」『新世紀の考古学―大塚初重先生喜寿記念論文集―』大塚初重先生喜寿記念論文集刊行会　pp.369-384

高橋　保　1999　「箕輪遺跡の木製漆塗り鏡」『埋文にいがた』No.28　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　pp.1

高橋真希・西木安秀　2002　『川の古代祭祀　五反島遺跡を考える―』吹田市博物館

瀧瀬芳之 他　1997　『今井川越田遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第191集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

立石盛詩 他　1983　『後張』本文編・図版編Ⅱ　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第26集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

高田和夫　2002　『熊野遺跡（A・C・D区）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第279集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

富田和夫・赤熊浩一　1985　『立野南・八幡太神南・熊野太神神・今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第46集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

並木　隆　1976　『本庄市旭古墳群の調査』『第9回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会　pp.8-9

奈良県立橿原考古学研究所付属博物館　1983　『大和考古学資料目録』第11集（前期古墳資料1）

西本安康　他　2002　『吹田市五反島遺跡発掘調査報告書　遺構編』吹田市教育委員会

西本安康　他　2003　『吹田市五反島遺跡発掘調査報告書　遺物編』吹田市教育委員会

原田保則　他　1986　『みやこ遺跡』武雄市文化財調査報告書第15集　武雄市教育委員会

原田一敏　他　2003　『武器・武具・馬具』法隆寺献納宝物特別調査概報XXIII　東京国立博物館

久永春男　他　1963　『瓜郷』豊橋市教育委員会

藤沢　敦　2002　『古墳時代の骨角器』『考古資料大観』第9巻　弥生・古墳時代　石器・石製品・骨角器　小学館　pp.361-364

北條芳隆　1994　『石川条里遺跡と腕輪形石製品』『中部高地の考古学IV　長野県考古学会30周年記念論文集』長野県考古学会　pp.235-254

増田逸朗　他　1986　『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県県史編さん室

松本啓子　他　1999　『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告—1996年度—』財団法人大阪市文化財協会

松山友子　1989　『館収蔵の刻骨について』『黎明館調査研究報告』第3集　鹿児島県立歴史資料センター黎明館　pp.105-117

向坂鋼二　他　1981　『城山遺跡調査報告書』可美村教育委員会

村井嵓雄　1956　『武蔵国川田谷熊野神社境内所在の古墳』『考古学雑誌』第41巻第3号　日本考古学会　pp.51-60

谷澤　仁　他　1993　『大環寺二本松遺跡』大和町文化財調査報告書第22集　大和町教育委員会

矢島恭介　1959　『法隆寺献納宝物について』『法隆寺献納宝物図録』東京国立博物館　pp.1-6

八尋　実　1983　『跡田西分貝塚』千代田町文化財調査報告2　千代田町教育委員会

VI　自然科学分析

目　　次

分析の目的と結果の概要
1．下田町遺跡における自然科学分析　　株式会社　古環境研究所
　1．はじめに
　2．試料
　3．分析方法
　　(1) プラント・オパール分析
　　(2) 花粉分析
　　(3) 珪藻分析
　4．結果
　　(1) プラント・オパール分析
　　(2) 花粉分析
　　(3) 珪藻分析
　5．考察
　6．まとめ
付編　下田町遺跡のテフラ
　1．はじめに
　2．テフラ検出分析
　3．小結

2．下田町遺跡から出土した壺鐙の分析　　パリノ・サーヴェイ株式会社
　1．試料
　2．分析方法
　　(1) 樹種同定
　　(2) 漆薄片作成・観察
　3．結果
　　(1) 樹種同定
　　(2) 漆薄片観察
　4．考察
　　(1) 木材利用について
　　(2) 漆塗りについて

分析の目的と結果の概要

下田町遺跡第４次調査では、発掘調査時と遺物整理時の２度にわたって、それぞれ遺構と遺物に関する自然科学分析を委託した。

考古学は、遺跡から発見される遺構・遺物を分析することによって、その遺跡を残した人間の営み、ひいてはその地域の歴史を明らかにすることを目的とする。遺跡の土壌や、遺跡から出土した有機物や骨などを対象とした自然科学分析を行うことによって、例えば、当時の人々がどのような環境で暮らしていたのか、どのような種類の植物を利用していたのか、どのようなものを口にしていたのか、寿命はどのくらいであったのか、など考古学では応えきれない多くの疑問を明らかにすることができる。その成果を、考古学的分析から得られた成果と合わせると、よりいっそう肉付けされた歴史叙述をすることが可能となるのである。

今回、実施した分析は、谷部の古墳時代・古代遺物包含層・平安時代の井戸跡内堆積土・古墳時代後期住居跡内カマド灰層の土壌分析と、奈良時代の井戸跡から出土した壺鐙の樹種同定および漆の分析である。

なお、整理時に実施した木製品の樹種同定の結果は、『下田町遺跡Ⅳ』（事業団報告書第320集）に、第５次調査分と合わせて掲載してあるので、そちらを参照していただきたい。

谷部包含層の土壌分析では、古墳時代と古代（平安時代）の古環境が復元された。谷部は全体に湿地から河川の影響を受け、水生植物の生い茂った浅い水域であったと考えられる。古墳時代には、乾湿が繰り返され、海水ないし汽水の影響を受けていたときもあった。古代には、カヤツリグサ科やヨモギ属などの人里や耕地によく見られる雑草が生える日当りのよい環境であり、水田が営まれていた可能性も指摘された。なお、古代包含層で検出された火山灰は、浅間Ｂテフラ（1108年降灰）であることが判明した。

平安時代の井戸跡（第363号井戸跡）に堆積していた土壌からは、当時の古環境が復元された。周辺では稲作が営まれており、ヨモギ属などの人里や耕地によく見られる雑草が生える日当りのよい環境であったと考えられる。谷部における分析と同様の結果を得ることができた。また、埋土中に稲藁が集積されていたことも判明した。

古墳時代後期（６世紀）の住居跡（第260・261号住居跡）のカマド内に堆積していた灰の由来は、ともに主としてススキであり、カマドで煮炊きをするときの燃料として、ススキが使用されていたことが明らかとなった。今後、同様の分析を積み重ねることによって、ススキが当期において、普遍的な燃焼材として選択されていたかどうかがわかると考えられる。

奈良時代（８世紀前半）の井戸跡（第319号井戸跡）から出土した黒漆塗の壺鐙は、遺跡出土の類例が少なく、関東地方では初の出土例である。下田町遺跡のみならず、この地域の当期の様相を語る上では欠かせない、注目すべき遺物といえよう。

今回、この壺鐙の樹種同定を実施したところ、樹種はクスノキであることが判明した。クスノキは、重さや強度とも日本産木材のなかでは中程度であり、加工は比較的容易で、耐久性が高い。

クスノキはまた暖かい地方に多く自生している樹木で、関東地方では沿海地に分布しているが、その中心は関東地方以西であるという。したがって、下田町遺跡周辺には当時も自生していなかった可能性があり、他の地域から搬入されたことも考えられると指摘されている。この指摘は、この壺鐙が一般の人々が入手することができない、身分の高い階層の人々の所有物であることを考慮に入れると、非常に示唆に富む見解といえよう。

壺鐙の漆塗りは、比較的簡素であり、炭粉下地の上に黒色の塗布物が薄く塗られていることが判明した。

1．下田町遺跡における自然科学分析

株式会社　古環境研究所

1．はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。一方珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映していることから、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

こうしたことから、これらの分析を総合的に行うことによって、堆積時の植生、環境、さらに農耕をより詳細に推定。復元することが可能である。そこで、下田町遺跡においても花粉分析、珪藻分析およびプラント・オパール分析を合わせて行い、古墳時代以降の植生、堆積環境さらに稲作の可能性について検討を行うことになった。

2．試料

調査の対象は、調査区南側の谷部（南壁）堆積層、平安時代の井戸（SE363）内堆積層および古墳時代後期とされる住居内のカマド灰層である。分析試料は、調査区南壁（谷部）では上位より14層（灰褐色シルト，試料1）、15層（暗褐色シルト～粘土，試料2）、灰褐色粘土，試料3）、18層（灰褐色粘土，試料4、試料5）、20層（灰褐色粘土，試料6）および21層（灰褐色粘土，試料7）の7点、平安時代の井戸（SE363）では上位より3層（黒色土）、4層（黒色土（シルト混））、5層（黒色土（シルト混））、6層（黒色土（シルト混））、7層（黒色土（粘土混））、8層（黒色土（粘土混））、9層（灰色土（粘土混））の7点が採取された。また、古墳時代後期の住居内カマド灰層についてはSJ260とSJ261の2基を選定した。

なお、プラント・オパール分析はこれらすべての試料を、花粉分析は調査区南壁と平安時代の井戸を、珪藻分析は調査区南壁をそれぞれ分析の対象とした。

3．分析方法

(1) プラント・オパール分析

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

1）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
2）試料約1ｇに直径約40μmのガラスビーズを約0.02ｇ添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
3）電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
4）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
5）沈底法による20μm以下の微粒子除去

表1　下田町遺跡のプラント・オパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名・学名）	地点 / 試料	南壁 1	2	3	4	5	6	7	SH363 2	3	4	5	6	7	8	SJ260 12a	SJ261 12a
イネ科	Gramineae (Grasses)																
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	66	28	72	44				241	31	7	20	24	25	6		
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	13	28	18	16	12	24	15	12	51	13	27	72	55	43		
ススキ属型	*Miscanthus* type	27	22	18	27	49	18		36	123	66	100	103	151	73	90	54
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	46	28	72	22	18	18	25	12	62	7	13	24	15	6		12
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type												6	5		30	
その他	Others																
未分類等	Unknown	272	165	175	186	152	115	50	60	410	73	120	271	256	244	30	54
プラント・オパール総数		358	243	283	252	230	175	90	121	646	159	260	476	483	366	151	119

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	1.95	0.81	2.13	1.29				7.09	0.90	0.20	0.59	0.71	0.74	0.18		
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	0.84	1.74	1.14	1.04	0.77	1.52	0.95	0.76	3.24	0.84	1.68	4.57	3.49	2.69		
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.33	0.27	0.22	0.34	0.60	0.22		0.45	1.53	0.82	1.24	1.27	1.87	0.91	1.12	0.67
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	0.22	0.13	0.35	0.11	0.09	0.09	0.12	0.06	0.30	0.03	0.06	0.12	0.07	0.03		0.06
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type												0.05	0.04		0.23	

6）封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成

7）検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数(試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める)に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重，単位：10−5g）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75である。

(2) 花粉分析

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

1）5%水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎

2）水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

3）25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置

4）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理

5）再び氷酢酸を加えて水洗処理

6）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成

7）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300〜1000倍で行った。花粉の同定は、鳥倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（−）で結んで示した。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

(3) 珪藻分析

以下の手順で珪藻を抽出し、プレパラートを作成した。

1）試料から乾燥重量1gを秤量

2）10%過酸化水素水を加え、加温しながら1晩

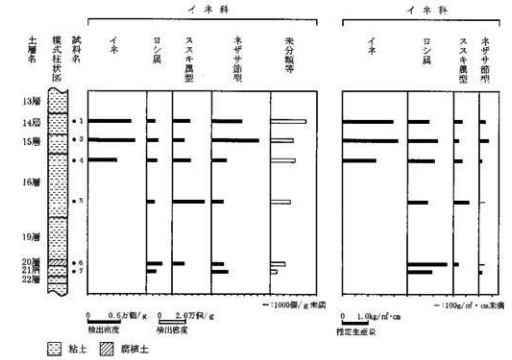


図1　南璽におけるプラント・オパール分析結果

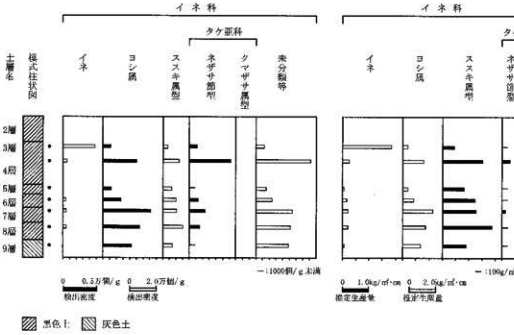


図2　SE63地点におけるプラント・オパール分析結果

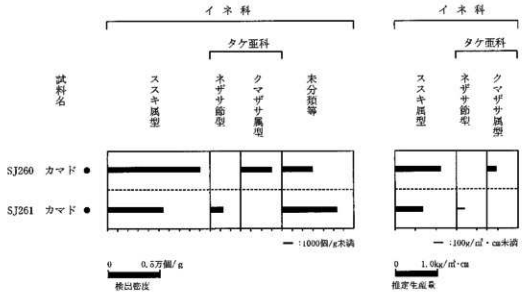


図3　SJ260・SJ261地点におけるプラント・オパール分析結果

放置

3）上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗

4）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥

5）マウントメディアによって封入し、プレパラート作成

6）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600～1,000倍で行った。計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

4．結果

(1) プラント・オパール分析

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科(ネザサ節型、クマザサ属型、その他）および未分類である。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1、図1～3に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を示す。以下にプラント・オパールの検出状況を記す。

1）南壁

イネは、試料1（14層）、試料2（15層）、試料3（15層）、試料4（18層）で検出されている。このうち、試料1、試料3および試料4では高い密度である。ヨシ属はすべての試料から検出されている。全体にやや低い密度である。ススキ属型は試料7を除く各試料で検出されている。試料5では高い密度である。ネザサ節型はすべての試料から検出されているが、いずれも低い密度である。

2）SE363

イネはすべての試料から検出されている。このうち、3層では非常に高い密度であり、4層でも比較的高い密度である。ヨシ属、ススキ属型さらにネザサ節型もすべての試料から検出されている。ヨシ属は4層、7層および8層で非常に高い密度であり、6層と9層でも高い密度である。ススキ属型は4層、6層、7層および8層で非常に高い密度であり、5層と9層でも高い密度である。ネザサ節型はいずれも低い密度である。7層と8層では低密度であるがクマザサ属型が検出されている。

表2　下田町遺跡（第4次）西側調査区における花粉分析結果

分類群		SE363 井戸						
学名	和名	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層
Arboreal pollen	樹木花粉							
Podocarpus	マキ属		1					
Abies	モミ属			1	1			1
Tsuga	ツガ属				2	1		
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属		1	1	3	1	3	2
Cryptomeria japonica	スギ	1		2		4	5	8
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ							1
Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae	イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科			1				
Juglans	クルミ属							1
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ							1
Alnus	ハンノキ属							3
Betula	カバノキ属					1		1
Corylus	ハシバミ属							
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属−アサダ							
Castanea crenata	クリ			1			1	
Castanopsis	シイ属			1				1
Fagus	ブナ属							
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	1		8	1	4	1	18
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属		1	1	8	4		13
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属−ケヤキ				1	1		1
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属−ムクノキ							1
Phellodendron	キハダ属							1
Acer	カエデ属							1
Aesculus turbinata	トチノキ							
Oleaceae	モクセイ科							
Fraxinus	トネリコ属							
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉							
Moraceae-Urticaceae	クワ科−イラクサ科		2		1	4		5
Leguminosae	マメ科							1
Nonarboreal pollen	草本花粉							
Typha-Sparganium	ガマ属−ミクリ属							1
Alisma	サジオモダカ属							1
Sagittaria	オモダカ属							
Gramineae	イネ科	5	54	85	108	149	156	60
Oryza type	イネ属型							
Cyperaceae	カヤツリグサ科	1	7	24	9	9		11
Eriocaulon	ホシクサ属							
Aneilema keisak	イボクサ							
Monochoria	ミズアオイ属							
Polygonum	タデ属							
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節		1	1	1	3		3
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科・ヒユ科	1	6		7	7	1	6
Caryophyllaceae	ナデシコ科							
Ranunculus	キンポウゲ属							
Cruciferae	アブラナ科	1	14	1	1			
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科							
Apioideae	セリ亜科		2	2	1	1	1	6
Labiatae	シソ科							
Solanaceae	ナス科							2
Lactucoideae	タンポポ亜科		1	2	1	2		
Asteroideae	キク亜科			1				3
Xanthium	オナモミ属							
Artemisia	ヨモギ属	9	87	196	181	140	142	201
Fern spore	シダ植物胞子							
Monolate type spore	単条溝胞子	1	13	3	3	11	4	1
Trilate type spore	三条溝胞子	1	3	5	3	11	7	2
Arboreal pollen	樹木花粉	2	3	16	16	16	10	54
Arborcal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	2	0	1	4	0	6
Nonarborcal pollen	草本花粉	17	172	312	309	311	300	294
Total pollen	花粉総数	19	177	328	326	331	310	354
	試料1cm³中の花粉密度	1.5 ×10³	2.9 ×10³	1.1 ×10⁴	1.4 ×10⁴	6.7 ×10³	1.7 ×10⁴	3.7 ×10⁴
Unknown pollen	未同定花粉	0	0	6	2	1	0	12
Fern spore	シダ植物胞子	2	16	8	6	22	11	3
Helminth eggs	寄生虫卵							
Ascaris (*lumbricoides*)	回虫卵							
Total	計	0	0	0	0	0	0	0
	試料1cm³中の寄生虫卵密度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	明らかな消化残渣	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)

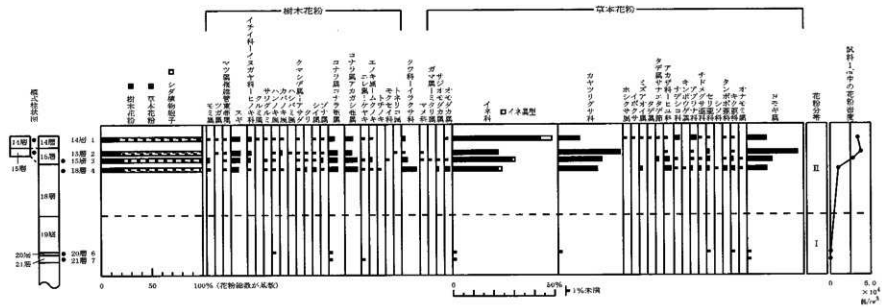


図4　下田町遺跡（第4次）西側調査区，南壁（谷部）における花粉ダイアグラム

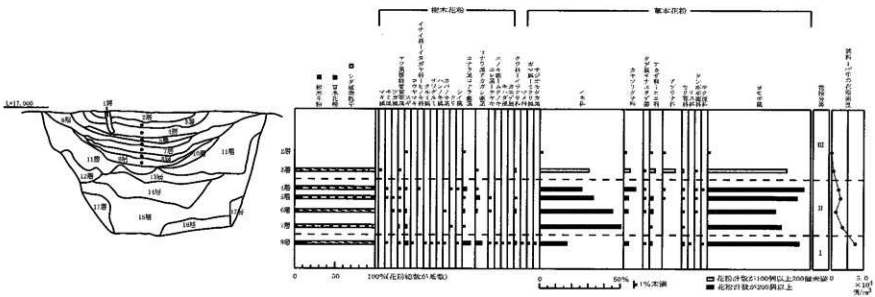


図５　下田町遺跡（第４次）西側調査区，井戸，SE363における花粉ダイアグラム

3）カマド（SJ260，SJ261）

SJ260ではススキ属型とクマザサ属型が検出された。ススキ属型が非常に高い密度であり優占する。SJ261ではススキ属型とネザサ節型が検出されており、やはりススキ属型が優占する。

(2) 花粉分析

出現した分類群は、樹木花粉25、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉23、シダ植物胞子2形態の計52である。これらの学名と和名および粒数を表2に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図4，5に示す。なお、200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は写真に示した。また、寄生虫卵についても同定した結果、1分類群が検出された。以下に出現した分類群ならびに群集の特徴を記す。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科、クルミ属、サワグルミ、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属—アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属—ケヤキ、エノキ属—ムクノキ、キハダ属、カエデ属、トチノキ、モクセイ科、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科—イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属—ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ホシクサ属、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、タデ属イタドリ節、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、ナス科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

回虫卵

1）南壁（谷部）

花粉構成と花粉組成の変化から、下位より2帯の花粉分帯を設定した。

・I帯（21層、20層：鬼高・五領（古墳時代前期～後期）包含層）

花粉密度が低く、花粉はほとんど検出されなかった。

・II帯（18層～14層：古代包含層）

草本花粉の占める割合が高く、イネ属型を含むイネ科が優占し、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが伴われる。樹木花粉ではスギ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などが多く出現している。試料1（14層）より回虫卵が検出された。

2）井戸（SE363）

花粉構成と花粉組成の変化から、下位より3帯の花粉分帯を設定した。

・I帯（9層）

樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、スギなどが多く出現している。草本花粉ではヨモギ属が優占し、次いでイネ科が多く出現し、カヤツリグサ科、アカザ科—ヒユ科、セリ亜科などが伴われる。

・II帯（8層～5層）

草本花粉の占める割合が非常に高い。草本花粉ではイネ科とヨモギ属が優占し、カヤツリグサ科などが伴われる。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、スギなどが低率に出現している。

・III帯（4層、3層）

花粉密度が非常に低くなり、3層では花粉はほとんど検出されなかった。4層では参考程度ではあるが、ほとんどを草本花粉が占める。ヨモギ属とイネ科とで優占し、アブラナ科、カヤツリグサ科、アカザ科—ヒユ科などが伴われる。樹木花粉ではマキ属、

マツ属複維管束亜属、コナラ属アカガシ亜属が出現する。

(3) 珪藻分析

試料から出現した珪藻は、真一中塩性種（海一汽水生種）6分類群、貧塩性種（淡水生種）77分類群である。計数された珪藻の学名と個数を表3に示す。また珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを図6に示す。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を示し、群集の特徴を記す。

〔真一中塩性種〕

Navicula peregrina

〔貧塩性種〕

Amphora copulata、*Cocconeis placentula*、*Eunotia minor*、*Eunotia praerupta*、*Gomphonema parvulum*、*Gyrosigma sp.*、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula confervacea*、*Navicula elginensis*、*Navicula elginensis* v. *cuneata*、*Navicula mutica*、*Navicula pupula*、*Nitzschia frustulum*、*Pinnularia acrosphaeria*、*Pinnularia nodosa*、*Pinnularia schroederii*、*Pinnularia viridis*、*Stauroneis phoenicenteron*、*Synedra ulna*

南壁（谷部）の珪藻構成と珪藻組成の変化から、下位より4帯の珪藻分帯を設定した。

1）I帯（21層）

珪藻密度はやや低い。陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys* が優占し、真一中塩性種（海一汽水生種）の *Navicula peregrina* が比較的多く出現する。

2）II帯（20層）

珪藻密度は低い。沼沢湿地付着生種である流水性種の *Cocconeis placentula* と止水性種の *Eunotia minor* が優占する。

3）III帯（18層～15層）

貧塩性種（淡水生種）では陸生珪藻の *Navicula mutica*、*Pinnularia schroederii*、*Hantzschia amphioxys* が比較的高率に出現する。流水性種の *Gomphonema parvulum*、沼沢湿地付着生種の *Navicula elginensis*、流水不定性種の *Amphora copulata* な

表3　下田町遺跡（第4次）西側調査区における珪藻分析結果

分類群	南壁（谷部）					
	14層	15層	15層	16層	20層	21層
	1	2	3	4	6	7
貧塩性種（淡水生種）						
Achnanthes inflata			1			
Achnanthes lanceolata		1	1		4	
Amphora copulata	6	6	15	22	2	1
Amphora montana				2		
Anomoeoneis sphaerophora				6		
Calonеis bacillum	1					
Calonеis hyalina	1		3	2		
Calonеis lanla		2		1		
Calonеis molaris	1					
Calonеis silicula	1		2	1		
Cocconeis placentula				1	19	6
Cymbella cuspidata				1		1
Cymbella lanceolata					1	1
Cymbella naviculiformis		1		2		
Cymbella silesiaca	2	1	1			
Cymbella sinuata						1
Cymbella tumida				2		
Cymbella turgidula	1					
Diploneis elliptica	2	3				
Diploneis fimica	2	1				
Diploneis oculis v. *oblongella*		1				
Diploneis subovalis		3	4			
Diploneis yatukaensis		2	1			
Eunotia bilunaris						1
Eunotia diodon		1				
Eunotia gracilis						1
Eunotia minor		4	2		15	6
Eunotia pectinalis	1	3	1			
Eunotia praerupta		5	1	2		
Eunotia sp.					1	
Frugilaria capucina						1
Fyntulia vulgaris	2					
Gomphonemu angustatum		2				
Gomphonema bohemicum			5			
Gomphonema clevei						1
Gomphonema gracile	1	1		1		
Gomphonema insigne			1			
Gomphonema parvulum	1	9	6	14		
Gomphonema sp.		1				
Gyrosigma sp.	10			2		
Hantzschia amphioxys	5	10	14	9	5	46
Meridion circulare v. *constrictum*	1					
Navicula americana		1	3	1		
Navicula confervacea	10	4		6		
Navicula contenta		1	1	1		
Navicula cuspidata	1		3	4		
Navicula elginensis	14	12	5	3	1	2
Navicula elginensis v. *cuneata*		12	1			
Navicula lanceolata		3		3		
Navicula mutica	2	4	37	21	1	8
Navicula pupula	3	10		1		
Navicula recens		1				
Navicula tokyoensis		5	1			
Navicula viridula v. *rostellata*	1					
Neidium amphigomphus		3	2	1		
Neidium bisulcatum		1				
Nitzschia brevissima		1				
Nitzschia frustulum		7	2	1		
Pinnularia acrosphaeria	2	3	1	2		
Pinnularia gibba	1			1		1
Pinnularia interrupta	1			1		
Pinnularia microstaurum		5	1	1		
Pinnularia nodosa		9				
Pinnularia schroederii	10	4	21	6		
Pinnularia sp.		1				
Pinnularia subcapitata				1		
Pinnularia viridis	2	3		5		2
Rhoicosphenia abbreviata					1	
Rhopalodia gibba	1	1		2		
Stauroneis acuta	1	1				
Stauroneis anceps	6		1			
Stauroneis kuwahurgiana		2	1	1		
Stauroneis phoenicenteron			3	6		
Stauroneis smithii			1	1		
Surirella angusta	1					
Surirella ovata				1		
Synedra ulna	1			3	3	2
真一中塩性種（海一汽水生種）						
Cocconeis scutellum				1		
Fragilaria brevistriata						1
Navicula peregrina						24
Nitzschia lanceolata v. *vitrea*	2					
Rhopalodia gibberula	2			2		
Rhopalodia musculus	2					
合　計	101	151	141	144	53	106
未同定	10	16	8	8	6	4
珪片	82	52	168	108	38	60
試料1cm³中の殻数密度	4.7 $\times 10^5$	2.1 $\times 10^5$	1.8 $\times 10^5$	3.0 $\times 10^5$	4.1 $\times 10^5$	3.0 $\times 10^5$
完形殻保存率（%）	57.6	76.4	47.0	58.5	60.8	64.7

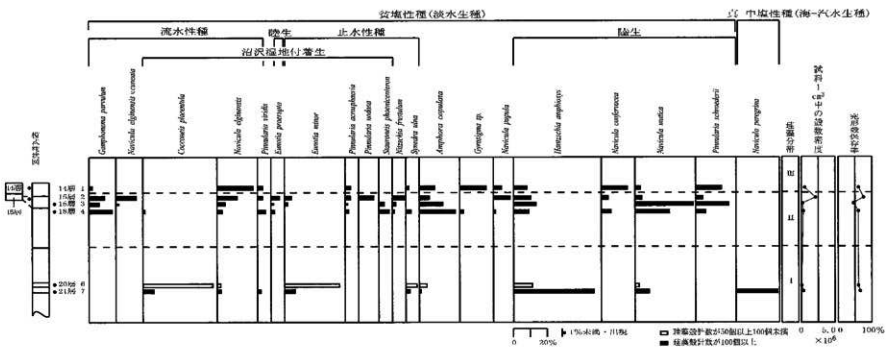


図6　下田町遺跡（第4次）西側調査区，南壁（谷部）における主要珪藻ダイアグラム

ども比較的多く出現する。

4）Ⅳ帯（14層）

貧塩性種（淡水生種）では陸生珪藻の *Pinnularia schroederii*、*Navicula confervacea*、*Hantzschia amphioxys*、流水性種の沼沢湿地付着生種である *Navicula elginensis*、流水不定性種の *Amphora copulata*、*Gyrosigma* sp. など高率で出現する。

5．考察

(1) 南壁（谷部）

ここでは珪藻分析によって設定された分帯にそって、下位より植生と堆積環境の復元を行う。

1）Ⅰ帯期（21層）

陸生珪藻が優占し、真一中塩性種（海一汽水生種）が比較的多く出現し、海水ないし汽水の影響を若干受けた湿った環境が示唆される。なお、花粉密度は非常に低いことから、乾燥と湿潤を繰り返し、土壌生成作用によって有機質遺体が分解されるような堆積環境が考えられる。

2）Ⅱ帯期（20層）

珪藻密度が低く、沼沢湿地付着生種の流水性種と止水性種が優占し、河川の影響のある水生植物の繁茂する浅水域が示唆される。なお、ここでも花粉密度は非常に低く、乾湿を繰り返す土壌生成作用によって有機質遺体が分解されるような堆積環境が考えられる。

3）Ⅲ帯期（18層～15層）

イネ科を主にカヤツリグサ科、ヨモギ属などの人里植物あるいは耕地雑草の性格を持つ草本が生育し、陽当たりの良い環境が分布していた。イネ（花粉ではイネ属型）が高密度で出現し、オモダカ属、ミズアオイ属およびヨシ属などの水田雑草も随伴することから水田が営まれていたと考えられる。周辺地域の森林植生としては、コナラ属アカガシ亜属の照葉樹、コナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹、スギ、ヒノキ科などの針葉樹の生育が推定される。

陸生珪藻、流水性種、沼沢湿地付着生種、流水不定性種が混在して出現すること、ヨシ属が認められることなどから湿地から河川の影響のある不安定な浅水域の環境が示唆される。

4）Ⅳ帯期（14層）

イネが高密度で出現することから、集約性の高い稲作が営まれていたと判断される。栽培種を多く含むイネ科、アブラナ科が出現するため、これらの栽培種を作物とする畑作が行われていた可能性もある。回虫卵が認められることより、人糞施肥がなされていた可能性が示唆される。周辺地域の森林植生は、Ⅲ帯期と同様で、コナラ属アカガシ亜属の照葉樹、コナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹、スギ、ヒノキ科などの針葉樹が生育していたと推定される。陸生珪藻、流水性種で沼沢湿地付着生種、流水不定性種が優占し、湿地から河川の影響のある水生植物の繁茂する不安定な浅水域の環境が示唆される。

(2) 井戸遺構（SE363）

花粉分帯にそって下位より植生と堆積環境の復元を行う。

1）Ⅰ帯期（9層）

草本が優勢で、ヨモギ属、イネ科が多い。ヨモギ属は山野から人家付近まで自生する人里植物であり、イネ科は生態的に耕地雑草と人里植物、栽培種を多く含み、多様な環境に生育する。どちらも陽当たりの良いやや乾燥した環境を好み、井戸周辺に生育していたと考えられる。わずかだがガマ属―ミクリ属、サジオモダカ属、カヤツリグサ科などの水生植物が出現し、井戸の周囲には湿潤な環境も分布していた。周辺地域の森林植生は、スギ林とコナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属などの二次林要素の落葉広葉樹が生育していたと考えられる。

・Ⅱ帯期（8層～5層）

Ⅰ帯期と同様な環境が分布していたと考えられるが、水生植物は消失し、より乾燥した環境が考えられ、周囲はヨモギ属、ススキ属およびイネ科などの草本が繁茂していた。周辺では稲作が営まれていたと推定される。

・Ⅲ帯期（4層、3層）

花粉密度が非常に低く、乾燥および土壌生成作用によって有機質遺体が分解されるような堆積環境であったか、堆積速度が遅かったなどが考えられる。参考程度ではあるが、栽培種を多く含むアブラナ科が出現しこれらの畑作も行われていた可能性も考えられる。なお、3層ではイネが極めて高い密度で検出されており、何らかの理由で稲藁が集積されていたことが推察される。

(3) カマド（SJ260, SJ261）

SJ260、SJ261ともススキ属型が優占し、SJ260では59%、SJ261でも45%を占める。よって、灰の構成要素はススキ属が主体であり、ここでおもにススキの葉などが焼かれたものと判断される。

6．まとめ

下田町遺跡においてプラント・オパール分析、花粉分析、珪藻分析を行い、農耕、植生、堆積環境について検討した。その結果、調査区南の谷部では、全体に湿地から河川の影響をうけ、水生植物の繁茂する浅水域が示唆された。下部の21層・20層（鬼高・五領（古墳時代前期～後期）包含層）の時期は、乾湿を繰り返す土壌生成作用によって有機質遺体が分解されるような堆積環境が想定された。なお、21層では海水ないし汽水の影響を受ける湿った土壌の環境が示唆された。14層～18層（古代包含層）の時期はイネ科を主にカヤツリグサ科、ヨモギ属などの人里植物あるいは耕地雑草の性格を持つ草本が生育し陽当たりの良い環境で水田も営まれていたと推定された。

井戸遺構（SE363）では、周辺で稲作が営まれており、ヨモギ属、イネ科、ヨモギ属の耕地雑草と人里植物の性格をもつ草本が生育し、陽当たりの良い環境であったと判断された。なお、3層では何らかの理由でここに稲藁が集積されたと推定された。

古墳時代後期の住居（SJ260, SJ261）内カマドより検出された炭については、いずれもススキ属が主体であり、ススキの葉が焼かれていたと判断された。

文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）一数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法一．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）一プラント・オパール分析による水田址の探査一．考古学と自然科学，17，p.73-85.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

中村　純（1973）花粉分析．古今書院，p.82-110.

中村　純（1974）イネ科花粉について，とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，p.187-193.

中村　純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21-30.

中村　純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. Jounal of Archaeological Science, 19, p.231-245.

金子清俊・谷口博一（1987）線形動物・扁形動物．医動物学，新版臨床検査講座，8，医歯薬出版，p.9-55.

金原正明・金原正子（1992）花粉分析および寄生虫．藤原京跡の便所遺構--藤原京7条1坊一，奈良国立文化財研究所，p.14-15.

金原正明（1999）寄生虫，考古学と動物学，考古学と自然科学，2，同成社，p.151-158.
Hustedt, F.（1937-1938）Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch. Hydrobiol, Suppl.15, P.131-506.
Patrick, R. eimer, C. W.（1966）The diatom of the United States, vol.1. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 644p.
Lowe, R. L.（1974）Environmental Requirements and pollusion tolerance of freshwater diatoms. 333p., National Environmental Reserch. Center.
Patrick, R. eimer, C. W.（1975）The diatom of the United States, vol.2. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 213p.
Asai, K. &, Watanabe, T.（1995）Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.
安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用，東北地理，42，p.73-88.
伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用，珪藻学会誌，6，p.23-45.
小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—，植生史研究，第1号，植生史研究会，p.29-44.
小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用，第四紀研究，27，p.1-20.

付編　下田町遺跡のテフラ

1．はじめに

関東地方埼玉県域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には，富士，箱根，浅間，榛名，八ヶ岳，御岳など関東地方とその周辺の火山，さらには中国地方や九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には，噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり，これらとの層位関係を遺跡で求めることで，遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで，層位や年代が不明な火山灰層が認められた下田遺跡においても，採取された試料を対象に簡易的なテフラ検出分析を行って，指標テフラの検出同定を試みることになった。

2．テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラ検出分析の対象となった試料は，谷部15層から採取送付されたものである。分析の手順は次の通りである。

1）試料8ｇを秤量。
2）超音波洗浄により泥分を除去。
3）80℃で恒温乾燥。
4）実体顕微鏡下で観察し，テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果，比較的良く発泡した淡褐色や灰色の細粒軽石が多く検出された。軽石の最大径は，2.3㎜である。軽石の斑晶としては，斜方輝石や単斜輝石が認められる。これらのうち，少なくとも淡褐色の軽石については，その特徴から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Ｂテフラ（As—B，荒牧，1968，新井，1979）に由来すると考えられる。ただし，採取された土層が一次堆積層か否かについては，分析者が断面において土層の観察記載

を行っていないことから判断は困難である。少なくともほとんどの群馬県域における As—Bについては、特徴的なフォール・ユニットの組み合わせが認められることから、本遺跡においても、テフラ分析者による土層観察が必要である。

なお、本遺跡とその周辺には、古墳時代以降だけでも、3世紀終末～4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As—C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000）、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr—FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）、6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr—FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）、783（天明3）年に浅間火山から噴出した浅間A軽石（As—A, 荒牧, 1968, 新井, 1979）などが分布している。これらの多くについては、テフラの層相観察やテフラ観察のほかに、火山ガラスや鉱物の屈折率測定を実施することにより同定精度を向上させることができる。これらの分析の結果を総合的に分析してテフラ同定が行われると良い。

3．小結

下田遺跡谷部において採取された試料を対象に、テフラ検出分析を行った。その結果、浅間Bテフラ（As—B, 1108年）に由来する可能性の高い軽石粒子を検出した。

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.157，p.41-52.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no.45，65p.

坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103-119.

早田　勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297-312.

友廣哲也（1988）古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」，p.325-336.

若狭　徹（2000）群馬の弥生土器が終わるとき．かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」，p.41-43.

2．下田町遺跡から出土した壺鐙の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

下田町遺跡は和田吉野川と荒川が合流する付近に位置し、これらの河川により形成された氾濫原の自然堤防上に立地している。本遺跡では、古墳時代前期・後期、平安時代を主体とする多くの遺構が検出されている。本報告では、奈良時代前期（8世紀前半）の井戸底部から出土した木製黒漆塗壺鐙の樹種同定を行い、木材利用に関する資料を得るとともに、漆塗膜の断面観察を行い、漆塗りの状況等も確認する。

1．試料

試料は、第319号井戸跡から出土した鐙1点で、表面は黒色を呈する。樹種同定用試料は、破損部から3㎜角程度の木片を採取した。漆薄片用試料は、表面下部の漆が断片的に残存している部分から木地を含めて小片を採取した。

2．分析方法

(1) 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

(2) 漆薄片作製・観察

試料を乾燥させたのち、合成樹脂で包埋・固化させる。漆断面が出るように切断し、表面を研磨する。反対側も同様に研磨を行い、厚さ0.03㎜の薄片プレパラートを作製する。プレパラートは、生物顕微鏡、落射蛍光顕微鏡、偏光顕微鏡、反射顕微鏡で観察する。

3．結果

(1) 樹種同定

鐙は広葉樹のクスノキに同定された。解剖学的特徴等を記す。

・クスノキ（*Cinnamomum camphora*（L.）Presl）
クスノキ科クスノキ属

散孔材で、道管径は比較的大径、管壁は薄く、横断面では楕円形、単独または2－3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1－3細胞幅、1－20細胞高。柔組織は周囲状～翼状。柔細胞には油細胞が認められる。

(2) 漆薄片観察

乾燥時に木地の大部分が剥落してしまった。木地の表面には黒色粒子を含む層が認められる。層の厚さは40—100㎛（1㎛は0.001㎜）で一定方向に向かって薄くなる傾向がある。黒色粒子は不定形で、大きさも10㎛以下のものから100㎛を超えるまで様々である。黒色粒子は、一部に繊維状の組織も認められることから、炭粉に由来すると考えられる。炭粉の分布は不均等で、分布密度が低い部位を観察すると、透過光で赤褐色、落射蛍光で黄褐色となる物質が認められる。これは色調等の特徴から漆と考えられる。したがって、木地の上には、漆に炭粉を混ぜた炭粉下地が施されていると考えられる。下地層の上部には、透過光および落射傾向で黒色不透明の層が認められる。層の厚さは10㎛以下で薄い。肉眼観察では、表面ににぶい光沢があることから、油煙等を混ぜた漆層の可能性があるが、物質の特定には至らない。

4．考察

(1) 木材利用について

出土した木製黒漆塗壺鐙は、井戸跡から8世紀前

半の須恵器の坏や土師器の甕と共に出土した。同様の壺鐙としては、大阪府大阪市四天王寺旧境内遺跡、新潟県柏崎市箕輪遺跡、福岡県北九州市石田遺跡に次いで4例目で、関東地方では初の出土例である。

壺鐙は常緑広葉樹のクスノキであった。クスノキは、暖地に多く見られる種類で、関東地方では沿海地を中心に分布が見られるが、分布の中心は関東地方以西である。(倉田, 1971)。クスノキの木材は、重さ・強度とも日本産木材の中では中程度である(成澤, 1975)。加工は比較的容易であり、耐朽性が高い。

今回と同様の形態の壺鐙については、出土例自体が少ないために木材利用状況は不明である。一方、本遺跡で行った木製品の樹種同定結果では、クスノキは全く認められず、これまでの埼玉県内における同時期の樹種同定結果でも、クスノキの検出例は知られていない。これらのことを考慮すれば、遺跡周辺にはクスノキが自生していなかった可能性があり、この壺鐙は、他の地域から搬入されたことも考えられる。

(2) 漆塗りについて

壺鐙の表面は肉眼では黒色を呈する。漆塗りは比較的簡素で、炭粉下地の上に黒色の塗布物が薄く塗られているのみである。肉眼で黒色を呈するのは、炭粉下地と表面の黒色の塗布物によるものと考えられる。なお、破損部で見る限り材も黒色を呈するが、現生の木材は黄褐色～赤褐色であり、黒色とはならない。おそらく経年変化による変色で、本来は黒色ではなく黄褐色～赤褐色であったと思われる。

引用文献

成澤潔水, 1975. 木材　その特性と巧用. パワー社, 160p.

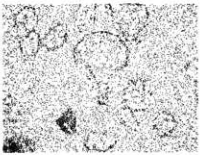
倉田　悟, 1971. 原色日本林業樹木図鑑. 地球出版株式会社, 331p.

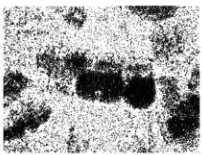
鈴木三男・能城修一, 1991. 小敷田遺跡の木材化石群集.「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集 行田市・熊谷市　小敷田遺跡　一般国道17号線熊谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告 < 河川跡遺物編・第II分冊 >」, 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団, 268-318p.

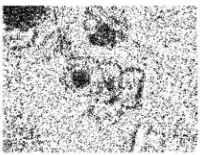
図版Ⅰ　下田町遺跡のプラント・オパール

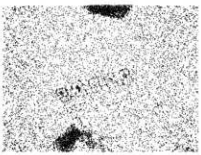
イネ

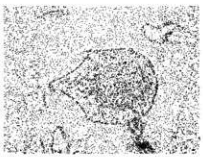
イネ

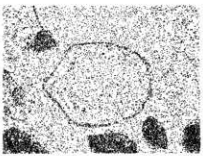

イネ

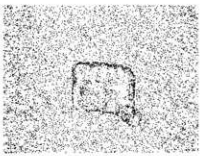

イネ

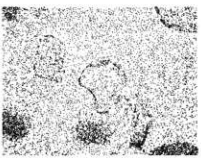

イネ

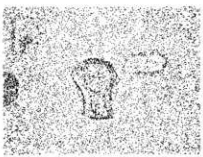

イネ（短細胞）

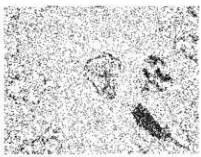

ヨシ属


ヨシ属


ネザサ節型

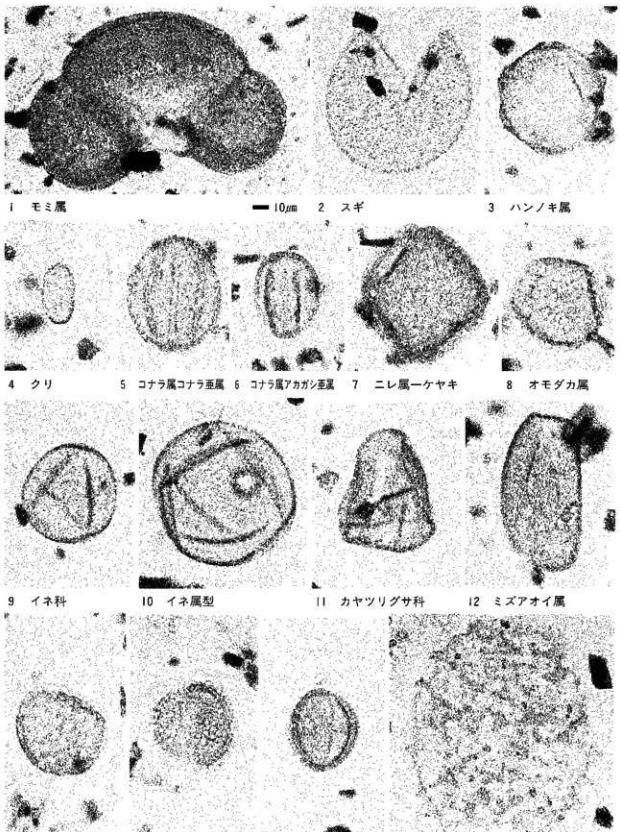

ススキ属型


ススキ属型

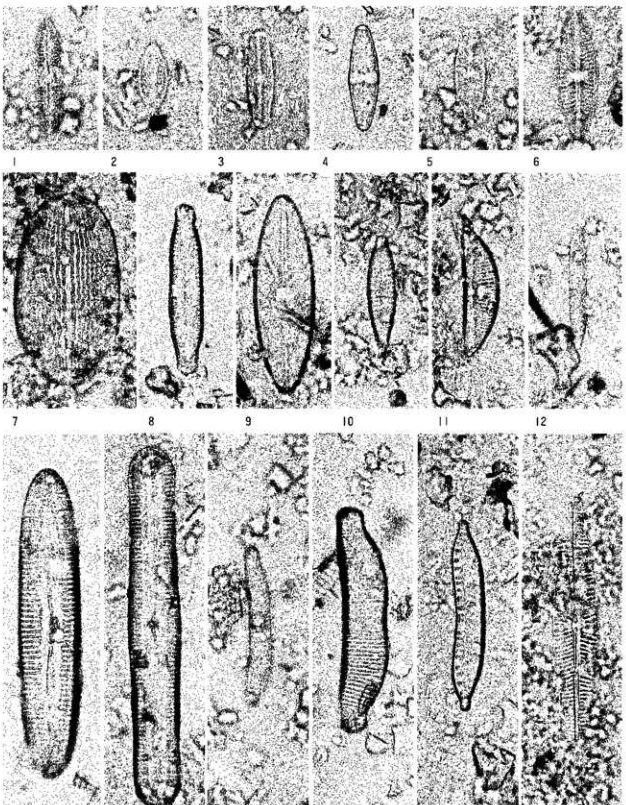

ススキ属型

プラント・オパールの顕微鏡写真　50μm

図版２　下田町遺跡の花粉・寄生虫卵



図版 3　下田町遺跡の珪藻



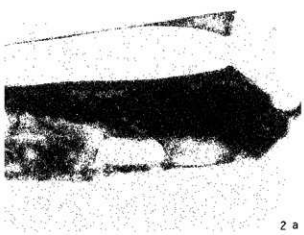
1. *Pinnularia schroederii* 2. *Navicula confervacea* 3. *Navicula pupula* 4. *Navicula mutica* 5. *Navicula elginensis* 6. *Navicula elginensis* v. *cuneata* 7. *Cocconeis placentula* 8. *Pinnularia nodosa* 9. *Navicula tokyoensis* 10. *Gomphonema parvulum* 11. *Amphora copulata* 12. *Nitzschia frustulum* 13. *Pinnularia viridis* 14. *Pinnularia acrosphaeria* 15. *Eunotia minor* 16. *Eunotia praerupta* 17. *Hantzschia amphioxys* 18. *Navicula peregrina*

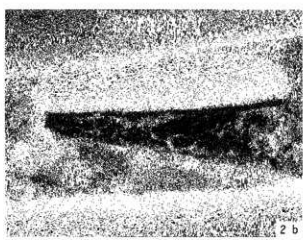
図版4　下田町遺跡の木材・漆断面

1a

1b

1c


2a


2b

1．クスノキ（第319号井戸跡）a：木口，b：柾目，c：板目
2．漆断面（第319号井戸跡）　a透過光，b：落射蛍光

200μm：1a
100μm：1b，c
100μm：2a，b

報告書抄録

ふりがな	しもだまちいせき
書名	下田町遺跡Ⅲ
副書名	大里地区高規格堤防整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	Ⅲ（第2分冊）
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書
シリーズ番号	第319集
編著者名	赤熊 浩一・瀧瀬 芳之
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4−4−1 TEL0493−39−3955
発行年月日	西暦2006（平成18）年3月24日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
下山町遺跡（しもやまちいせき） 第4次調査	埼玉県熊谷市（さいたまけんくまがやし） 津田1824−1番地他（つだ ばんちほか）	11401	55	36° 5′ 33″	139° 25′ 48″	20030408〜20040324	9,000	高規格堤防建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下田町遺跡 第4次調査 （西区）	集落跡	古墳時代前期	方形周溝墓 1基 竪穴住居跡 35軒 土坑 1基	土師器 鏃角製品 腕輪形石製品	異なる2形式の腕輪形石製品が出土
		古墳時代中・後期	竪穴住居跡 160軒 掘立柱建物跡 1棟 井戸跡 5基	須恵器・土師器 石製模造品・玉類 紡錘車・子持勾玉 紡錘車未製品・土錘	石製模造品が豊富に出土 紡錘車の未製品が出土
		奈良・平安時代	竪穴住居跡 4軒 掘立柱建物跡 1棟 井戸跡 15基 溝跡 9条	須恵器・土師器 緑釉陶器・灰釉陶器 墨書土器・瓦塔 帯鏡	8世紀前半の井戸跡から黒漆塗の帯鏡が出土
		中世	井戸跡 21基 溝跡 9条 火葬土坑 6基	陶磁器・短刀・鏡 銭貨・漆椀・曲物 井戸枠・石臼・板碑 硯	
		不明 古墳〜中世	竪穴住居跡 11軒 井戸跡 44基 土坑 94基 溝跡 56条 ピット 819基		

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第319集

熊谷市

下田町遺跡III

大里地区高規格堤防整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

—III—

（第2分冊）

平成18年3月14日　印刷
平成18年3月24日　発行

発行／財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108　埼玉県熊谷市船木台4－4－1
電話　0493（39）3955

印刷／朝日印刷工業株式会社